
丸亀市男女共同参画に関する
市民アンケート調査結果報告書

平成27年 11 月

丸亀市

目次

調査の概要

1	調査目的	1
2	調査実施の概要	1
3	調査方法	1
4	留意点	1

市民アンケート調査結果

1	あなた自身のことなどについて	3
	F1. あなたの性別は	3
	F2. あなたの年齢は	3
	F3. あなたは結婚(事実婚も含みます)していますか	4
	F4. あなたとあなたの配偶者の現在の職業	5
	F5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成	7
	F6. 現在、あなたが同居している未成年者について	9
	F7. 日常的に介護を必要とする方について	10
2	男女平等について	11
	問1. あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか	11
3	職業、職場環境について	23
	問2. 一般的に女性が職業を持つことについて	23
	問3. 育児休業の取得について	25
	問4. 育児休業を取得しなかった理由	27
	問5. 介護休業の取得について	29
	問6. 介護休業を取得しなかった理由	31
	問7. 職場での性別による差について	33
	問8. 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと	43
4	家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて	44
	問9. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	44
	問10. 家庭での家事などの役割分担について【現実】	46
	問10. 家庭での家事などの役割分担について【理想】	53
	問11. 平均的な1日に、家事や育児などにどの程度時間をかけていますか	60
	問12. 地域活動や社会活動について参加しているもの	67
	問13. 地域活動や社会活動に参加していない理由	68
	問14. 防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なこと について	69

5	ドメスティック・バイオレンス(DV)について	71
	問 15. DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか	71
	問 16. どのような暴力を受けたことがありますか	73
	問 17. DVを受けたことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか	78
	問 18. DVを受けたことを相談しなかったのはなぜですか	81
	問 19. DVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているもの	84
6	男女共同参画社会づくりについて	86
	問 20. 男女共同参画に関する項目についての認知度	86
	問 21. 男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきこと	97
	問 22. 男女共同参画社会づくりについてのご意見等(抜粋)	99

調査の概要

1 調査目的

このアンケート調査は、次期男女共同参画プランの策定及び今後の施策の実施に向け、市民の意識やニーズ等を把握し、計画づくりの基礎資料とするため実施しました。

2 調査実施の概要

ア 対象者

市内に在住する 20 歳以上の男女 3,000 人

イ 実施期間

平成 27 年 8 月 3 日～平成 27 年 8 月 24 日

ウ 回収結果

配布数	回収数	回収率
3,000 件	1,186 件	39.5%

3 調査方法

調査票を郵送により配布後、回答用紙を返信用封筒にて回収。

4 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. グラフは原則として回答者の比率（百分率）で表現しています。
2. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。
3. 百分率による集計では、回答者数を 100.0%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
4. 複数回答の場合、百分率の合計が 100.0%を超える場合があります。
5. 単数回答の場合も「無回答」を除いているため、100.0%とならない場合があります。

6. 参考として、一部の質問において前回調査や香川県調査、内閣府調査との比較を行いました。それぞれの調査の概要は次のとおりとなります。

①前回調査（市民アンケート）

「男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔平成22年1月実施〕

- ・調査対象：市内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出による
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・有効回収数：1,174件　有効回収率：39.1%

②県調査（香川県調査）

「香川県男女共同参画社会に関する意識調査」〔平成26年11月実施〕

- ・調査対象：県内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：選挙人名簿に基づく層化二段無作為抽出
- ・調査方法：郵送法
- ・有効回収数：958件　有効回収率：31.9%

③国調査（内閣府調査）

「女性の活躍推進に関する世論調査」〔平成26年8月実施〕

- ・調査対象：全国5,000人
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法
- ・調査方法：調査員による個別面接聴取法
- ・有効回収数：3,037人　有効回収率：60.7%

④国調査（内閣府調査）

「男女共同参画社会に関する世論調査」〔平成24年10月実施〕

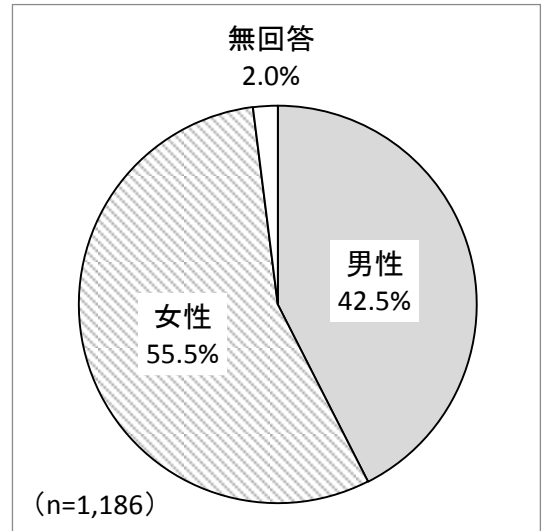
- ・調査対象：全国5,000人
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法
- ・調査方法：調査員による個別面接聴取法
- ・有効回収数：3,033人　回収率：60.7%

市民アンケート調査結果

1 あなた自身のことなどについて

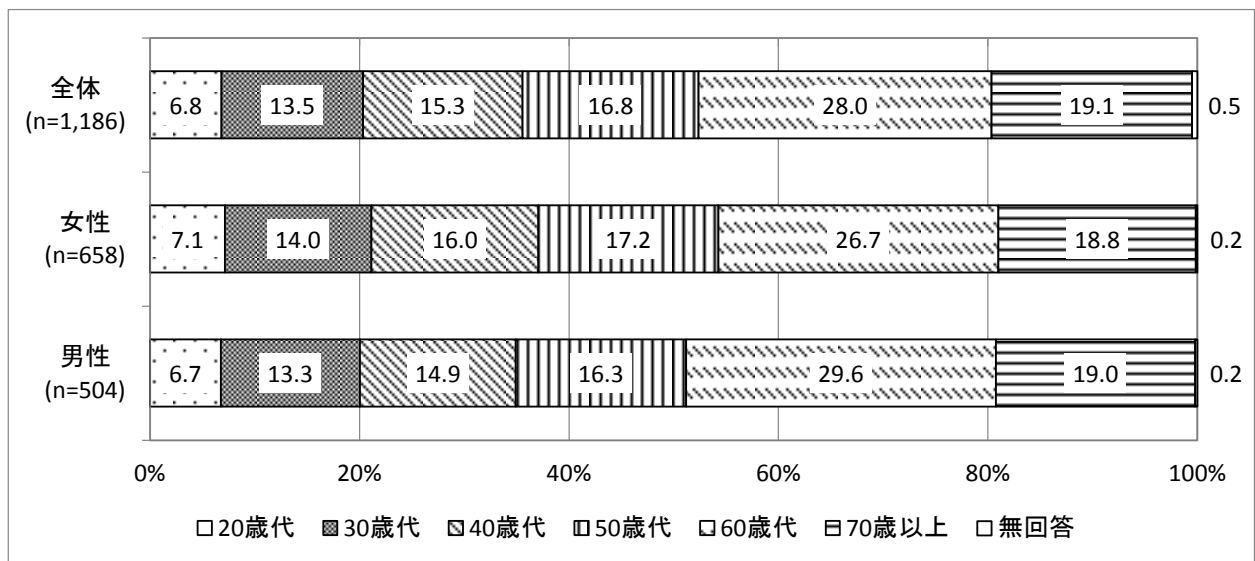
F1. あなたの性別は。(〇は1つ)

回答者の性別をみると、「男性」42.5%、「女性」55.5%と「女性」の割合がやや高くなっています。



F2. あなたの年齢は。(記入日の時点で。〇は1つ)

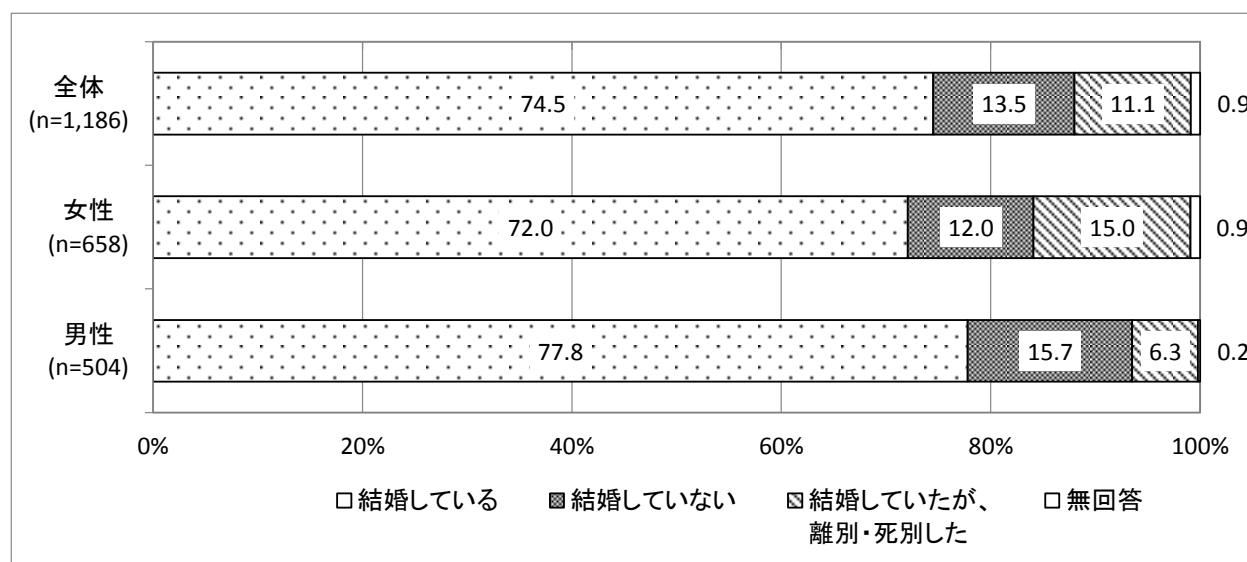
回答者の年齢をみると、「60歳代」28.0%が最も割合が高く、次いで「70歳以上」19.1%、「50歳代」16.8%、「40歳代」15.3%の順となっています。



F3. あなたは、結婚(事実婚も含みます)していますか。(〇は1つ)

結婚(事実婚を含みます)の状況を見ると、「結婚している」74.5%、「結婚していない」13.5%、「結婚していたが、離別・死別した」11.1%となっています。

性別にみると、男性より女性の方が「結婚していたが、離別・死別した」の割合が8.7ポイント高くなっています。

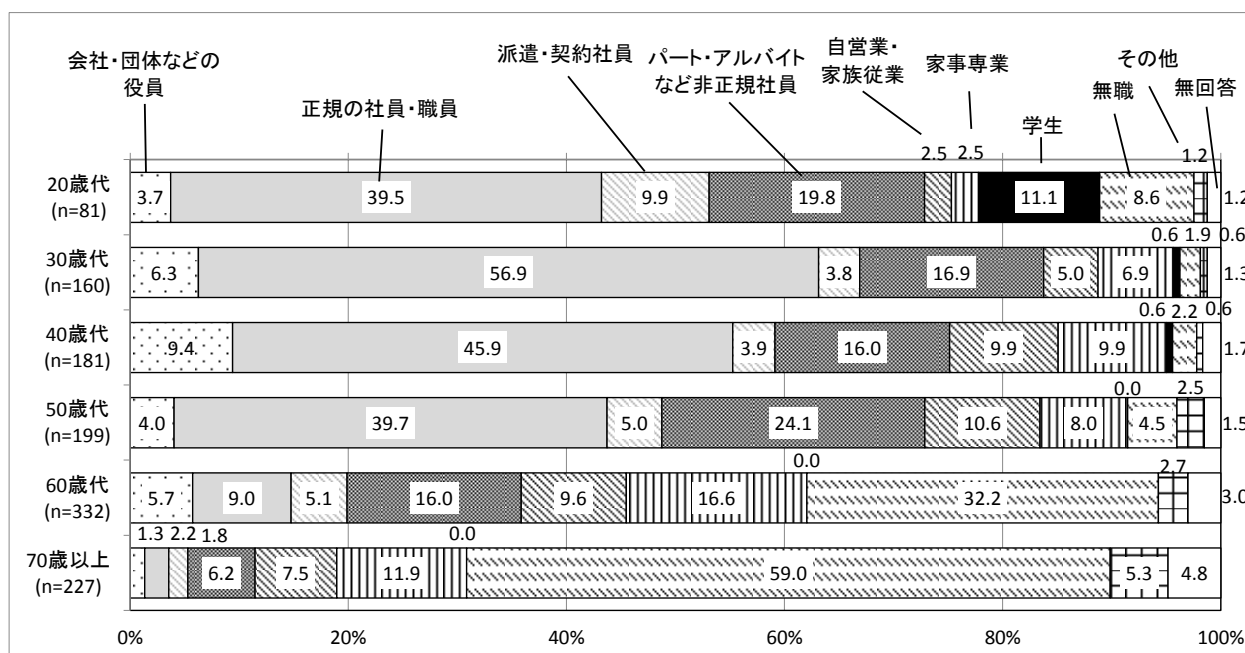
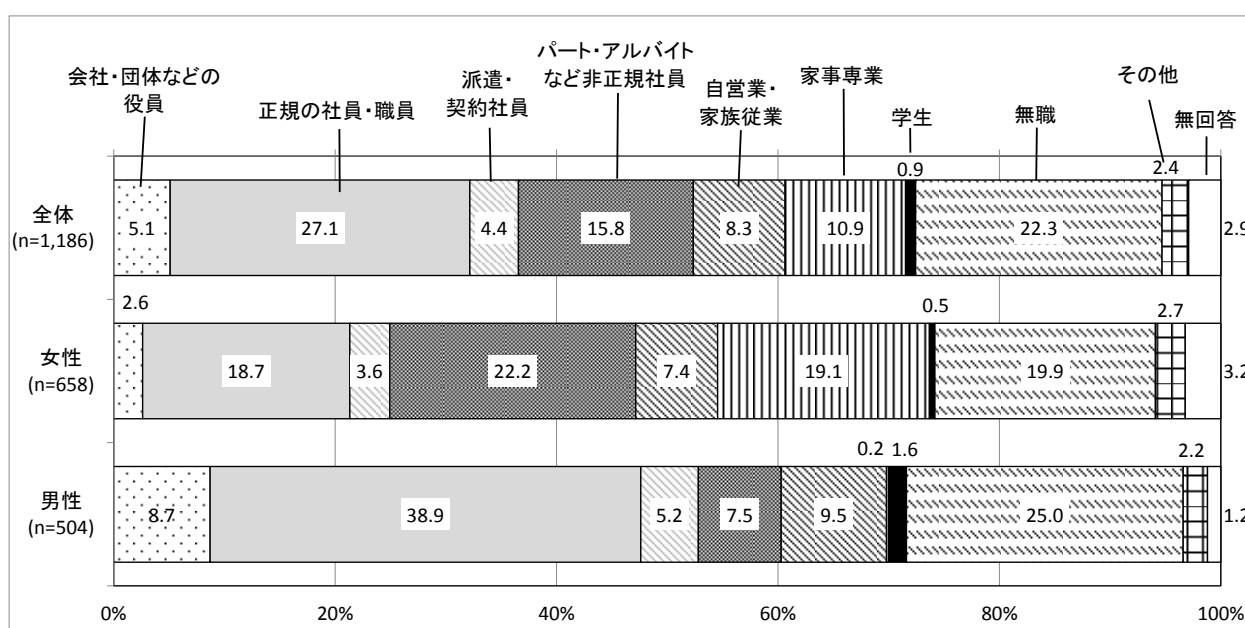


F4. あなたとあなたの配偶者(事実婚のパートナーも含みます)の現在の職業は、次のうちどれですか。
 配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。(〇はそれぞれ1つつ)

自身の現在の職業をみると、「正規の社員・職員」27.1%が最も割合が高く、次いで「無職」22.3%、「パート・アルバイトなど非正規社員」15.8%、「家事専業」10.9%の順となっています。「その他」としては「農業」や「公務員」といった回答が多くなっています。

性別にみると、女性は「パート・アルバイトなど非正規社員」、男性は「正規の社員・職員」の割合が高くなっています。

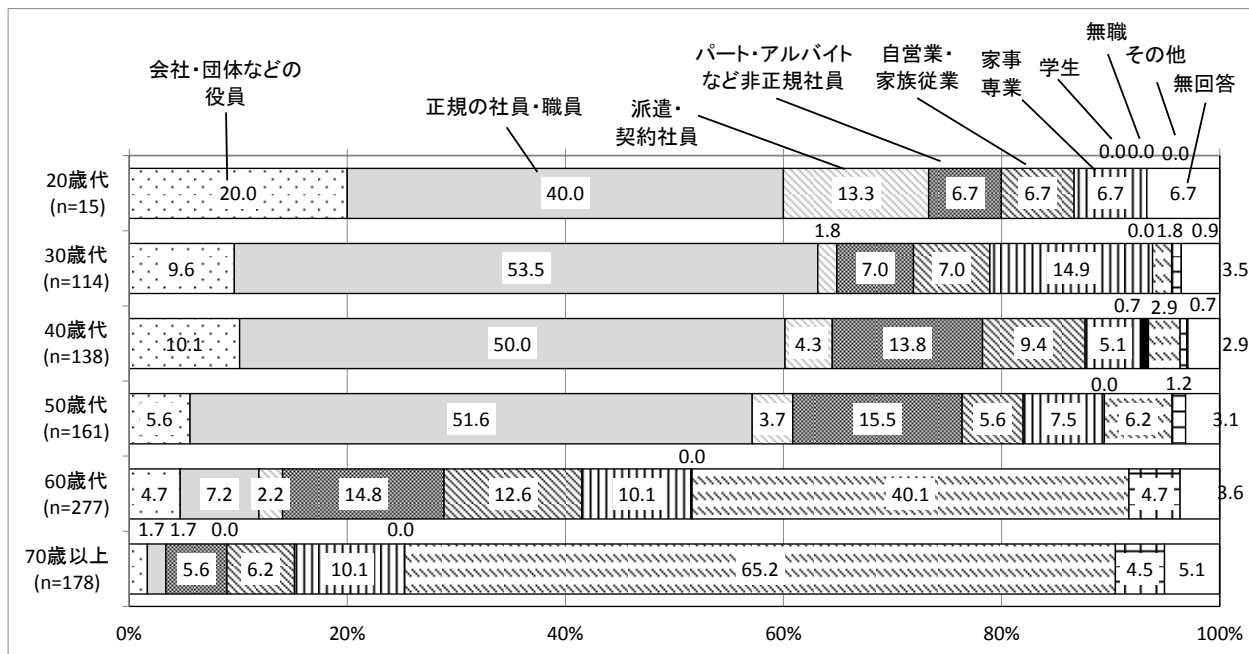
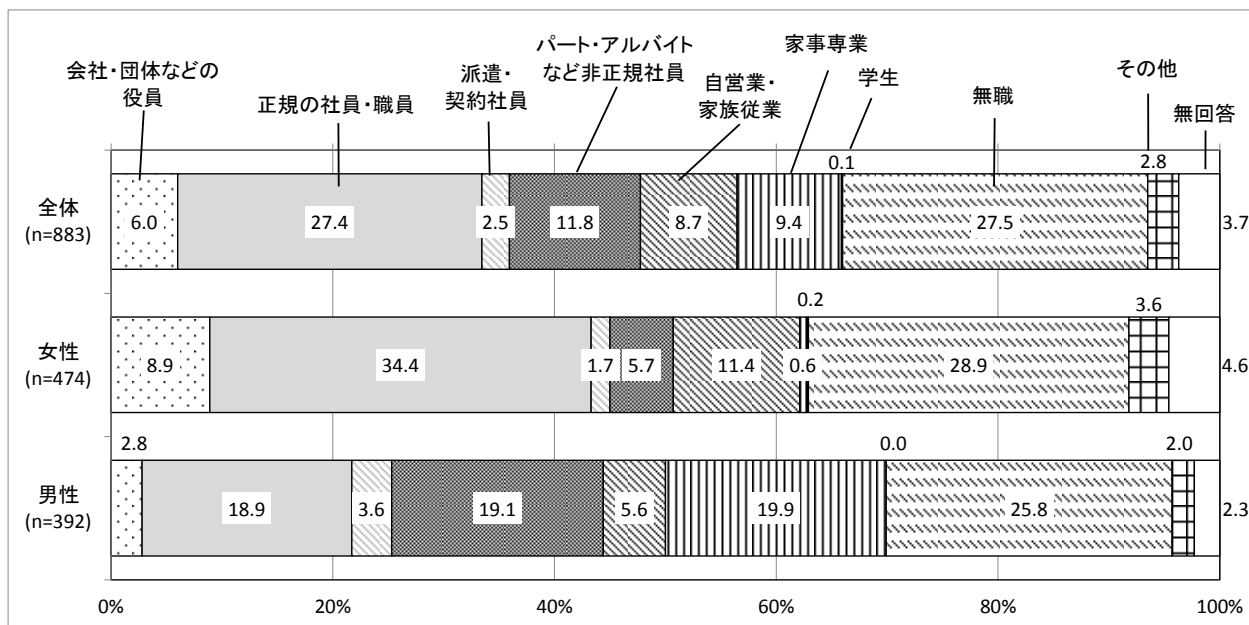
年齢別にみると、20～50歳代は「正規の社員・職員」、60歳代、70歳以上は「無職」の割合が高くなっています。



配偶者の現在の職業をみると、「無職」27.5%が最も割合が高く、次いで「正規の社員・職員」27.4%、「パート・アルバイトなど非正規社員」11.8%、「家事専業」9.4%の順となっています。「その他」としては自身の現在の職業同様、「農業」や「公務員」といった回答が多くなっています。

性別にみると、女性は「正規の社員・職員」、男性は「無職」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20～50歳代は「正規の社員・職員」、60歳代、70歳以上は「無職」の割合が高くなっています。

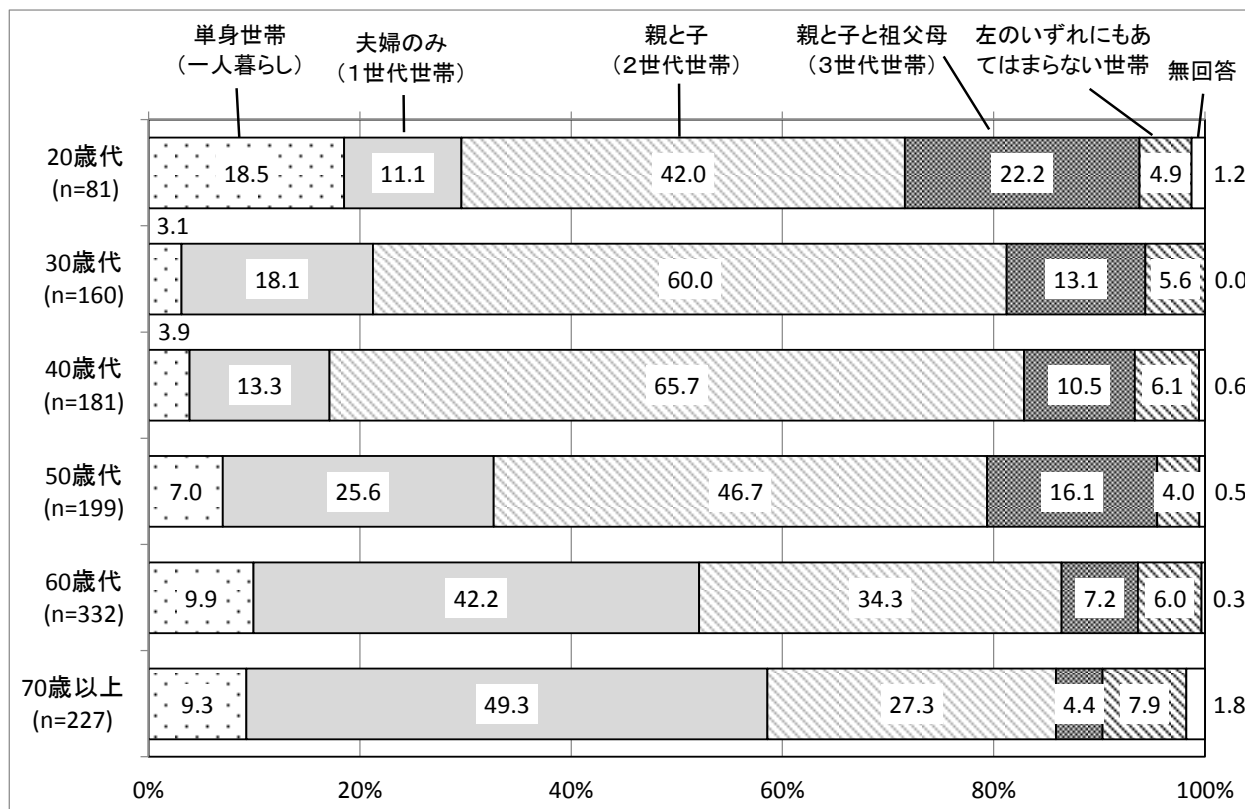
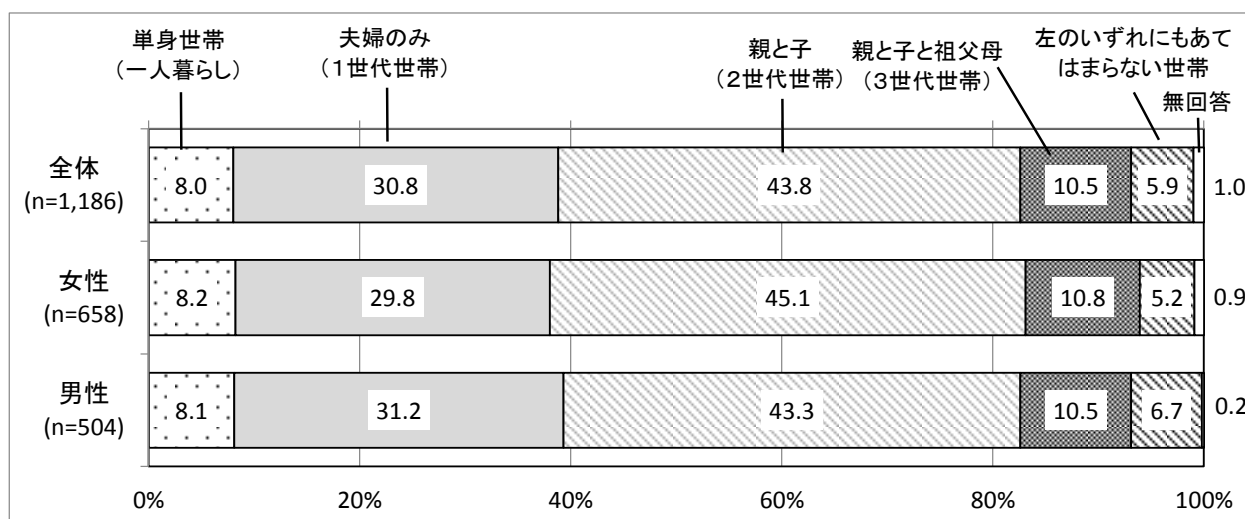


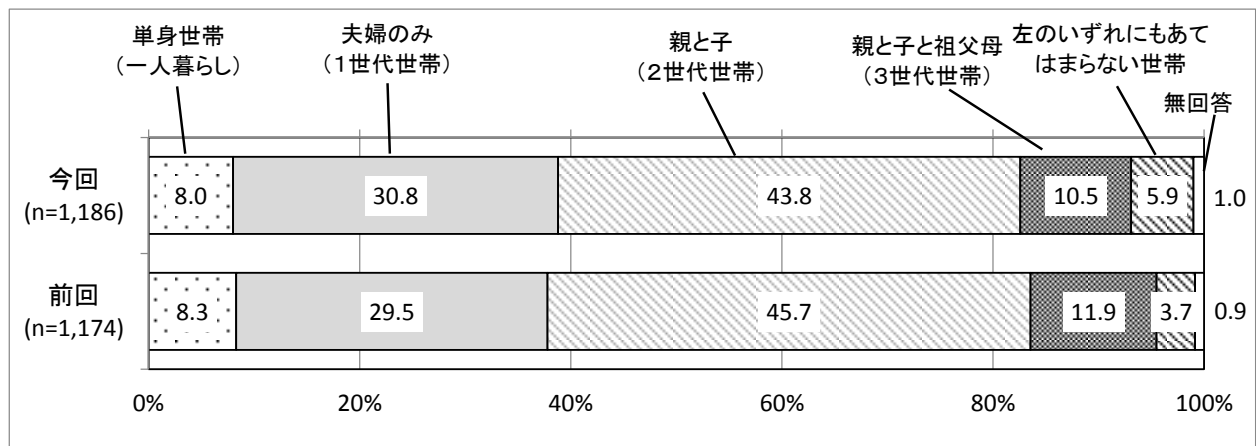
F5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。(〇は1つ)

現在、同居している家族の構成をみると、「親と子（2世代世帯）」43.8%が最も割合が高く、次いで「夫婦のみ（1世代世帯）」30.8%、「親と子と祖父母（3世代世帯）」10.5%、「単身世帯（一人暮らし）」8.0%の順となっており、性別にみても女性・男性ともに同様の結果となっています。

年齢別にみると、20歳代は他の年齢に比べて「単身世帯（一人暮らし）」18.5%の割合が高くなっています。30～40歳代は「親と子（2世代世帯）」の割合が60%以上であり、40歳代以降では年齢が上がるにつれて「夫婦のみ（1世代世帯）」の割合が高くなっています。

また、前回調査時の割合とはほぼ同様の結果となっています。



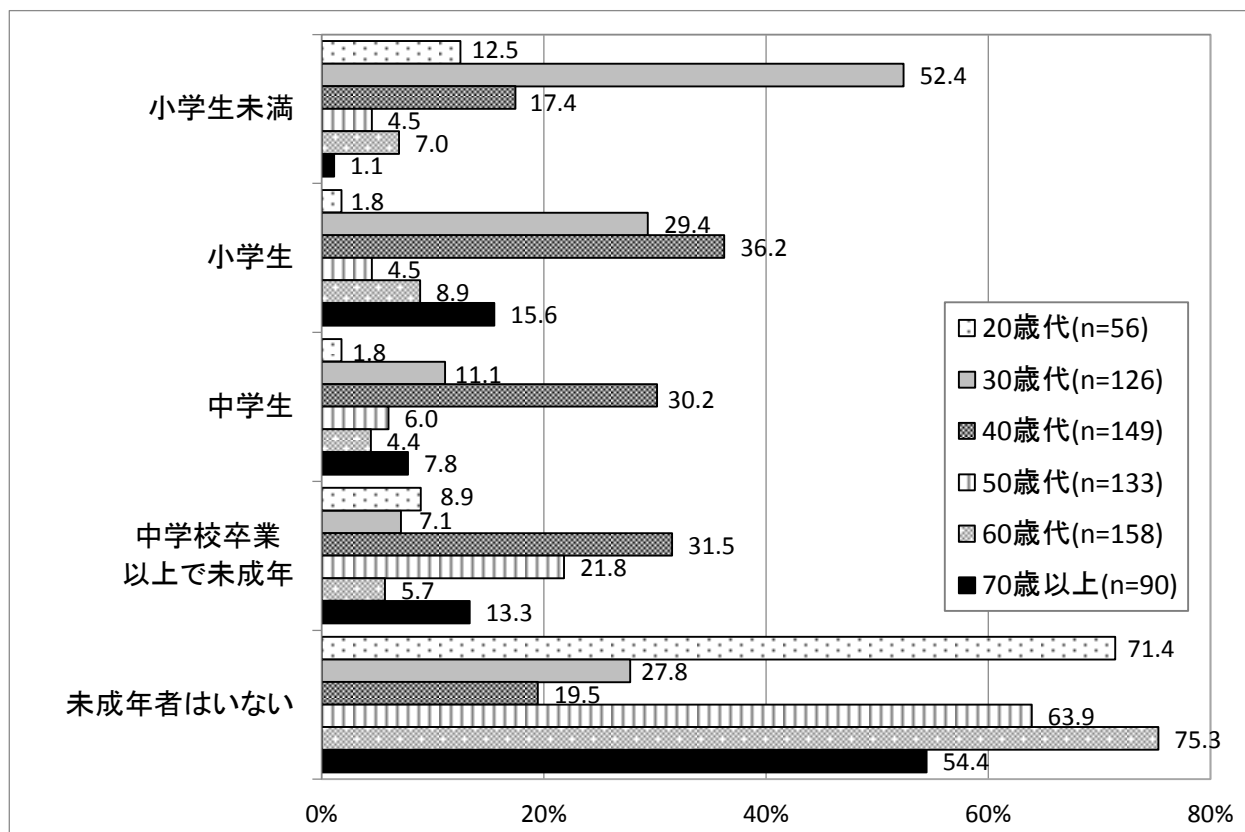
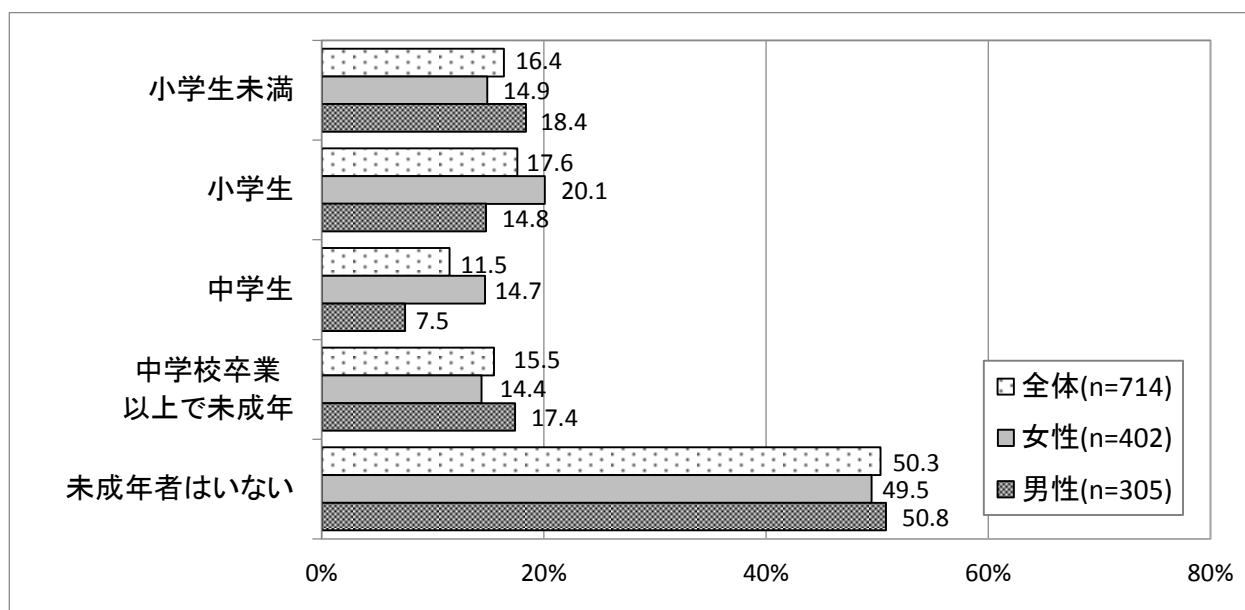


F6. 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。(〇はあてはまるものすべて)

現在、同居している家族についてみると、「未成年者はいない」50.3%が最も割合が高く、次いで「小学生」17.6%、「小学生未満」16.4%の順となっています。

性別にみても、女性・男性ともに「未成年者はいない」の割合が最も高くなっており、次いで、女性は「小学生」20.1%、男性は「小学生未満」18.4%の順となっています。

年齢別にみると、20歳代、50～60歳代、70歳以上では「未成年者はいない」、30歳代では「小学生未満」、40歳代では「小学生」の割合が最も高くなっていきます。

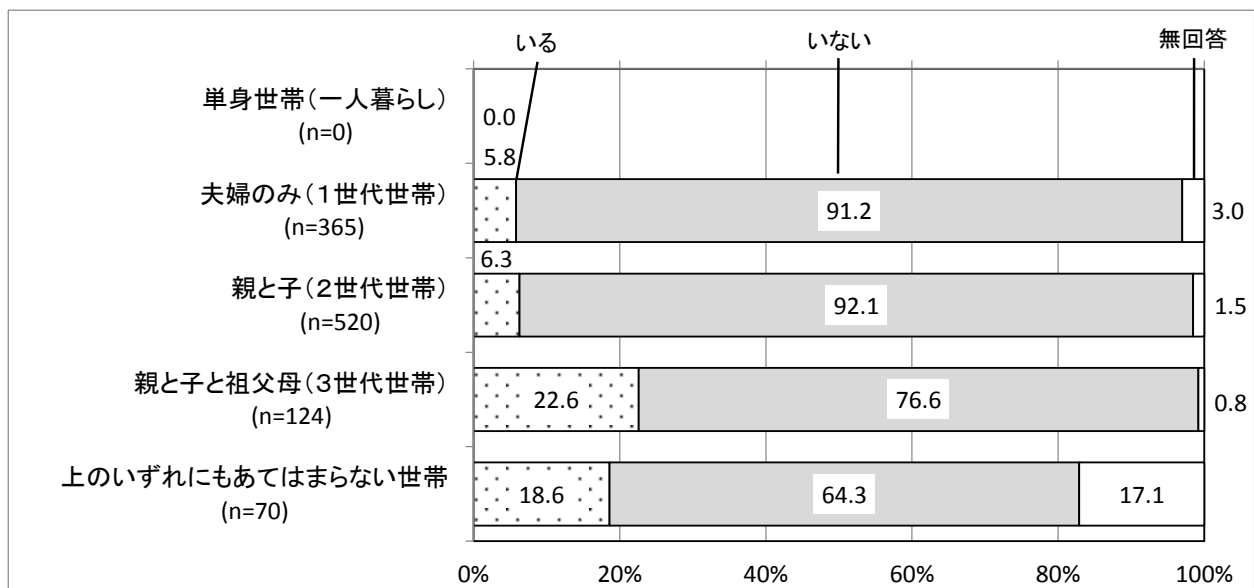
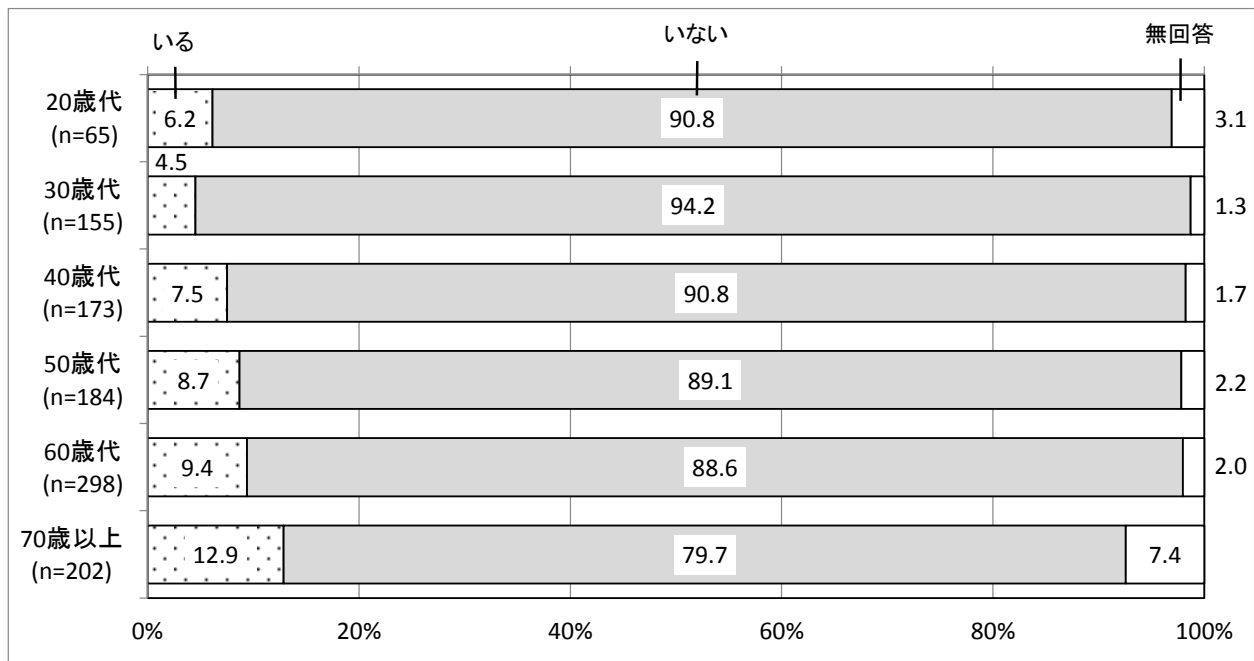
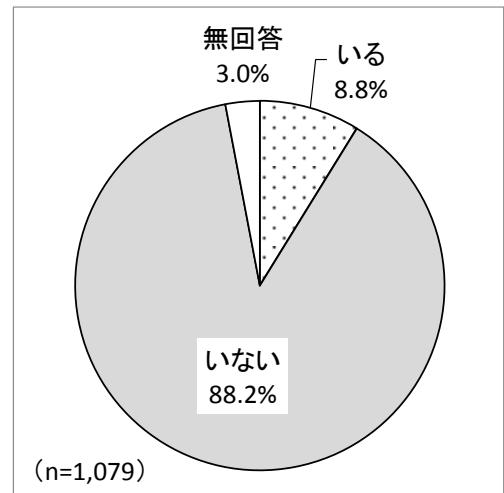


F7. 現在、あなたが同居しているご家族に、日常的に介護を必要とする方はいますか。(〇は1つ)

現在、同居している家族に、日常的に介護を必要とする方の有無についてみると、「いない」88.2%、「いる」8.8%となっています。

年齢別にみると、30歳代以降で年齢が上がるにつれて「いる」の割合が高くなっています。

家族構成別にみると、「親と子と祖父母(3世代世帯)」、「上のいずれにもあてはまらない世帯」において、「いる」割合が約20%を占めています。



2 男女平等について

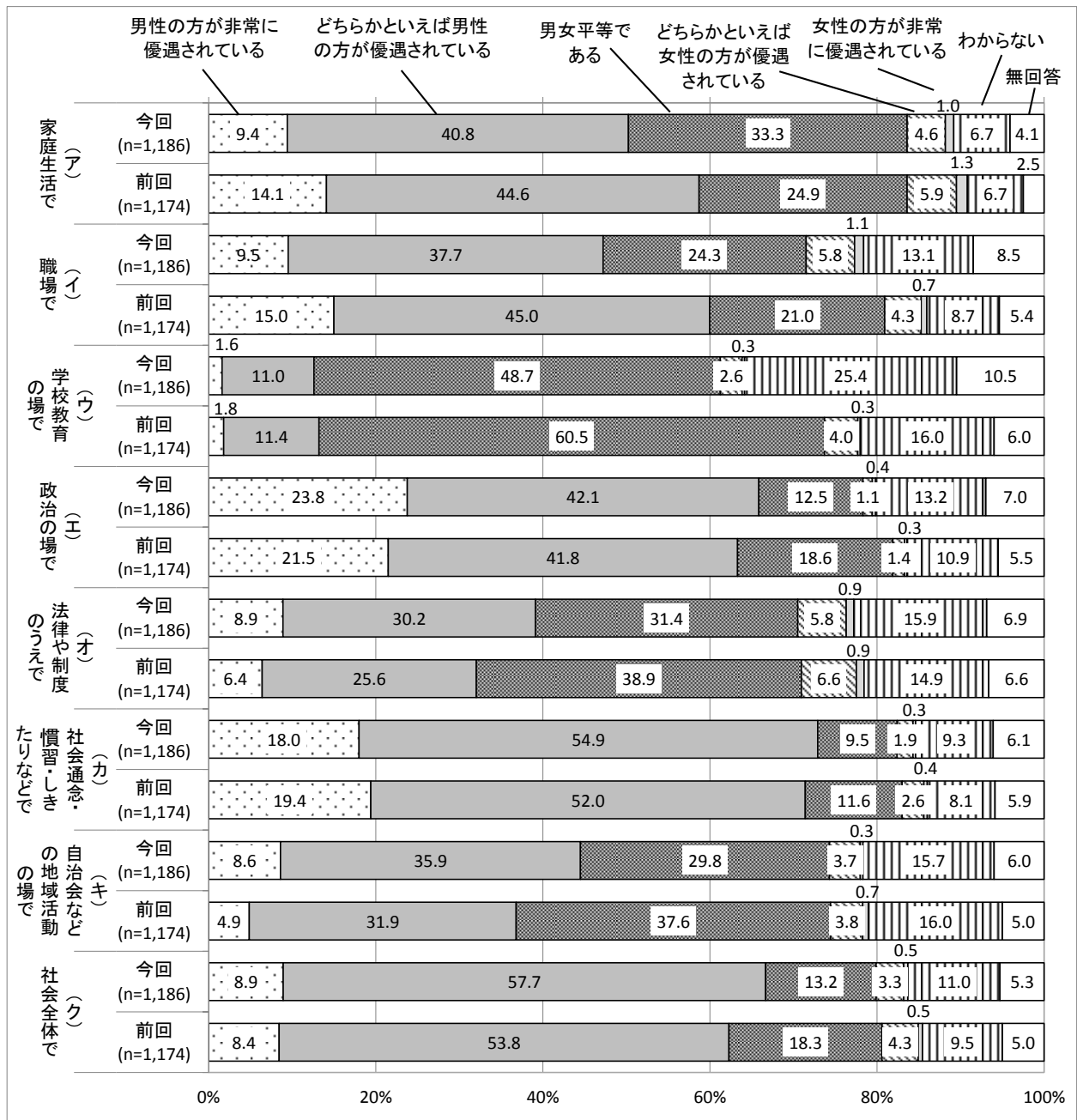
問 1. あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)までの項目についてお答えください。(○は各項目1つずつ)

【全体】

男女平等についてみると、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）では「(エ) 政治の場で」、「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなどで」、「(ク) 社会全体で」の割合が高くなっています。

『男女平等』（「男女平等である」）をみると、「(ウ) 学校教育の場で」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「(ア) 家庭生活上で」、「(イ) 職場で」で『男女平等』の割合が高くなっています。



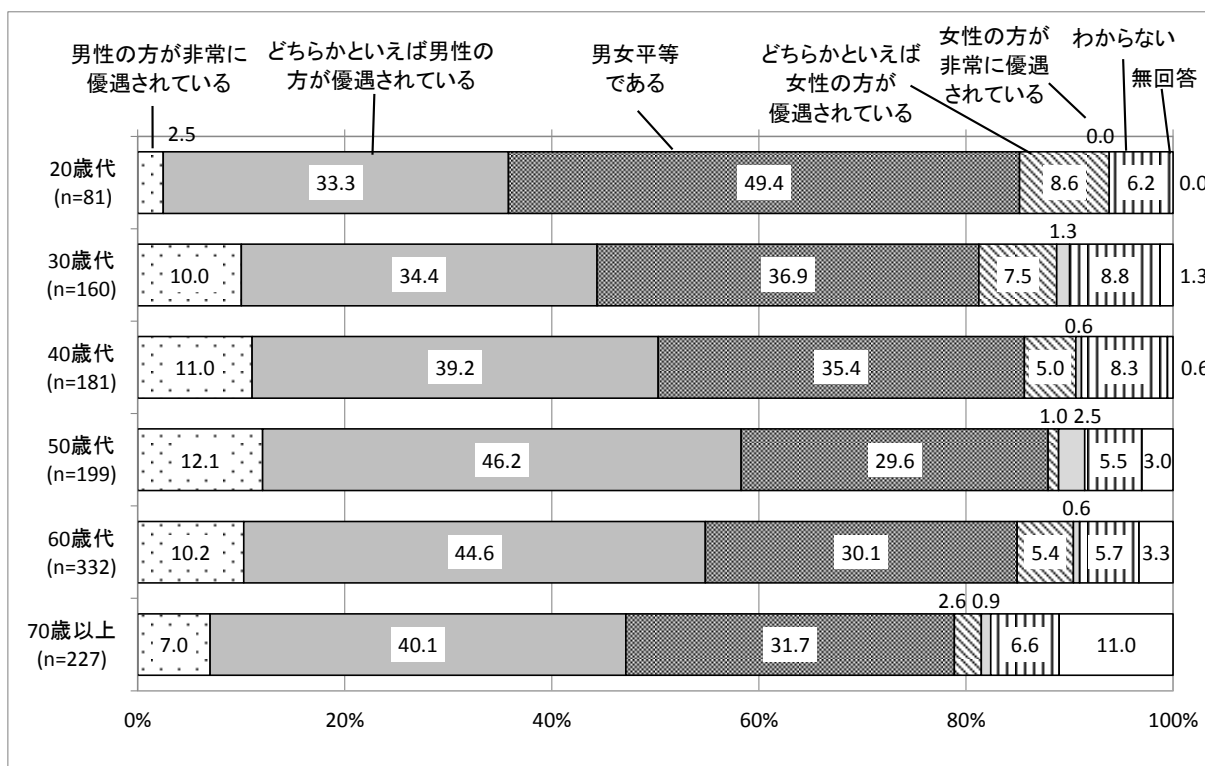
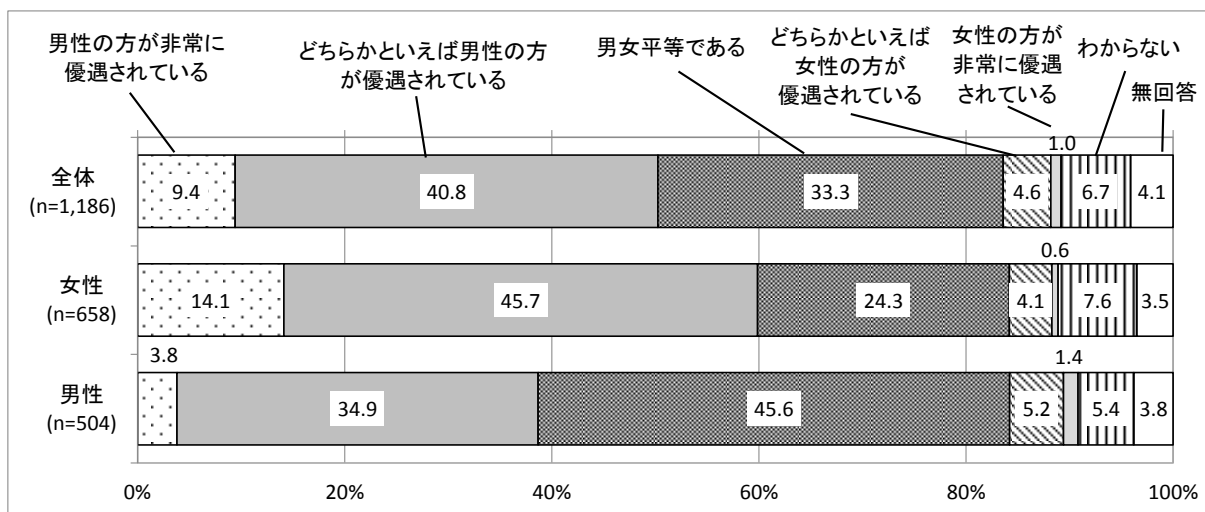
ア 家庭生活で

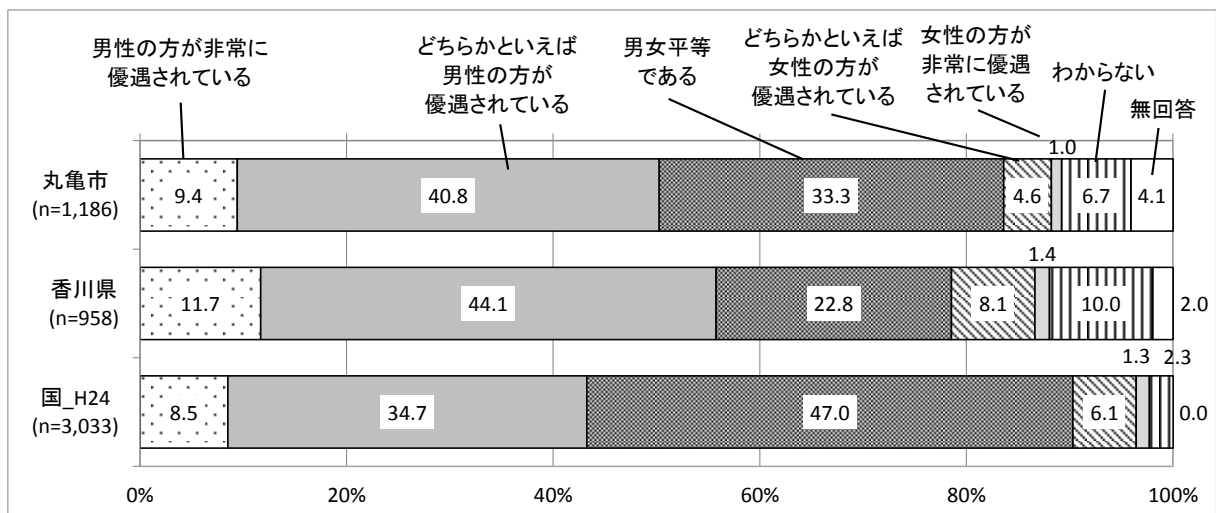
家庭生活での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」40.8%が最も割合が高く、次いで「男女平等である」33.3%、「男性の方が非常に優遇されている」9.4%の順となっています。

性別にみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」45.7%、男性は「男女平等である」45.6%の割合が最も高くなっており、男性より女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20～30歳代は「男女平等である」、40歳代以降は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

香川県及び全国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県22.8%より高く、全国47.0%より低くなっています。





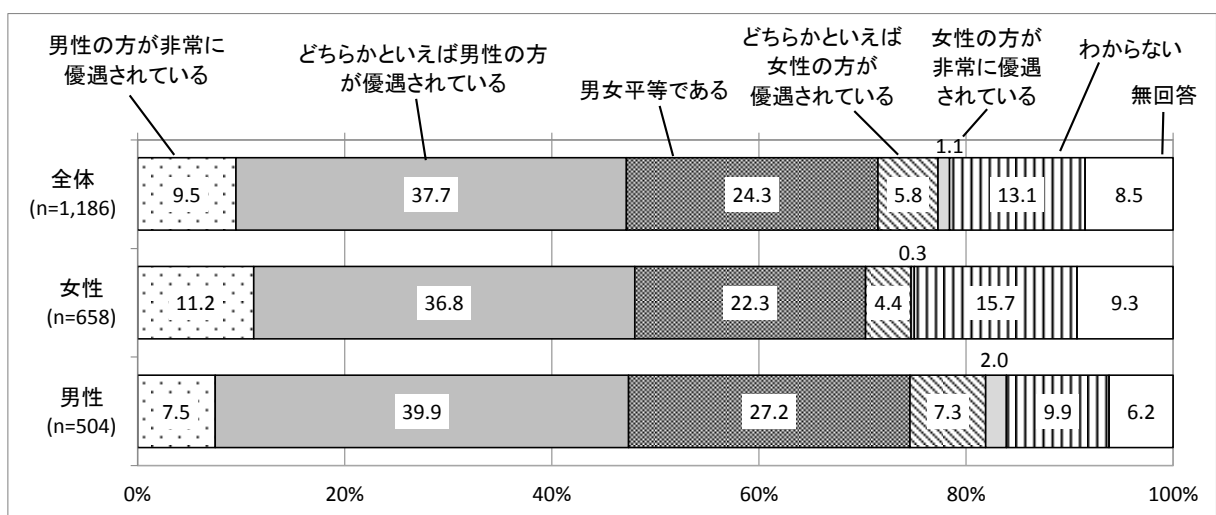
イ 職場で

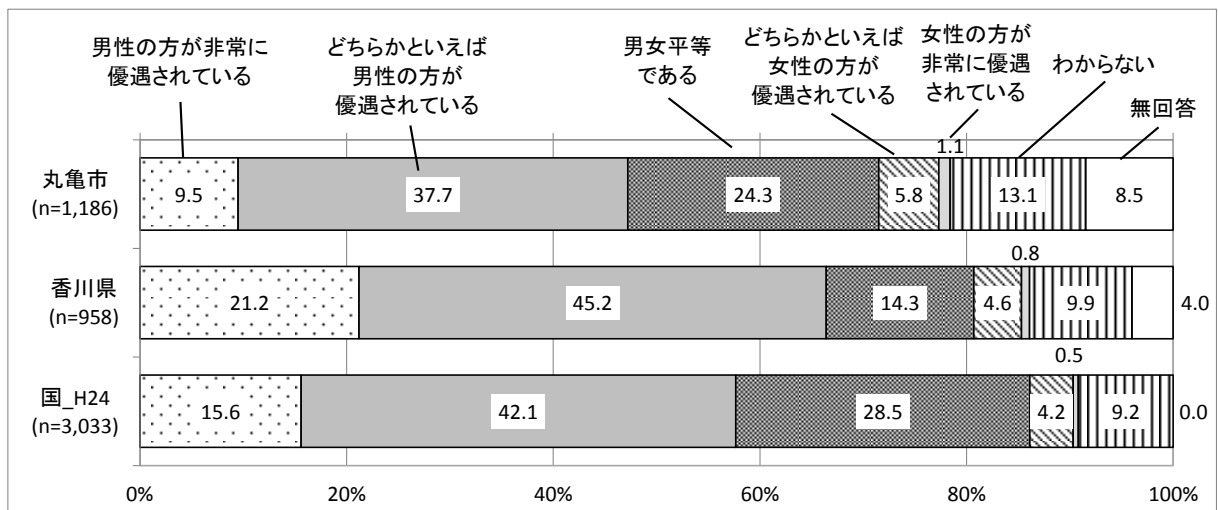
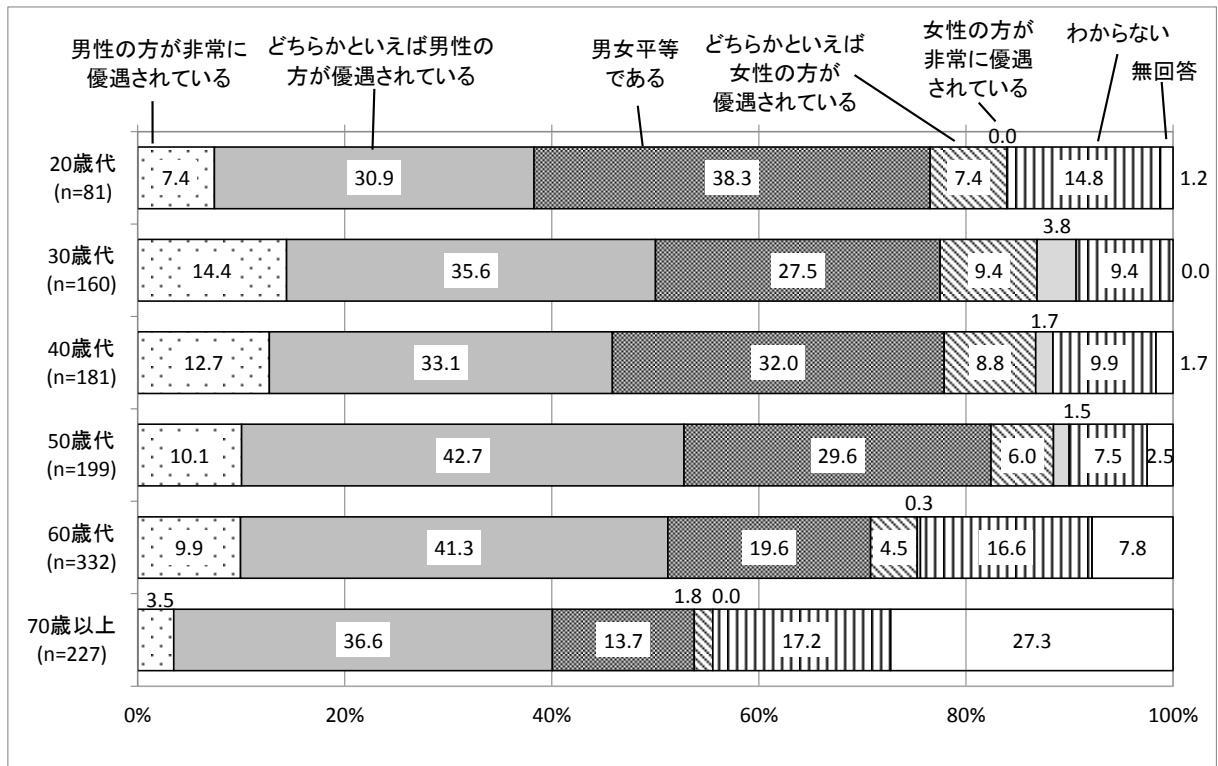
職場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」37.7%が最も割合が高く、次いで「男女平等である」24.3%、「わからない」13.1%の順となっています。

性別にみると、女性より男性の方が『男女平等』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代は「男女平等である」、30歳代以降は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県14.3%より高く、国28.5%より低くなっています。





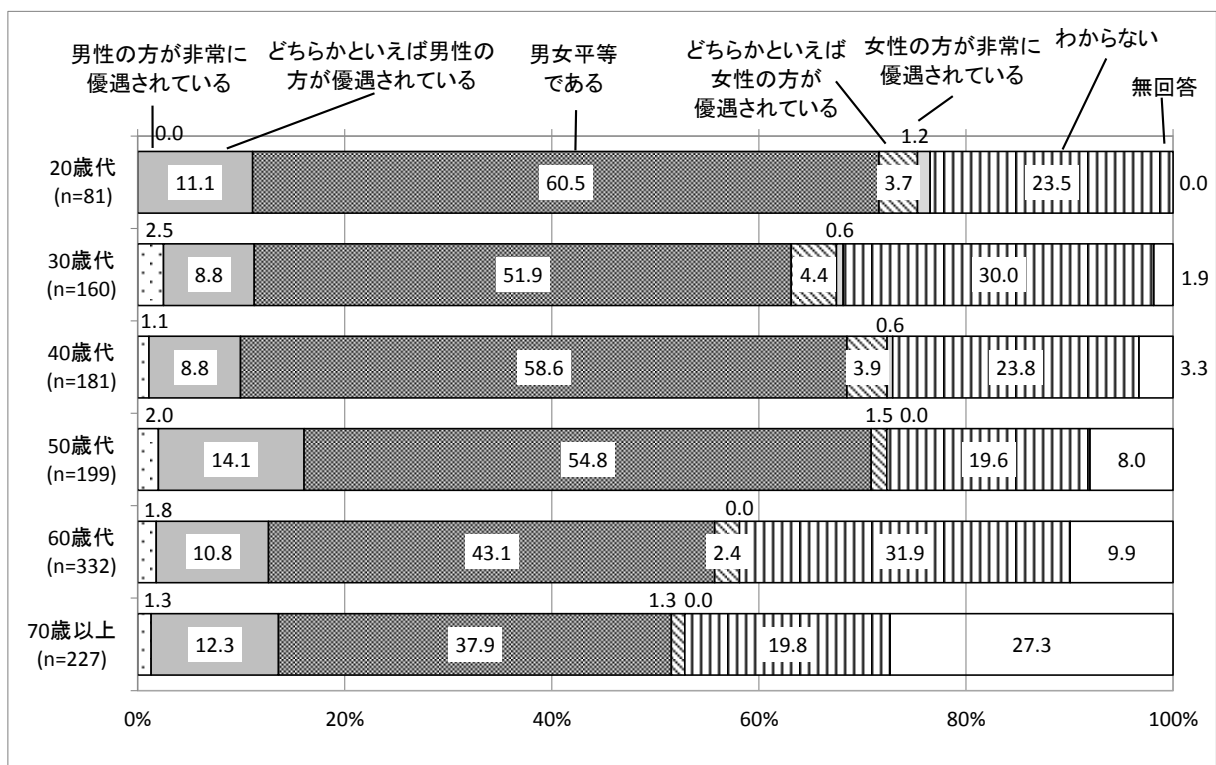
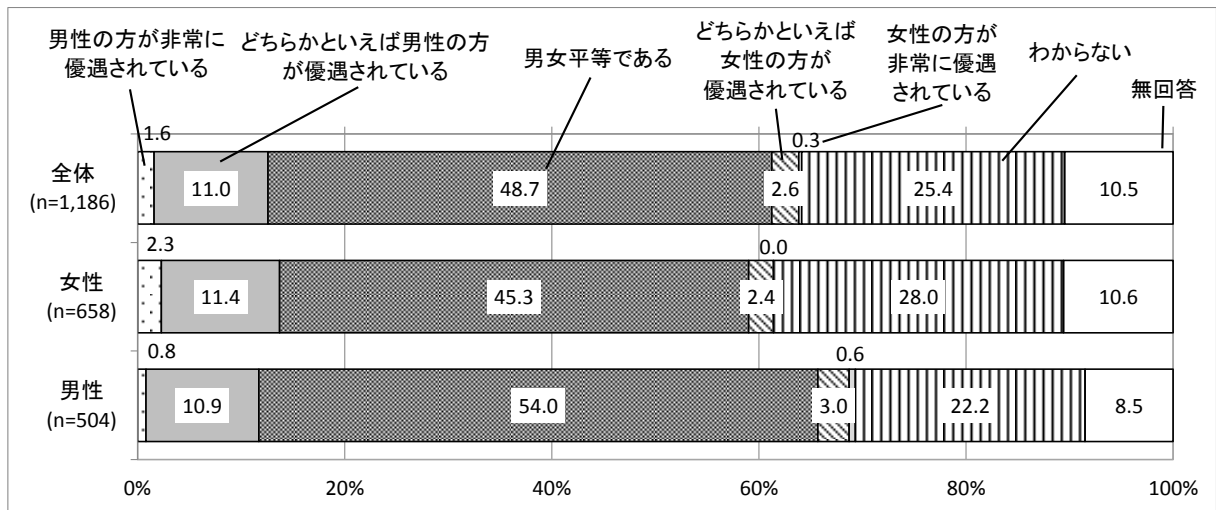
ウ 学校教育の場で

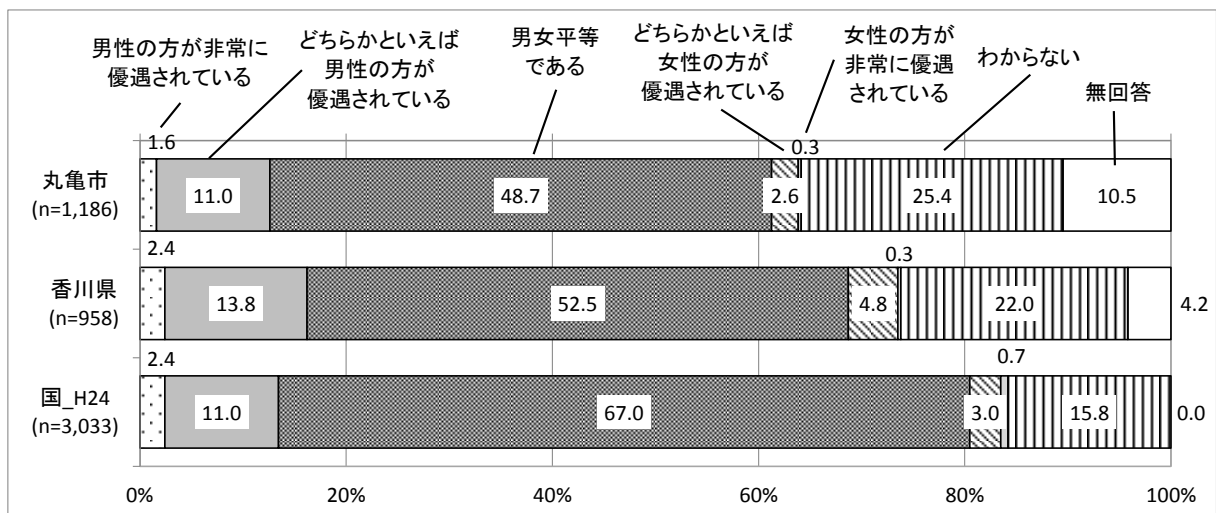
学校教育の場での男女平等についてみると、「男女平等である」48.7%が最も割合が高く、次いで「わからない」25.4%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」11.0%の順となっています。

性別にみると、女性より男性の方が『男女平等』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、30歳代を除くと年齢が上がるにつれて『男女平等』の割合が低下しています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県52.5%、国67.0%より低くなっています。





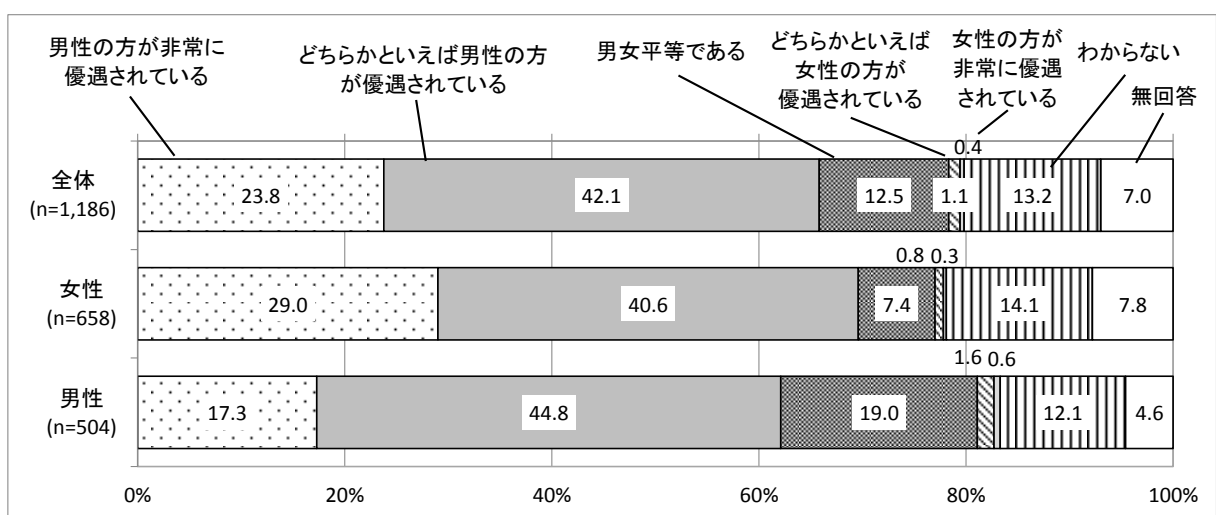
エ 政治の場で

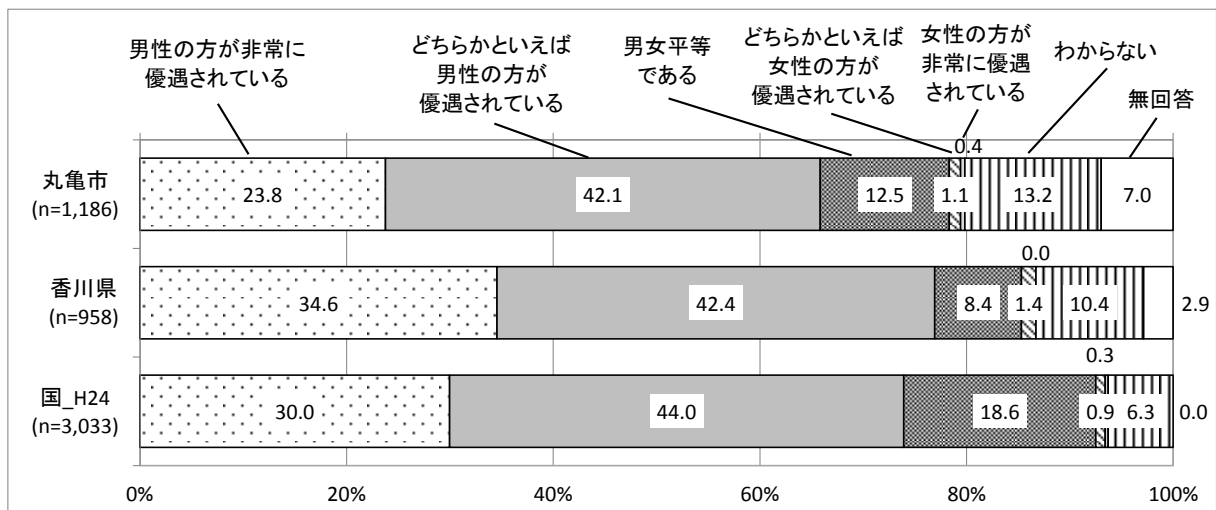
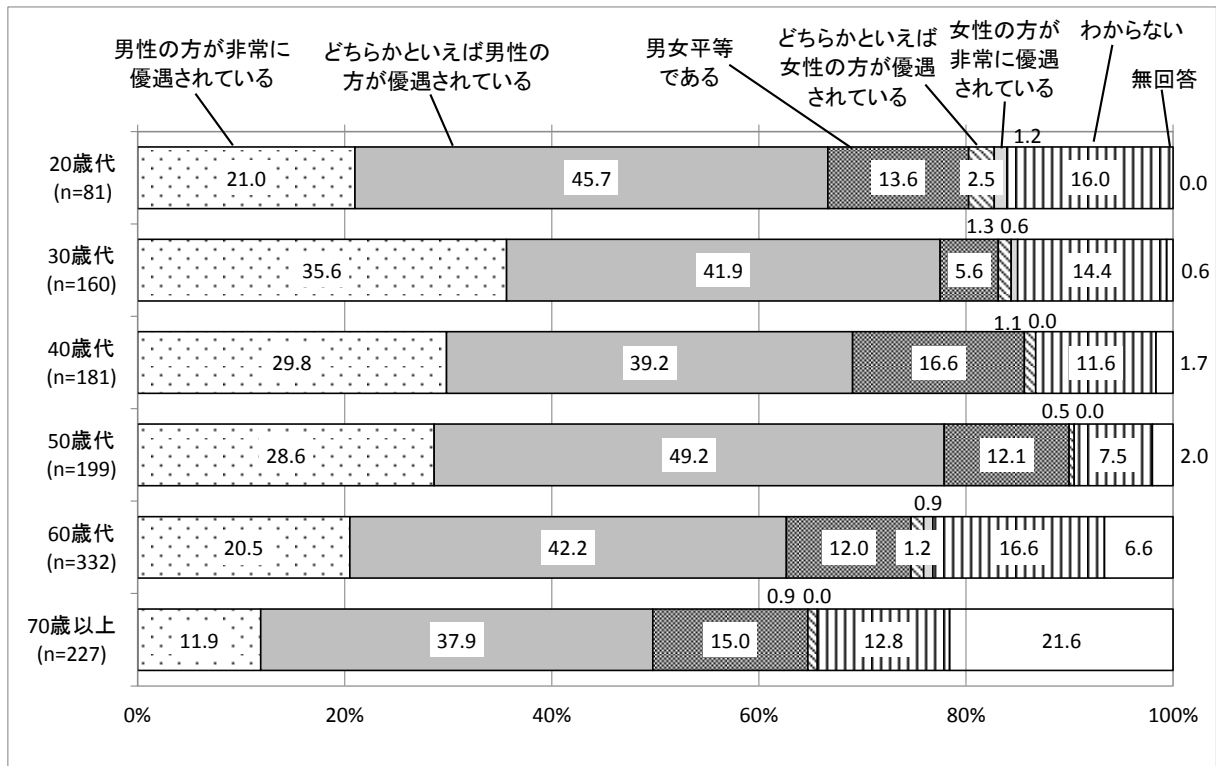
政治の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」42.1%が最も割合が高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」23.8%、「わからない」13.2%の順となっています。

性別にみると、男性より女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢においても『男性優遇』の割合が高くなっており、特に、30歳代、50歳代では約80%を占めています。また、70歳以上から30歳代にかけて年齢が低くなるにつれて「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。

香川県及び国と比較すると、『男性優遇』の割合は香川県より11.1%、国より8.1%低くなっています。





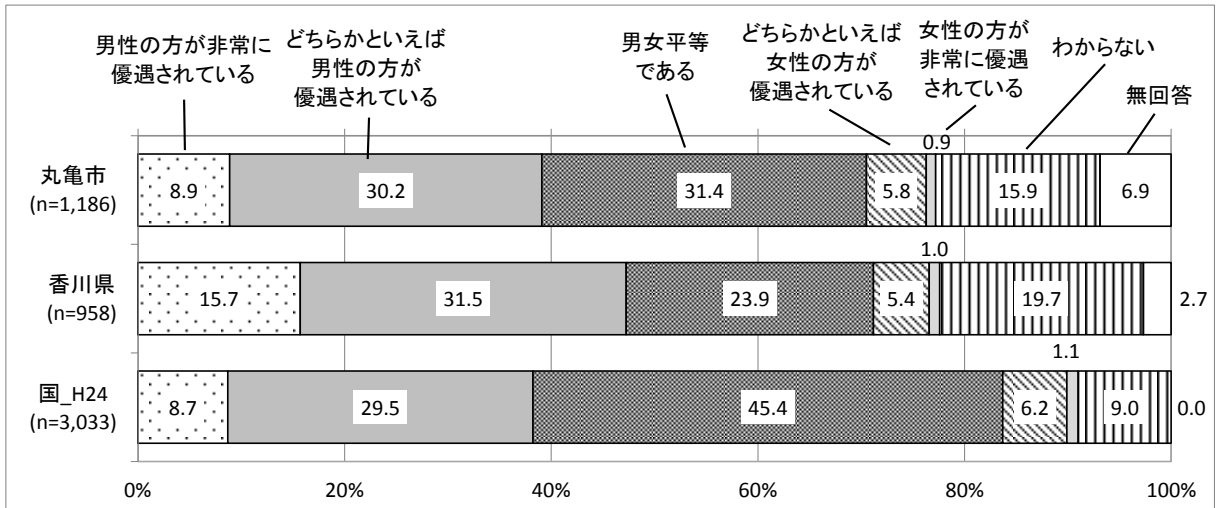
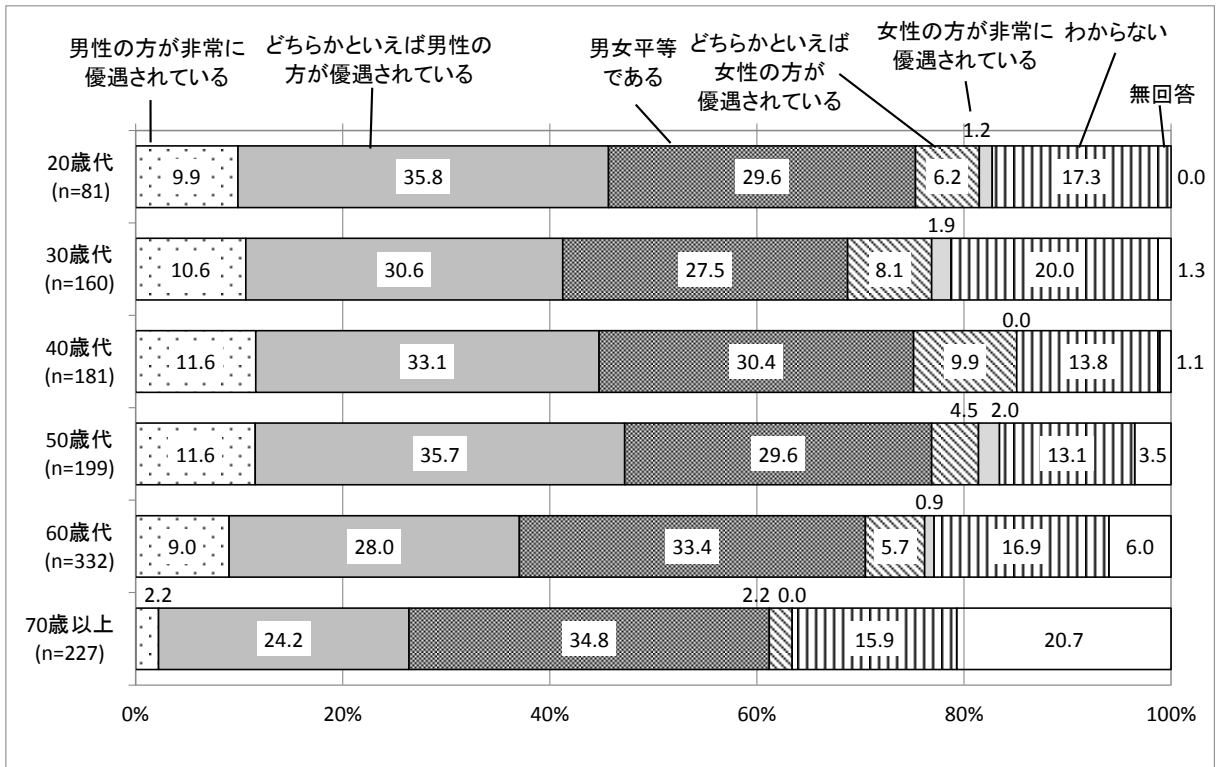
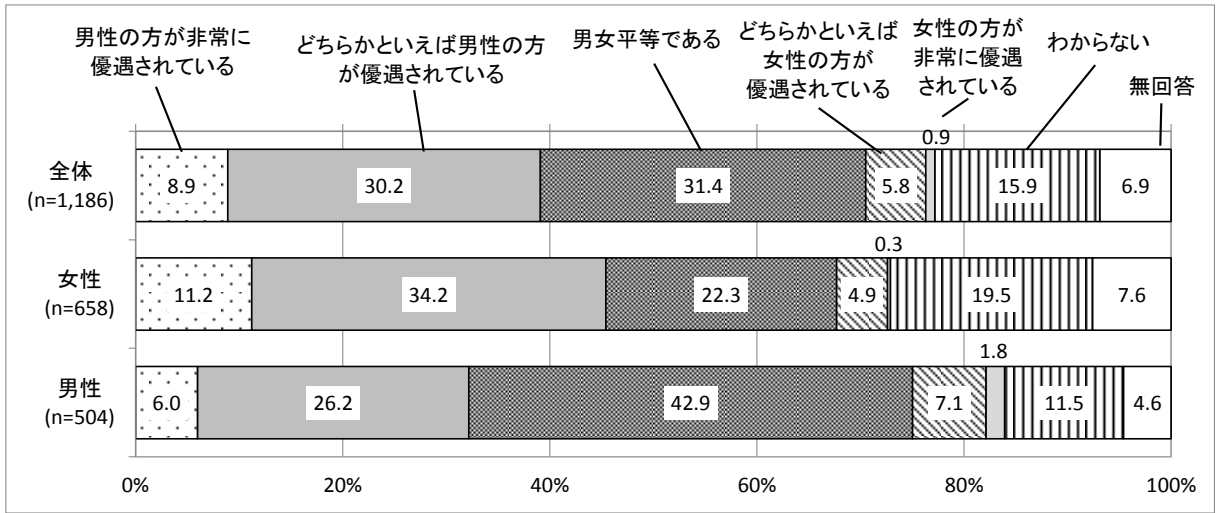
オ 法律や制度のうえで

法律や制度のうえでの男女平等についてみると、「男女平等である」31.4%が最も割合が高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」30.2%、「わからない」15.9%の順となっています。

性別にみると、女性より男性の方が『男女平等』の割合が高くなっています。

年齢別にみると、『男女平等』はどの年齢においても30%前後となっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」は20～60歳代ではいずれも10%前後となっていますが、70歳以上では2.2%となっています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県23.9%より高く、国45.4%より低くなっています。



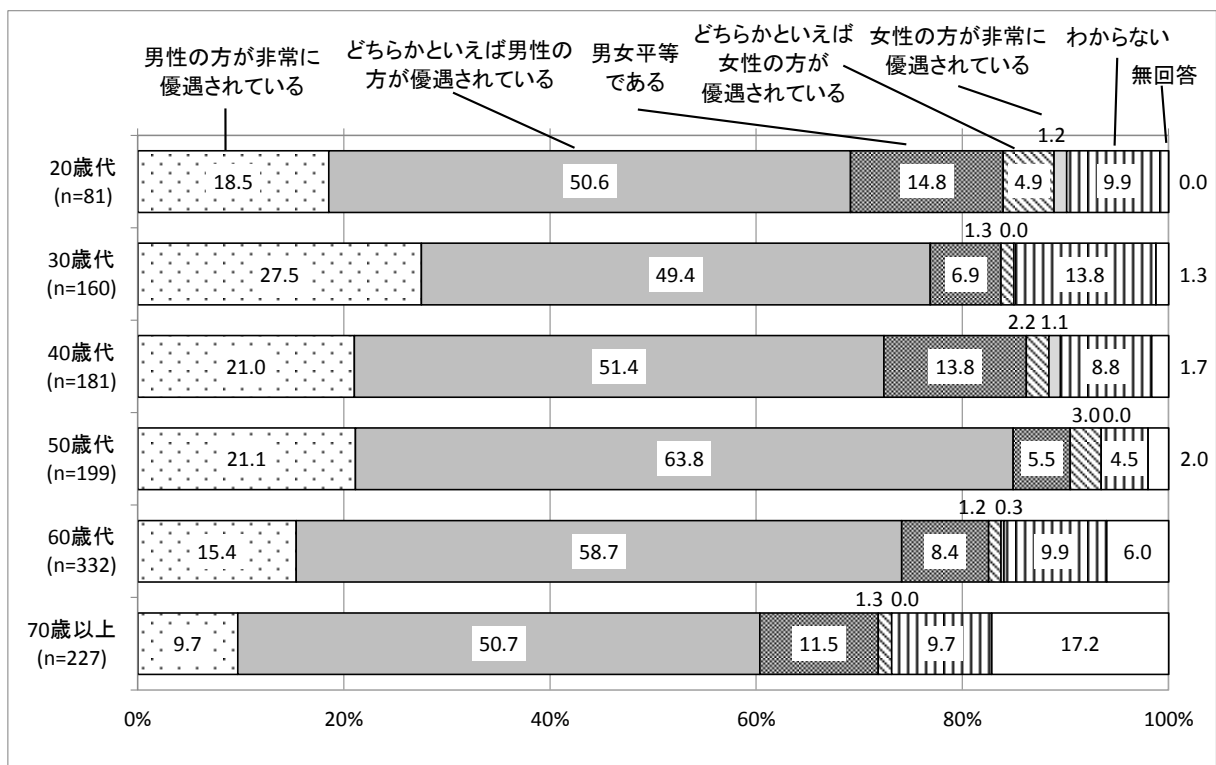
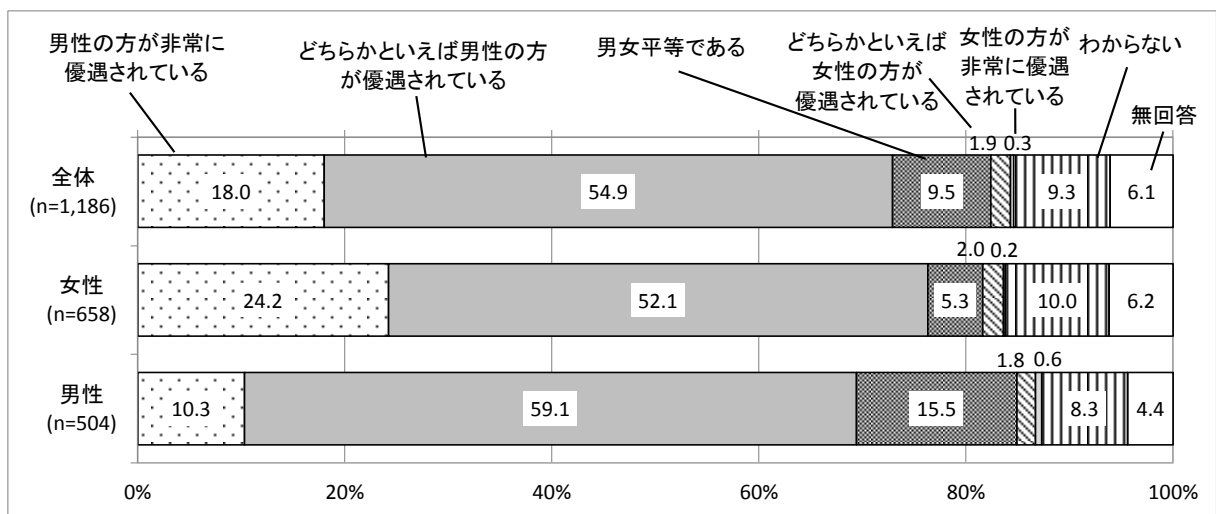
カ 社会通念・慣習・しきたりなどで

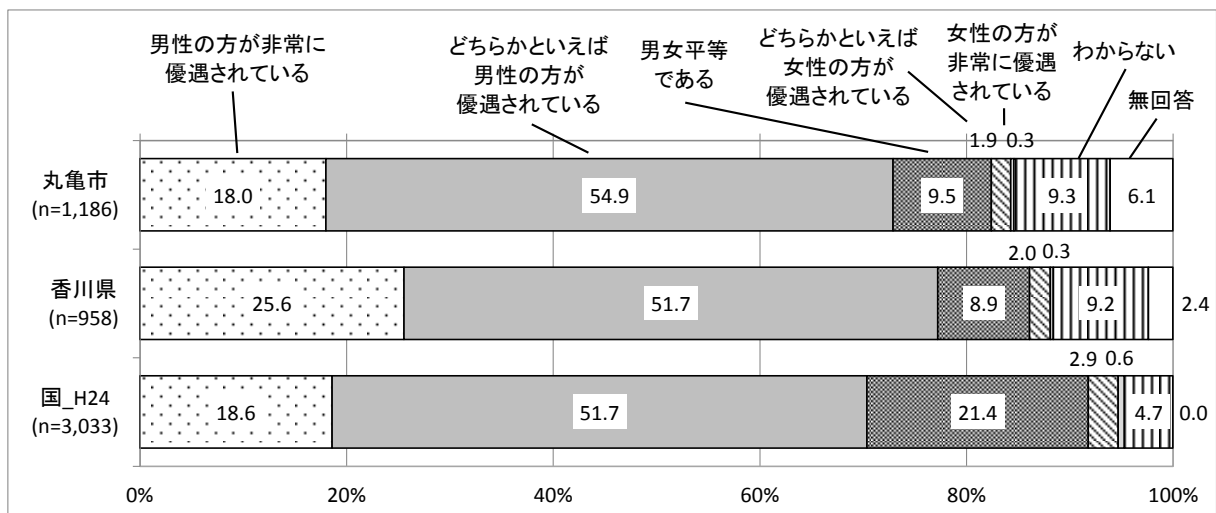
社会通念・慣習・しきたりなどでの男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」54.9%が最も割合が高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」18.0%、「男女平等である」9.5%の順となっています。

性別にみると、『男女平等』は女性より男性の割合が高くなっています。「男性の方が非常に優遇されている」は女性の割合が男性の約2倍高くなっています。

年齢別にみると、『男性優遇』は50歳代84.9%、30歳代76.9%、60歳代74.1%の順で割合が高くなっており、「男性の方が非常に優遇されている」は30歳代が27.5%と最も高くなっています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県8.9%より高く、国21.4%より低くなっています。





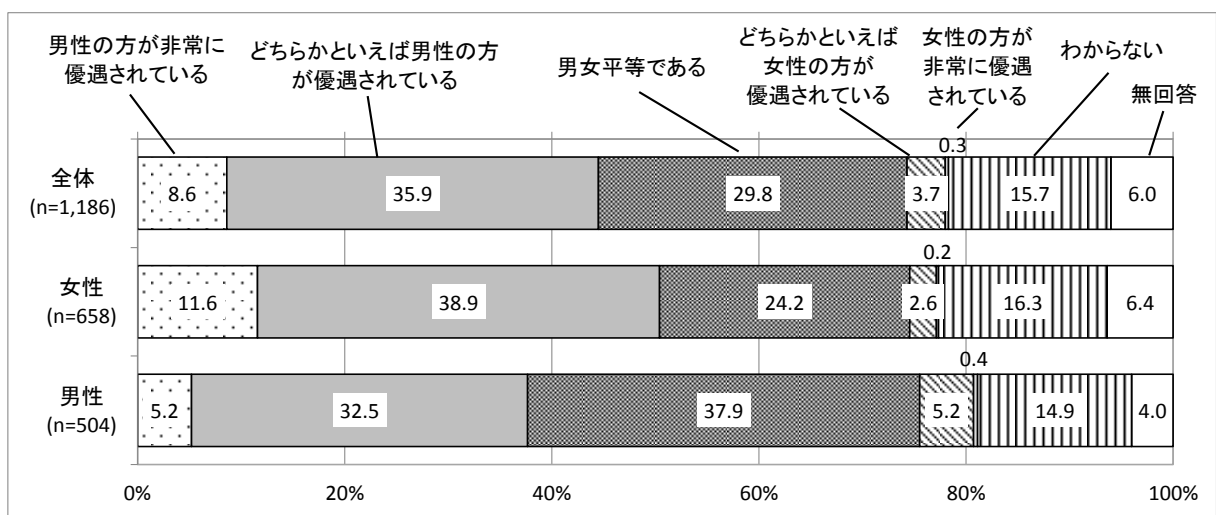
キ 自治会などの地域活動の場で

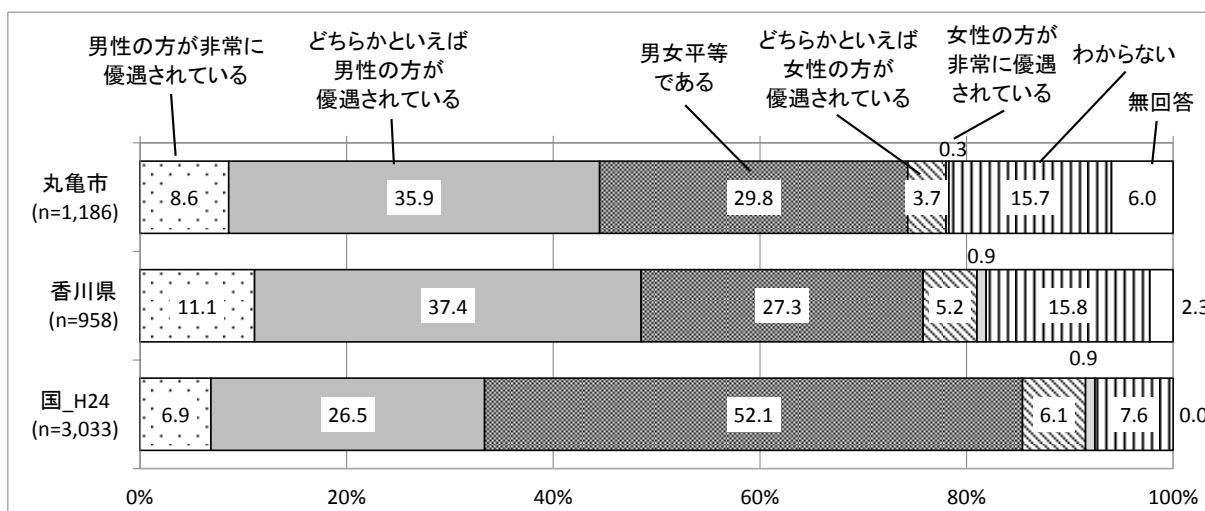
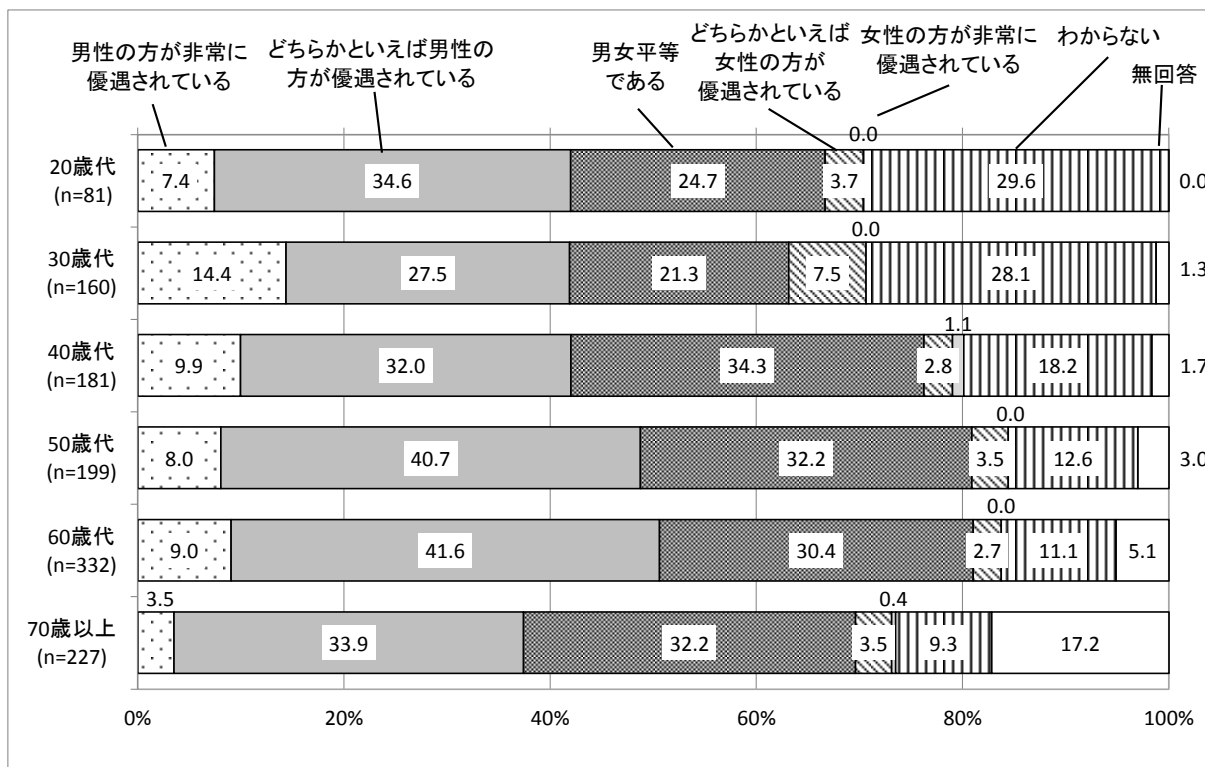
自治会などの地域活動の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」35.9%が最も割合が高く、次いで「男女平等である」29.8%、「わからない」15.7%の順となっています。

性別にみると、『男女平等』は女性より男性の割合が高くなっています。「男性の方が非常に優遇されている」は女性の割合が男性の約2倍高くなっています。

年齢別にみると、『男性優遇』は50～60歳代、『男女平等』は40歳代、『女性優遇』は30歳代の割合が最も高くなっています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県27.3%より高く、国52.1%より低くなっています。





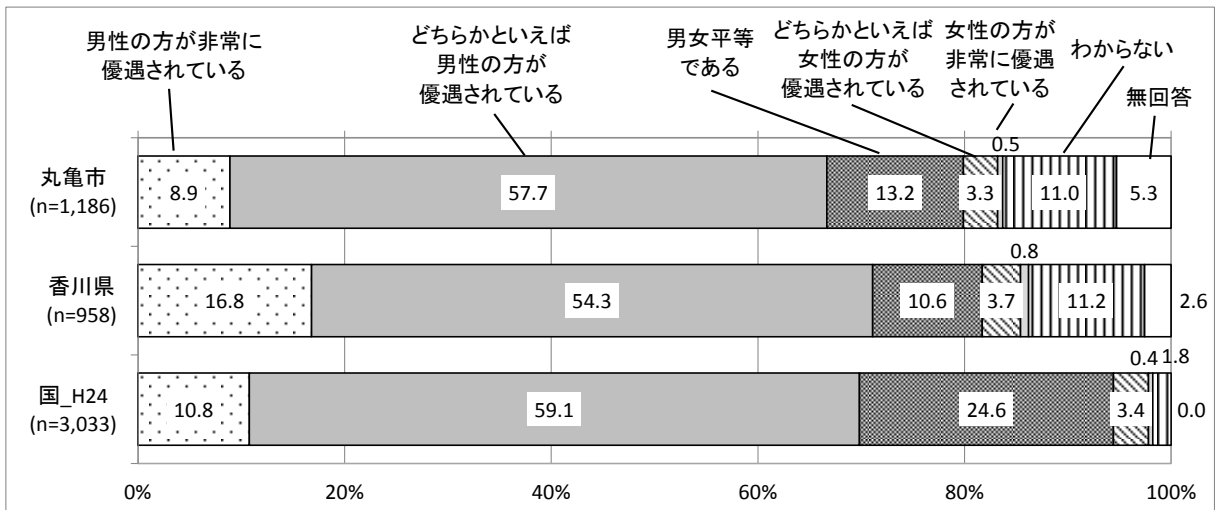
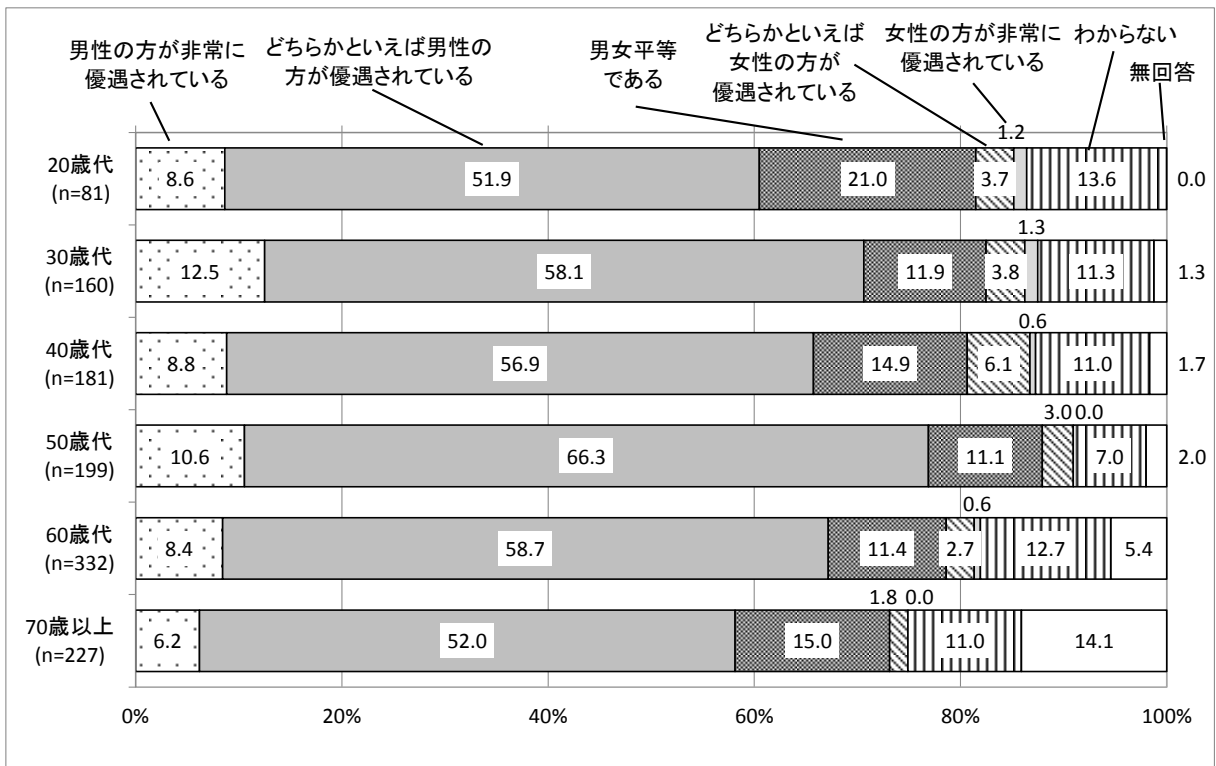
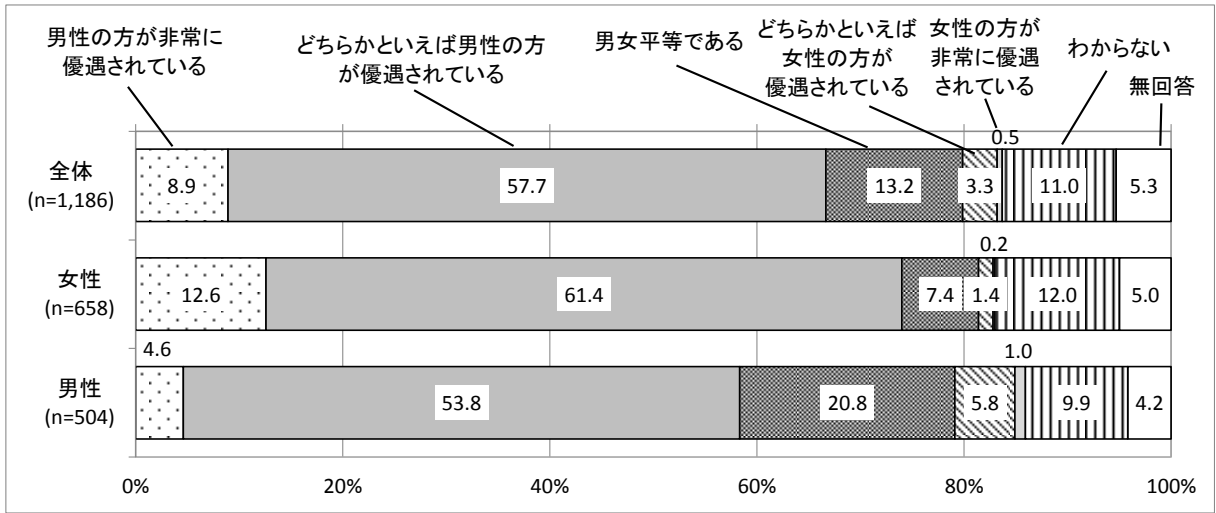
ク 社会全体で

社会全体での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」57.7%が最も割合が高く、次いで「男女平等である」13.2%、「わからない」11.0%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は男性より女性の割合が高くなっています。

年齢別にみると、『男性優遇』は50歳代、『男女平等』は20歳代、『女性優遇』は40歳代の割合が最も高くなっています。

香川県及び国と比較すると、『男女平等』の割合は香川県10.6%より高く、国24.6%より低くなっています。

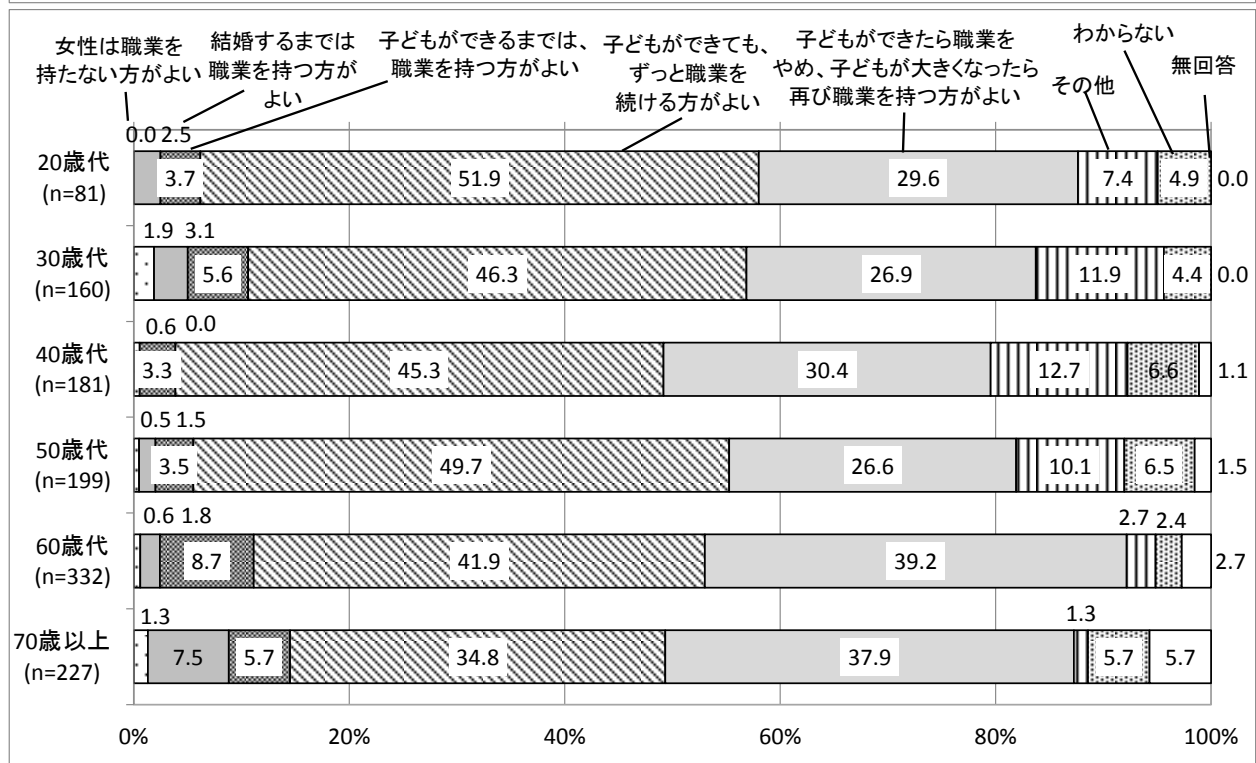
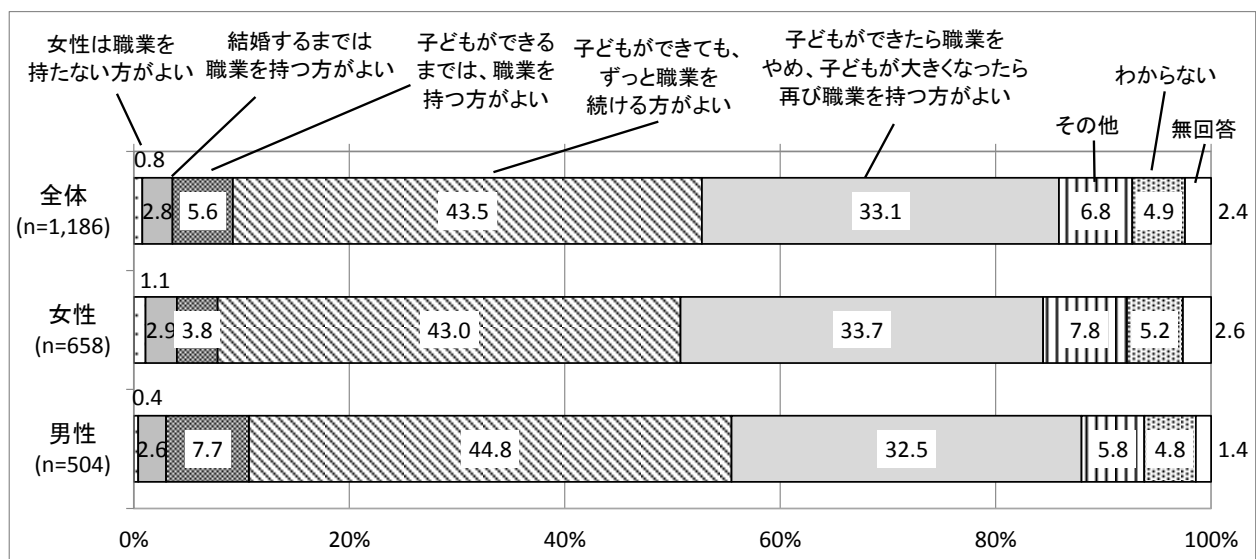


3 職業、職場環境について

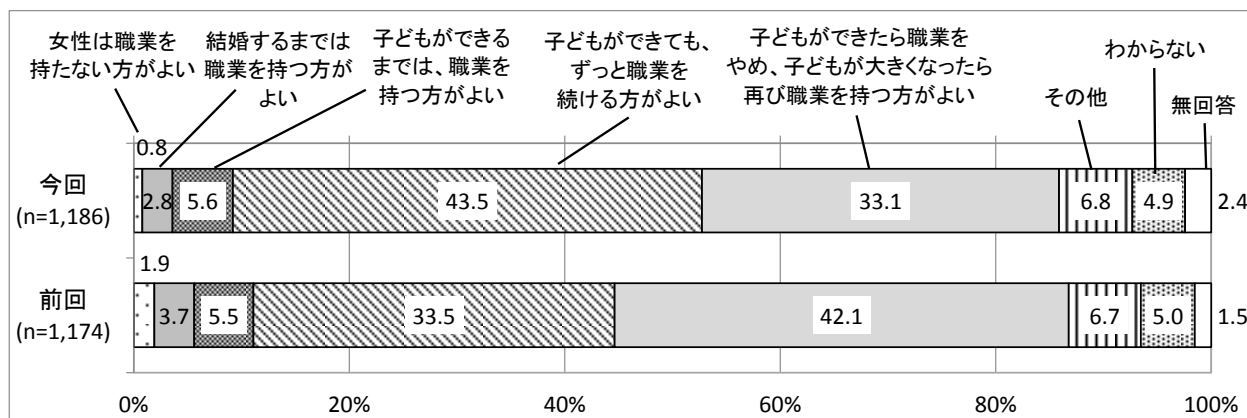
問2. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

一般的に女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」43.5%が最も割合が高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」33.1%の順となっており、性別にみてもほぼ同様の結果となっています。「その他」としては「人それぞれ」、「本人次第」、「家庭の環境による」などの回答が多くなっています。

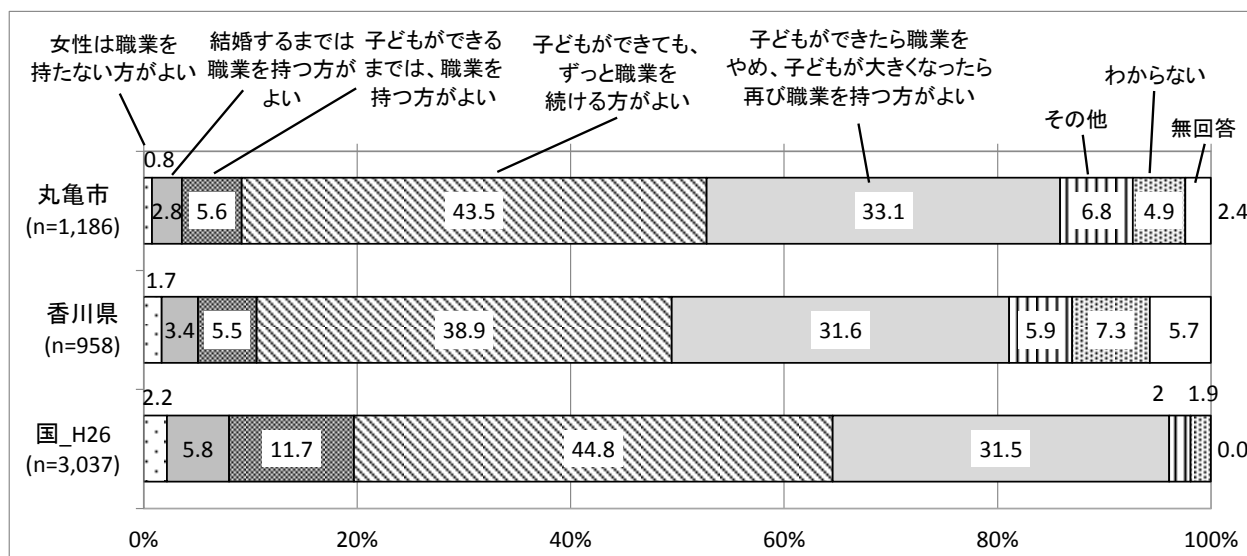
年齢別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は20歳代、50歳代、30歳代の順で割合が高くなっています。「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は60歳代の割合が最も高くなっています。



前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が10ポイント高くなっています。一方、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が9ポイント低くなっています。



香川県及び国と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は香川県38.9%より高く、国44.8%より低くなっており、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は香川県31.6%、国31.5%より割合が高くなっています。



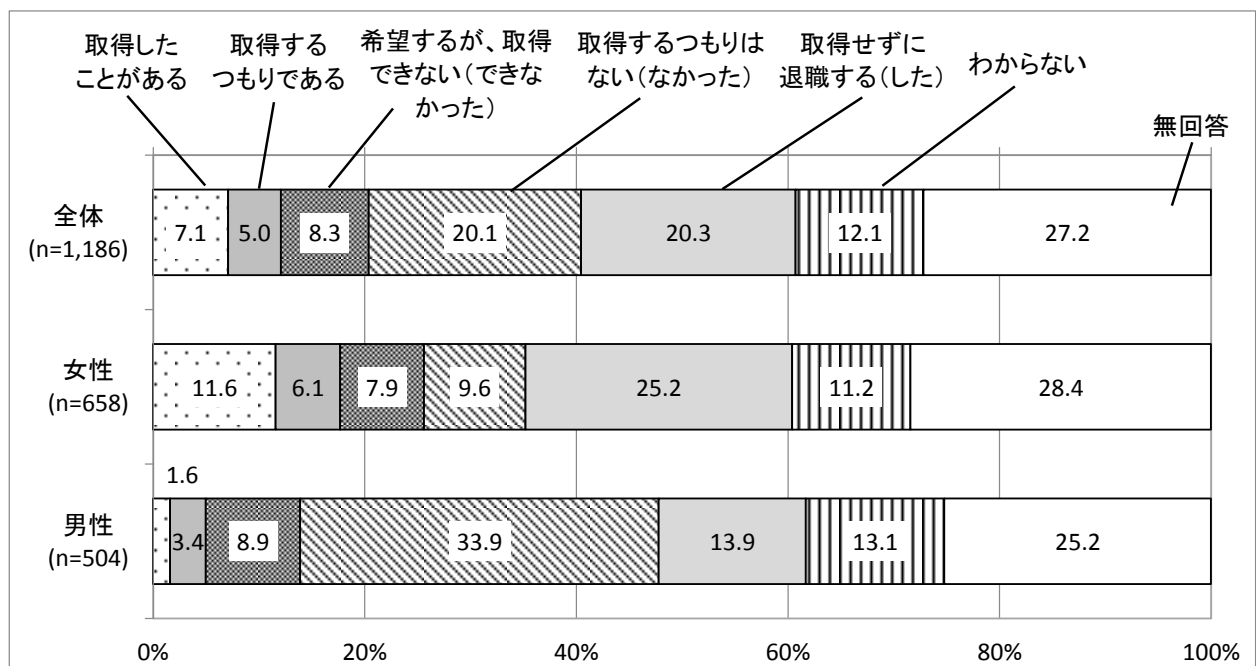
問3. <<就職している方、就職していた方にうかがいます>> →そのほかの方は問8へ
 育児休業の取得についてお聞かせください。(〇は1つ)

就職している方、就職していた方の育児休業の取得についてみると、「取得せずに退職する(した)」20.3%が最も割合が高く、次いで「取得するつもりはない(なかった)」20.1%、「わからない」12.1%の順となっており、「取得したことがある」は7.1%となっています。

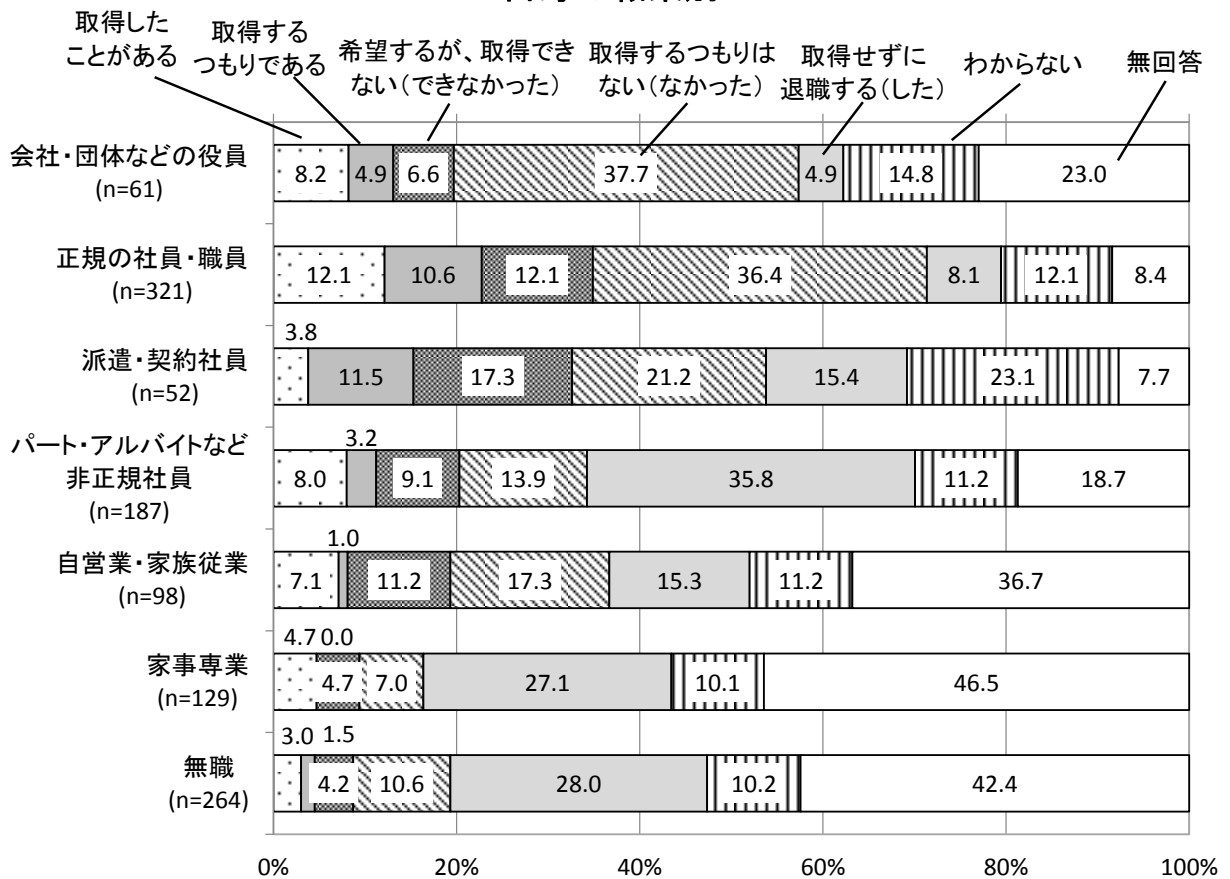
性別にみると、「取得したことがある」は女性11.6%、男性1.6%と、女性の割合が男性より10ポイント高くなっており、「取得するつもりはない(なかった)」は男性33.9%、女性9.6%と、男性の割合が女性より24.3ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、「取得したことがある」は正規の社員・職員(12.1%)が最も割合が高く、次いで、会社・団体などの役員(8.2%)、パート・アルバイトなど非正規社員(8.0%)の順となっています。また、「希望するが、取得できない(できなかった)」は派遣・契約社員が17.3%と最も割合が高くなっています。

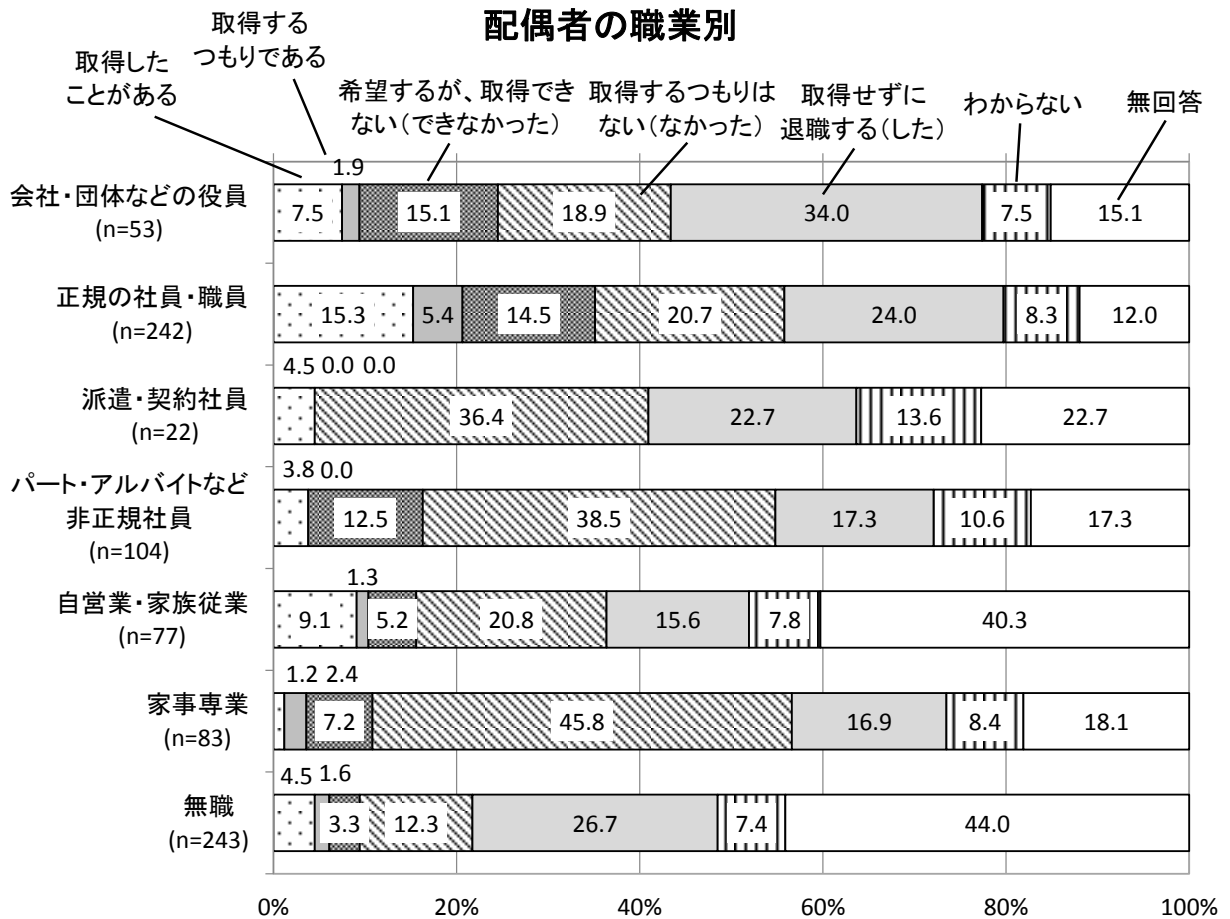
配偶者の職業別にみると、「取得したことがある」は正規の社員・職員(15.3%)が最も割合が高く、次いで、自営業・家族従業(9.1%)、会社・団体などの役員(7.5%)の順となっています。また、「希望するが、取得できない(できなかった)」は会社・団体などの役員が15.1%と最も割合が高くなっています。



自身の職業別



配偶者の職業別



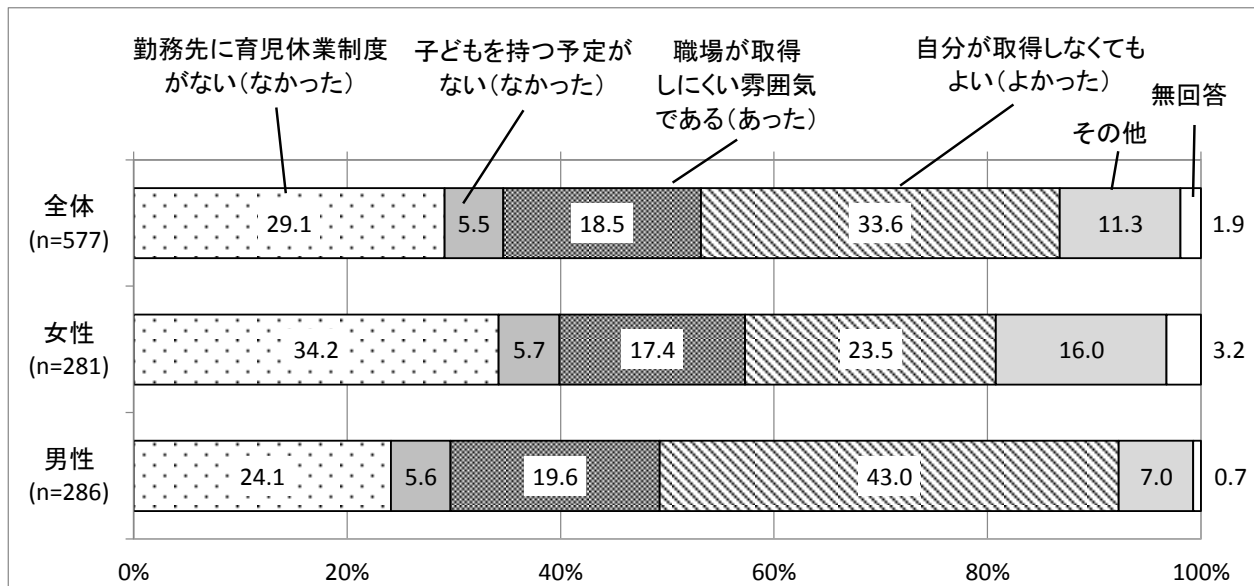
問 4. «問3で「希望するが、取得できない(できなかった)」、「取得するつもりはない(なかった)」、「取得せずに退職する(した)」と答えた方にうかがいます» →その他の方は問5へそれはなぜですか。(〇は1つ)

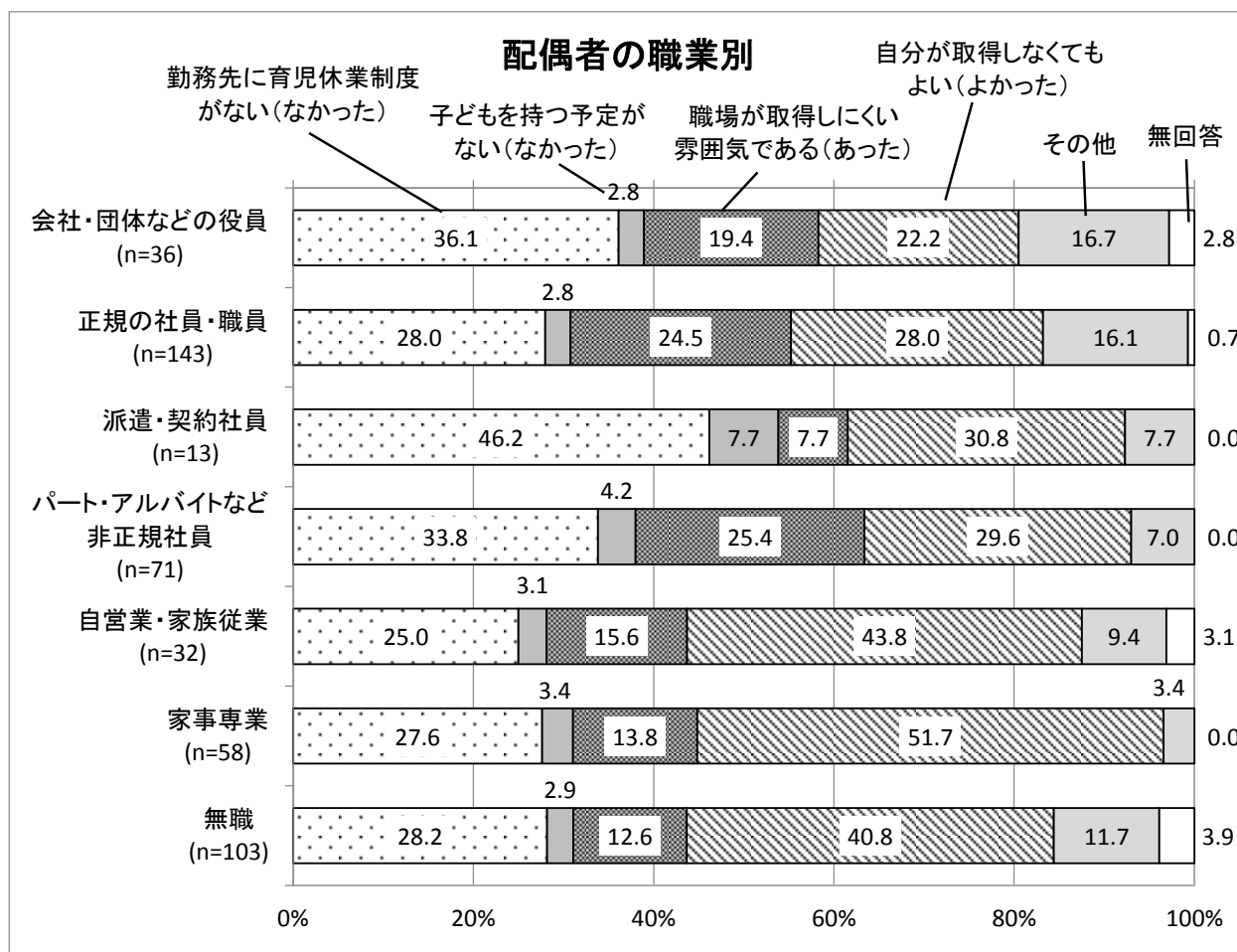
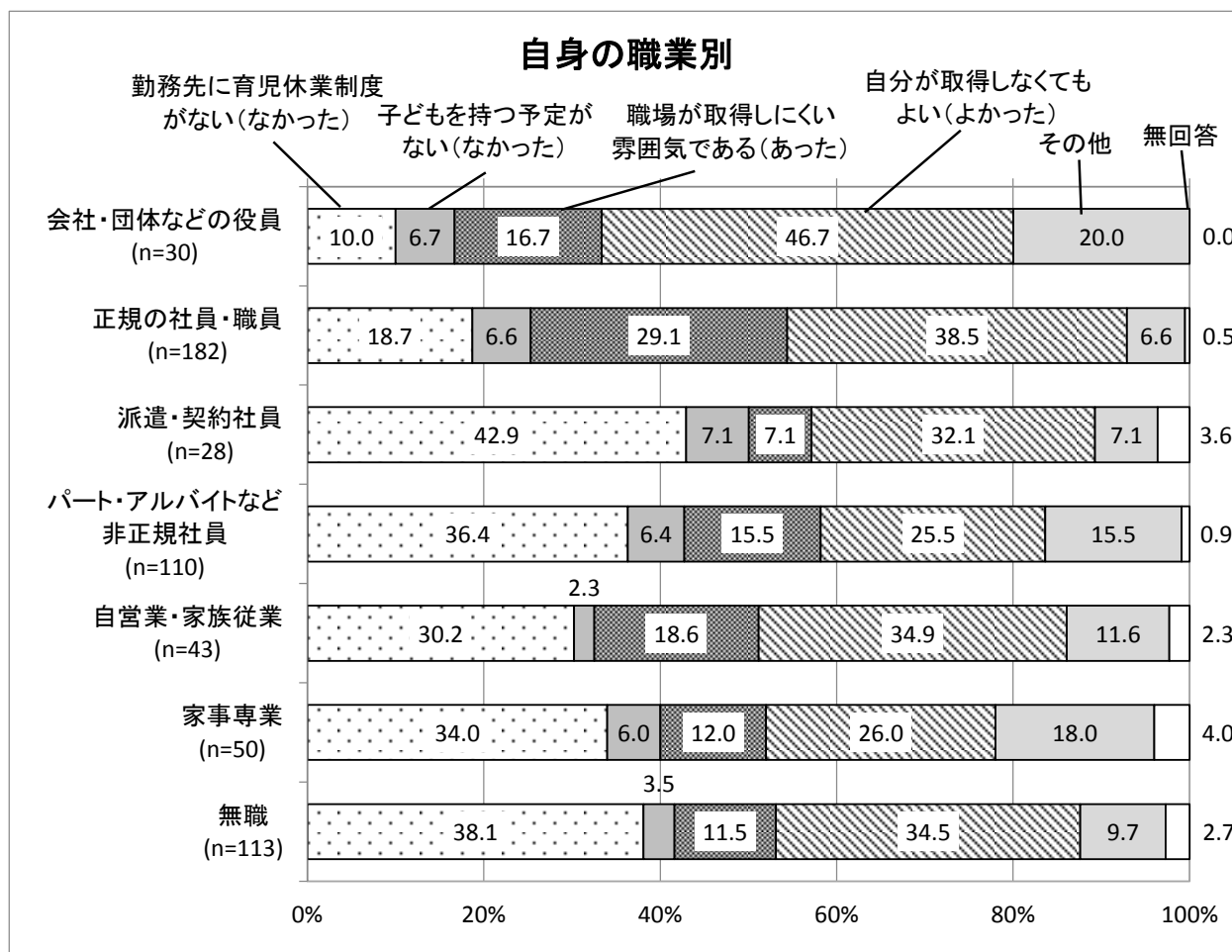
就職している方、就職していた方のうち、育児休業を取得しなかった方の理由をみると、「自分が取得しなくてもよい(よかった)」33.6%が最も割合が高く、次いで「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」29.1%、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」18.5%の順となっています。「その他」としては「子どもがいなかった」、「育児休業制度が始まってなかった」、「自分以外に子どもを見る人がいなかった」などの回答が多くなっています。

性別にみると「自分が取得しなくてもよい(よかった)」は男性の割合が高く、「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」は女性の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員、自営業・家族従業では「自分が取得しなくてもよい(よかった)」、その他の職業では「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」の割合が高くなっています。

配偶者の職業別にみると、会社・団体などの役員、派遣・契約社員、パート・アルバイトなど非正規社員では「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」、その他の職業では「自分が取得しなくてもよい(よかった)」の割合が高くなっています。正規の社員・職員はこの二つの理由が同じ割合となり、他の理由より割合が高くなっています。





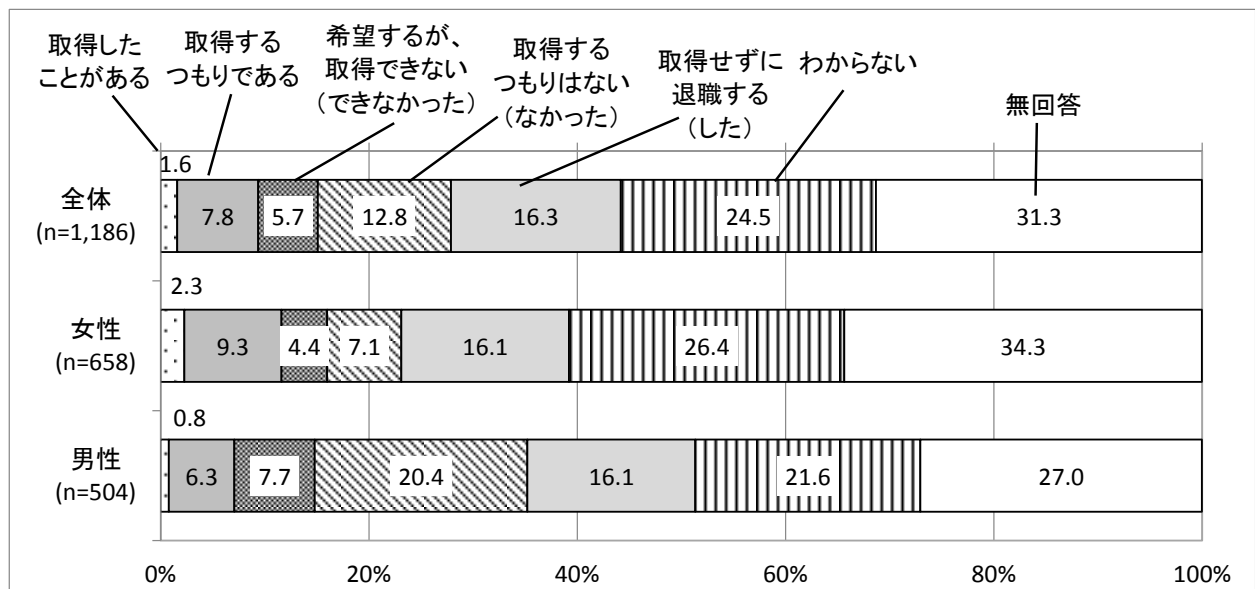
問5. <<就職している方、就職していた方にうかがいます>> →そのほかの方は問8へ
介護休業の取得についてお聞かせください。(〇は1つ)

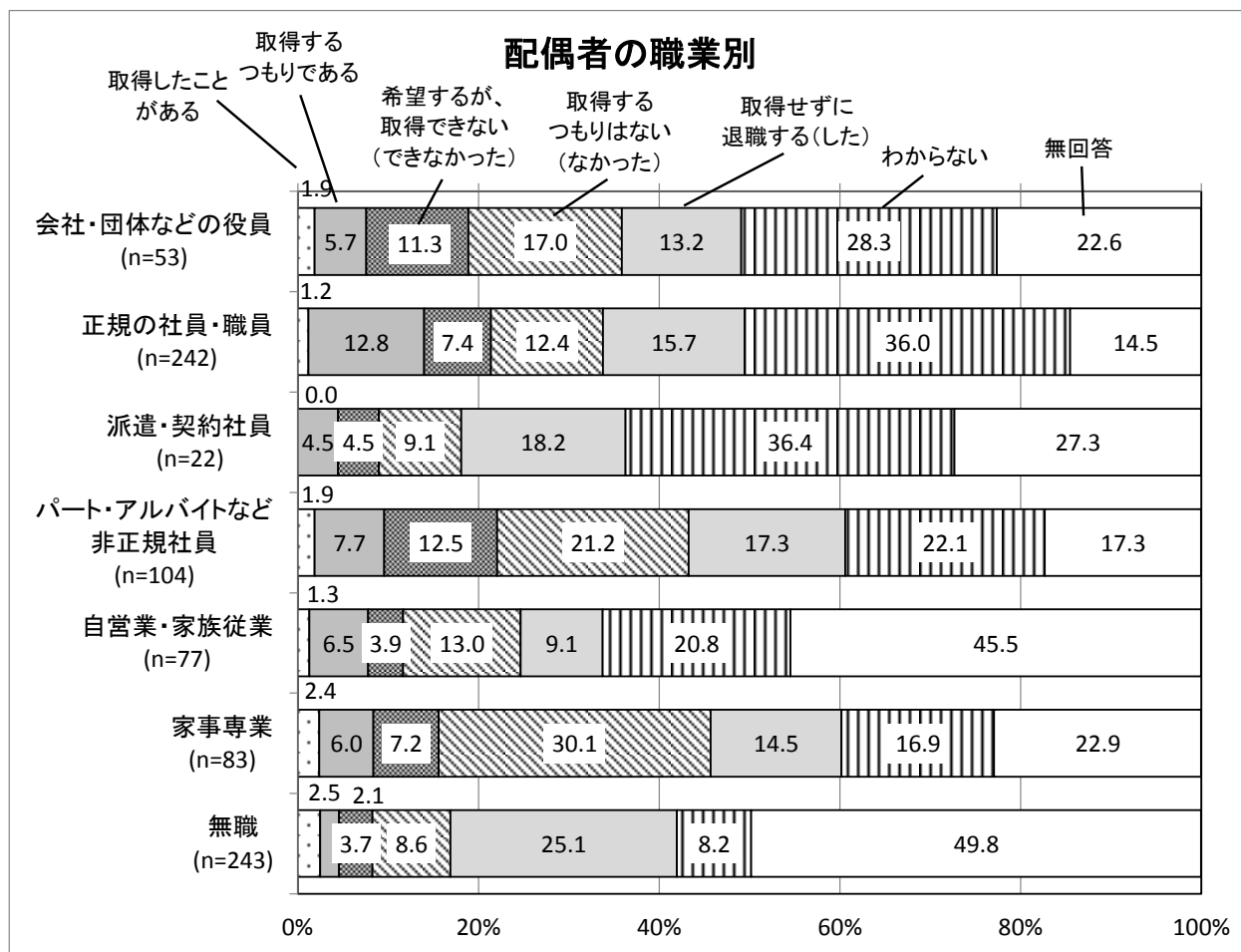
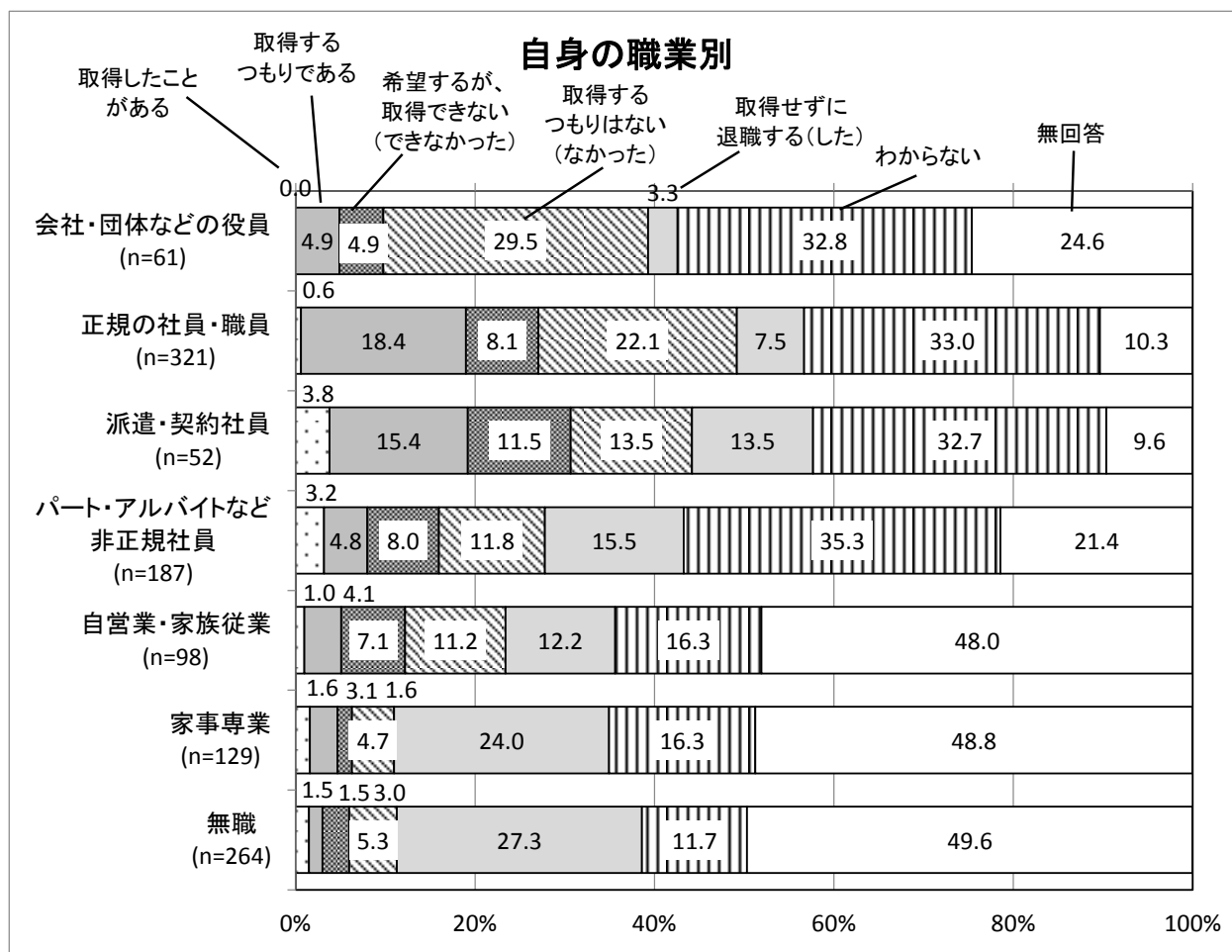
就職している方、就職していた方の介護休業の取得についてみると、「わからない」24.5%が最も割合が高く、次いで「取得せずに退職する(した)」16.3%、「取得するつもりはない(なかった)」12.8%の順となっています。

性別にみると、「取得したことがある」および「取得するつもりである」は女性、「希望するが、取得できない(できなかった)」は男性の割合が高くなっています。また、「取得するつもりはない(なかった)」は女性より男性の方が約3倍高くなっています。

自身の職業別にみると、「取得するつもりである」は正規の社員・職員、派遣・契約社員、「希望するが、取得できない(できなかった)」は派遣・契約社員の割合が高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「取得するつもりである」は正規の社員・職員、「希望するが、取得できない(できなかった)」はパート・アルバイトなど非正規社員の割合が高くなっています。





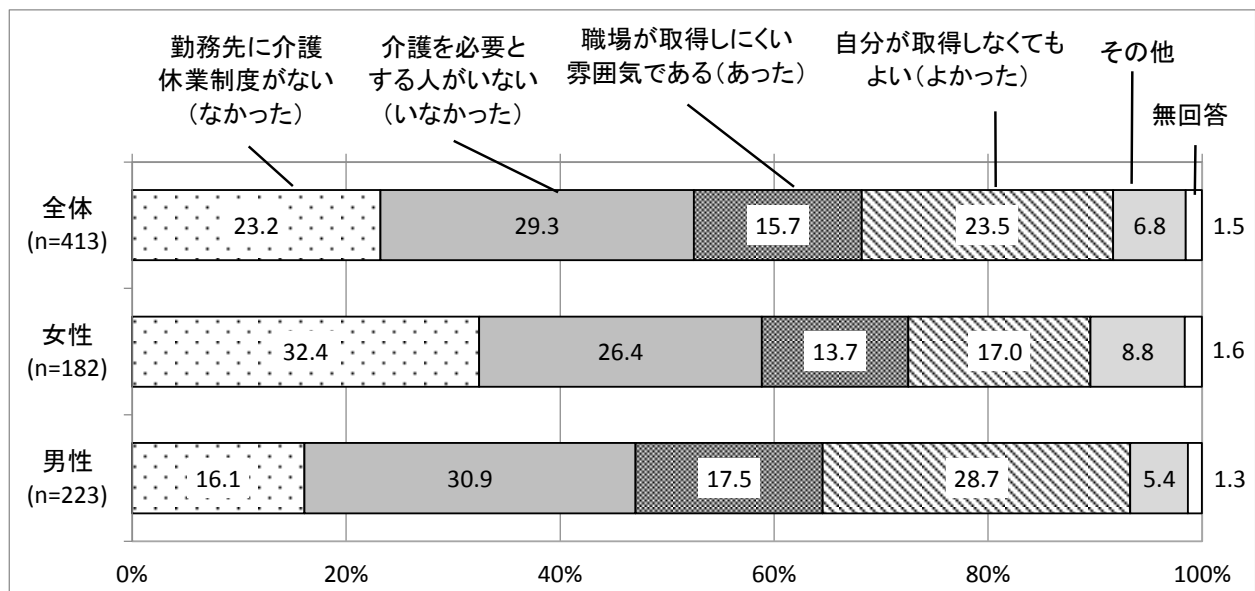
問 6. <<問5で「希望するが、取得できない(できなかった)」、「取得するつもりはない(なかった)」、「取得せずに退職する(した)」と答えた方にうかがいます>> →そのほかの方は問7へそれはなぜですか。(〇は1つ)

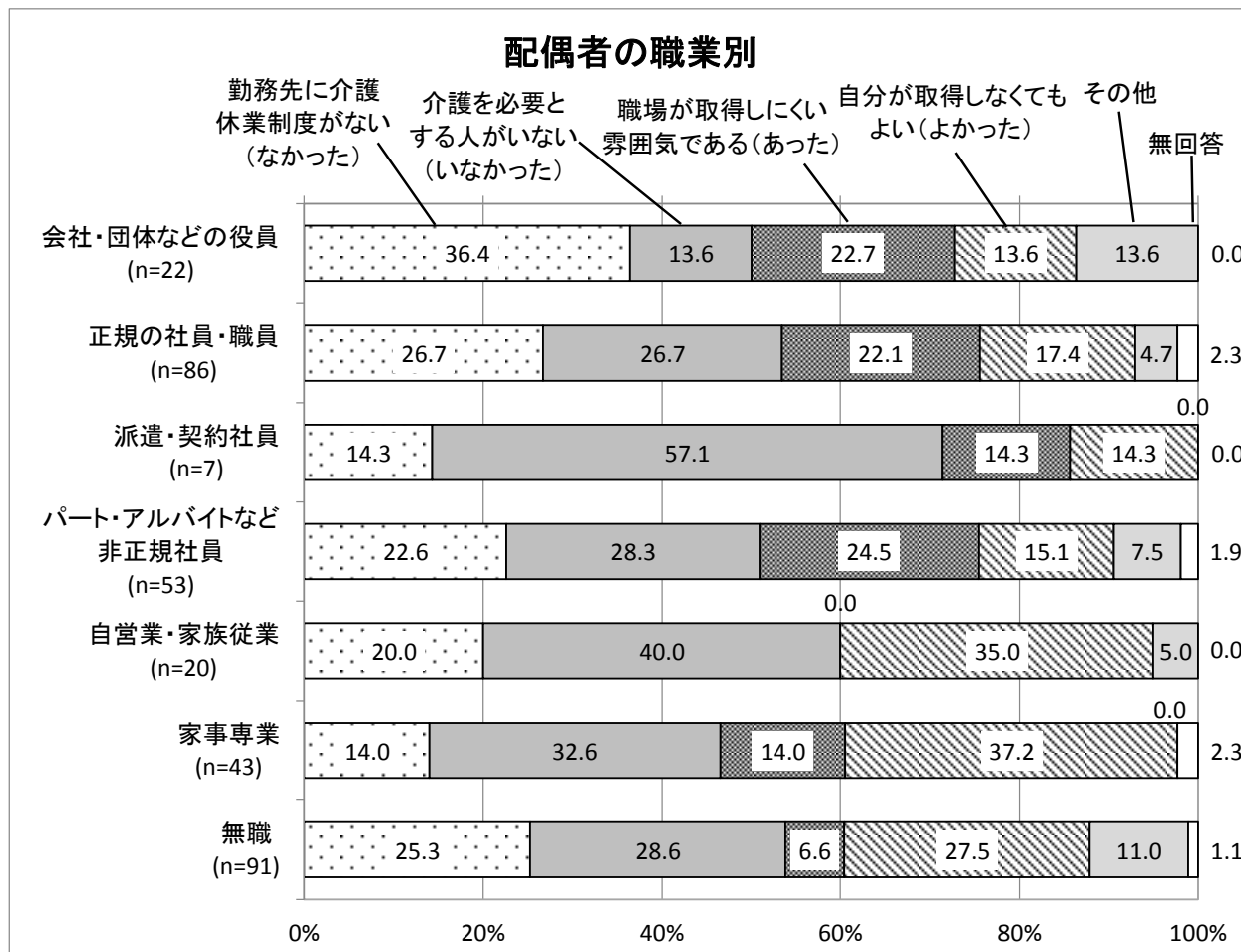
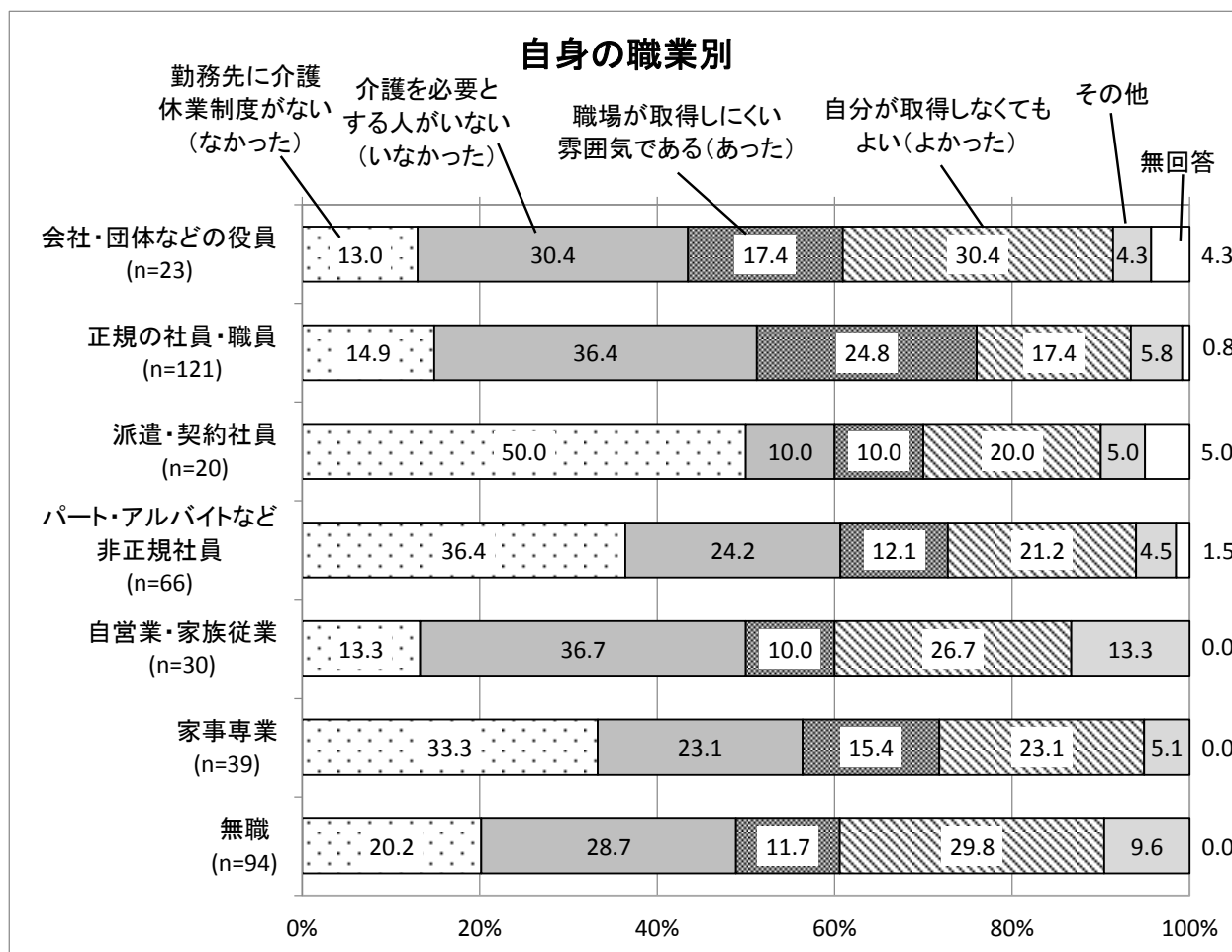
就職している方、就職していた方のうち、介護休業を取得しなかった理由をみると、「介護を必要とする人がいない(いなかった)」29.3%が最も割合が高く、次いで「自分が取得しなくてもよい(よかった)」23.5%、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」23.2%、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」15.7%の順となっています。「その他」としては、「家族で協力して勤めながら介護した」、「どうしてもという時(病院付き添いなど)は、1日の有給休暇で対応」などの回答がありました。

性別にみると、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」は女性、「自分が取得しなくてもよい(よかった)」は男性の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員、自営業・家族従業では「介護を必要とする人がいない(いなかった)」、派遣・契約社員、パート・アルバイトなど非正規社員、家事専業では「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」、無職では「自分が取得しなくてもよい(よかった)」の割合が高くなっています。

配偶者の職業別にみると、会社・団体などの役員は「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」、正規の社員・職員は「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」、「介護を必要とする人がいない(いなかった)」、家事専業では「自分が取得しなくてもよい(よかった)」、その他の職業では「介護を必要とする人がいない(いなかった)」の割合が高くなっています。



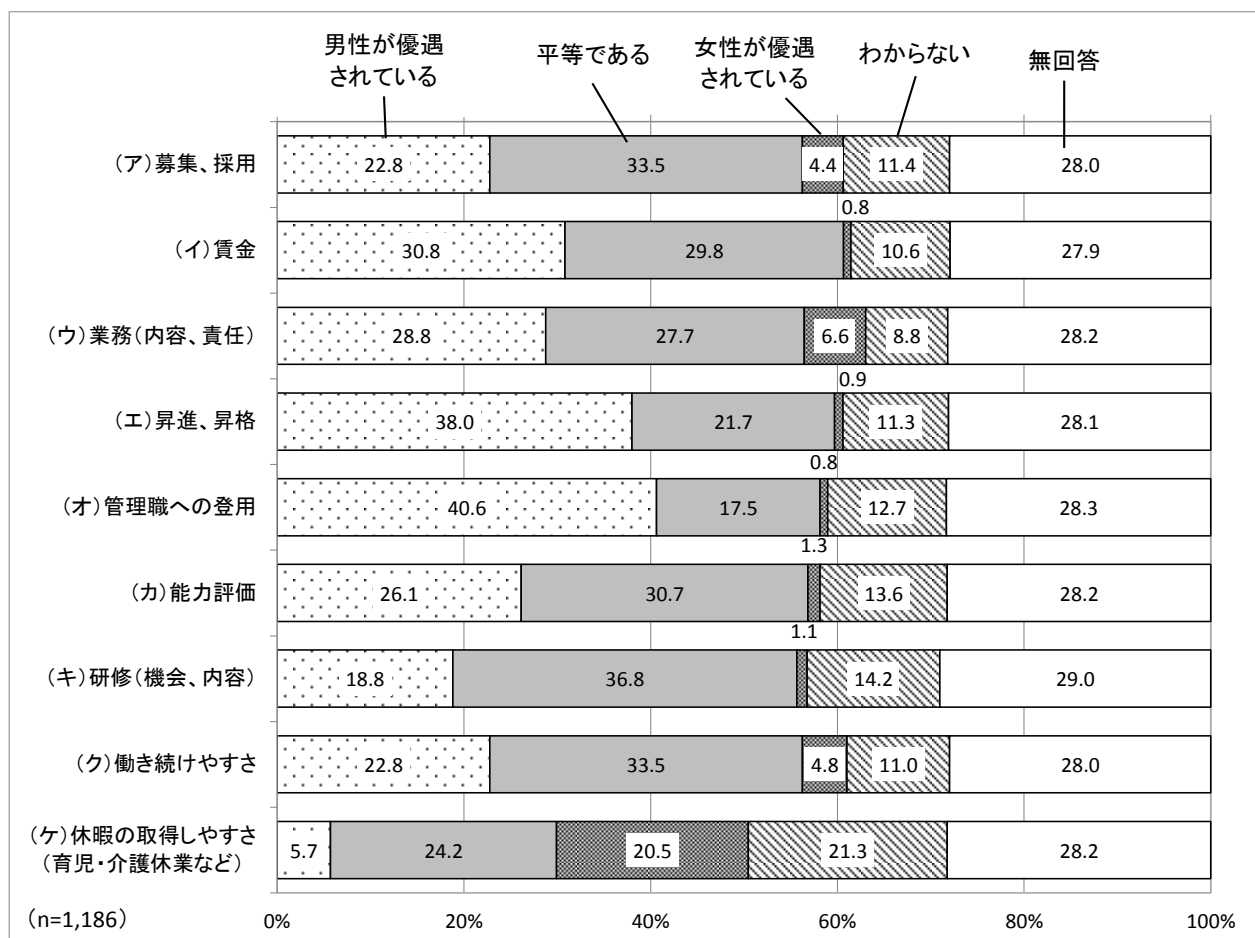


問7. <<就職している方、就職していた方にうかがいます>> →そのほかの方は問8へ

あなたの今の職場、あるいは元の職場では、次の(ア)から(ケ)までの項目について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(〇は各項目1つずつ)

【全体】

今の職場、あるいは元の職場で性別による差がある(あった)と思うことをみると、「男性が優遇されている」は「(オ) 管理職への登用」40.6%が最も割合が高く、次いで「(エ) 昇進、昇格」38.0%、「(イ) 賃金」30.8%の順で割合が高くなっています。「女性が優遇されている」は「(ケ) 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)」20.5%が最も割合が高くなっている反面、他の項目においてはいずれも10%未満と低くなっています。

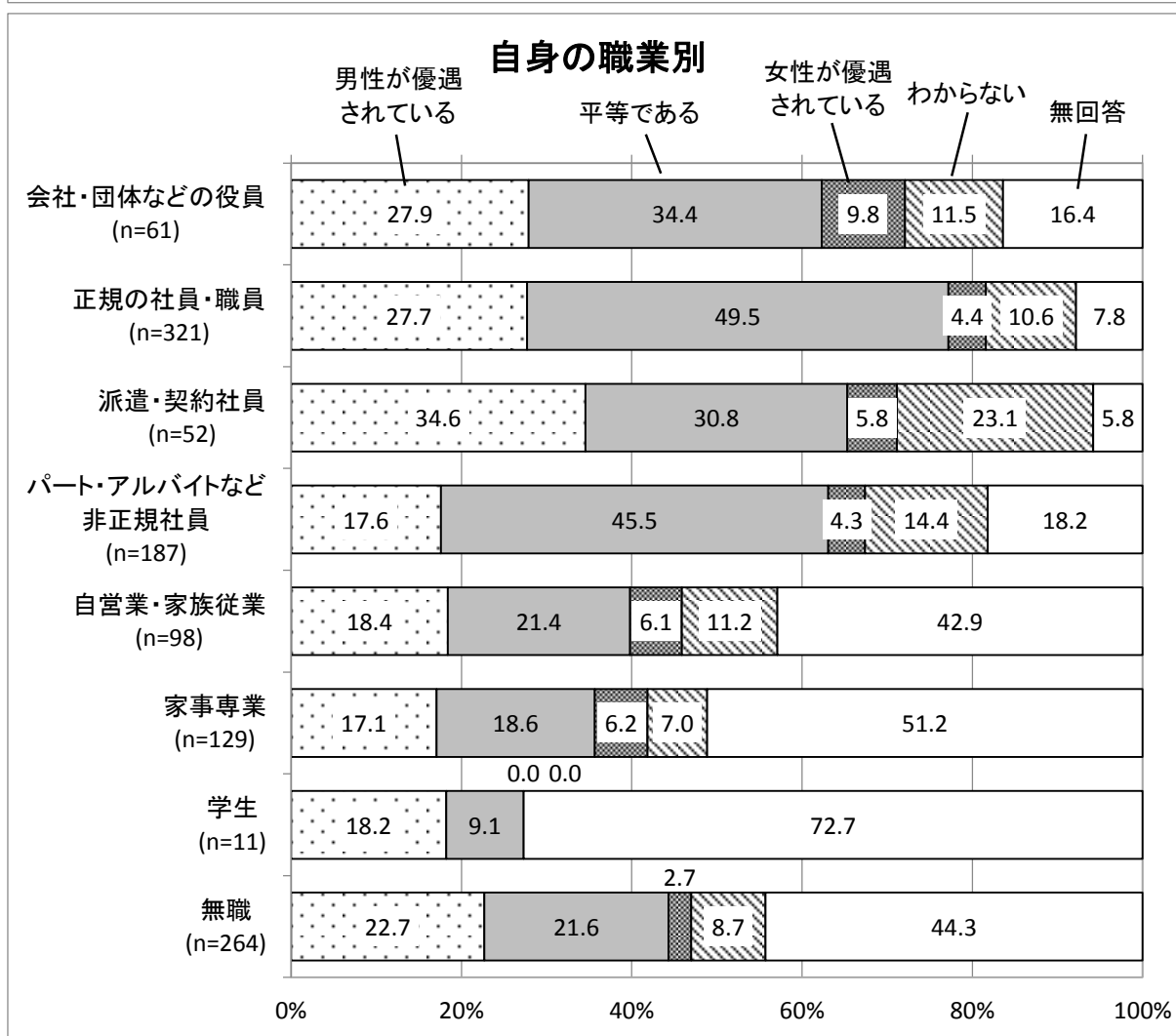
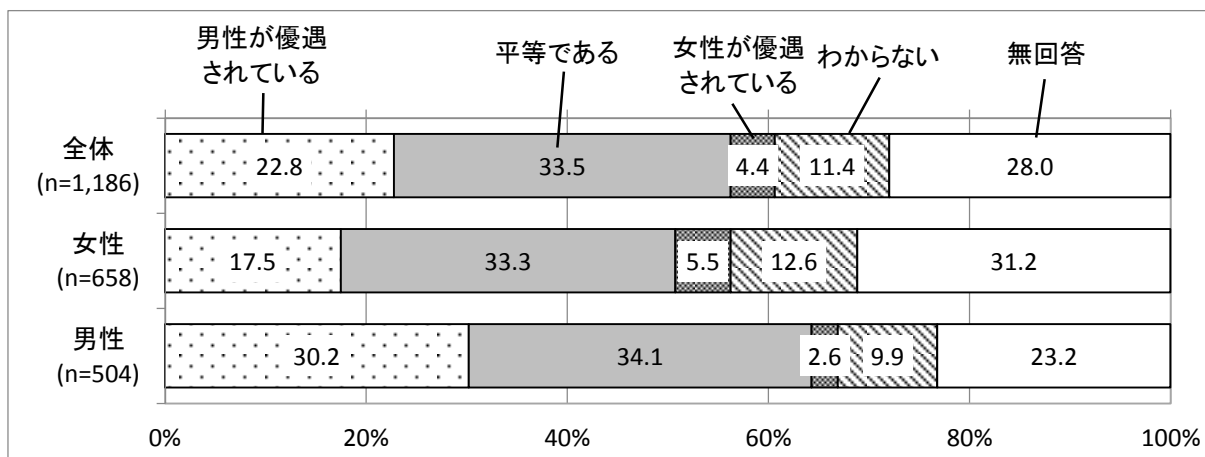


ア 募集、採用

募集、採用についてみると、「平等である」33.5%が最も割合が高く、次いで「男性が優遇されている」22.8%、「わからない」11.4%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」の割合が高くなっていますが、男性では「男性が優遇されている」の割合も高くなっています。

自身の職業別にみると、派遣・契約社員、学生、無職では「男性が優遇されている」、その他の職業では「平等である」の割合が最も高くなっています。

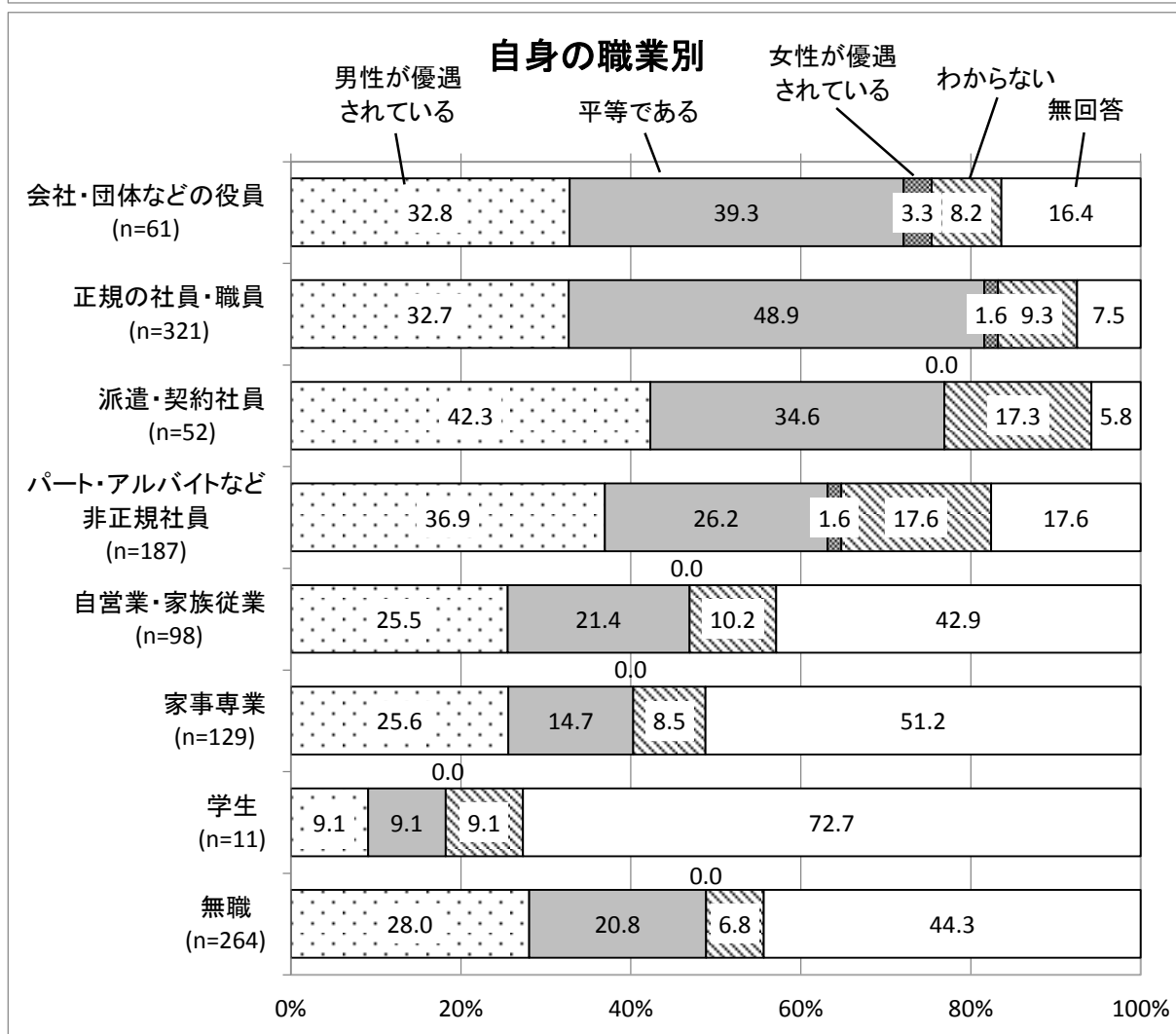
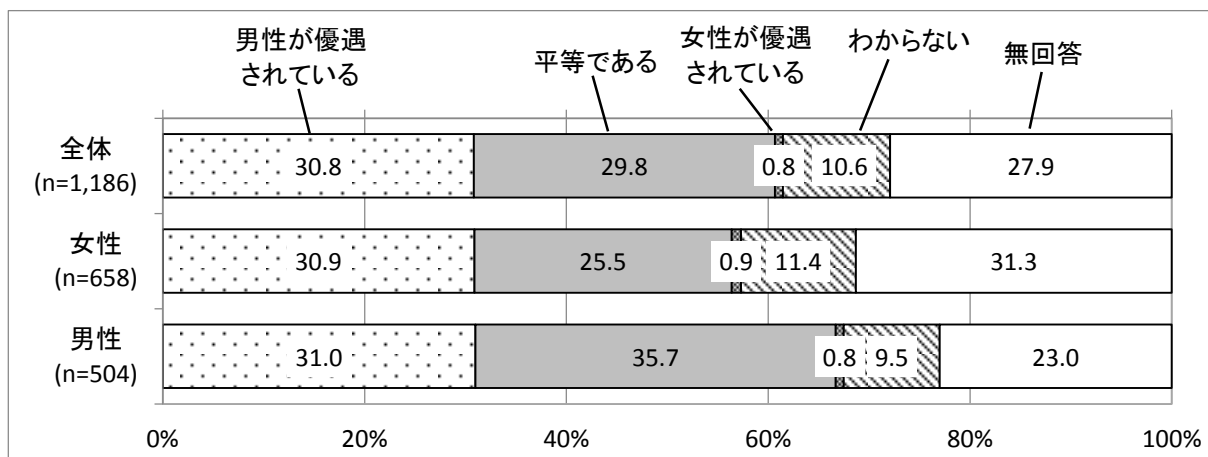


イ 賃金

賃金についてみると、「男性が優遇されている」30.8%が最も割合が高く、次いで「平等である」29.8%、「わからない」10.6%の順となっています。

性別にみると、女性は「男性が優遇されている」、男性は「平等である」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員では「平等である」、その他の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。学生は上記2項目および「わからない」がいずれも同じ割合となっています。

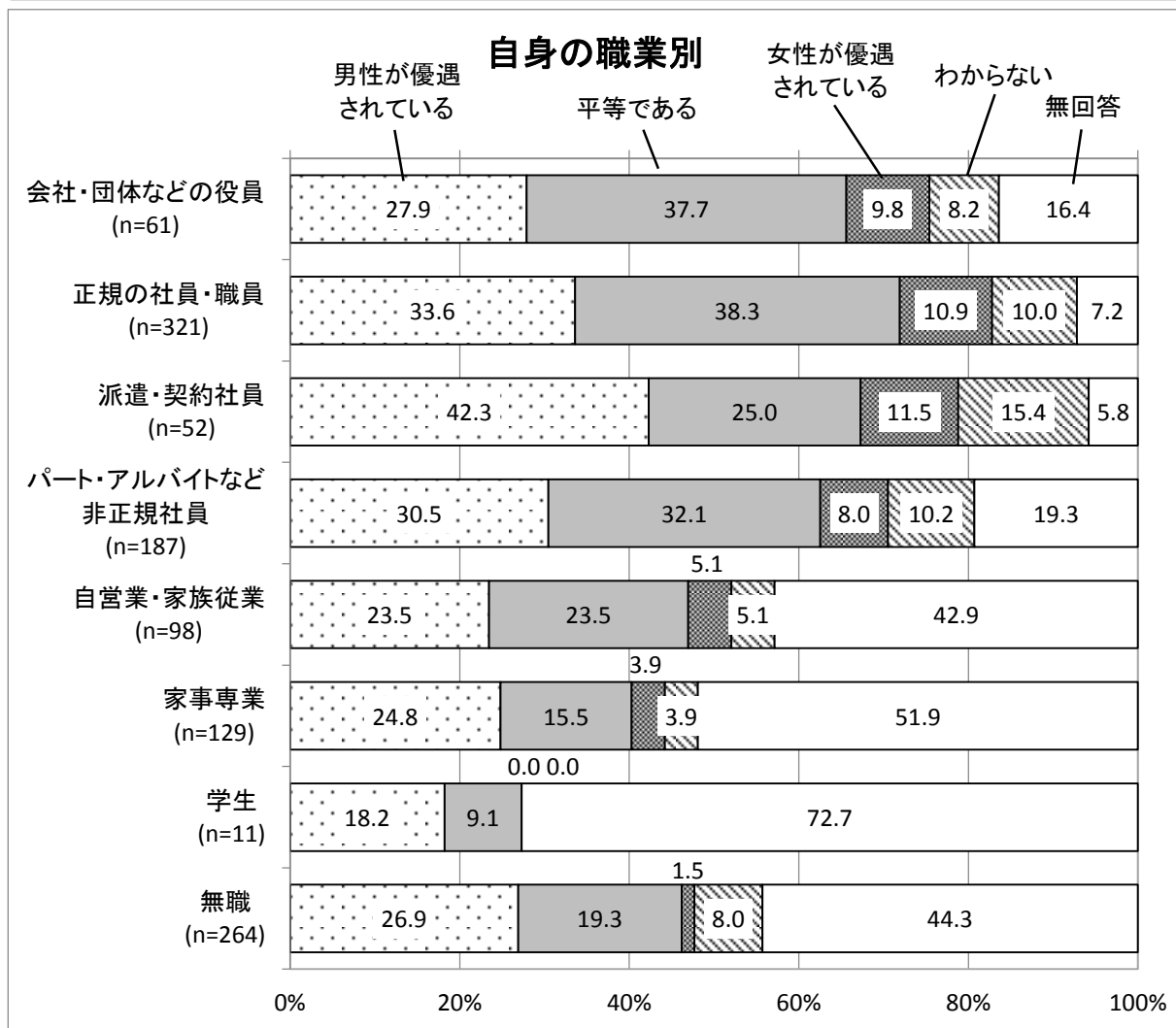
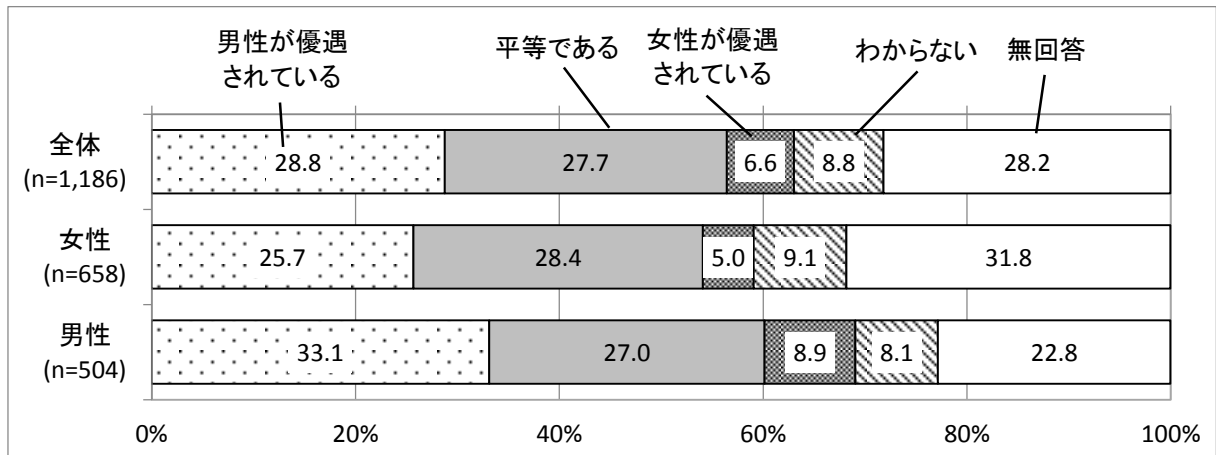


ウ 業務(内容、責任)

業務(内容、責任)についてみると、「男性が優遇されている」28.8%が最も割合が高く、次いで「平等である」27.7%、「わからない」8.8%の順となっています。

性別にみると、女性は「平等である」、男性は「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員、パート・アルバイトなど非正規社員では「平等である」、その他の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。自営業・家族従業は上記2項目がともに同じ割合となっています。

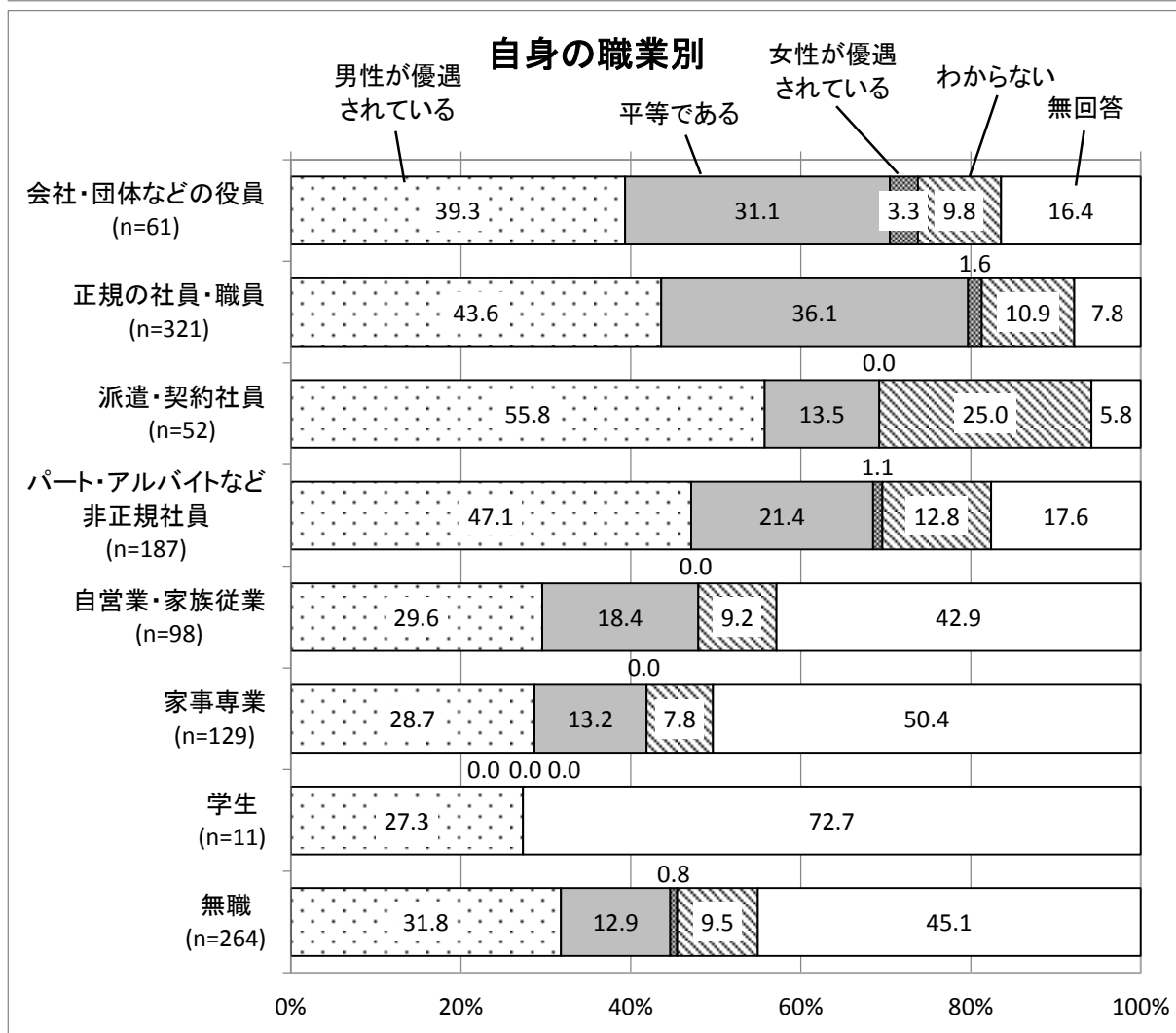
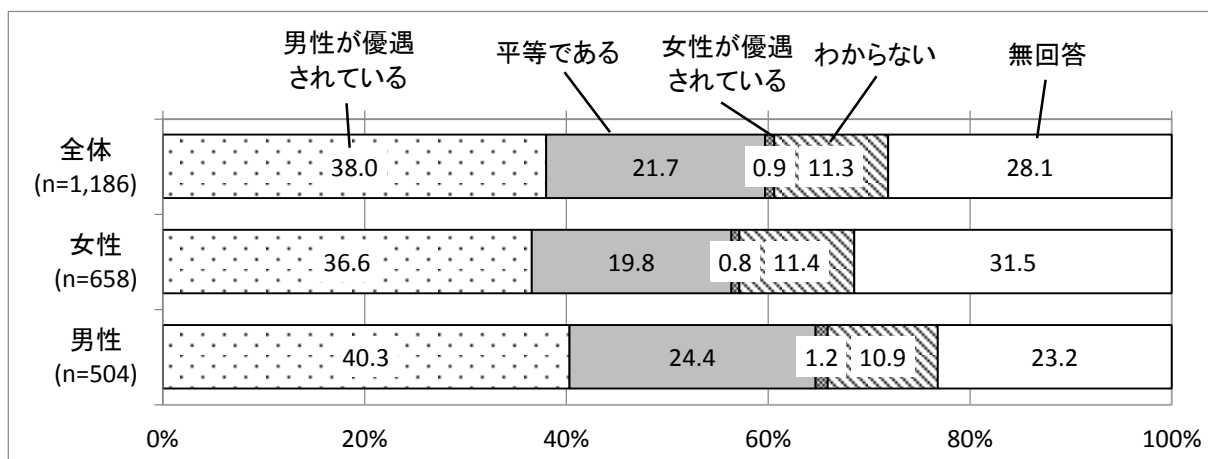


エ 昇進、昇格

昇進、昇格についてみると、「男性が優遇されている」38.0%が最も割合が高く、次いで「平等である」21.7%、「わからない」11.3%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、すべての職業で「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

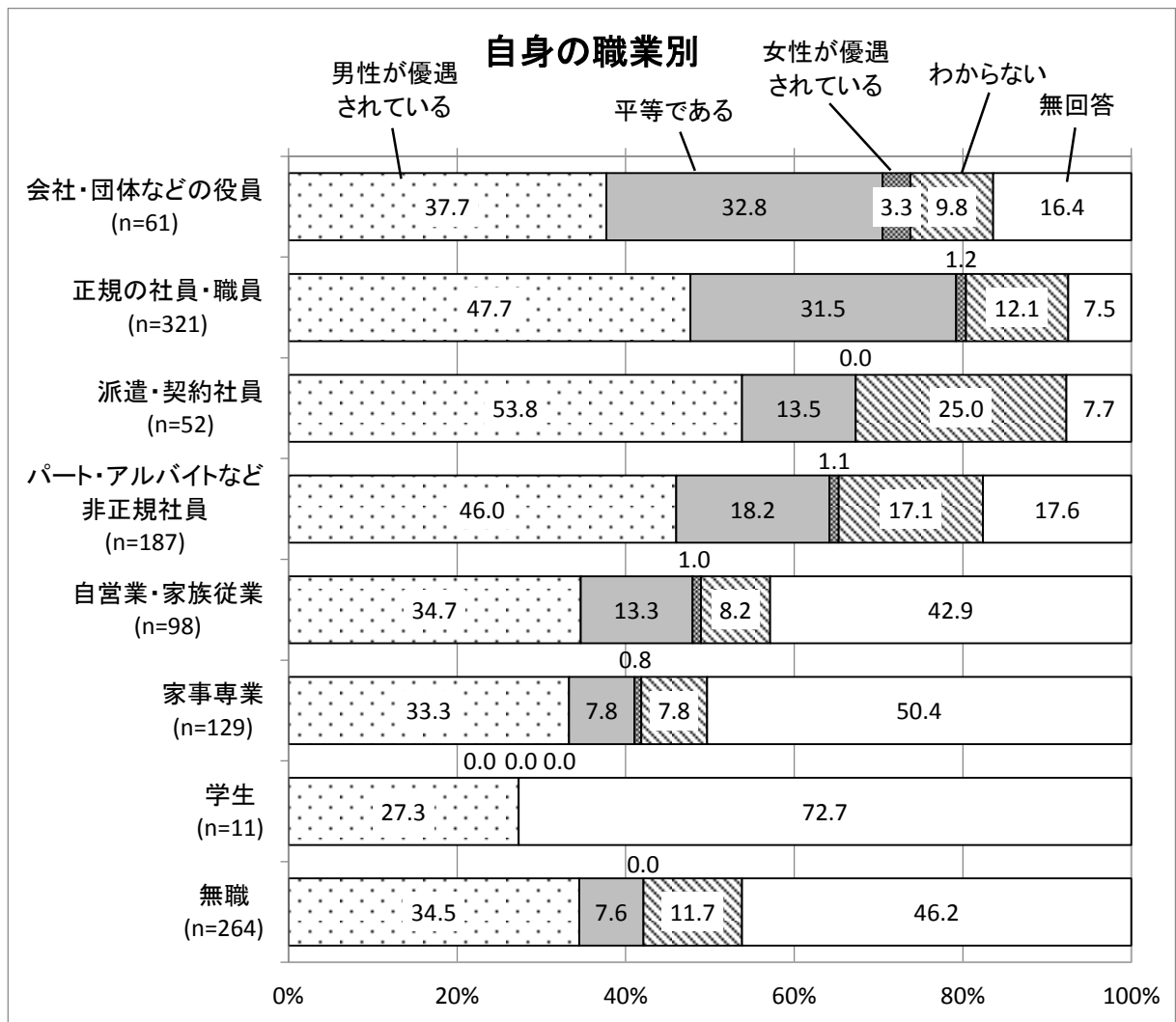
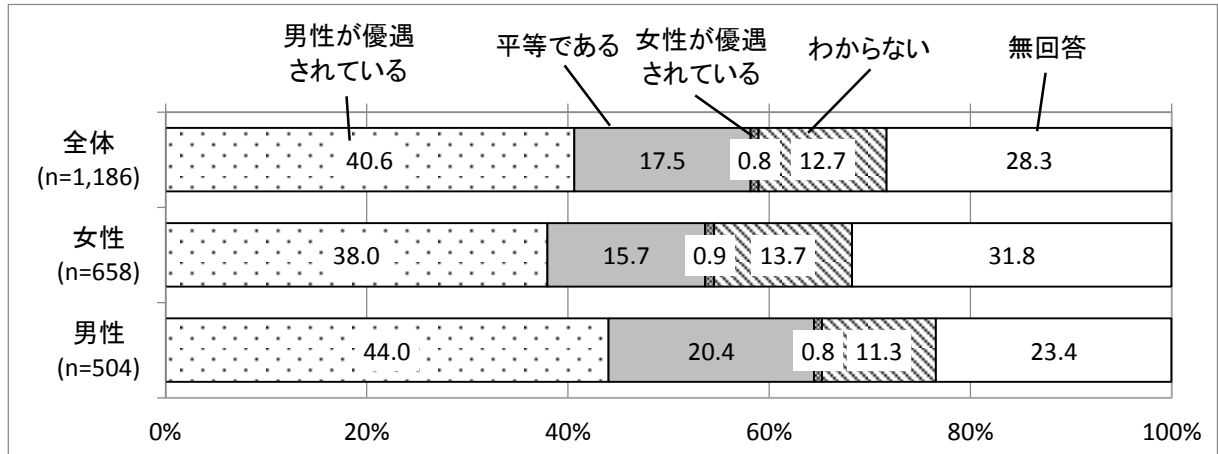


オ 管理職への登用

管理職への登用についてみると、「男性が優遇されている」40.6%が最も割合が高く、次いで「平等である」17.5%、「わからない」12.7%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、すべての職業で「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

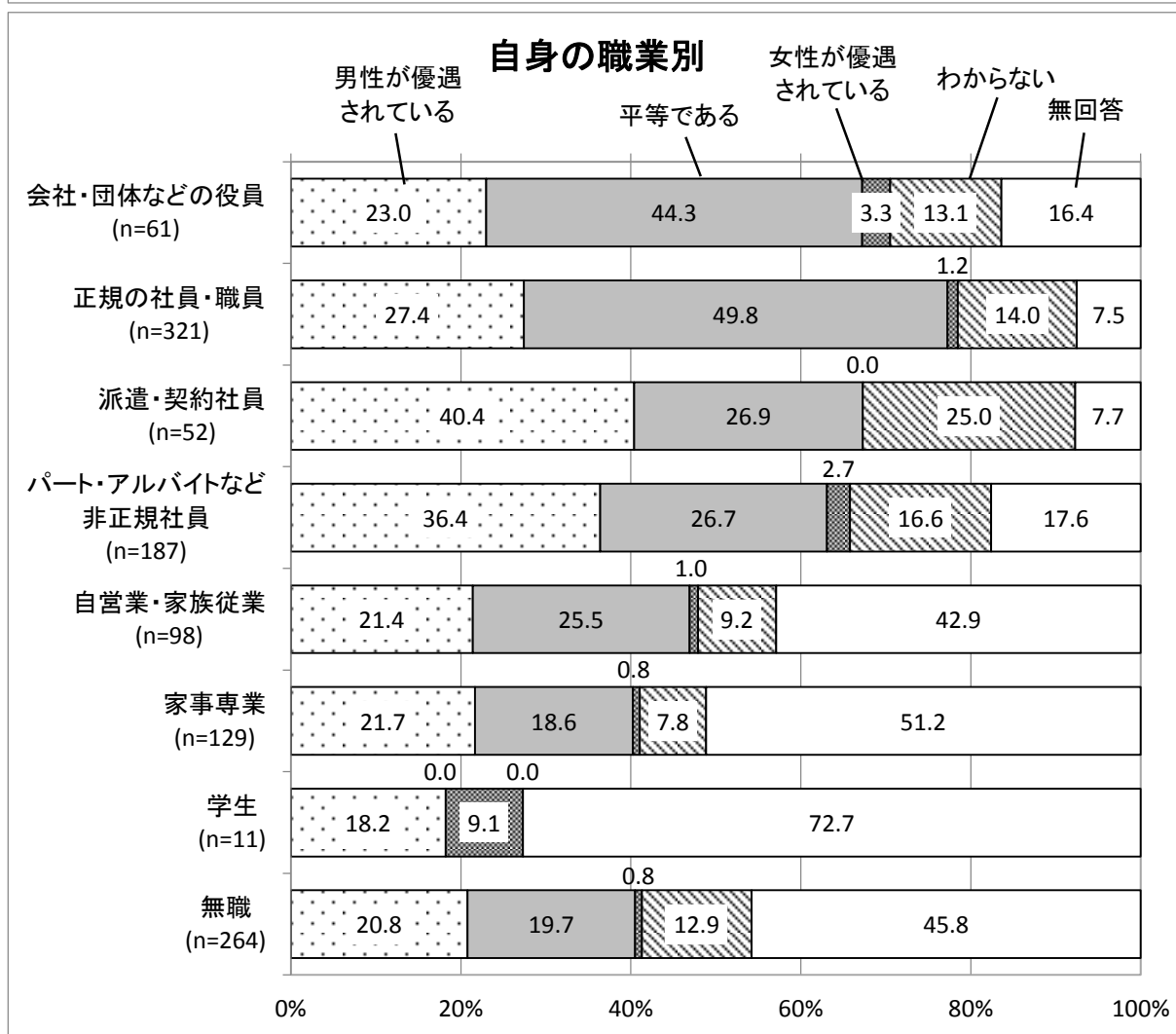
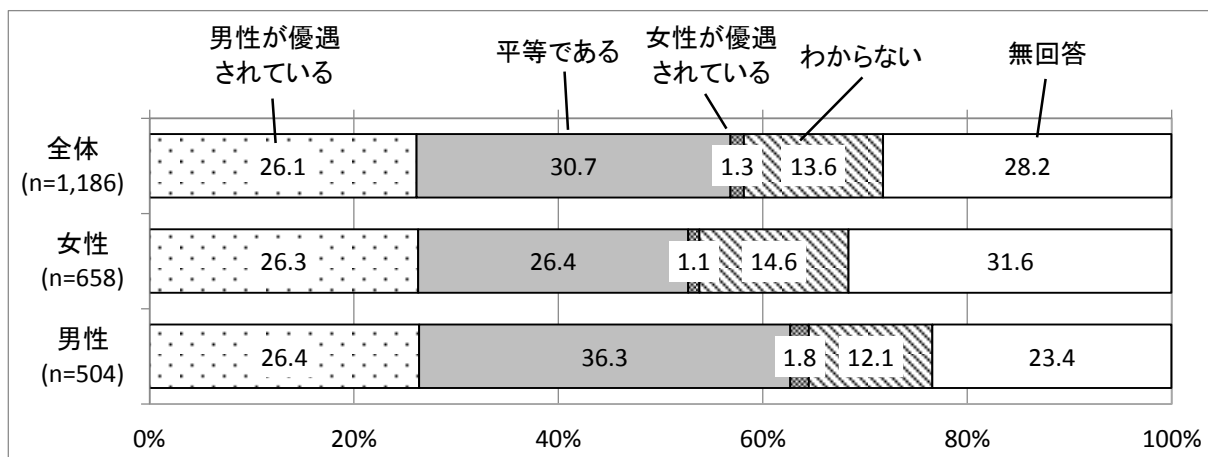


カ 能力評価

能力評価についてみると、「平等である」30.7%が最も割合が高く、次いで「男性が優遇されている」26.1%、「わからない」13.6%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「平等である」の割合が高くなっており、特に男性は女性より約10ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員、自営業・家族従業は「平等である」、その他の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

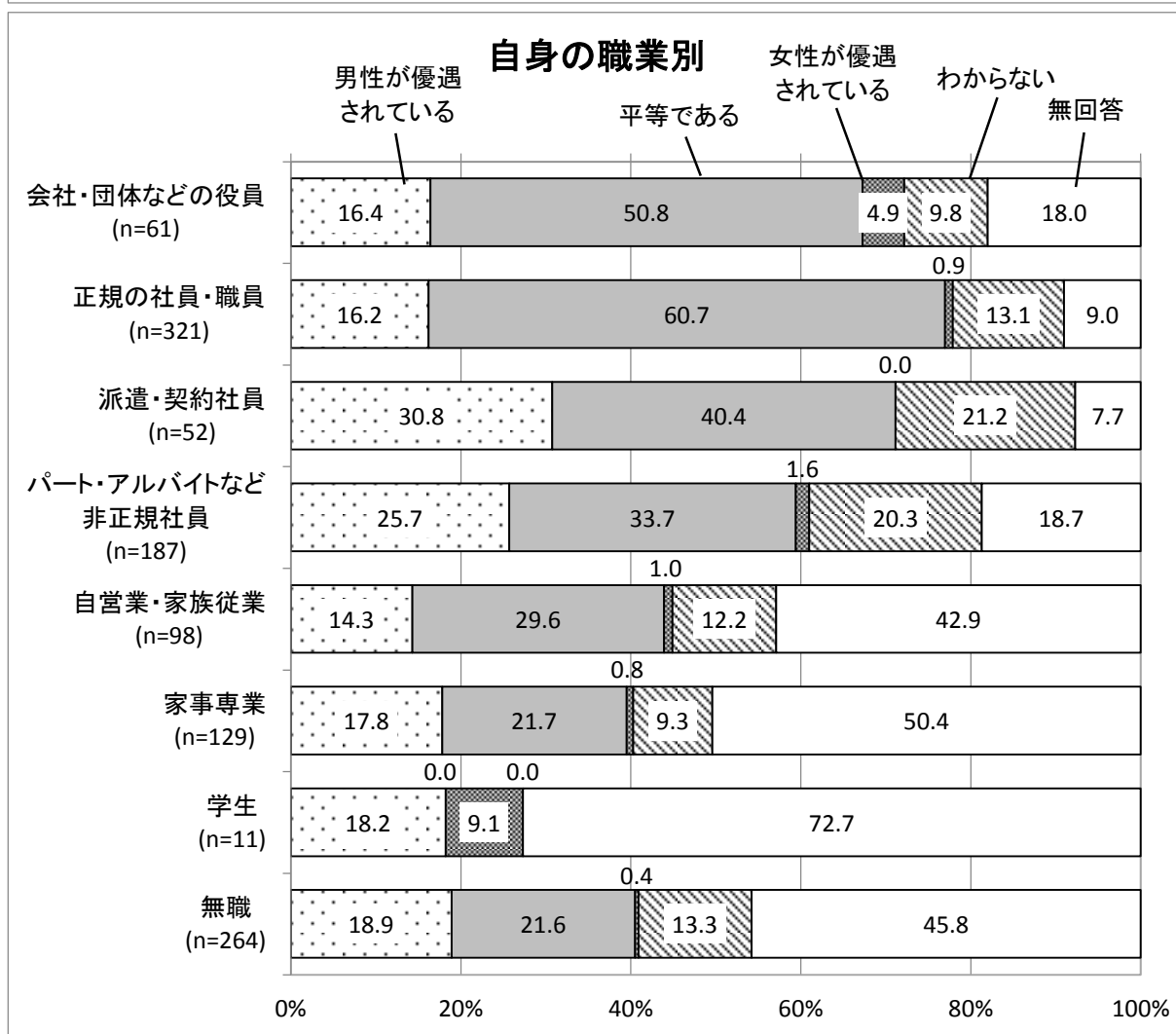
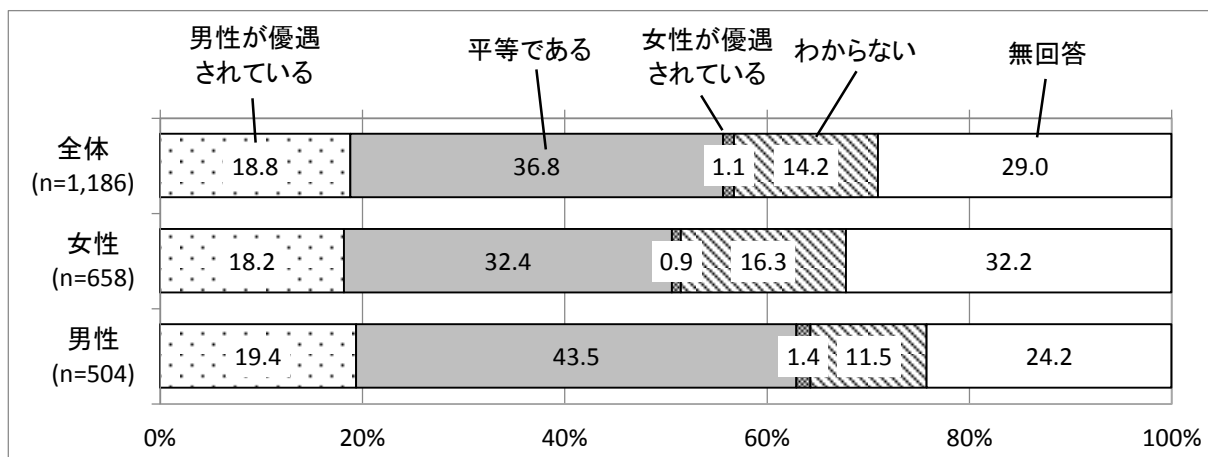


キ 研修(機会、内容)

職場での研修(機会、内容)についてみると、「平等である」36.8%が最も割合が高く、次いで「男性が優遇されている」18.8%、「わからない」14.2%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「平等である」の割合が高くなっており、特に男性は女性より約11ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、学生を除くすべての職業で「平等である」の割合が最も高くなっており、特に、会社・団体などの役員、正規の社員・職員では50%を超えています。

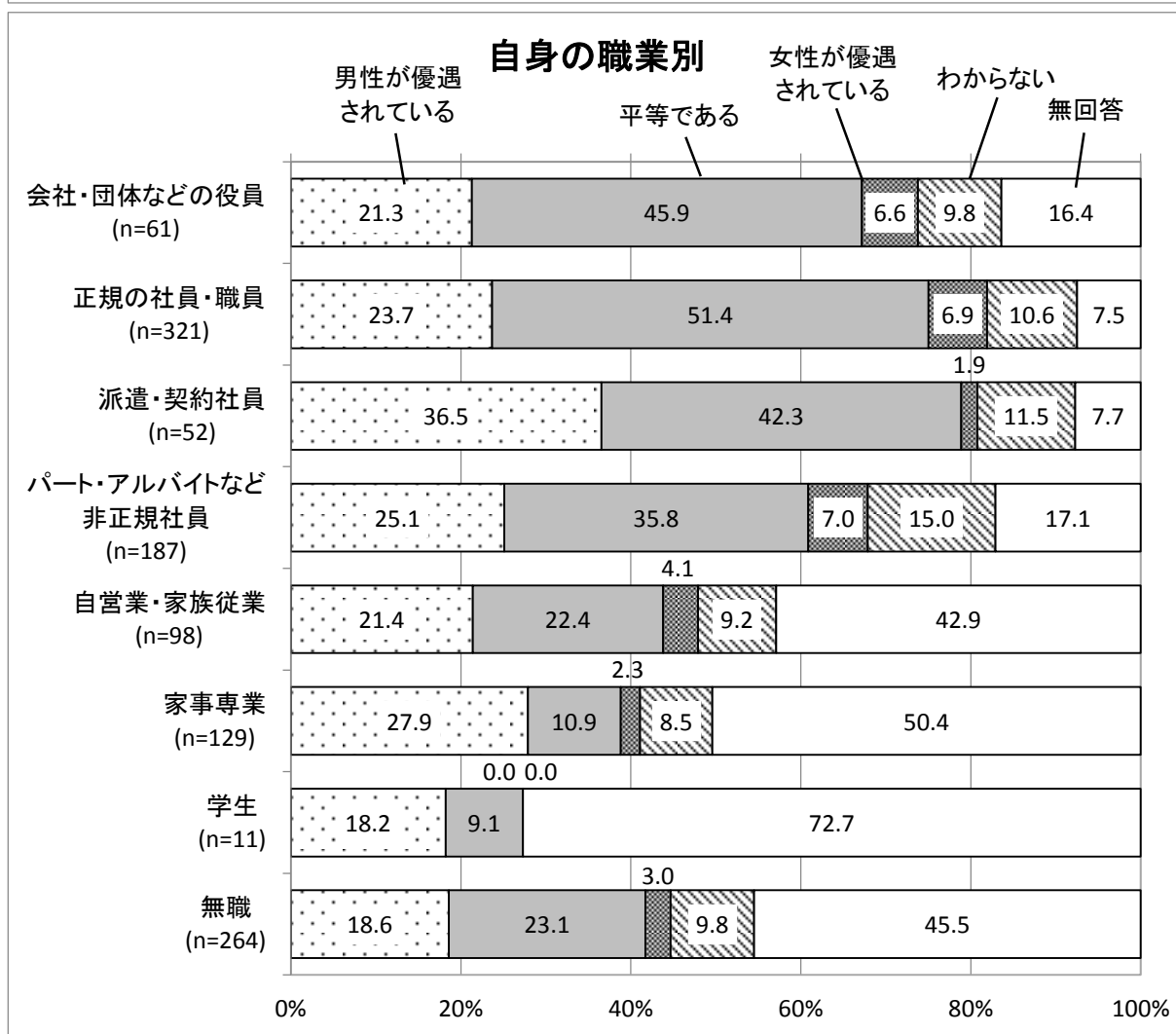
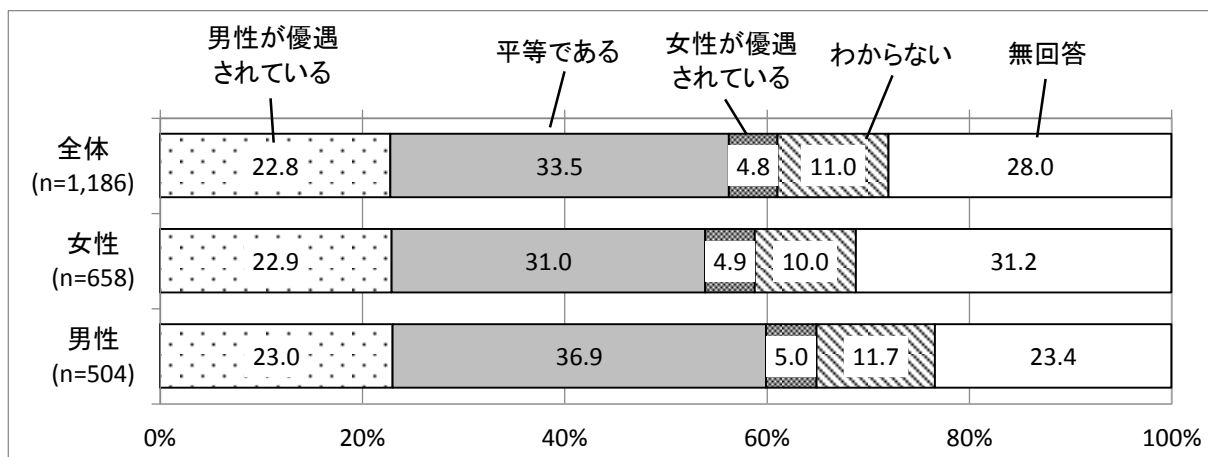


ク 働き続けやすさ

働き続けやすさについてみると、「平等である」33.5%が最も割合が高く、次いで「男性が優遇されている」22.8%、「わからない」11.0%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「平等である」の割合が高くなっており、特に男性は女性より約6ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、家事専業、学生を除くすべての職業で「平等である」の割合が最も高くなっており、特に、正規の社員・職員では51.4%を占めています。

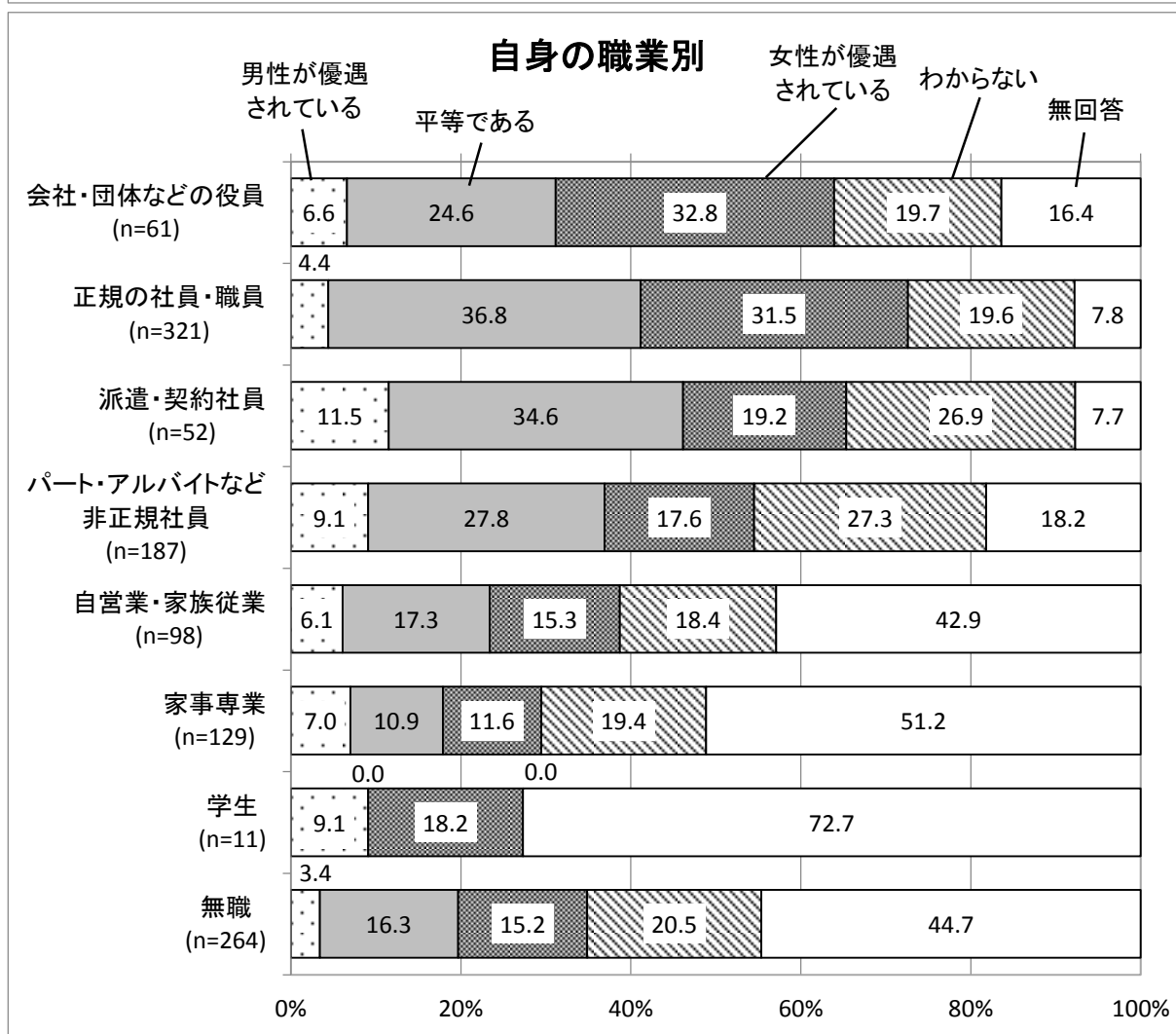
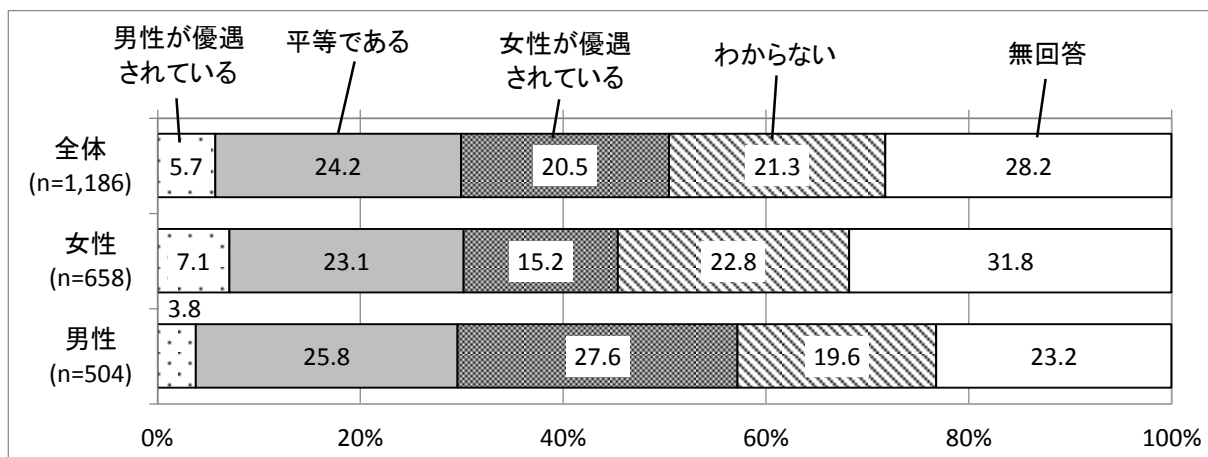


ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)

職場での休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)についてみると、「平等である」24.2%が最も割合が高く、次いで「わからない」21.3%、「女性が優遇されている」20.5%の順となっています。

性別にみると、女性は「平等である」、男性は「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。

自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、学生は「女性が優遇されている」、自営業・家族従業員、家事専業、無職は「わからない」、その他の職業では「平等である」の割合が最も高くなっています。

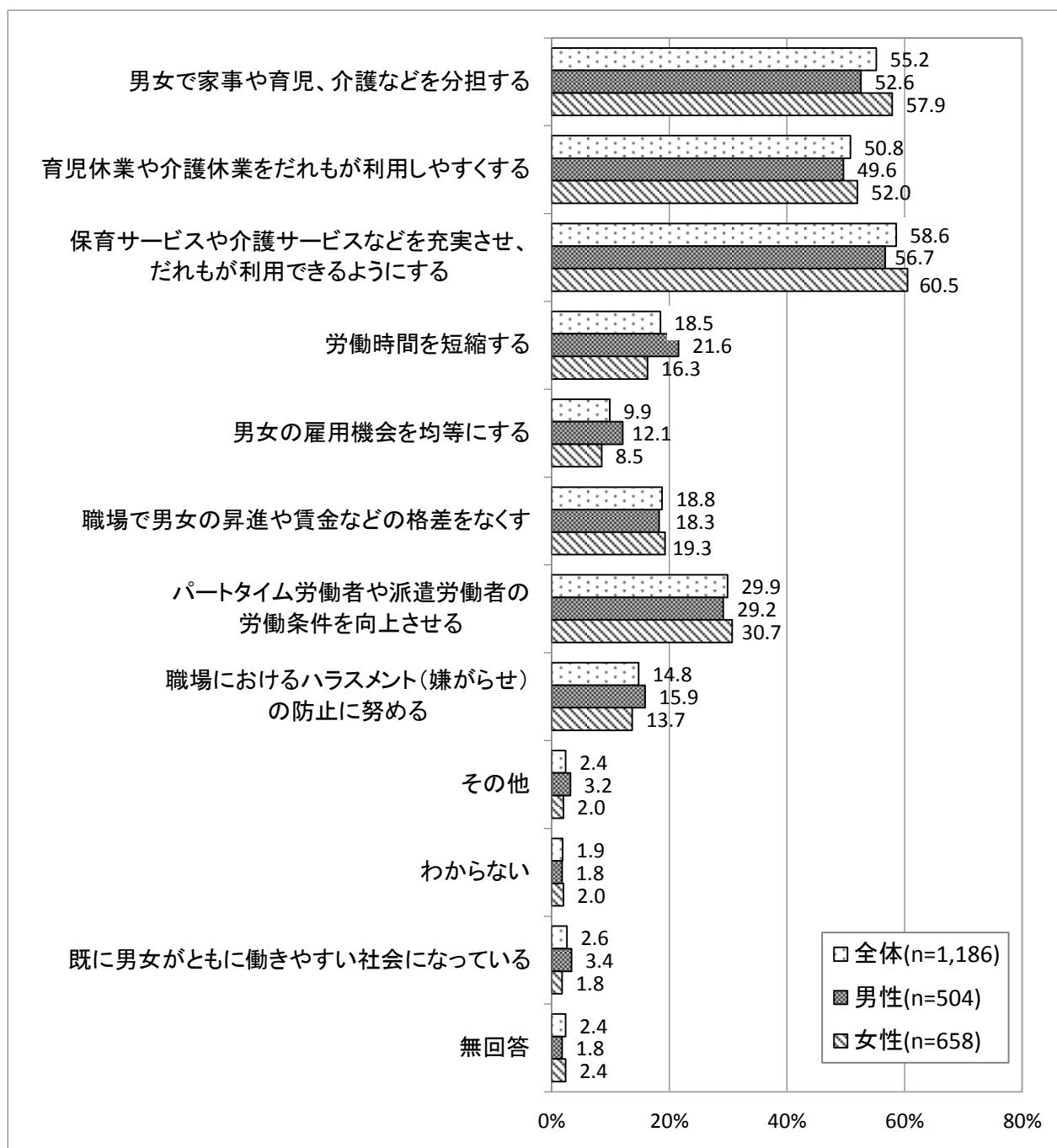


問8. <<全員にうかがいます>>

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについてみると、「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」58.6%が最も割合が高く、次いで「男女で家事や育児、介護などを分担する」55.2%、「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」50.8%の順となっています。「その他」としては、「女性が職場復帰しやすい環境づくり」、「労働基準法の遵守」、「福利厚生 の 充 実 」、「金 銭 的 サ ポ ー ト の 充 実 」、な だ の 回 答 が あ り ま し た。

性別にみても、女性・男性ともに「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」の割合が高くなっています。



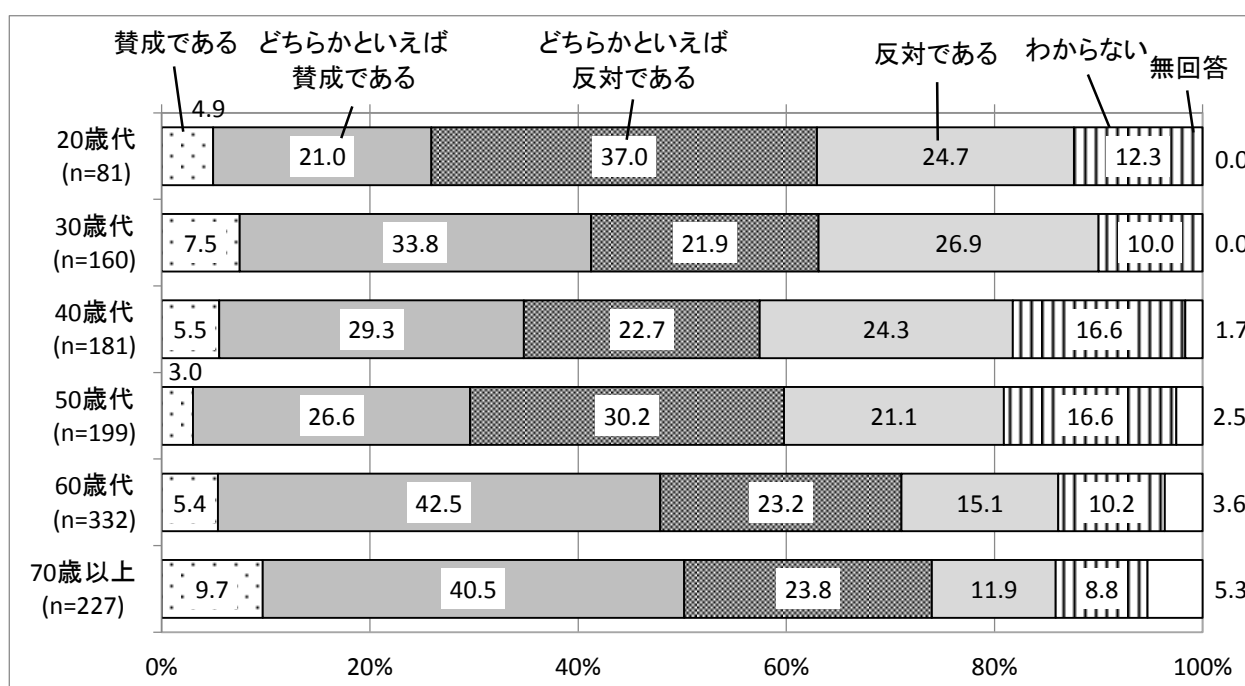
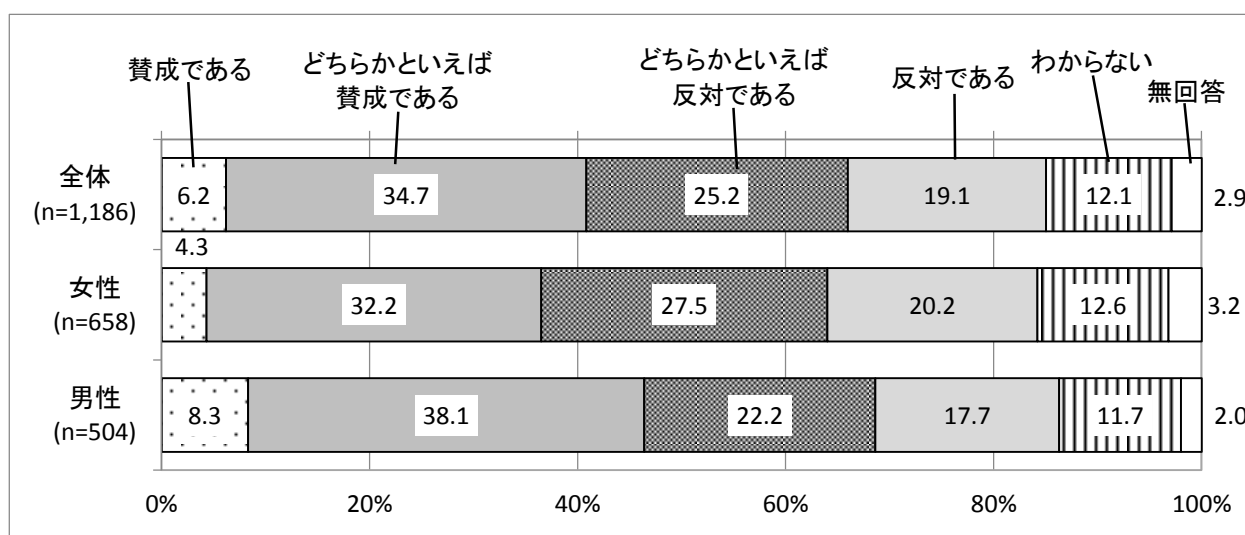
4 家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて

問9. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

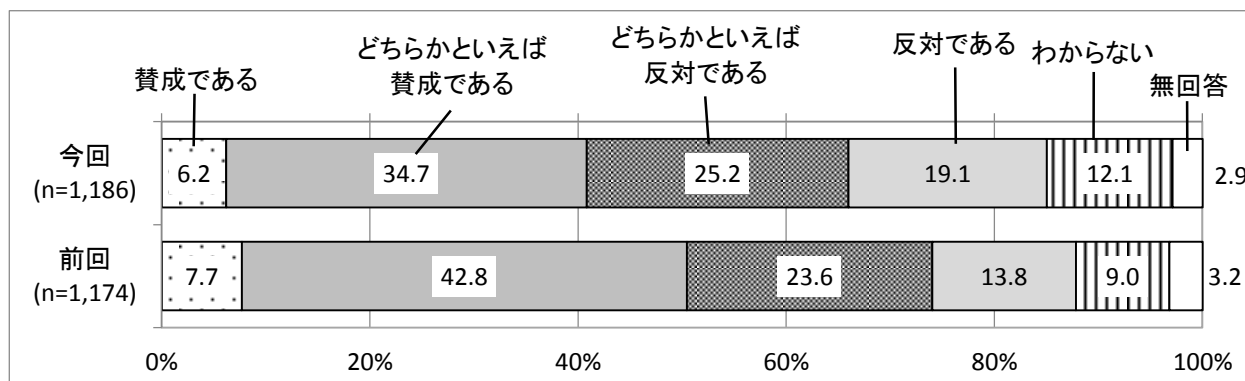
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてみると、「どちらかといえば賛成である」34.7%が最も割合が高く、次いで「どちらかといえば反対である」25.2%、「反対である」19.1%、「わからない」12.1%の順となっています。

性別にみると、「賛成である」および「どちらかといえば賛成である」は女性より男性の割合が高くなっています。

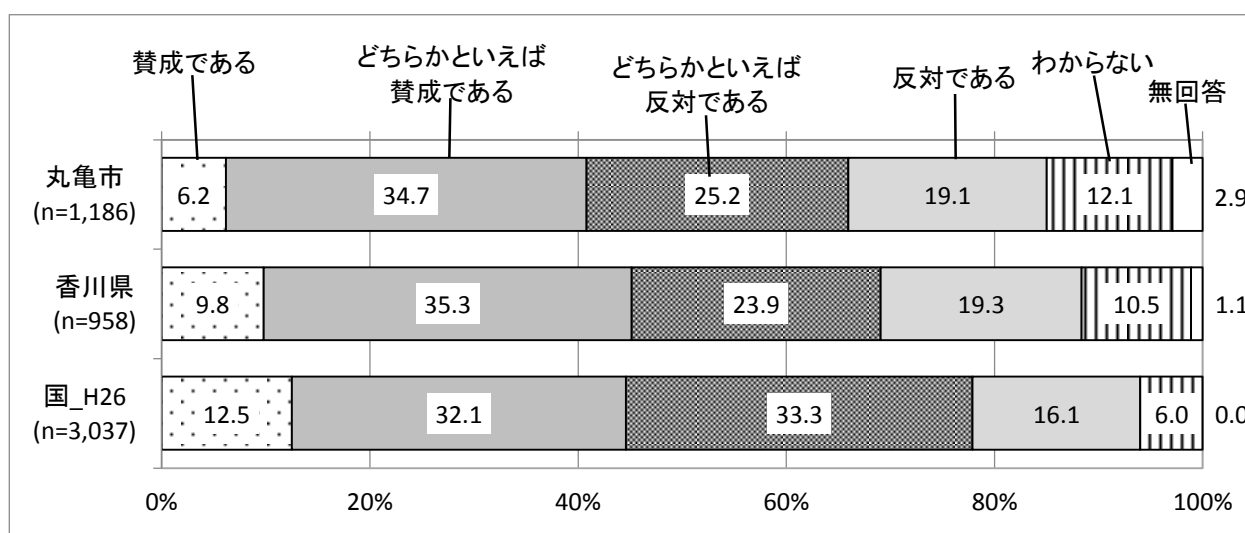
年齢別にみると、「賛成である」および「どちらかといえば賛成である」の合計は30歳代、60歳代、70歳以上、「どちらかといえば反対である」および「反対である」の合計は20歳代の割合が高くなっています。



前回調査と比較すると、「どちらかといえば反対である」および「反対である」の割合が高くなっています。



香川県及び国と比較すると、「賛成である」および「どちらかといえば賛成である」の合計は香川県、国より割合が低くなっています。



問 10. あなたの家庭では、(ア)から(カ)までの家事などはどなたがされていますか。また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。(1)は結婚(事実婚も含みます)している方で該当する項目のみ、(2)はすべての方がお答えください。(〇は各項目1つずつ)

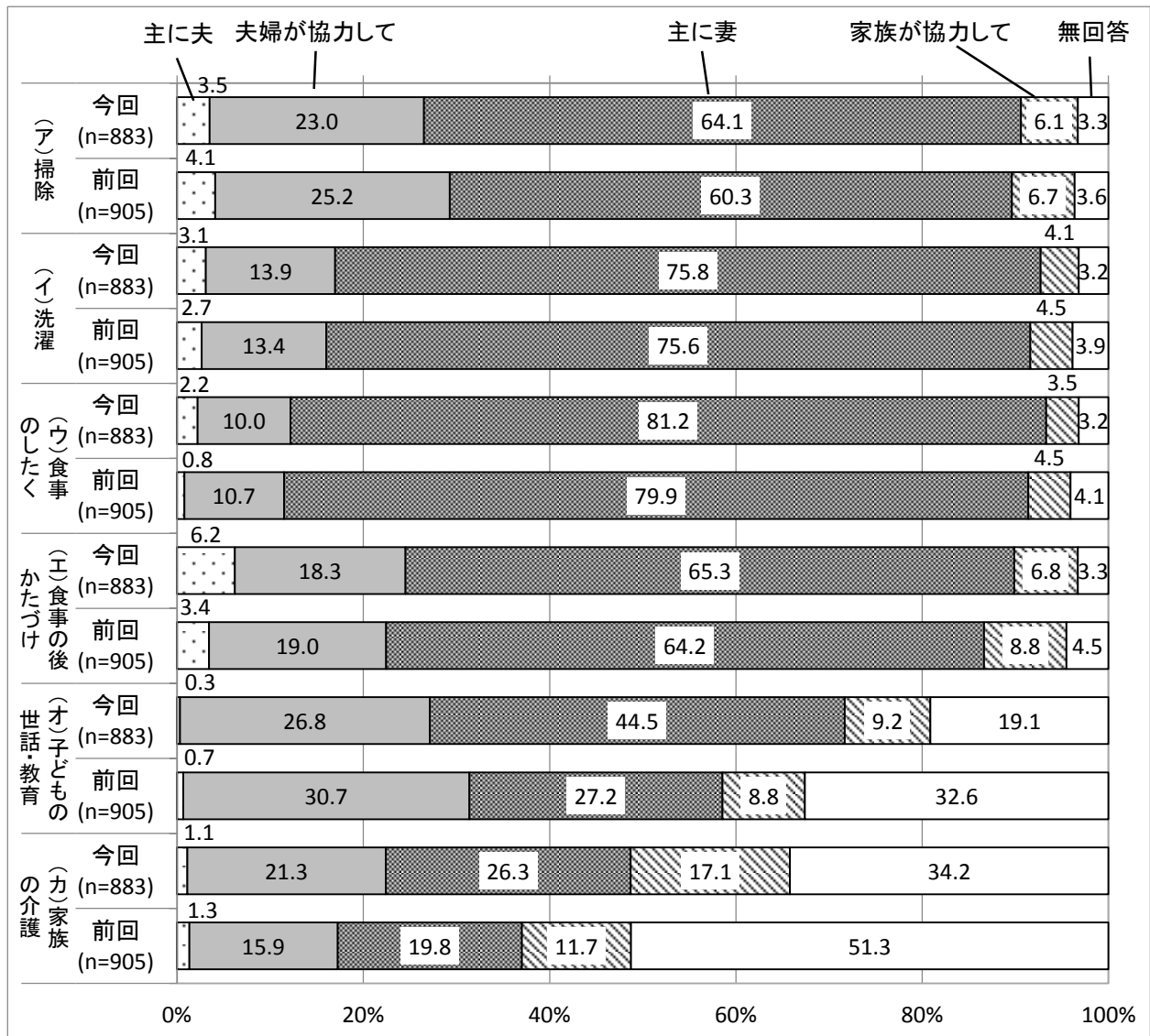
(1) 現実(結婚している方)

【全体】

結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「主に夫」はすべての項目で10%未満となっており、「主に妻」は「(ウ) 食事のしたく」81.2%が最も割合が高く、次いで「(イ) 洗濯」75.8%、「(エ) 食事の後かたづけ」65.3%、「(ア) 掃除」64.1%の順となっています。

「夫婦が協力して」は「(オ) 子どもの世話・教育」26.8%が最も割合が高く、次いで「(ア) 掃除」23.0%、「(カ) 家族の介護」21.3%の順となっています。

前回調査と比較すると、「(イ) 洗濯」、「(カ) 家族の介護」は「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。特に、「(カ) 家族の介護」は「家族が協力して」の割合も前回と比べて高くなっています。

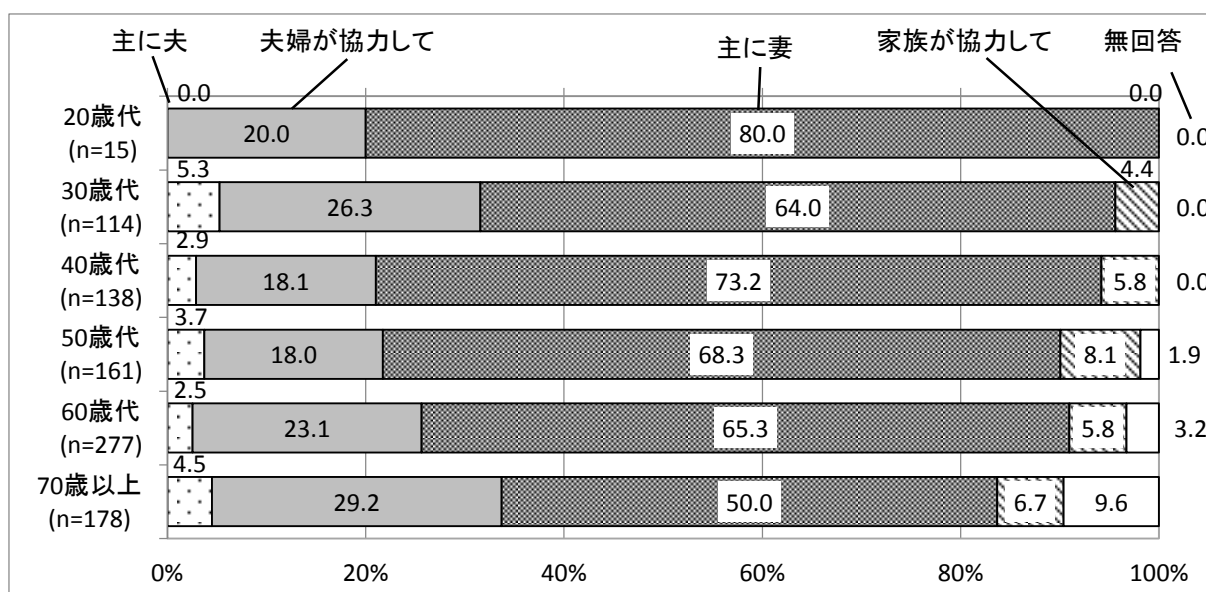
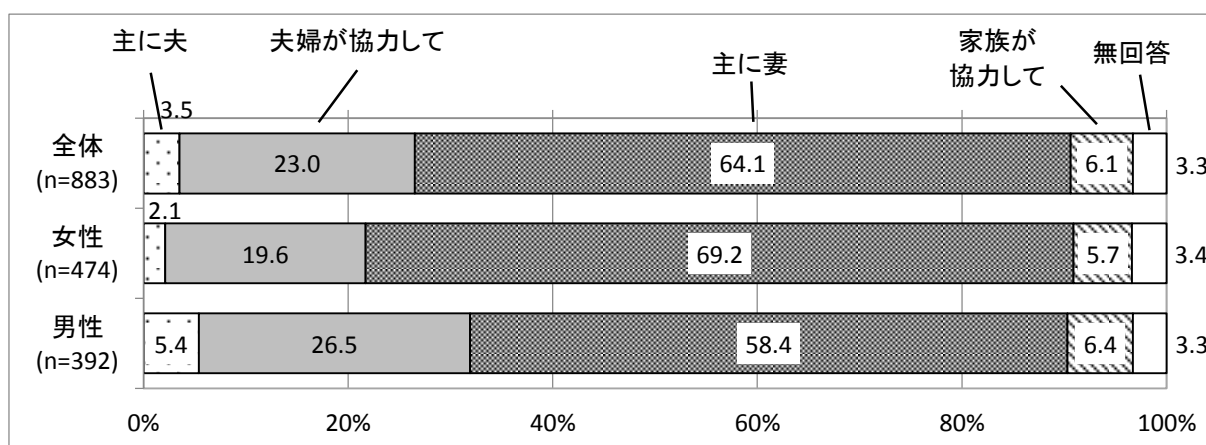


ア 掃除

掃除についてみると、「主に妻」64.1%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」23.0%、「家族が協力して」6.1%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「主に妻」の割合が高くなっていますが、女性より男性の方が「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、40歳代以降では、年齢が上がるにつれて「主に妻」の割合が低くなっています。

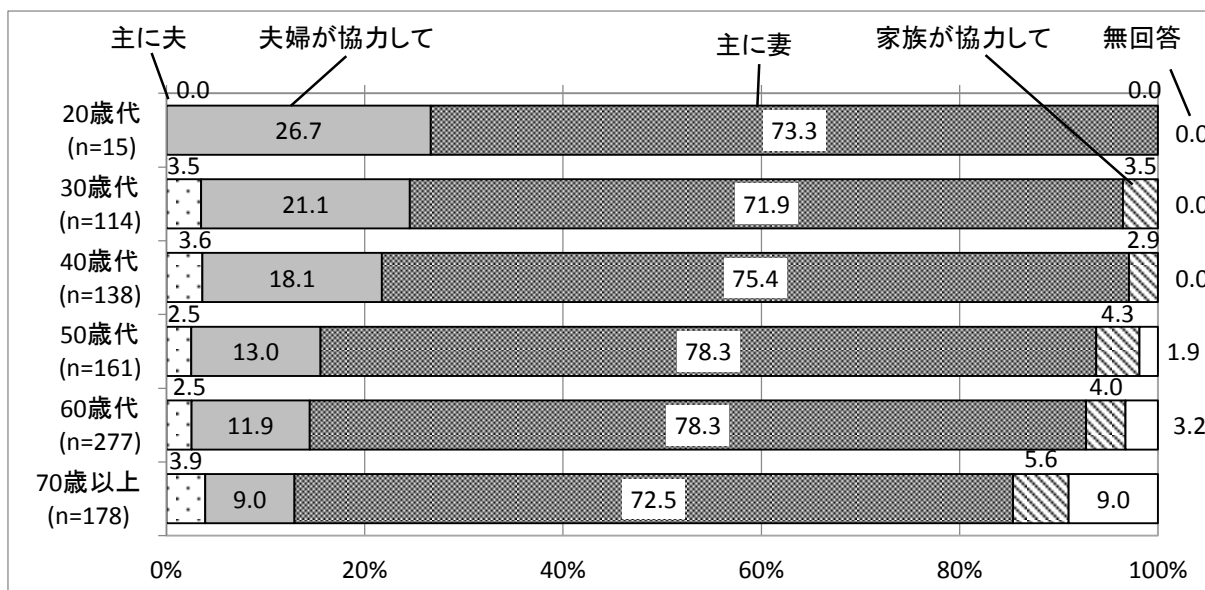
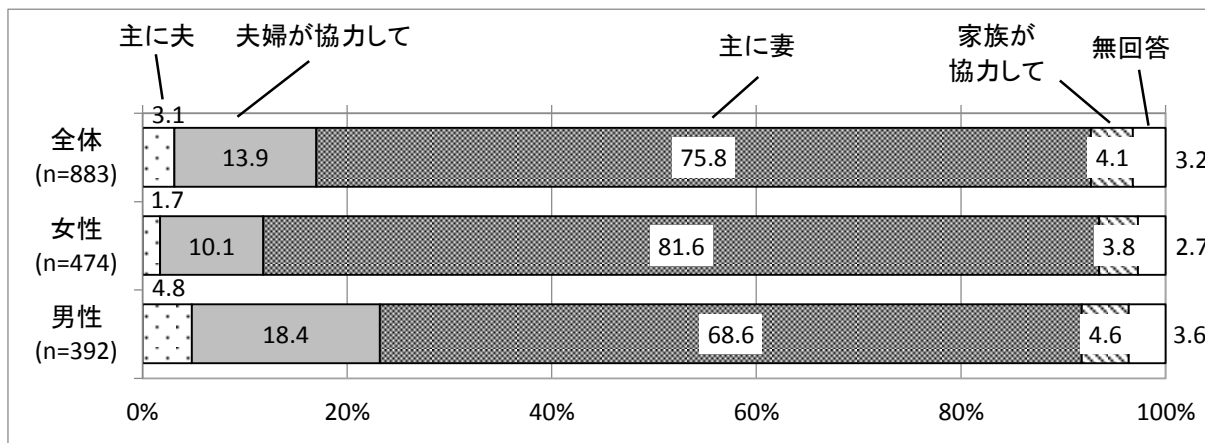


イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」75.8%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」13.9%、「家族が協力して」4.1%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「主に妻」の割合が高くなっていますが、女性より男性の方が「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢においても「主に妻」の割合が70%を超えており、年齢が上がるにつれて「夫婦が協力して」の割合は低くなっています。

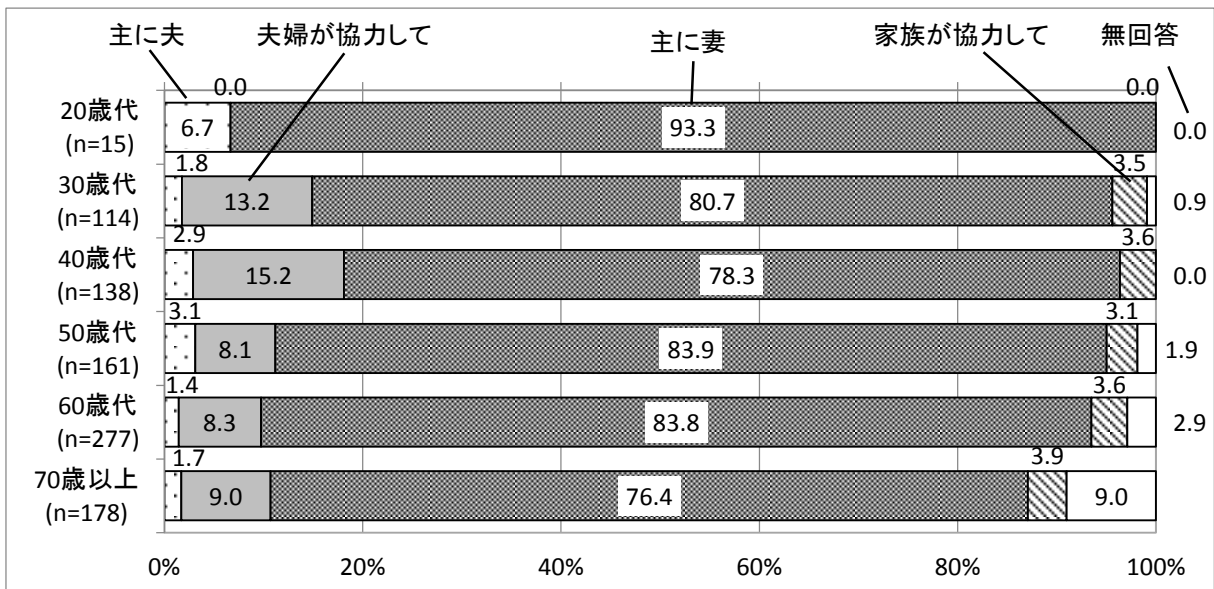
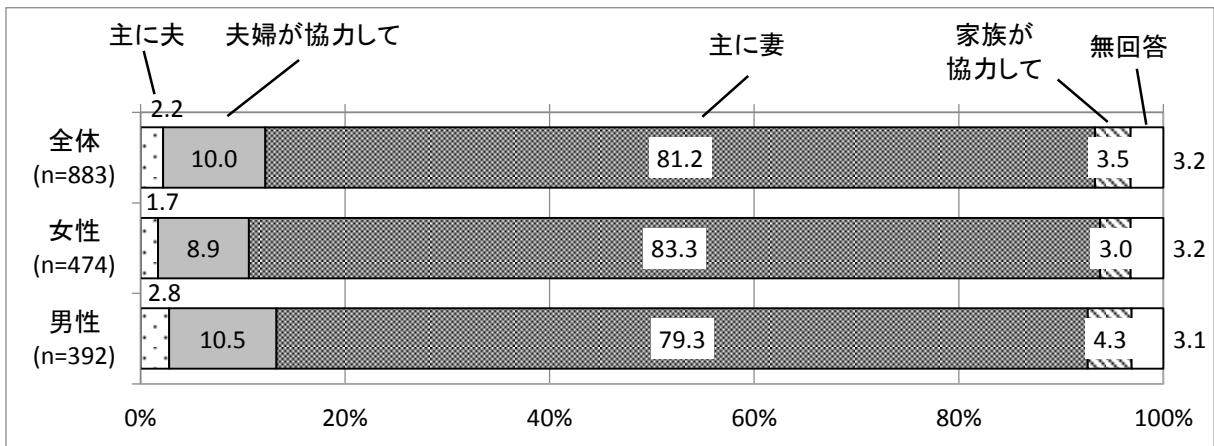


ウ 食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主に妻」81.2%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」10.0%、「家族が協力して」3.5%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「主に妻」の割合が高くなっており、特に、女性は80%を超えています。

年齢別にみると、どの年齢においても「主に妻」の割合が最も高くなっており、特に、20歳代では93.3%を占めています。また、30～40歳代は「夫婦が協力して」の割合が他の年齢に比べて高くなっています。

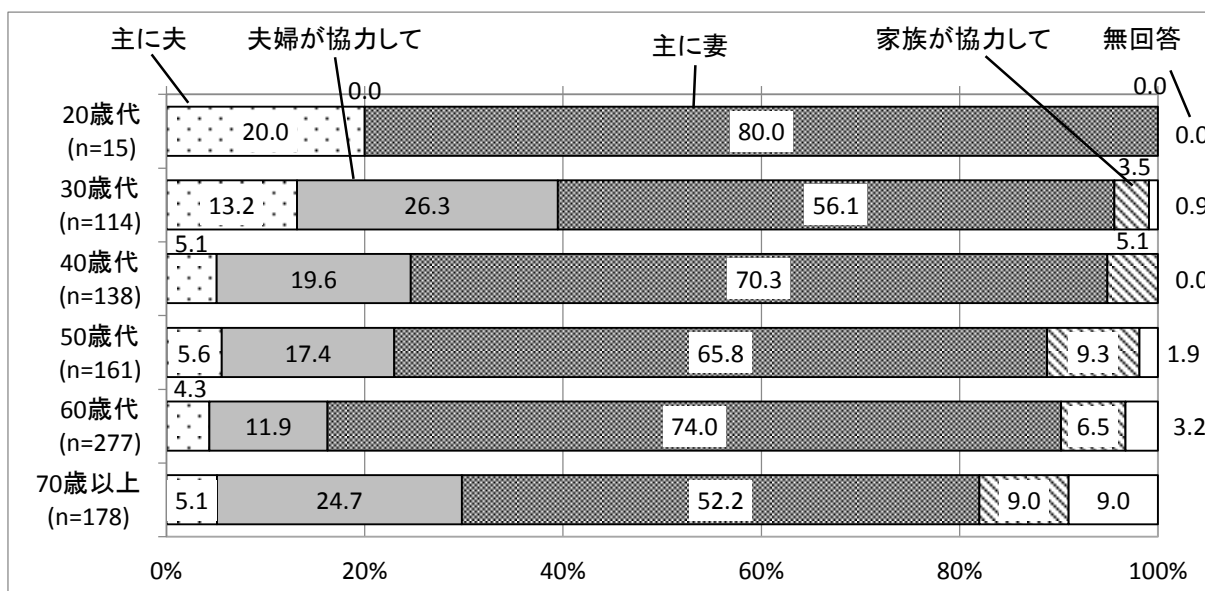
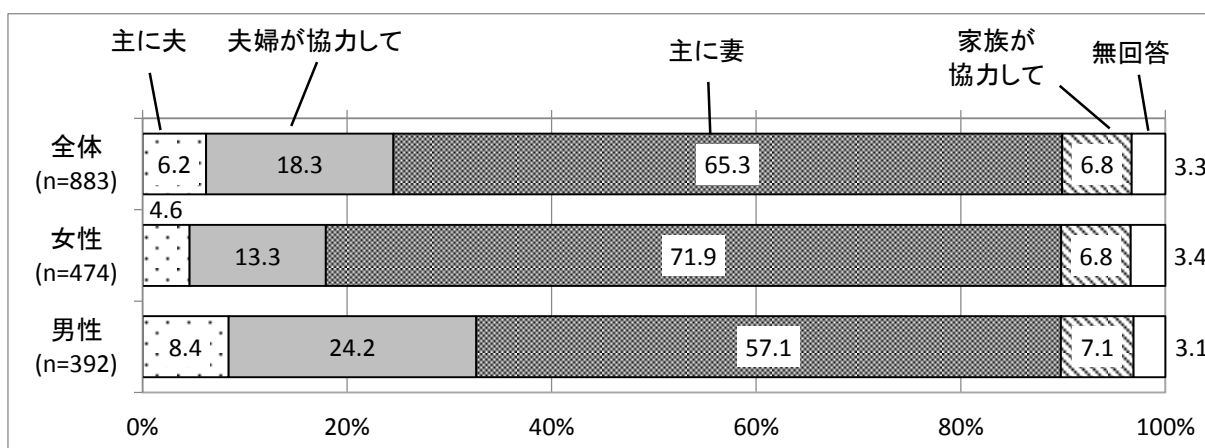


エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「主に妻」65.3%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」18.3%、「家族が協力して」6.8%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「主に妻」の割合が高くなっていますが、女性より男性の方が「主に夫」、「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢においても「主に妻」の割合が最も高くなっており、特に20歳代では80.0%を占めています。また、「主に夫」も他の年齢に比べて割合が高く、20.0%を占めています。「夫婦が協力して」は30歳代、70歳以上で20%を超えています。

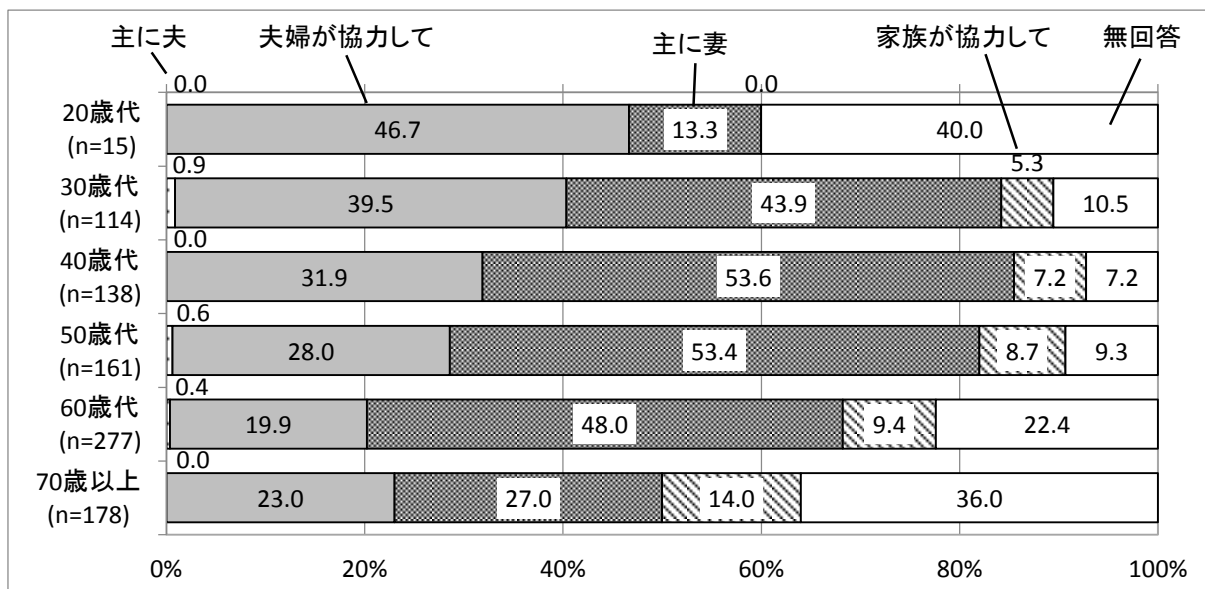
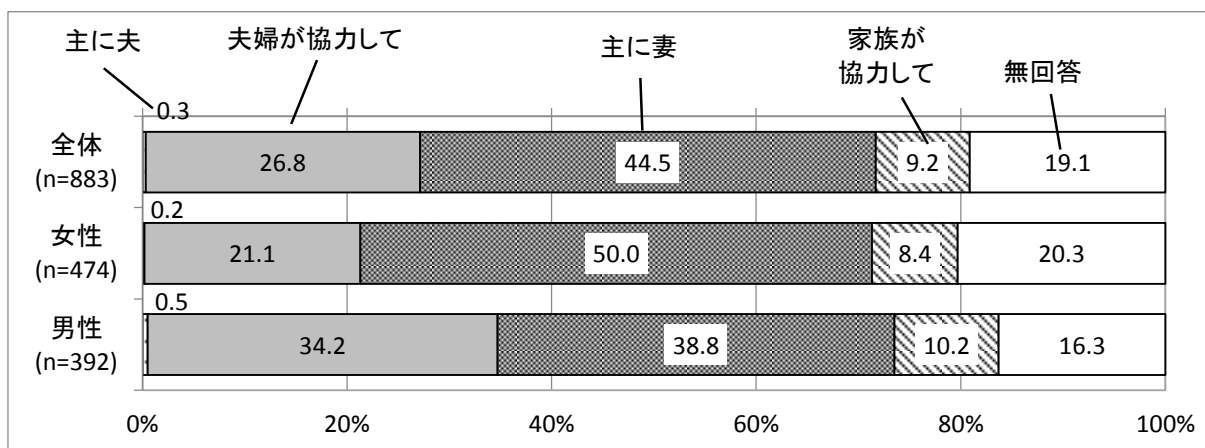


オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「主に妻」44.5%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」26.8%、「家族が協力して」9.2%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「主に妻」の割合が高くなっていますが、女性より男性の方が「夫婦が協力して」、「家族が協力して」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上を除くと年齢が上がるにつれて「夫婦が協力して」の割合が低くなっています。特に20歳代では「夫婦が協力して」が46.7%を占めており、「主に妻」の13.3%より33.4ポイント高くなっています。30歳代以降は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

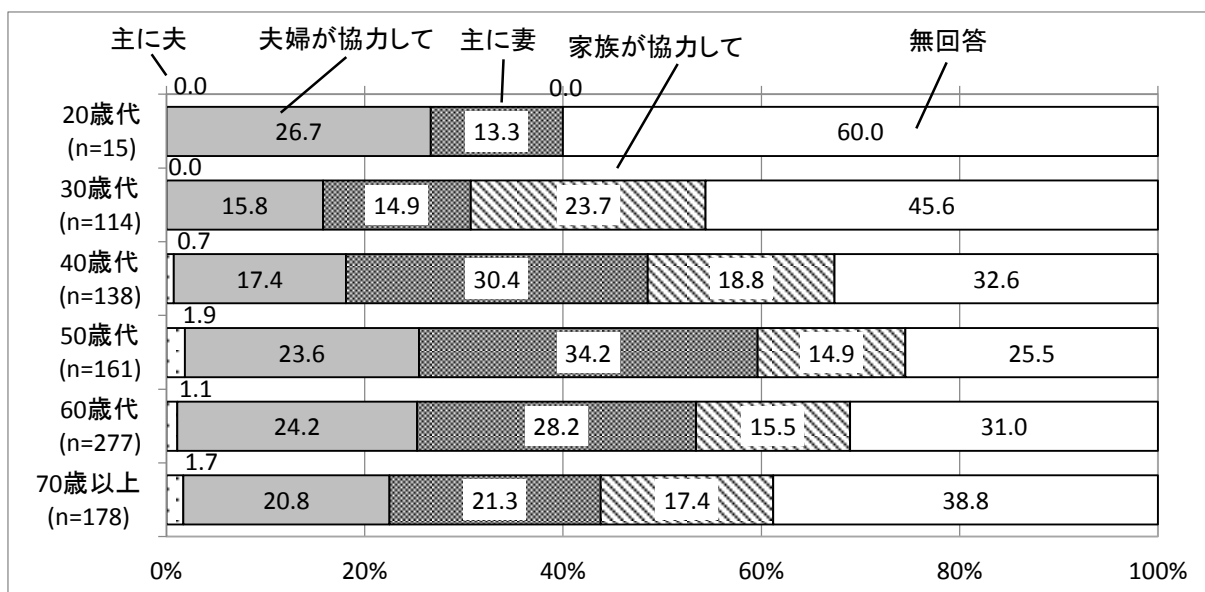
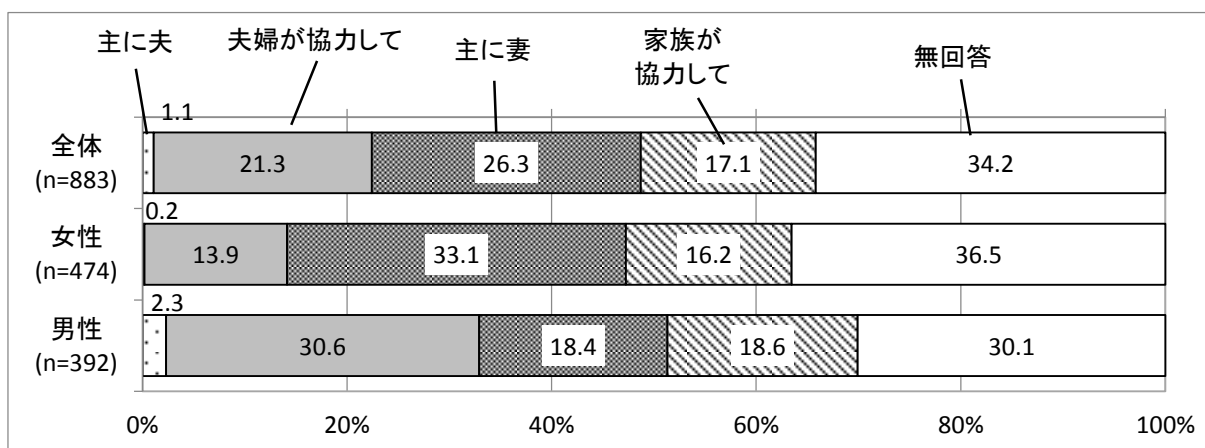


カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「主に妻」26.3%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」21.3%、「家族が協力して」17.1%の順となっています。

性別にみると、女性は「主に妻」、男性は「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代は「夫婦が協力して」、30歳代は「家族が協力して」、40歳以降は「主に妻」の割合が高くなっています。

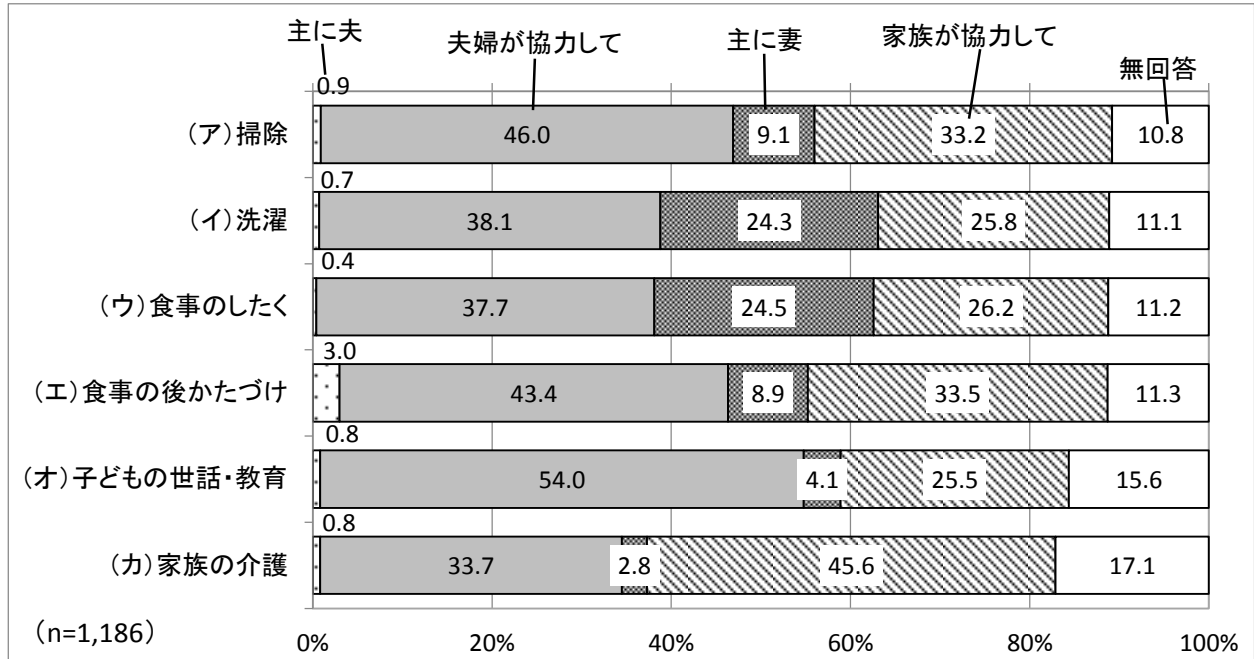


(2) 理想 (すべての方)

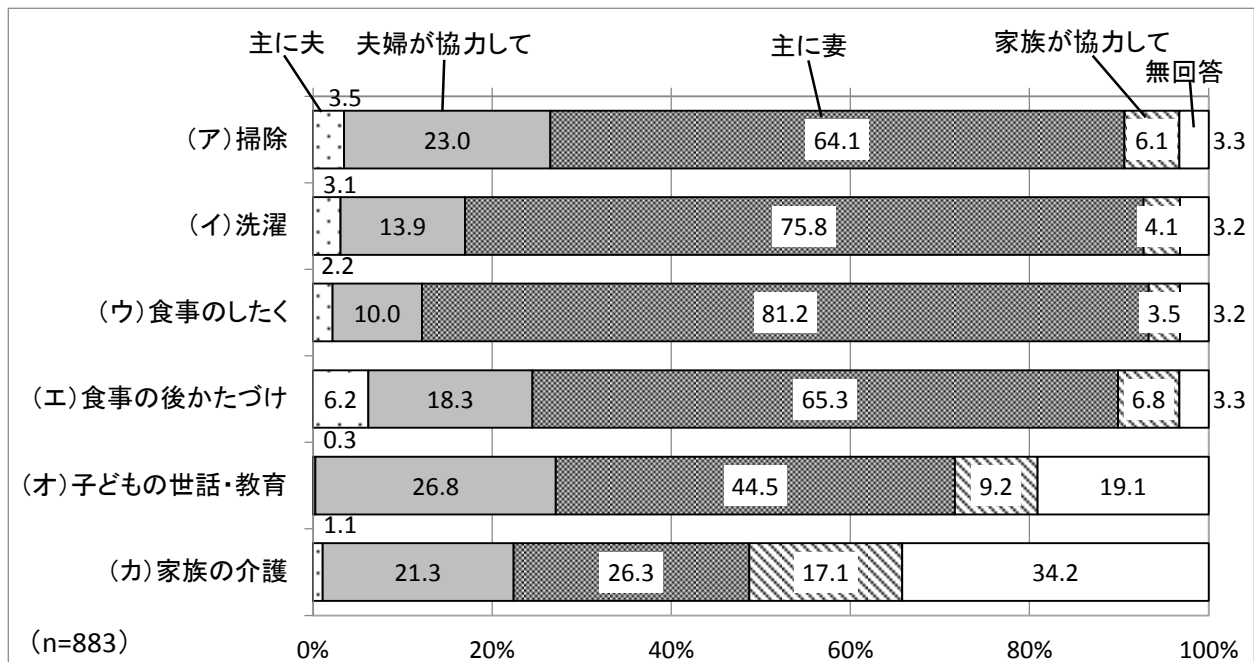
【全体】

家庭での家事などの役割分担の理想についてみると、「夫婦が協力して」では、「(オ) 子どもの世話・教育」54.0%が最も割合が高く、次いで、「(ア) 掃除」46.0%、「(エ) 食事の後かたづけ」43.4%の順となっています。

すべての項目で夫婦や家族が協力して行うことを希望していますが、現実には「主に妻」が行っていることが多く、理想と現実との違いが見られます。



【再掲: 家庭での家事などの役割分担について【現実】】

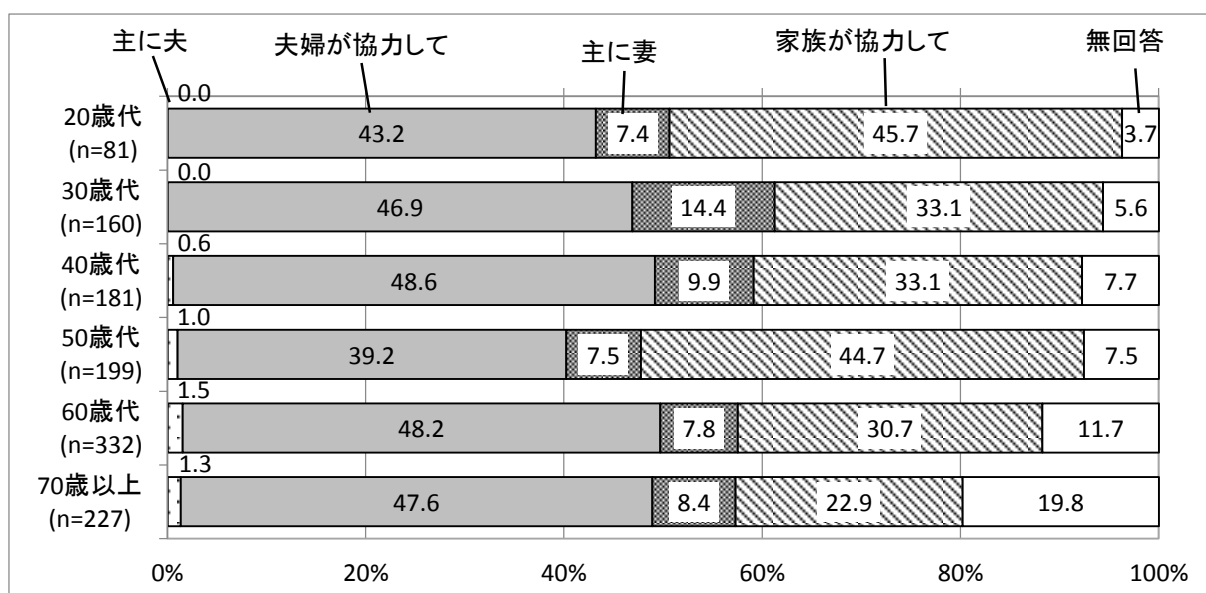
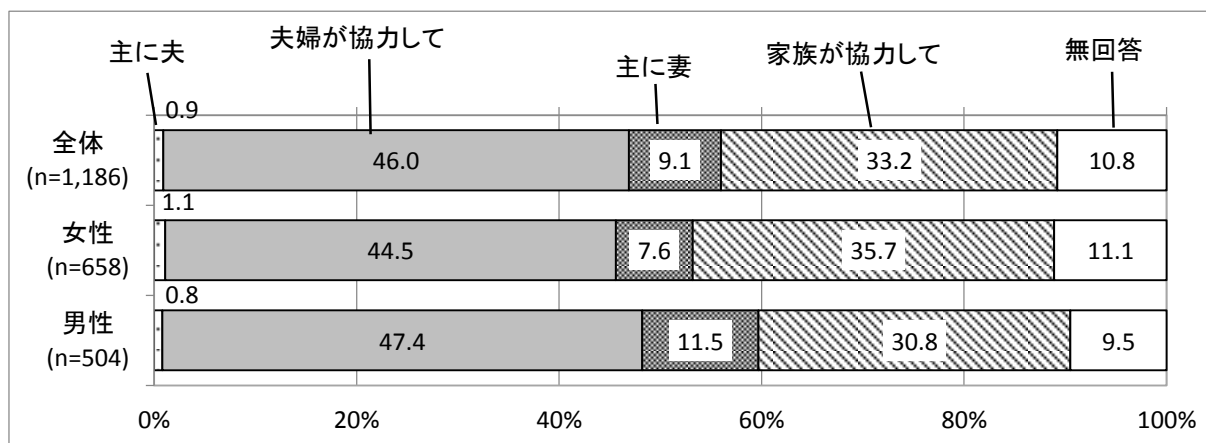


ア 掃除

掃除についてみると、「夫婦が協力して」46.0%が最も割合が高く、次いで「家族が協力して」33.2%、「主に妻」9.1%、「主に夫」0.9%の順となっています。

性別にみると、女性・男性ともに「夫婦が協力して」、「家族が協力して」の順で割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代、50歳代では「家族が協力して」、その他の年齢では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

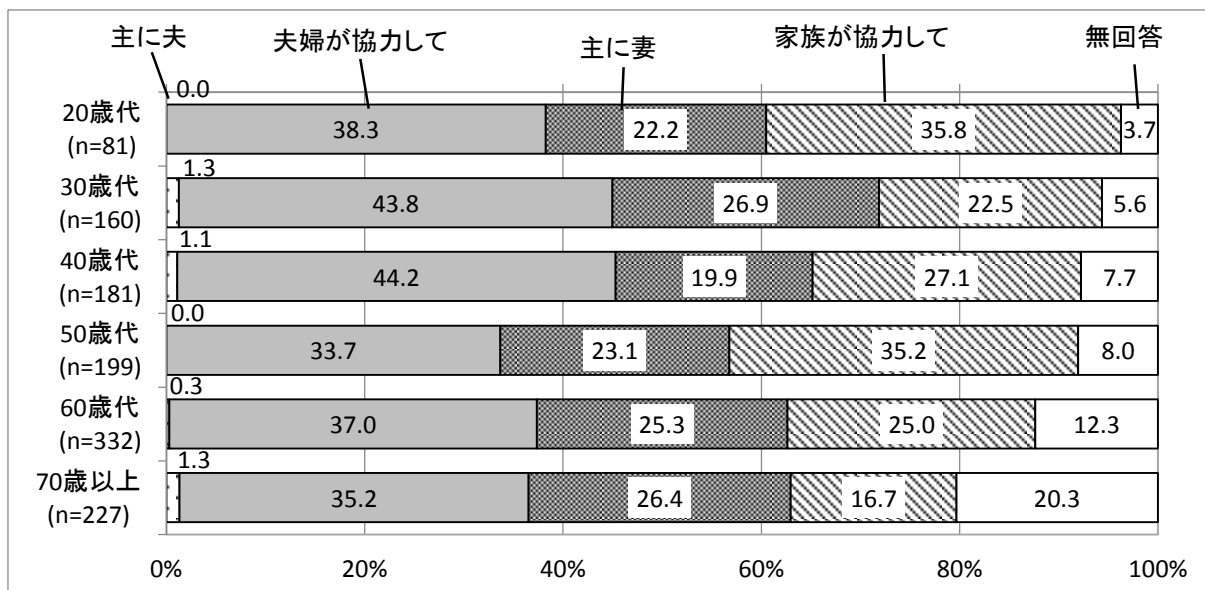
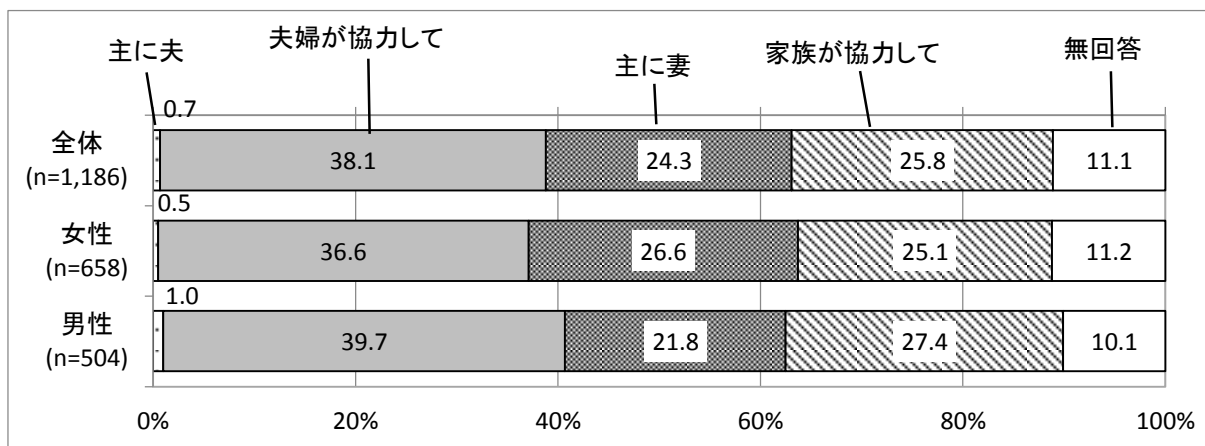


イ 洗濯

洗濯についてみると、「夫婦が協力して」38.1%が最も割合が高く、次いで「家族が協力して」25.8%、「主に妻」24.3%、「主に夫」0.7%の順となっています。

性別にみると、女性のほうが「主に妻」の割合が男性より4.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、50歳代では「家族が協力して」、その他の年齢では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

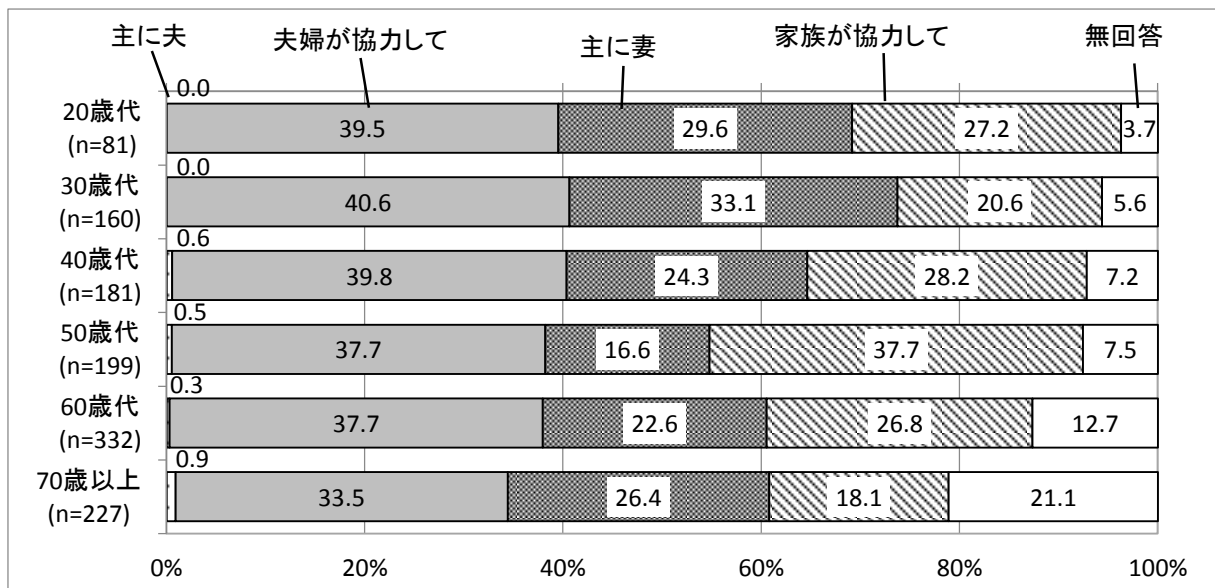
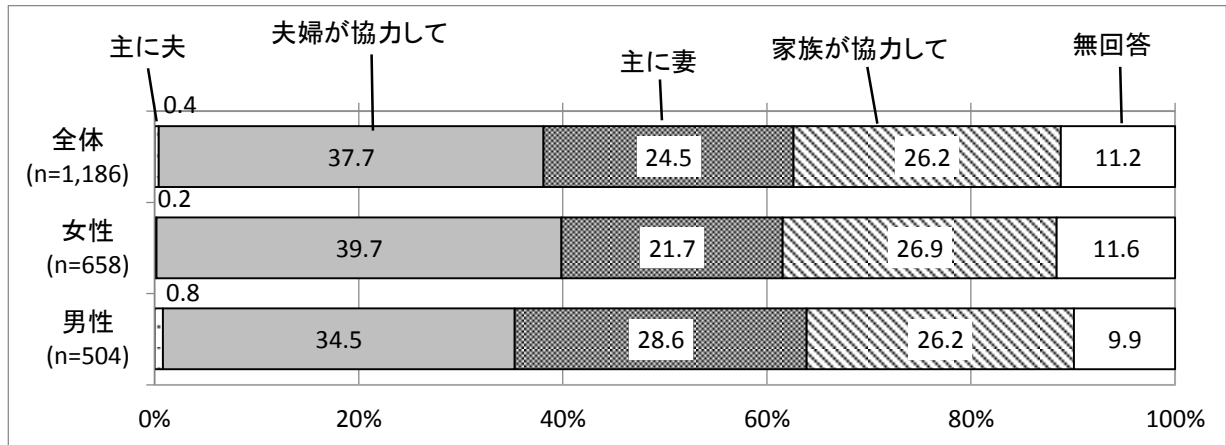


ウ 食事のしたく

食事のしたくについてみると、「夫婦が協力して」37.7%が最も割合が高く、次いで「家族が協力して」26.2%、「主に妻」24.5%、「主に夫」0.4%の順となっています。

性別にみると、女性のほうが「夫婦が協力して」の割合が男性より5.2ポイント、男性のほうが「主に妻」の割合が女性より6.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、50歳代は「家族が協力して」も同じ割合となっています。

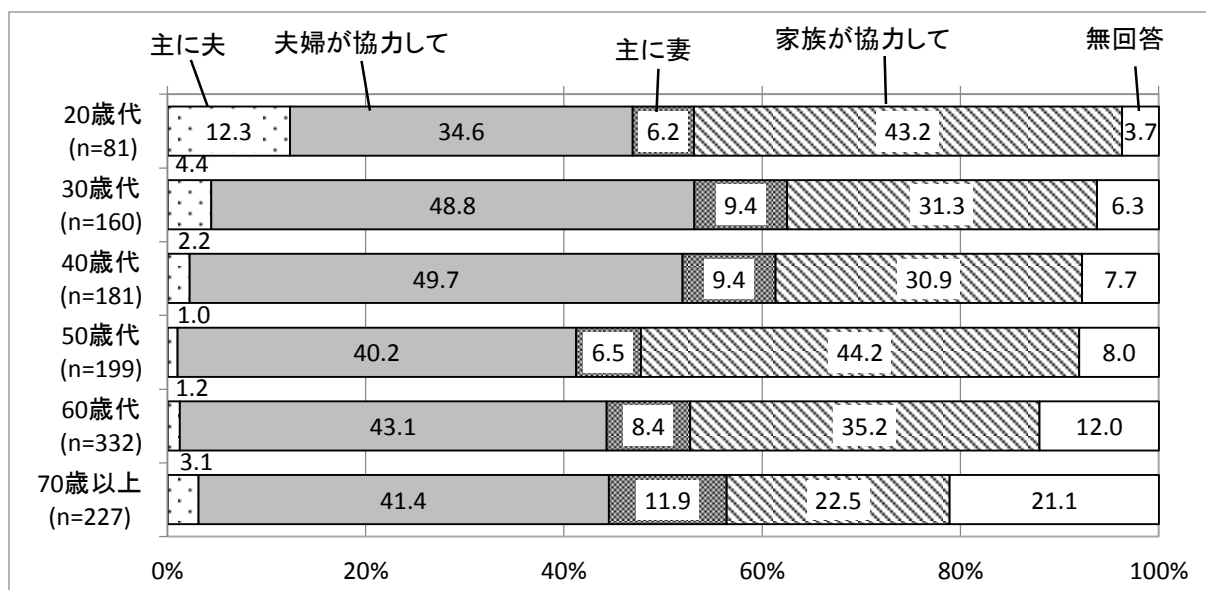
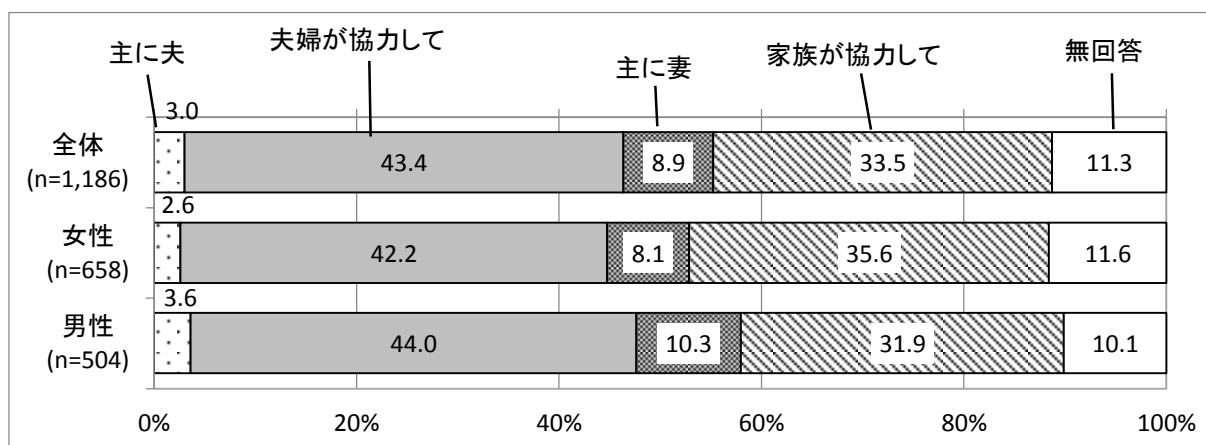


エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「夫婦が協力して」43.4%が最も割合が高く、次いで「家族が協力して」33.5%、「主に妻」8.9%、「主に夫」3.0%の順となっています。

性別にみると、男女ともに「夫婦が協力して」、「家族が協力して」の順で割合が高くなっています。

年齢別にみると、20歳代、50歳代は「家族が協力して」、その他の年齢では「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

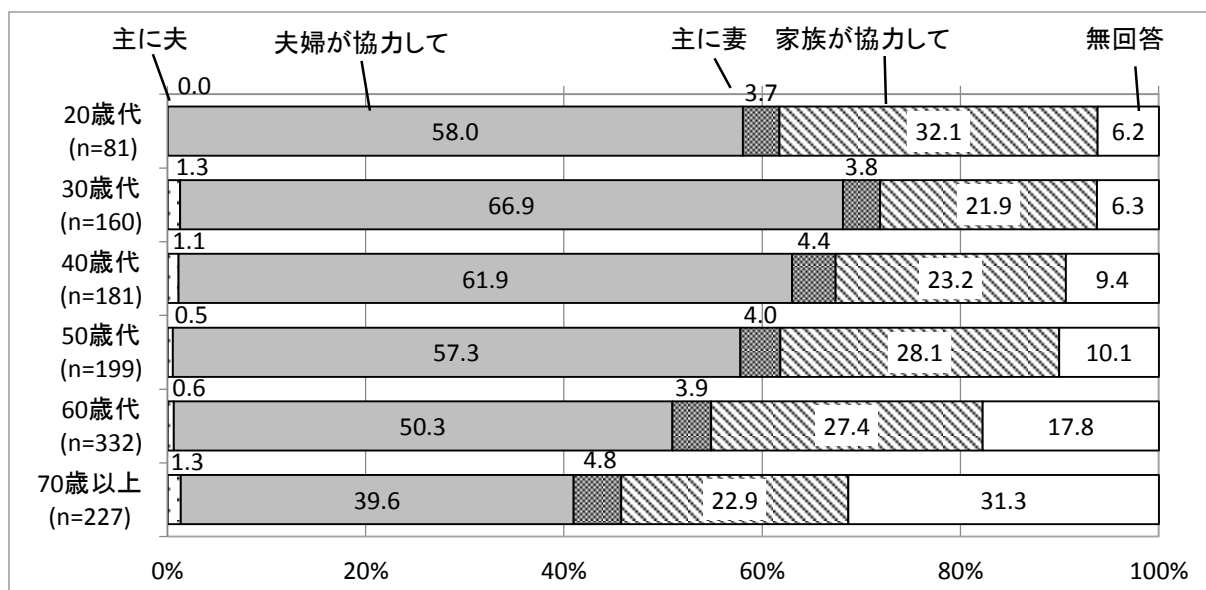
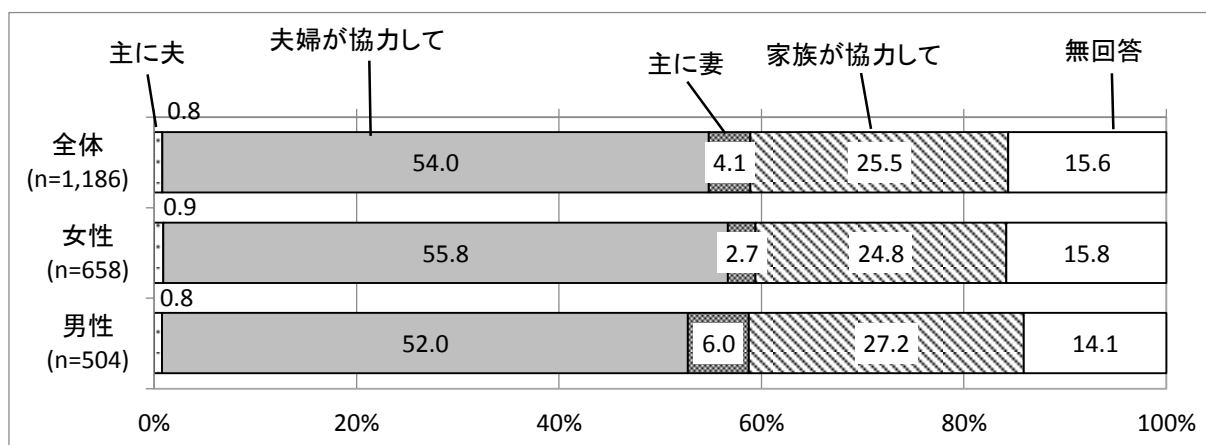


オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「夫婦が協力して」54.0%が最も割合が高く、次いで「家族が協力して」25.5%、「主に妻」4.1%、「主に夫」0.8%の順となっています。

性別にみると、女性より男性の方が「主に妻」の割合が3.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20歳代を除くと年齢が上がるにつれて「夫婦が協力して」の割合が低くなっています。

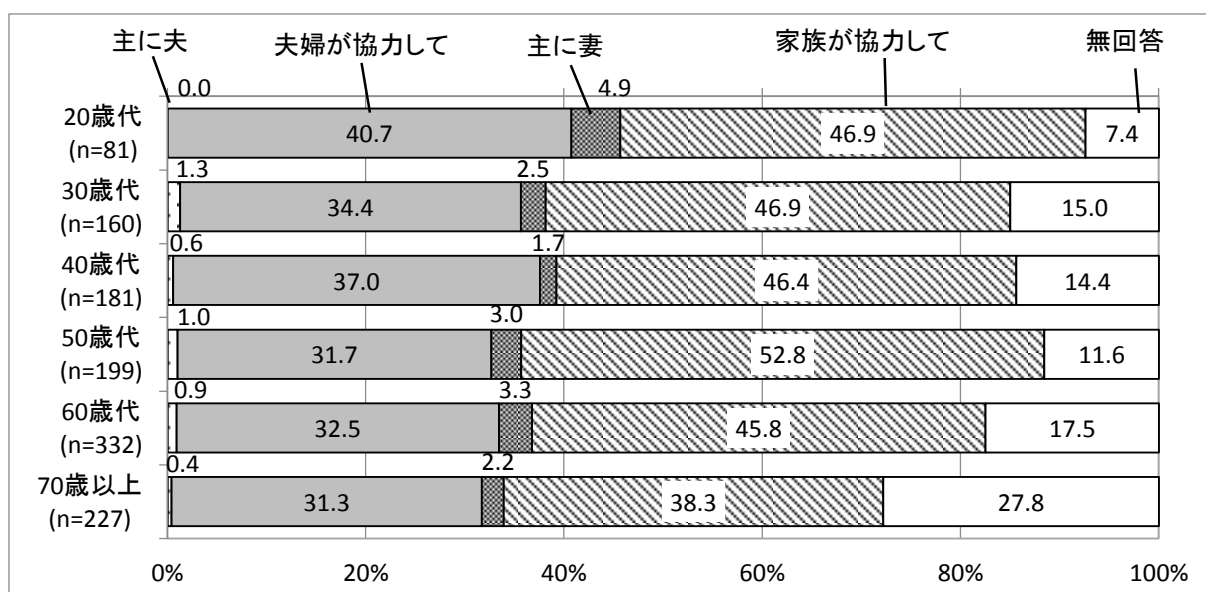
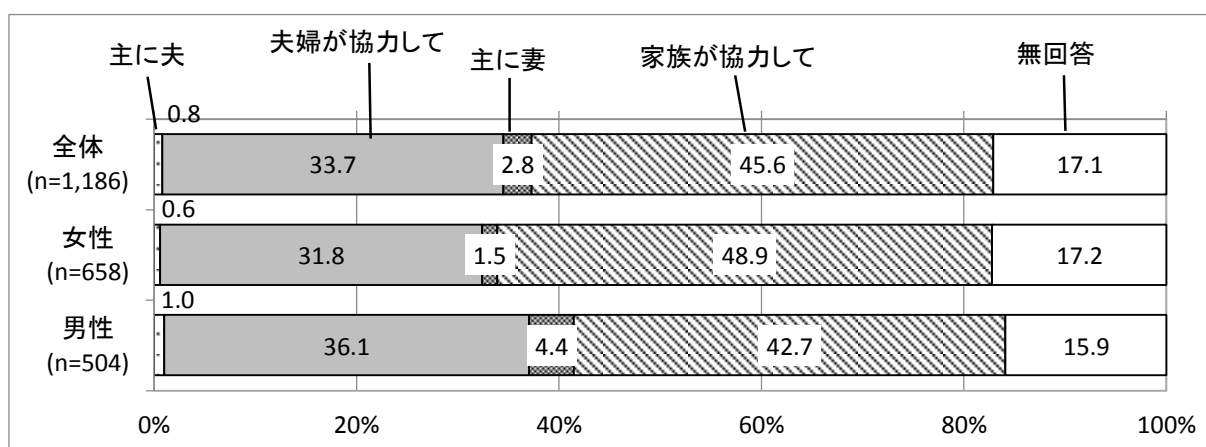


カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「家族が協力して」45.6%が最も割合が高く、次いで「夫婦が協力して」33.7%、「主に妻」2.8%、「主に夫」0.8%の順となっています。

性別にみると、女性より男性の方が「夫婦が協力して」、「主に妻」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢で「家族が協力して」の割合が高くなっています。また、20歳代は「家族が協力して」、「夫婦が協力して」の割合がともに40%を超えています。



問11. あなたは平均的な1日に、(ア)から(カ)までのそれぞれどの程度時間をかけていますか。仕事や学校がある日とない日との両方についてお答えください。(枠内におおよその時間をご記入ください。該当がない場合は、「0時間0分」とご記入ください)

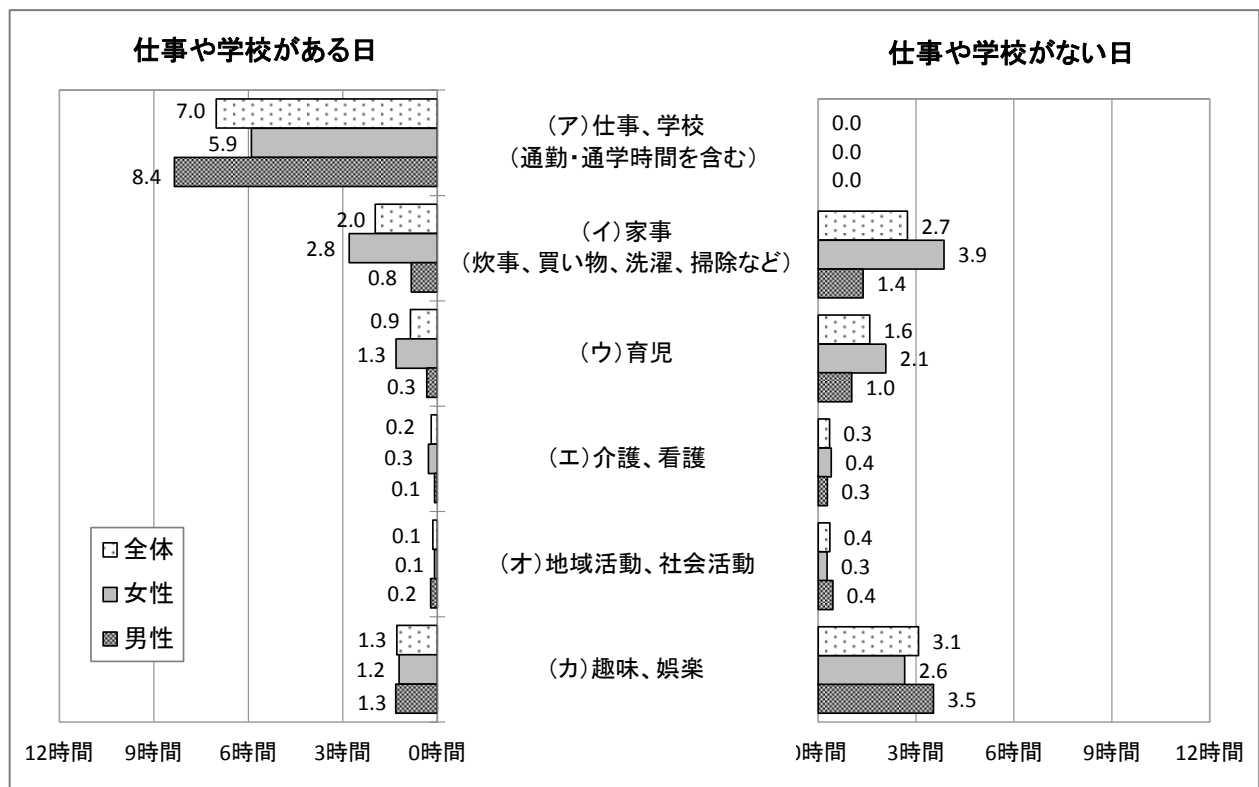
仕事や学校がある日とない日別にそれぞれの行動にどの程度時間をかけているか平均時間を算出すると、「(ア) 仕事、学校 (通勤・通学時間を含む)」は女性が5.9時間、男性が8.4時間と、男性の方が長くなっています。

「(イ) 家事 (炊事、買い物、洗濯、掃除など)」は仕事や学校がある日の女性は2.8時間、男性は0.8時間行っています。仕事や学校がない日の女性は1.1時間、男性は0.6時間長くなっています。

「(ウ) 育児」は仕事や学校がある日・ない日ともに男性より女性の方がかける時間が長くなっており、仕事や学校がある日は女性が1.3時間、男性が0.3時間、仕事や学校がない日は女性が0.8時間、男性が0.7時間長くなっています。

「(エ) 介護、看護」、「(オ) 地域活動、社会活動」は仕事や学校の有無に関わらず、女性・男性ともに30分未満となっています。

「(カ) 趣味、娯楽」は女性・男性ともに仕事や学校がない日の方がかける時間が長くなっており、女性は約2.2倍、男性は約2.7倍かけていることがわかります。



仕事や学校がある日

ア 仕事、学校(通勤・通学時間を含む)

仕事や学校がある日における仕事、学校（通勤・通学時間を含む）にかけるおおよその時間についてみると、「8時間以上」42.7%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「8時間以上」の割合が高くなっており、特に女性より男性の割合が高くなっています。

(ア)仕事、学校(通勤・通学時間を含む)	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	151人	12.7%	103人	15.7%	47人	9.3%
30分未満	20人	1.7%	12人	1.8%	8人	1.6%
30分以上-1時間未満	15人	1.3%	5人	0.8%	10人	2.0%
1時間以上-1時間半未満	12人	1.0%	7人	1.1%	5人	1.0%
1時間半以上-2時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
2時間以上-2時間半未満	7人	0.6%	5人	0.8%	2人	0.4%
2時間半以上-3時間未満	2人	0.2%	1人	0.2%	1人	0.2%
3時間以上-3時間半未満	8人	0.7%	5人	0.8%	3人	0.6%
3時間半以上-4時間未満	3人	0.3%	1人	0.2%	2人	0.4%
4時間以上-4時間半未満	22人	1.9%	16人	2.4%	5人	1.0%
4時間半以上-5時間未満	10人	0.8%	9人	1.4%	1人	0.2%
5時間以上-5時間半未満	32人	2.7%	29人	4.4%	3人	0.6%
5時間半以上-6時間未満	7人	0.6%	7人	1.1%	-	-
6時間以上-6時間半未満	46人	3.9%	38人	5.8%	7人	1.4%
6時間半以上-7時間未満	6人	0.5%	4人	0.6%	2人	0.4%
7時間以上-7時間半未満	26人	2.2%	17人	2.6%	7人	1.4%
7時間半以上-8時間未満	10人	0.8%	6人	0.9%	3人	0.6%
8時間以上	506人	42.7%	211人	32.1%	292人	57.9%
無回答	302人	25.5%	181人	27.5%	106人	21.0%

イ 家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)

仕事や学校がある日における家事（炊事、買い物、洗濯、掃除など）にかけるおおよその時間についてみると、「0分」15.6%が最も割合が高くなっています。

性別にみると、女性は「2時間以上-2時間半未満」、男性は「0分」の割合が最も高くなっています。

(イ)家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	185人	15.6%	39人	5.9%	145人	28.8%
30分未満	33人	2.8%	6人	0.9%	27人	5.4%
30分以上-1時間未満	81人	6.8%	17人	2.6%	63人	12.5%
1時間以上-1時間半未満	139人	11.7%	54人	8.2%	85人	16.9%
1時間半以上-2時間未満	30人	2.5%	21人	3.2%	9人	1.8%
2時間以上-2時間半未満	139人	11.7%	102人	15.5%	36人	7.1%
2時間半以上-3時間未満	12人	1.0%	9人	1.4%	2人	0.4%
3時間以上-3時間半未満	106人	8.9%	94人	14.3%	10人	2.0%
3時間半以上-4時間未満	13人	1.1%	12人	1.8%	1人	0.2%
4時間以上-4時間半未満	57人	4.8%	49人	7.4%	4人	0.8%
4時間半以上-5時間未満	3人	0.3%	3人	0.5%	-	-
5時間以上-5時間半未満	38人	3.2%	36人	5.5%	2人	0.4%
5時間半以上-6時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
6時間以上-6時間半未満	15人	1.3%	15人	2.3%	-	-
6時間半以上-7時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
7時間以上-7時間半未満	9人	0.8%	8人	1.2%	1人	0.2%
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	15人	1.3%	14人	2.1%	1人	0.2%
無回答	309人	26.1%	177人	26.9%	118人	23.4%

ウ 育児

仕事や学校がある日における育児にかかるおおよその時間についてみると、0分（該当なし）を除くと、「1時間以上-1時間半未満」5.1%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「1時間以上-1時間半未満」の割合が最も高くなっています。

(ウ)育児	全体		女性		男性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	611人	51.5%	312人	47.4%	291人	57.7%
30分未満	4人	0.3%	-	-	4人	0.8%
30分以上-1時間未満	22人	1.9%	5人	0.8%	17人	3.4%
1時間以上-1時間半未満	61人	5.1%	29人	4.4%	32人	6.3%
1時間半以上-2時間未満	2人	0.2%	1人	0.2%	1人	0.2%
2時間以上-2時間半未満	26人	2.2%	15人	2.3%	11人	2.2%
2時間半以上-3時間未満	3人	0.3%	3人	0.5%	-	-
3時間以上-3時間半未満	16人	1.3%	12人	1.8%	4人	0.8%
3時間半以上-4時間未満	2人	0.2%	2人	0.3%	-	-
4時間以上-4時間半未満	13人	1.1%	12人	1.8%	1人	0.2%
4時間半以上-5時間未満	-	-	-	-	-	-
5時間以上-5時間半未満	10人	0.8%	9人	1.4%	1人	0.2%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	6人	0.5%	5人	0.8%	1人	0.2%
6時間半以上-7時間未満	3人	0.3%	3人	0.5%	-	-
7時間以上-7時間半未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	23人	1.9%	20人	3.0%	3人	0.6%
無回答	383人	32.3%	229人	34.8%	138人	27.4%

エ 介護、看護

仕事や学校がある日における介護、看護にかかるおおよその時間についてみると、0分（該当なし）を除くと、「1時間以上-1時間半未満」1.6%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「1時間以上-1時間半未満」の割合が最も高くなっています。

(エ)介護、看護	全体		女性		男性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	730人	61.6%	386人	58.7%	336人	66.7%
30分未満	-	-	-	-	-	-
30分以上-1時間未満	11人	0.9%	6人	0.9%	5人	1.0%
1時間以上-1時間半未満	19人	1.6%	13人	2.0%	6人	1.2%
1時間半以上-2時間未満	2人	0.2%	1人	0.2%	1人	0.2%
2時間以上-2時間半未満	13人	1.1%	10人	1.5%	3人	0.6%
2時間半以上-3時間未満	-	-	-	-	-	-
3時間以上-3時間半未満	6人	0.5%	5人	0.8%	1人	0.2%
3時間半以上-4時間未満	-	-	-	-	-	-
4時間以上-4時間半未満	4人	0.3%	3人	0.5%	-	-
4時間半以上-5時間未満	1人	-	-	-	1人	-
5時間以上-5時間半未満	-	-	-	-	-	-
5時間半以上-6時間未満	1人	-	1人	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	-	-	-	-	-	-
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	-	-	-	-	-	-
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	5人	0.4%	4人	0.6%	1人	0.2%
無回答	394人	33.2%	229人	34.8%	150人	29.8%

オ 地域活動、社会活動

仕事や学校がある日における地域活動、社会活動にかけるおおよその時間についてみると、「0分」58.8%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「0分」の割合が最も高くなっています。

(オ) 地域活動、社会活動	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
	調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人
0分	697人	58.8%	382人	58.1%	308人	61.1%
30分未満	9人	0.8%	2人	0.3%	7人	1.4%
30分以上-1時間未満	27人	2.3%	13人	2.0%	14人	2.8%
1時間以上-1時間半未満	37人	3.1%	19人	2.9%	17人	3.4%
1時間半以上-2時間未満	3人	0.3%	2人	0.3%	1人	0.2%
2時間以上-2時間半未満	6人	0.5%	1人	0.2%	5人	1.0%
2時間半以上-3時間未満	2人	0.2%	-	-	2人	0.4%
3時間以上-3時間半未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
3時間半以上-4時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
4時間以上-4時間半未満	-	-	-	-	-	-
4時間半以上-5時間未満	-	-	-	-	-	-
5時間以上-5時間半未満	2人	0.2%	-	-	2人	0.4%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	-	-	-	-	-	-
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
無回答	399人	33.6%	237人	36.0%	146人	29.0%

カ 趣味、娯楽

仕事や学校がある日における趣味、娯楽にかけるおおよその時間についてみると、「0分」21.2%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「0分」の割合が最も高くなっています。

(カ) 趣味、娯楽	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
	調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人
0分	251人	21.2%	135人	20.5%	113人	22.4%
30分未満	5人	0.4%	-	-	5人	1.0%
30分以上-1時間未満	68人	5.7%	40人	6.1%	28人	5.6%
1時間以上-1時間半未満	220人	18.5%	117人	17.8%	102人	20.2%
1時間半以上-2時間未満	16人	1.3%	12人	1.8%	4人	0.8%
2時間以上-2時間半未満	150人	12.6%	75人	11.4%	72人	14.3%
2時間半以上-3時間未満	6人	0.5%	4人	0.6%	2人	0.4%
3時間以上-3時間半未満	72人	6.1%	39人	5.9%	32人	6.3%
3時間半以上-4時間未満	5人	0.4%	3人	0.5%	1人	0.2%
4時間以上-4時間半未満	18人	1.5%	9人	1.4%	9人	1.8%
4時間半以上-5時間未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
5時間以上-5時間半未満	16人	1.3%	9人	1.4%	6人	1.2%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	5人	0.4%	2人	0.3%	3人	0.6%
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	2人	0.2%	1人	0.2%	1人	0.2%
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	6人	0.5%	-	-	5人	1.0%
無回答	345人	29.1%	212人	32.2%	120人	23.8%

仕事や学校がない日

ア 仕事、学校(通勤・通学時間を含む)

該当なし。

イ 家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)

仕事や学校がない日における家事(炊事、買い物、洗濯、掃除など)にかけるおおよその時間についてみると、「2時間以上-2時間半未満」13.0%が最も割合が高く、次いで「3時間以上-3時間半未満」11.8%となっています。

性別にみると、女性は「3時間以上-3時間半未満」15.3%が最も割合が高く、次いで「4時間以上-4時間半未満」14.7%の順となっており、男性は「1時間以上-1時間半未満」17.7%が最も割合が高く、次いで「2時間以上-2時間半未満」16.1%の順となっており、男性より女性の方が家事にかける時間が長いことがわかります。

	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	91人	7.7%	14人	2.1%	77人	15.3%
30分未満	18人	1.5%	1人	0.2%	17人	3.4%
30分以上-1時間未満	68人	5.7%	8人	1.2%	59人	11.7%
1時間以上-1時間半未満	113人	9.5%	24人	3.6%	89人	17.7%
1時間半以上-2時間未満	14人	1.2%	4人	0.6%	10人	2.0%
2時間以上-2時間半未満	154人	13.0%	68人	10.3%	81人	16.1%
2時間半以上-3時間未満	13人	1.1%	6人	0.9%	7人	1.4%
3時間以上-3時間半未満	140人	11.8%	101人	15.3%	39人	7.7%
3時間半以上-4時間未満	17人	1.4%	15人	2.3%	2人	0.4%
4時間以上-4時間半未満	109人	9.2%	97人	14.7%	8人	1.6%
4時間半以上-5時間未満	6人	0.5%	6人	0.9%	-	-
5時間以上-5時間半未満	66人	5.6%	58人	8.8%	8人	1.6%
5時間半以上-6時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
6時間以上-6時間半未満	38人	3.2%	35人	5.3%	3人	0.6%
6時間半以上-7時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
7時間以上-7時間半未満	13人	1.1%	12人	1.8%	1人	0.2%
7時間半以上-8時間未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
8時間以上	35人	3.0%	34人	5.2%	1人	0.2%
無回答	288人	24.3%	173人	26.3%	101人	20.0%

ウ 育児

仕事や学校がない日における育児にかかるおおよその時間についてみると、0分（該当なし）を除くと、「8時間以上」5.7%が最も割合が高くなっています。

性別にみると、女性は「8時間以上」7.4%、男性は「1時間以上-1時間半未満」、「8時間以上」3.8%の割合が高くなっています。

(ウ)育児	全体		女性		男性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	615人	51.9%	321人	48.8%	286人	56.7%
30分未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
30分以上-1時間未満	8人	0.7%	3人	0.5%	5人	1.0%
1時間以上-1時間半未満	35人	3.0%	16人	2.4%	19人	3.8%
1時間半以上-2時間未満	-	-	-	-	-	-
2時間以上-2時間半未満	23人	1.9%	14人	2.1%	9人	1.8%
2時間半以上-3時間未満	-	-	-	-	-	-
3時間以上-3時間半未満	16人	1.3%	6人	0.9%	10人	2.0%
3時間半以上-4時間未満	-	-	-	-	-	-
4時間以上-4時間半未満	17人	1.4%	6人	0.9%	11人	2.2%
4時間半以上-5時間未満	-	-	-	-	-	-
5時間以上-5時間半未満	18人	1.5%	12人	1.8%	6人	1.2%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	12人	1.0%	8人	1.2%	4人	0.8%
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	68人	5.7%	49人	7.4%	19人	3.8%
無回答	372人	31.4%	223人	33.9%	133人	26.4%

エ 介護、看護

仕事や学校がない日における介護、看護にかかるおおよその時間についてみると、0分（該当なし）を除くと、「1時間以上-1時間半未満」2.0%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「1時間以上-1時間半未満」の割合が高くなっています。

(エ)介護、看護	全体		女性		男性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	716人	60.4%	375人	57.0%	333人	66.1%
30分未満	2人	0.2%	2人	0.3%	-	-
30分以上-1時間未満	13人	1.1%	7人	1.1%	6人	1.2%
1時間以上-1時間半未満	24人	2.0%	13人	2.0%	11人	2.2%
1時間半以上-2時間未満	4人	0.3%	3人	0.5%	1人	0.2%
2時間以上-2時間半未満	12人	1.0%	8人	1.2%	4人	0.8%
2時間半以上-3時間未満	-	-	-	-	-	-
3時間以上-3時間半未満	5人	0.4%	5人	0.8%	-	-
3時間半以上-4時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
4時間以上-4時間半未満	10人	0.8%	7人	1.1%	3人	0.6%
4時間半以上-5時間未満	1人	0人	1人	0人	-	-
5時間以上-5時間半未満	3人	0.3%	2人	0.3%	1人	0.2%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
6時間半以上-7時間未満	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
7時間以上-7時間半未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	8人	0.7%	4人	0.6%	4人	0.8%
無回答	384人	32.4%	228人	34.7%	140人	27.8%

オ 地域活動、社会活動

仕事や学校がない日における地域活動、社会活動にかけるおおよその時間についてみると、「0分」52.5%が最も割合が高くなっています。

性別にみても、女性・男性ともに「0分」の割合が高くなっています。

(オ)地域活動、社会活動	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	623人	52.5%	354人	53.8%	263人	52.2%
30分未満	9人	0.8%	4人	0.6%	5人	1.0%
30分以上-1時間未満	37人	3.1%	14人	2.1%	23人	4.6%
1時間以上-1時間半未満	93人	7.8%	37人	5.6%	55人	10.9%
1時間半以上-2時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
2時間以上-2時間半未満	30人	2.5%	11人	1.7%	19人	3.8%
2時間半以上-3時間未満	1人	0.1%	1人	0.2%	-	-
3時間以上-3時間半未満	13人	1.1%	7人	1.1%	6人	1.2%
3時間半以上-4時間未満	-	-	-	-	-	-
4時間以上-4時間半未満	7人	0.6%	1人	0.2%	6人	1.2%
4時間半以上-5時間未満	-	-	-	-	-	-
5時間以上-5時間半未満	4人	0.3%	1人	0.2%	3人	0.6%
5時間半以上-6時間未満	-	-	-	-	-	-
6時間以上-6時間半未満	3人	0.3%	3人	0.5%	-	-
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	-	-	-	-	-	-
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	1人	0.1%	-	-	1人	0.2%
無回答	364人	30.7%	224人	34.0%	123人	24.4%

カ 趣味、娯楽

仕事や学校がない日に趣味、娯楽にかけるおおよその時間についてみると、「2時間以上-2時間半未満」16.1%が最も割合が高く、次いで「3時間以上-3時間半未満」12.9%の順となっています。

性別にみると、女性は「2時間以上-2時間半未満」17.3%が最も割合が高く、次いで「1時間以上-1時間半未満」12.5%、男性は「3時間以上-3時間半未満」15.5%が最も割合が高く、次いで「2時間以上-2時間半未満」15.1%となっており、女性より男性の方が趣味、娯楽にかける時間が長いことがわかります。

(カ)趣味、娯楽	全 体		女 性		男 性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
調査数	1,186人	100.0%	658人	100.0%	504人	100.0%
0分	84人	7.1%	56人	8.5%	28人	5.6%
30分未満	3人	0.3%	1人	0.2%	2人	0.4%
30分以上-1時間未満	33人	2.8%	20人	3.0%	13人	2.6%
1時間以上-1時間半未満	147人	12.4%	82人	12.5%	64人	12.7%
1時間半以上-2時間未満	10人	0.8%	7人	1.1%	3人	0.6%
2時間以上-2時間半未満	191人	16.1%	114人	17.3%	76人	15.1%
2時間半以上-3時間未満	3人	0.3%	3人	0.5%	-	-
3時間以上-3時間半未満	153人	12.9%	75人	11.4%	78人	15.5%
3時間半以上-4時間未満	4人	0.3%	1人	0.2%	2人	0.4%
4時間以上-4時間半未満	76人	6.4%	35人	5.3%	39人	7.7%
4時間半以上-5時間未満	2人	0.2%	2人	0.3%	-	-
5時間以上-5時間半未満	71人	6.0%	38人	5.8%	32人	6.3%
5時間半以上-6時間未満	3人	0.3%	-	-	3人	0.6%
6時間以上-6時間半未満	37人	3.1%	14人	2.1%	20人	4.0%
6時間半以上-7時間未満	-	-	-	-	-	-
7時間以上-7時間半未満	7人	0.6%	2人	0.3%	5人	1.0%
7時間半以上-8時間未満	-	-	-	-	-	-
8時間以上	73人	6.2%	25人	3.8%	48人	9.5%
無回答	289人	24.4%	183人	27.8%	91人	18.1%

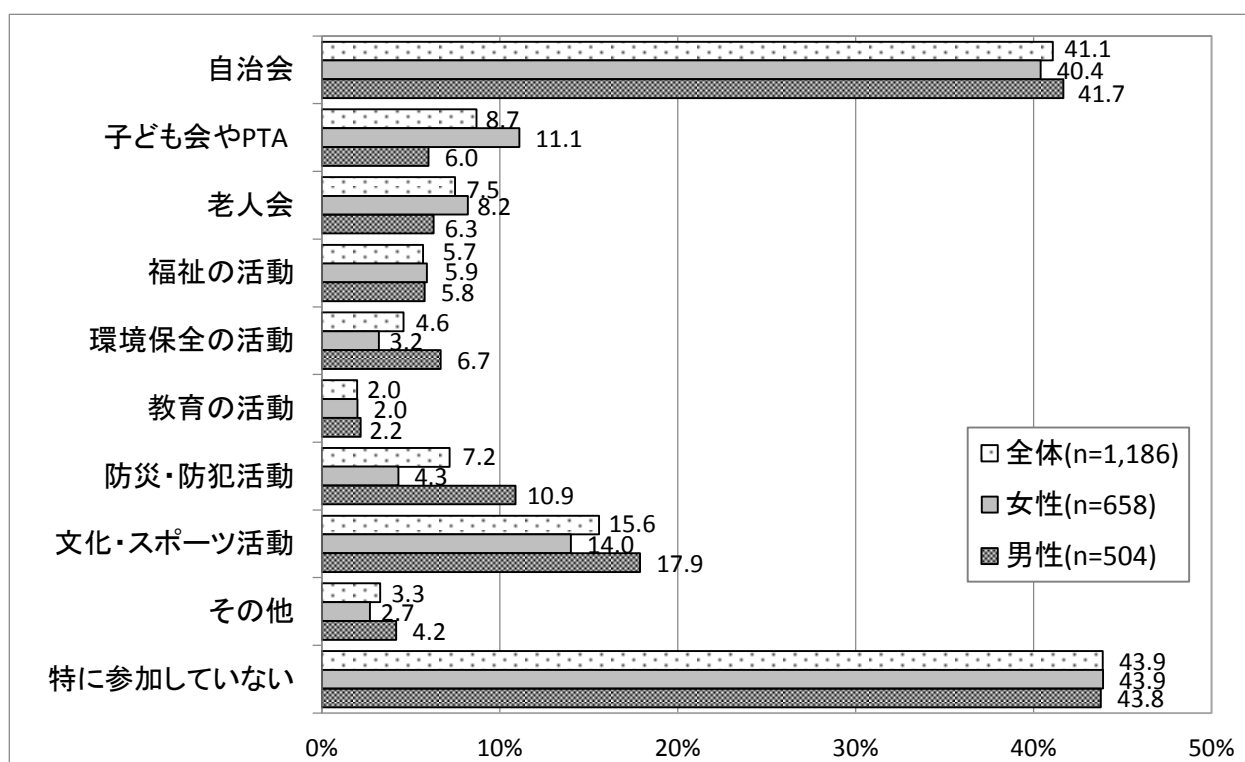
問 12. 地域活動や社会活動について、あなたが参加しているものは何ですか。

(〇はあてはまるものすべて)

地域活動や社会活動への参加状況を見ると、「特に参加していない」43.9%が最も割合が高く、次いで「自治会」41.1%、「文化・スポーツ活動」15.6%、「子ども会やPTA」8.7%の順となっています。「その他」としては、「婦人会」、「ボランティア活動」、「コミュニティ活動」などの回答がありました。

性別にみると、女性より男性の方が「防災・防犯活動」や「文化・スポーツ活動」、「環境保全の活動」、男性より女性の方が「子ども会やPTA」、「老人会」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、20～40歳代は「特に参加していない」、50歳代以降は「自治会」の割合が最も高くなっています。



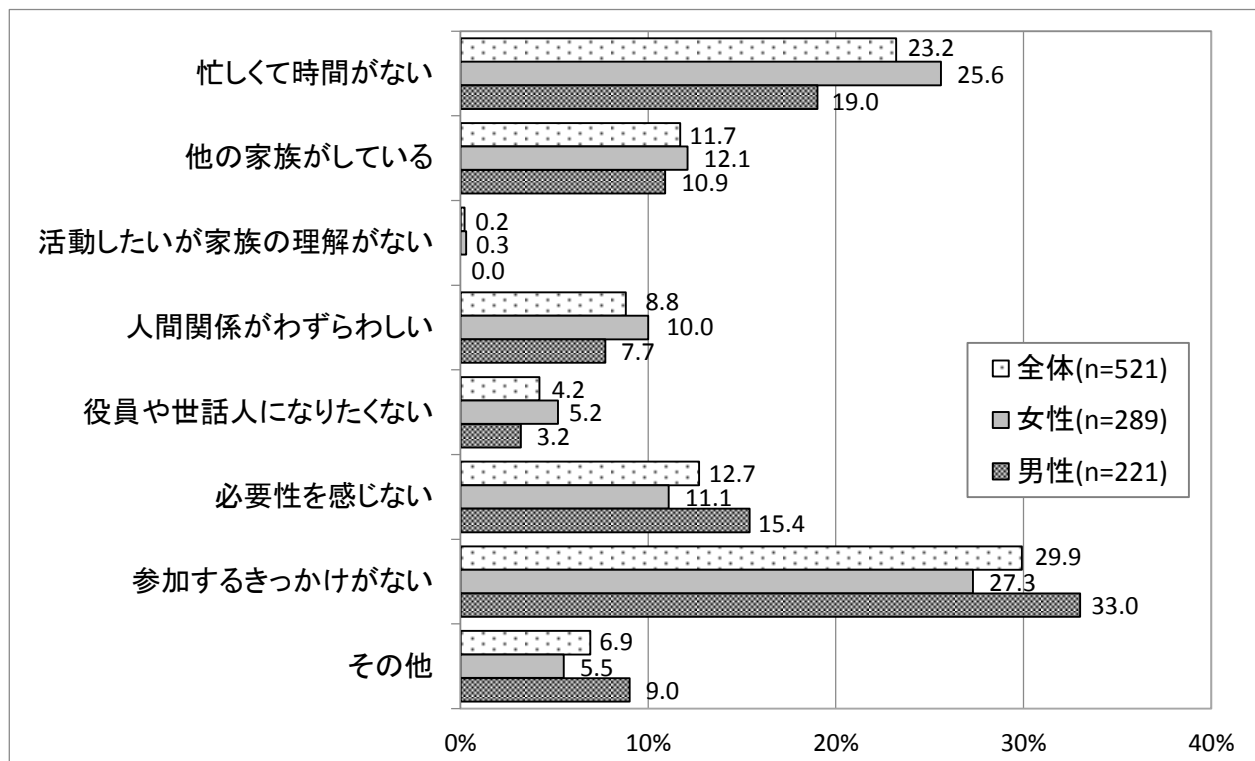
	自治会	子ども会やPTA	老人会	福祉の活動	環境保全の活動	教育の活動	防災・防犯活動	文化・スポーツ活動	その他	特に参加していない	無回答
20歳代 (n=81)	7.4%	0.0%	0.0%	2.5%	1.2%	2.5%	2.5%	13.6%	0.0%	79.0%	1.2%
30歳代 (n=160)	15.6%	19.4%	0.0%	2.5%	0.0%	1.3%	0.0%	11.3%	1.9%	59.4%	0.0%
40歳代 (n=181)	22.7%	27.6%	0.0%	2.8%	1.1%	3.9%	4.4%	14.4%	2.8%	49.2%	1.1%
50歳代 (n=199)	44.7%	8.0%	0.0%	2.0%	5.0%	2.0%	7.0%	12.6%	5.0%	39.2%	1.0%
60歳代 (n=332)	59.0%	1.2%	7.5%	9.6%	6.6%	1.2%	8.4%	20.2%	3.0%	32.8%	0.6%
70歳以上 (n=227)	56.4%	0.9%	28.2%	9.3%	8.8%	2.2%	14.5%	16.7%	4.8%	36.6%	4.4%

問 13. <<問 12 で「特に参加していない」と答えた方にうかがいます>> →そのほかの方は問 14 へ
その主な理由は何ですか。(○は1つ)

地域活動や社会活動に「特に参加していない」と答えた方の参加していない理由についてみると、「参加するきっかけがない」29.9%が最も割合が高く、次いで「忙しくて時間がない」23.2%、「必要性を感じない」12.7%、「他の家族がしている」11.7%の順となっています。「その他」としては、「自治会に入っていない」、「体力がない・体調が悪い」、「高齢のため」などの回答がありました。

性別にみると、女性より男性の方が「参加するきっかけがない」や「必要性を感じない」、男性より女性の方が「忙しくて時間がない」、「他の家族がしている」、「人間関係がわずらわしい」、「役員や世話人になりたくない」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、50歳代を除く年代では「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっており、70歳以上では「必要性を感じない」も同じ割合となっています。50歳代では「忙しくて時間がない」の割合が最も高くなっています。



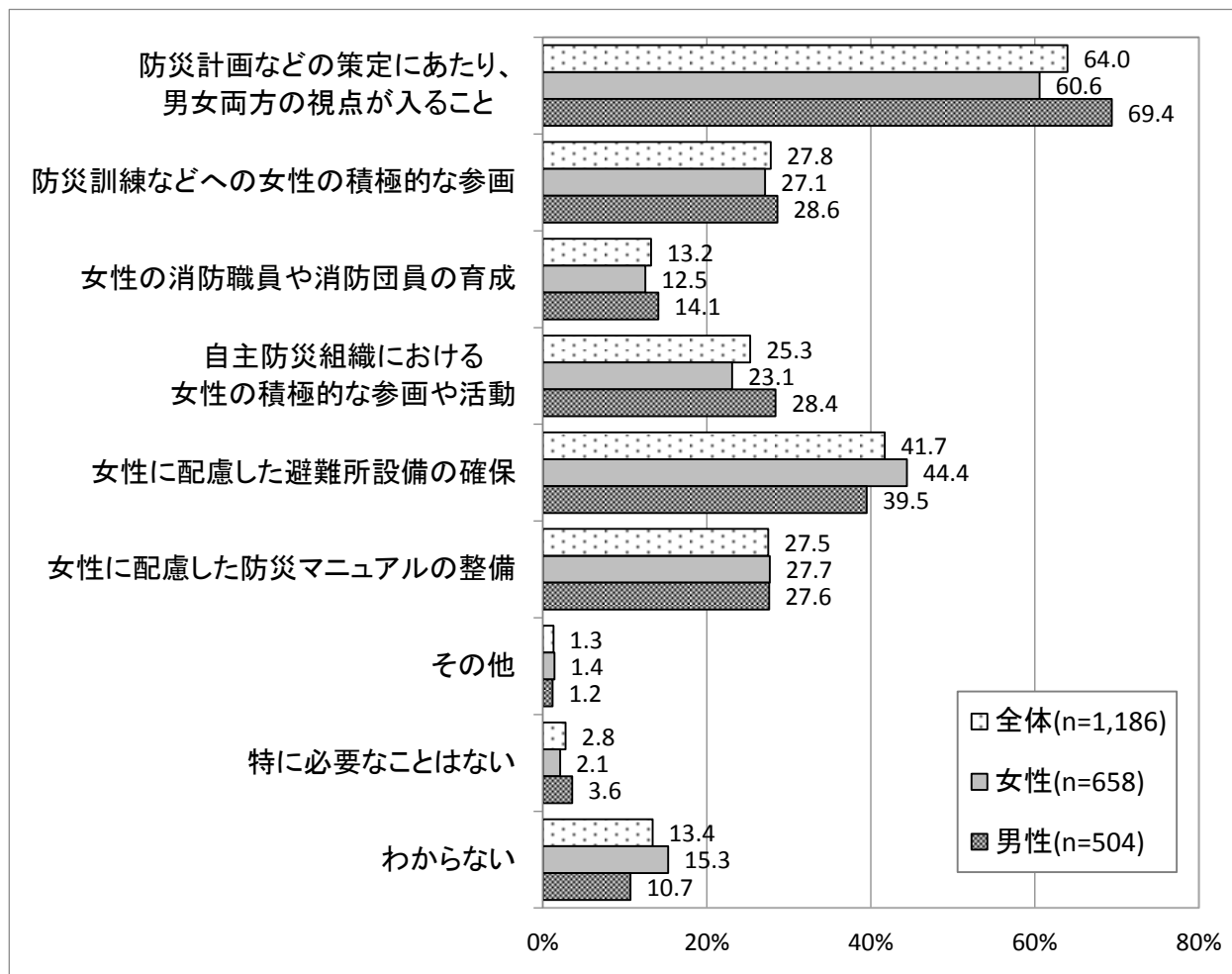
	忙しくて時間がない	他の家族がしている	活動したいが家族の理解がない	人間関係がわずらわしい	役員や世話人になりたくない	必要性を感じない	参加するきっかけがない	その他
20歳代 (n=64)	18.8%	14.1%	0.0%	1.6%	0.0%	15.6%	50.0%	0.0%
30歳代 (n=95)	25.3%	18.9%	1.1%	4.2%	2.1%	13.7%	31.6%	2.1%
40歳代 (n=89)	28.1%	9.0%	0.0%	7.9%	5.6%	10.1%	32.6%	5.6%
50歳代 (n=78)	34.6%	10.3%	0.0%	9.0%	7.7%	6.4%	24.4%	6.4%
60歳代 (n=109)	20.2%	11.0%	0.0%	15.6%	3.7%	11.0%	28.4%	6.4%
70歳以上 (n=83)	12.0%	7.2%	0.0%	12.0%	6.0%	18.1%	18.1%	20.5%

問 14. ≪全員にうかがいます≫

防災(災害復興も含みます)活動に関して、男女共同参画を推進していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

防災(災害復興も含みます)活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについてみると、「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」64.0%が最も割合が高く、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」41.7%、「防災訓練などへの女性の積極的な参画」27.8%、「女性に配慮した防災マニュアルの整備」27.5%の順となっています。「その他」としては、「女性が参加しやすい環境づくり」、「子どもを含めた参画や活動」、「個人の意識の問題」などの回答がありました。

性別にみると、女性より男性の方が「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」、男性より女性の方が「女性に配慮した避難所設備の確保」の割合が高くなっています。



年齢別にみても、どの年齢においても「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」の割合が最も高くなっており、特に、40～50歳代では約70%を占めています。

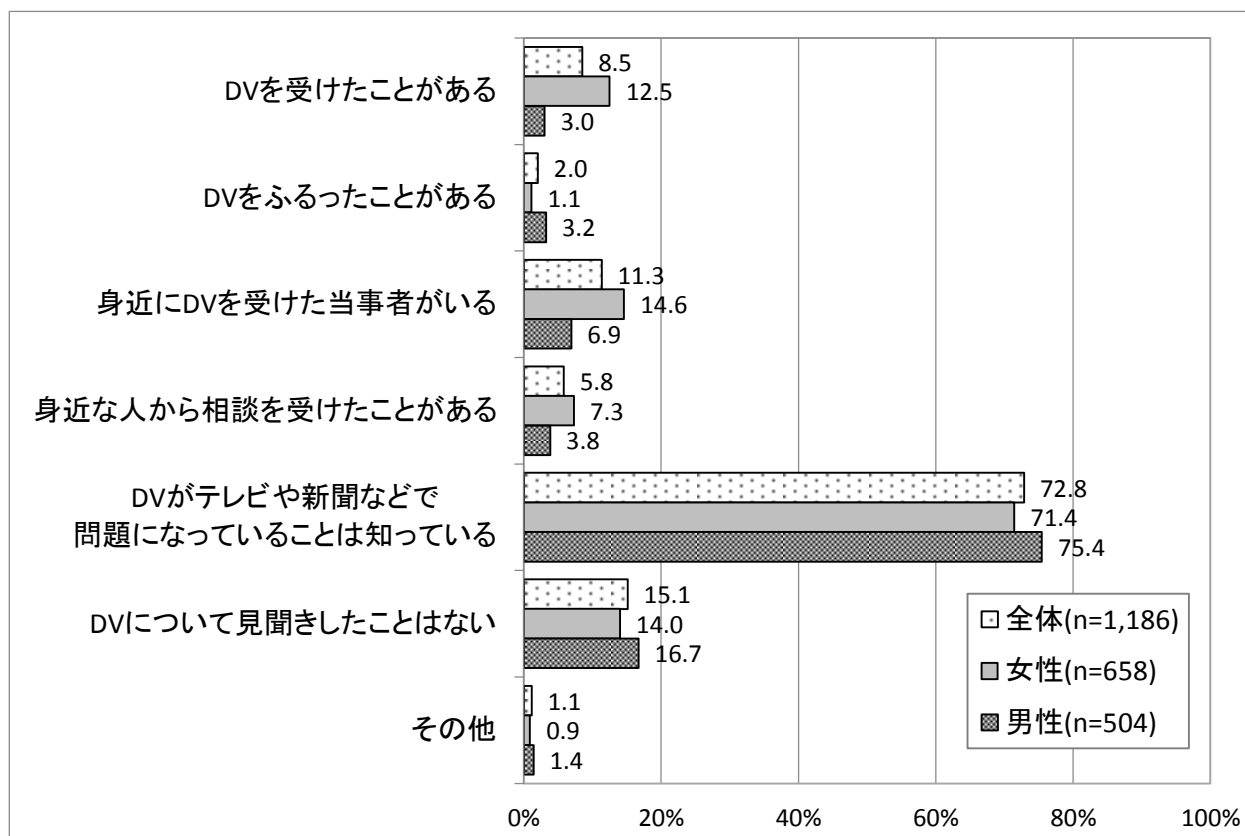
	防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること	防災訓練などへの女性の積極的な参画	女性の消防職員や消防団員の育成	自主防災組織における女性の積極的な参画や活動	女性に配慮した避難所設備の確保	女性に配慮した防災マニュアルの整備	その他	特に必要なことはない	わからない
20歳代 (n=81)	59.3%	18.5%	14.8%	19.8%	48.1%	28.4%	2.5%	6.2%	14.8%
30歳代 (n=160)	61.9%	18.1%	16.3%	12.5%	48.8%	28.8%	1.9%	5.6%	15.6%
40歳代 (n=181)	69.1%	22.1%	14.9%	19.3%	40.9%	30.9%	1.7%	2.8%	15.5%
50歳代 (n=199)	70.9%	28.1%	9.5%	28.1%	44.7%	28.6%	1.0%	0.5%	14.1%
60歳代 (n=332)	64.2%	35.2%	13.6%	31.0%	38.9%	28.0%	0.9%	2.1%	9.9%
70歳以上 (n=227)	57.7%	31.3%	12.3%	30.0%	37.0%	22.5%	0.9%	2.6%	13.7%

5 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

問 15. あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)(※)を経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについてみると、「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」72.8%が最も割合が高く、次いで「DVについて見聞きしたことはない」15.1%、「身近にDVを受けた当事者がいる」11.3%、「DVを受けたことがある」8.5%の順となっています。「その他」としては、「関係施設で働いた経験がある」、「身近に加害者がいる」などの回答がありました。

「DVを受けたことがある」と回答した人を性別にみると、女性は12.5%、男性は3.0%となっています。

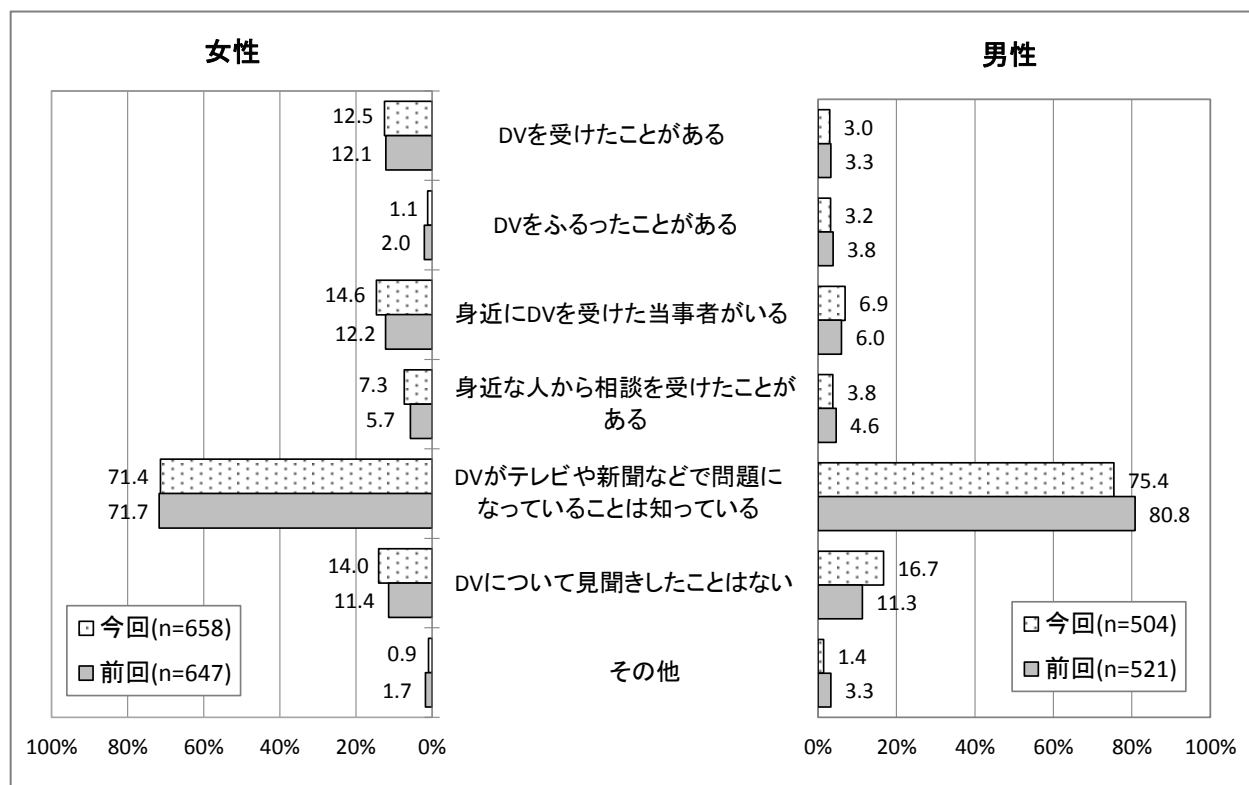


※ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者や恋人などの親密な関係にあるパートナーから受ける暴力のことをいいます。殴る、蹴るなどの身体的暴力のみならず、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力や社会的暴力など、広く意味します。

年齢別にみても、どの年齢においても「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高く、70歳未満では70%を超えています。

	DVを受けたことがある	DVをふるったことがある	身近にDVを受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている	DVについて見聞きしたことはない	その他
20歳代 (n=81)	6.2%	0.0%	17.3%	2.5%	77.8%	12.3%	0.0%
30歳代 (n=160)	13.8%	3.1%	13.8%	8.8%	76.3%	10.6%	0.6%
40歳代 (n=181)	12.2%	2.8%	17.1%	9.4%	74.0%	11.6%	2.2%
50歳代 (n=199)	13.6%	2.0%	13.1%	5.5%	71.9%	11.6%	1.0%
60歳代 (n=332)	4.8%	2.4%	7.2%	3.3%	77.4%	17.8%	0.9%
70歳以上 (n=227)	3.5%	0.9%	6.6%	5.7%	62.6%	21.6%	1.3%

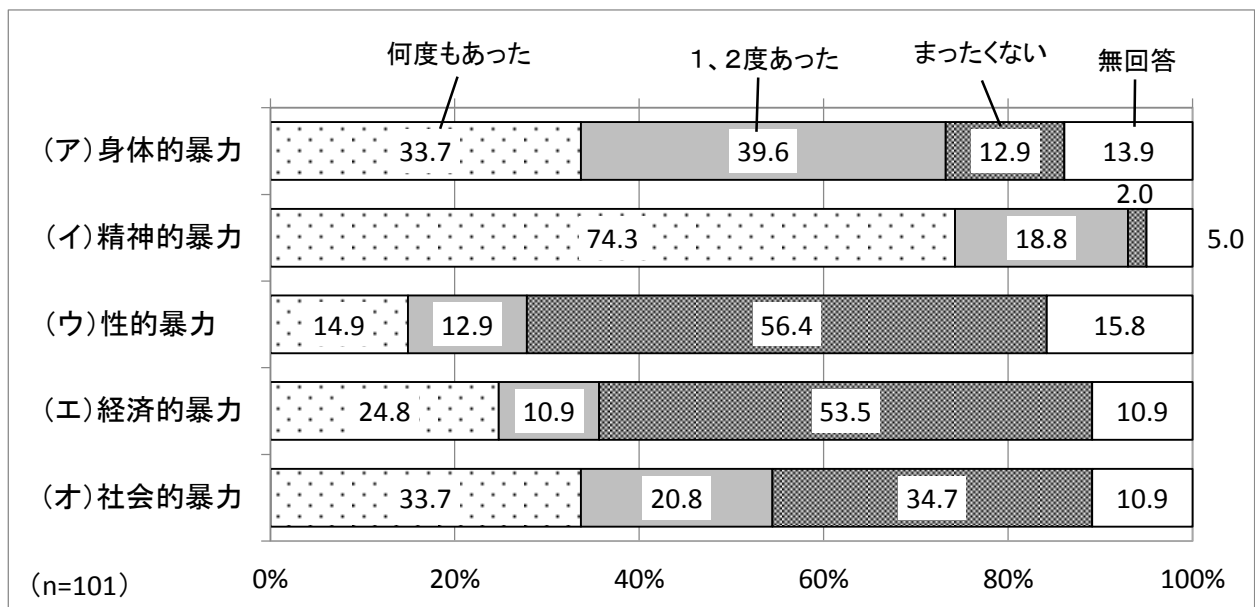
前回調査と比較すると、女性・男性ともに「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合は若干低くなっており、女性は「DVを受けたことがある」、「身近にDVを受けた当事者がいる」、「身近な人から相談を受けたことがある」、「DVについて見聞きしたことはない」の割合は若干高くなっています。



問 16. <<問 15 で「DV を受けたことがある」と答えた方にうかがいます>> →そのほかの方は問 19 へ
(ア)から(オ)までのような暴力を受けたことがありますか。(○は各項目1つずつ)

「DVを受けたことがある」と答えた方の暴力の内容についてみると、「何度もあった」では『(イ) 精神的暴力』74.3%が最も割合が高く、次いで『(ア) 身体的暴力』、『(オ) 社会的暴力』33.7%、『(エ) 経済的暴力』24.8%、『(ウ) 性的暴力』14.9%の順となっています。

年齢別にみると、『(ア) 身体的暴力』は30歳代、50歳代で「何どもあった」、その他の年齢では「1、2度あった」の割合が最も高くなっています。『(イ) 精神的暴力』はすべての年代で「何どもあった」の割合が最も高く、特に20歳代、60歳代では80%以上を占めています。『(ウ) 性的暴力』、『(エ) 経済的暴力』はすべての年代で「まったくない」の割合が最も高くなっており、70歳以上は『(エ) 経済的暴力』が「何どもあった」方も同じ割合となっています。『(オ) 社会的暴力』は30～40歳代は「何どもあった」、20歳代、50歳代は「1、2度あった」、60歳代、70歳以上は「まったくない」の割合が最も高くなっています。

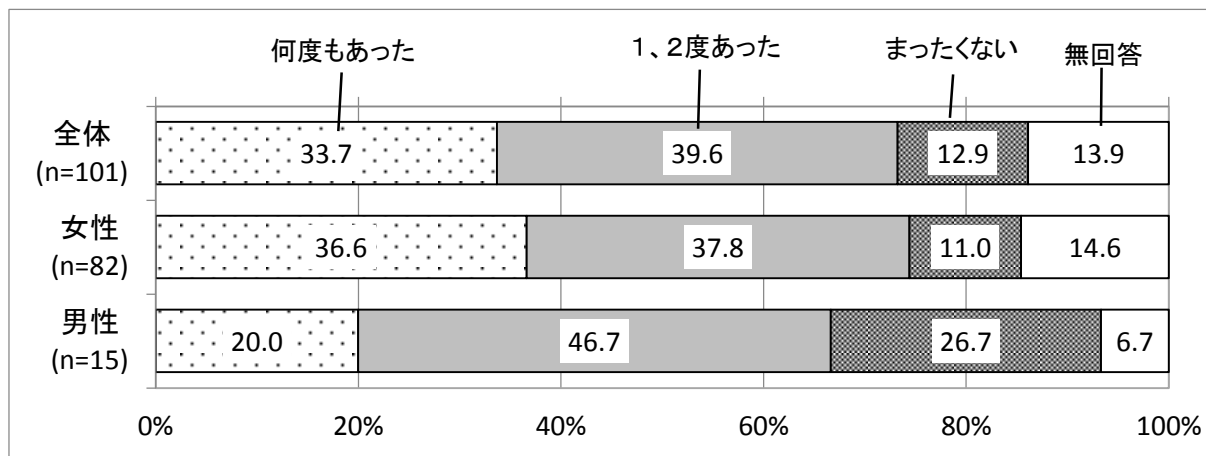


		何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
(ア) 身体的暴力	20歳代(n=5)	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	30歳代(n=22)	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%
	40歳代(n=22)	22.7%	45.5%	18.2%	13.6%
	50歳代(n=27)	48.1%	25.9%	18.5%	7.4%
	60歳代(n=16)	6.3%	50.0%	12.5%	31.3%
	70歳以上(n=8)	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
(イ) 精神的暴力	20歳代(n=5)	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	30歳代(n=22)	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%
	40歳代(n=22)	68.2%	18.2%	4.5%	9.1%
	50歳代(n=27)	77.8%	14.8%	3.7%	3.7%
	60歳代(n=16)	81.3%	12.5%	0.0%	6.3%
	70歳以上(n=8)	75.0%	12.5%	0.0%	12.5%
(ウ) 性的暴力	20歳代(n=5)	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
	30歳代(n=22)	27.3%	13.6%	59.1%	0.0%
	40歳代(n=22)	18.2%	13.6%	50.0%	18.2%
	50歳代(n=27)	11.1%	14.8%	59.3%	14.8%
	60歳代(n=16)	6.3%	6.3%	62.5%	25.0%
	70歳以上(n=8)	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%
(エ) 経済的暴力	20歳代(n=5)	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%
	30歳代(n=22)	22.7%	13.6%	63.6%	0.0%
	40歳代(n=22)	31.8%	13.6%	45.5%	9.1%
	50歳代(n=27)	33.3%	14.8%	48.1%	3.7%
	60歳代(n=16)	12.5%	0.0%	68.8%	18.8%
	70歳以上(n=8)	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%
(オ) 社会的暴力	20歳代(n=5)	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	30歳代(n=22)	50.0%	13.6%	36.4%	0.0%
	40歳代(n=22)	40.9%	13.6%	36.4%	9.1%
	50歳代(n=27)	25.9%	33.3%	29.6%	11.1%
	60歳代(n=16)	25.0%	12.5%	43.8%	18.8%
	70歳以上(n=8)	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%

ア 身体的暴力(殴る、蹴る、物を殴る、突き飛ばすなど)

身体的暴力(殴る、蹴る、物を殴る、突き飛ばすなど)についてみると、「1、2度あった」39.6%が最も割合が高く、次いで「何度もあった」33.7%、「まったくない」12.9%となっています。

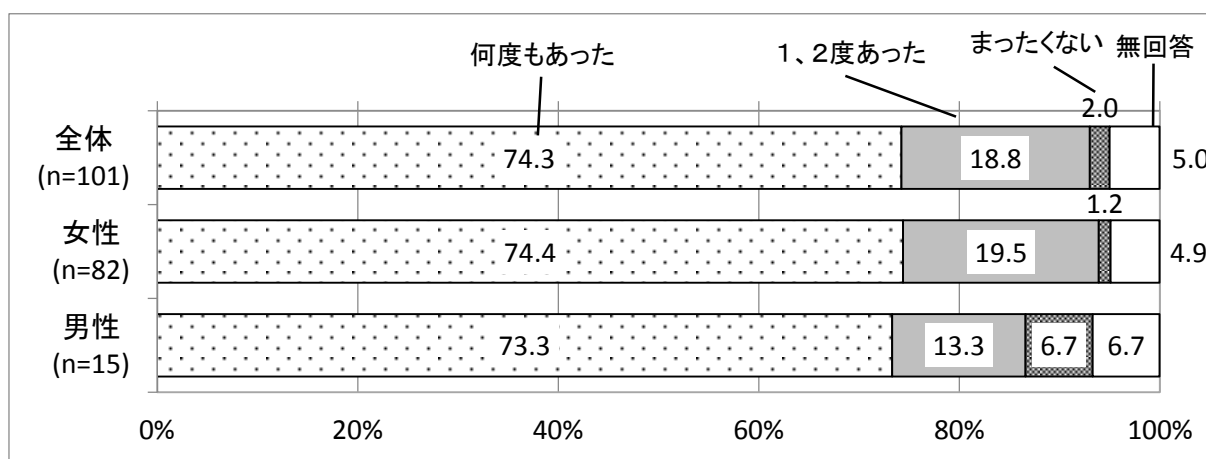
性別にみると、男性より女性の方が「何度もあった」の割合が高くなっています。



イ 精神的暴力(長時間の無視、ののしる、脅迫する、大声で怒鳴るなど)

精神的暴力(長時間の無視、ののしる、脅迫する、大声で怒鳴るなど)についてみると、「何どもあった」74.3%が最も割合が高く、次いで「1、2度あった」18.8%、「まったくない」2.0%となっています。

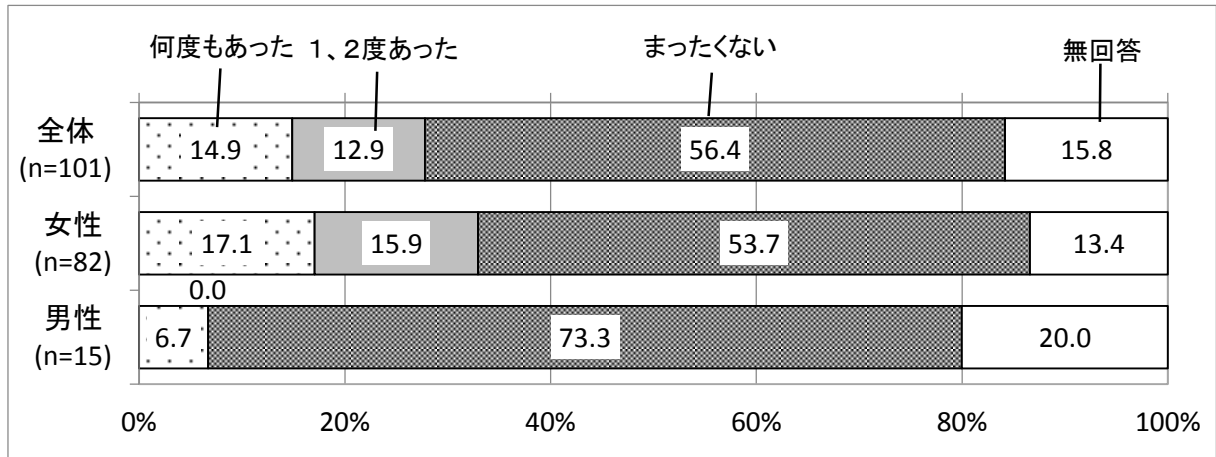
性別にみると、「何どもあった」は性別で大きな差はありませんが、「1、2度あった」は、男性より女性の割合が高くなっています。



ウ 性的暴力(性的行為の強要、避妊に協力しないなど)

性的暴力(性的行為の強要、避妊に協力しないなど)についてみると、「まったくない」56.4%が最も割合が高く、次いで「何度もあった」14.9%、「1、2度あった」12.9%となっています。

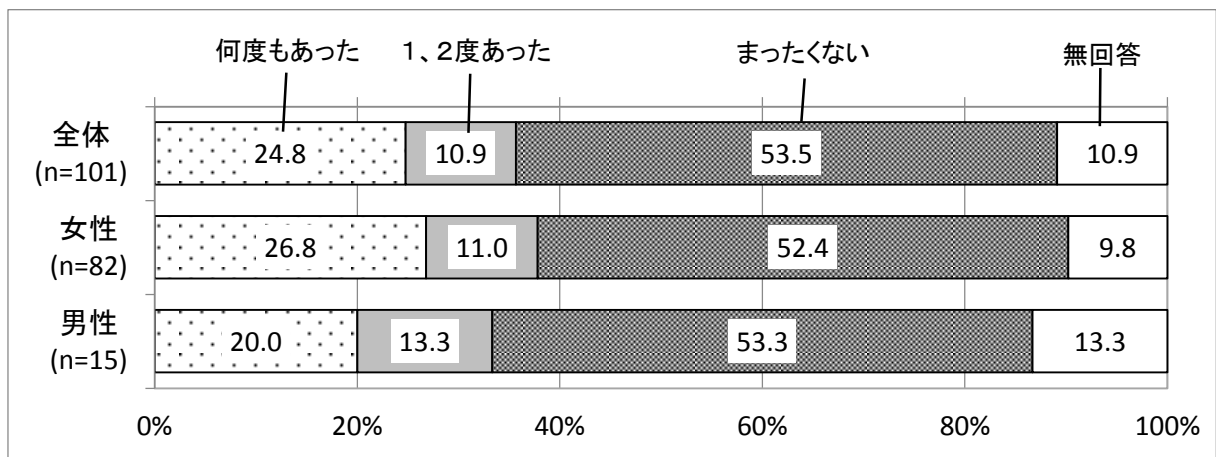
性別にみると、男性より女性の方が「何どもあった」、「1、2度あった」の割合が高くなっています。



エ 経済的暴力(生活費を渡さない、借金を重ねる、金品を要求するなど)

経済的暴力(生活費を渡さない、借金を重ねる、金品を要求するなど)についてみると、「まったくない」53.5%が最も割合が高く、次いで「何どもあった」24.8%、「1、2度あった」10.9%となっています。

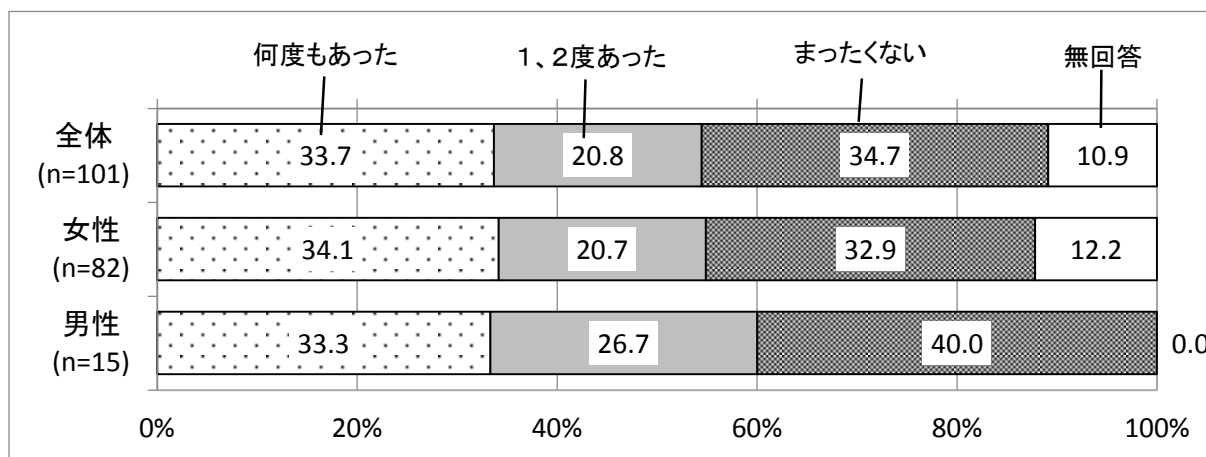
性別にみると、男性より女性の方が「何どもあった」の割合が高くなっています。



オ 社会的暴力(外出の制限、交友関係や電話の監視など)

社会的暴力(外出の制限、交友関係や電話の監視など)についてみると、「まったくない」34.7%が最も割合が高く、次いで「何度もあった」33.7%、「1、2度あった」20.8%となっています。

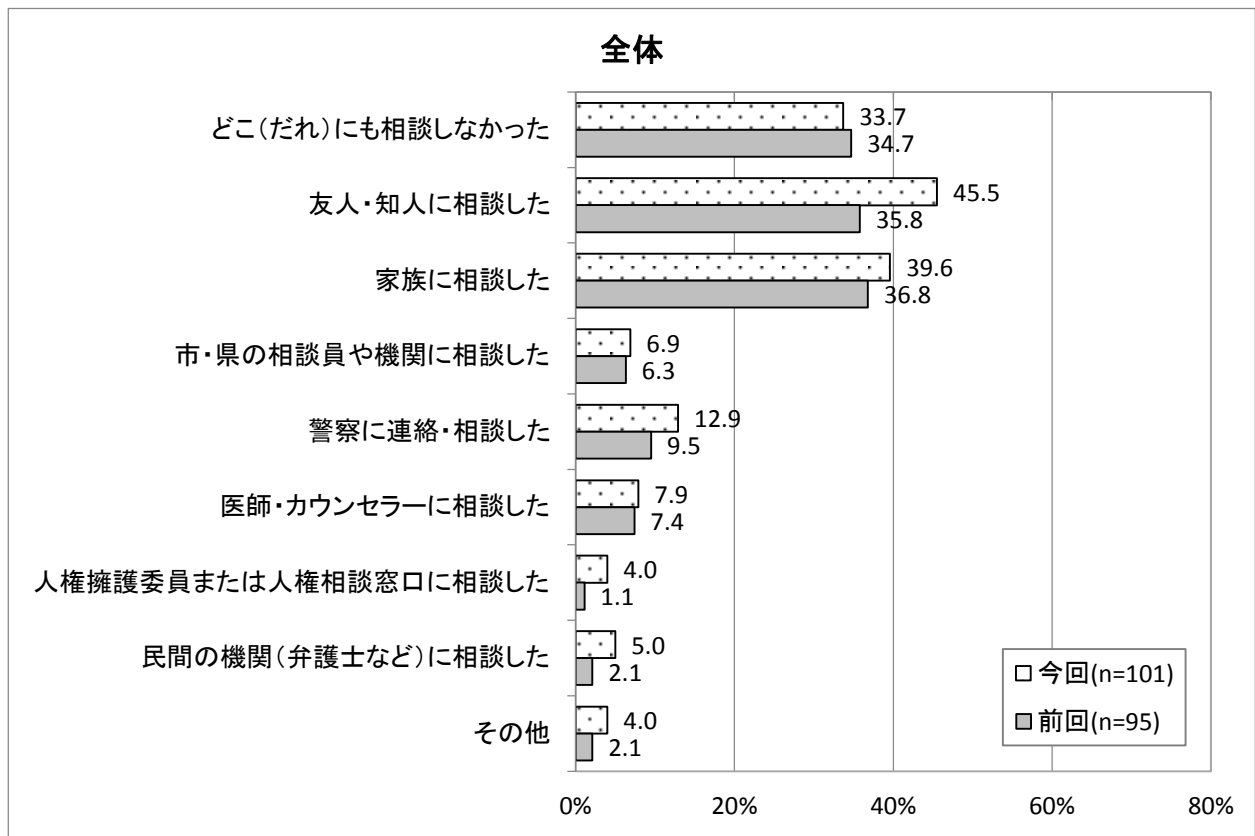
性別にみると、女性より男性の方が「何度もあった」および「1、2度あった」の割合の合計が高くなっています。



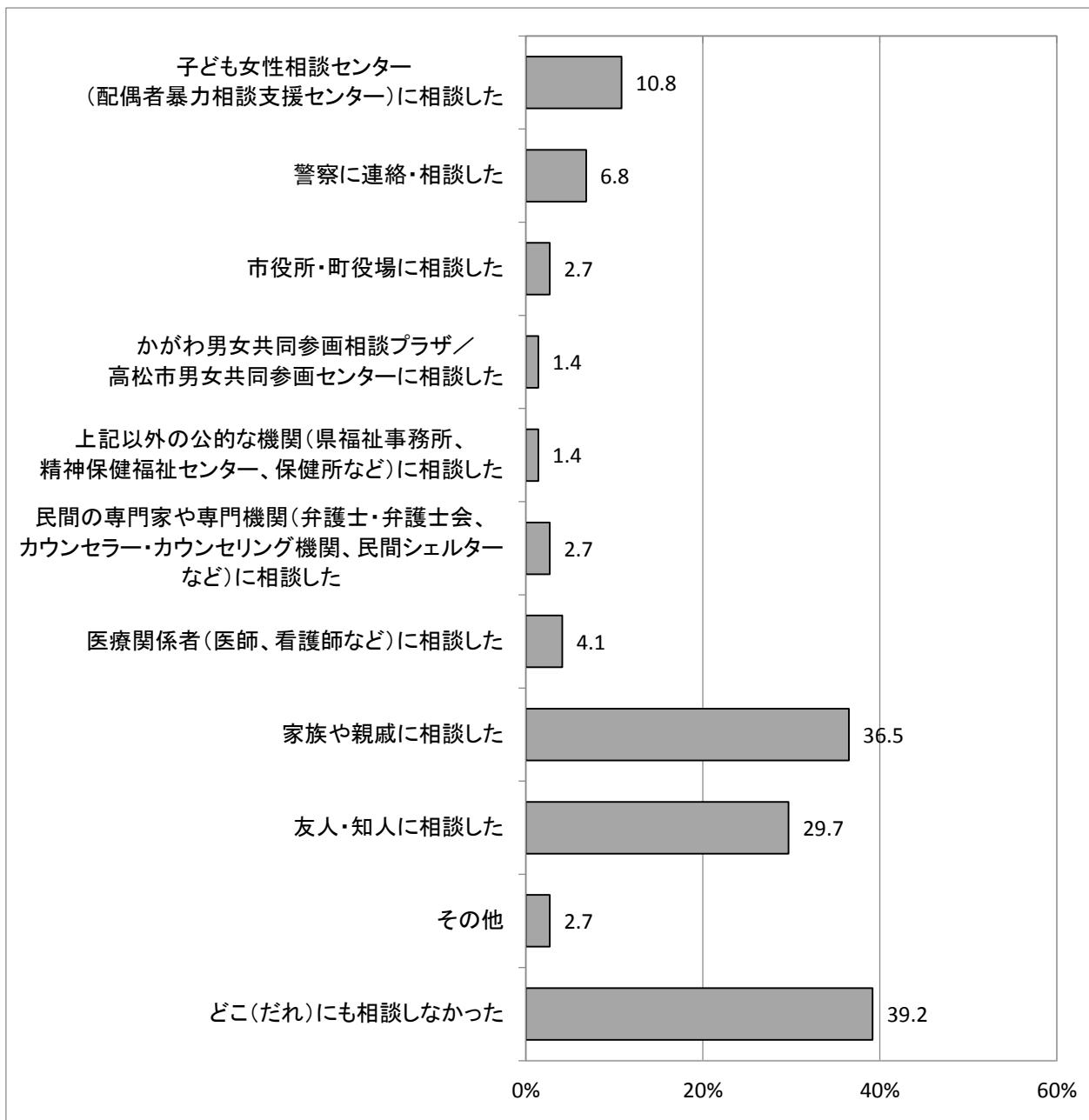
問 17. ≪問 15 で「DV を受けたことがある」と答えた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問 19 へ
 あなたは、そのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。
 (○はあてはまるものすべて)

DVを受けたことがある方がDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかをみると、「友人・知人に相談した」45.5%が最も割合が高く、次いで「家族に相談した」39.6%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」33.7%の順となっています。「その他」としては、「夫婦喧嘩の延長なので諦めていた」、「深刻なものではなかった」、「家庭裁判所、悩み相談電話」、「兄弟に託した」といった回答がありました。

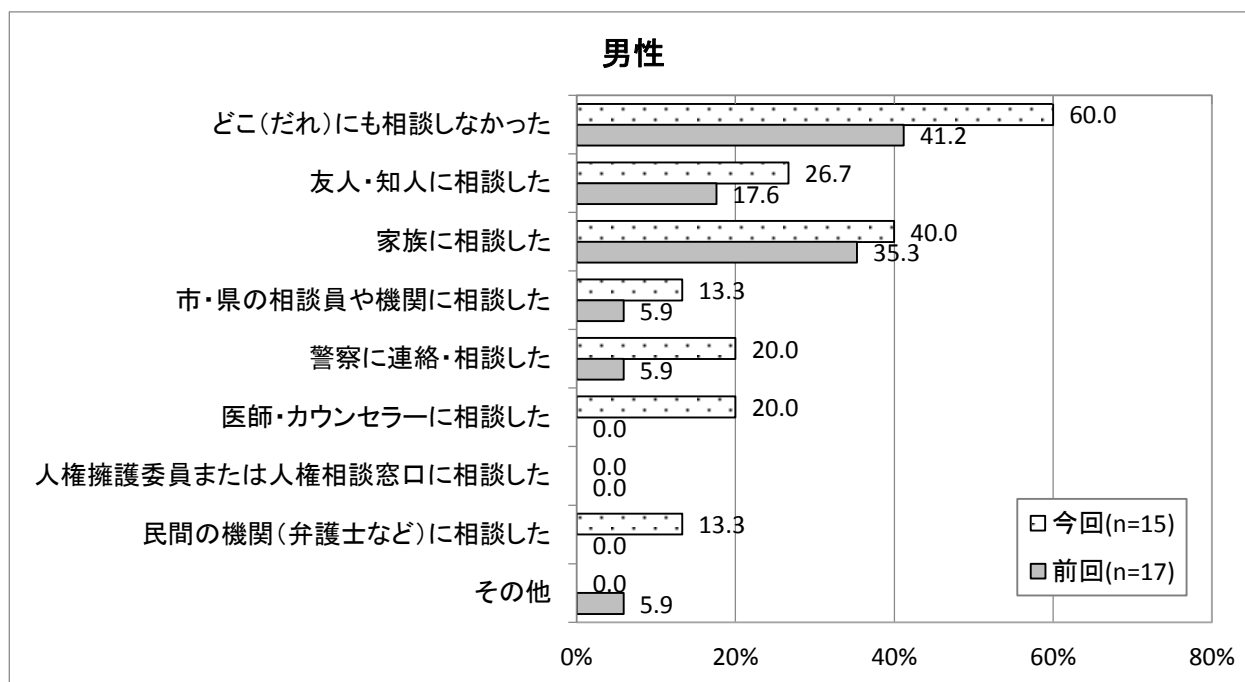
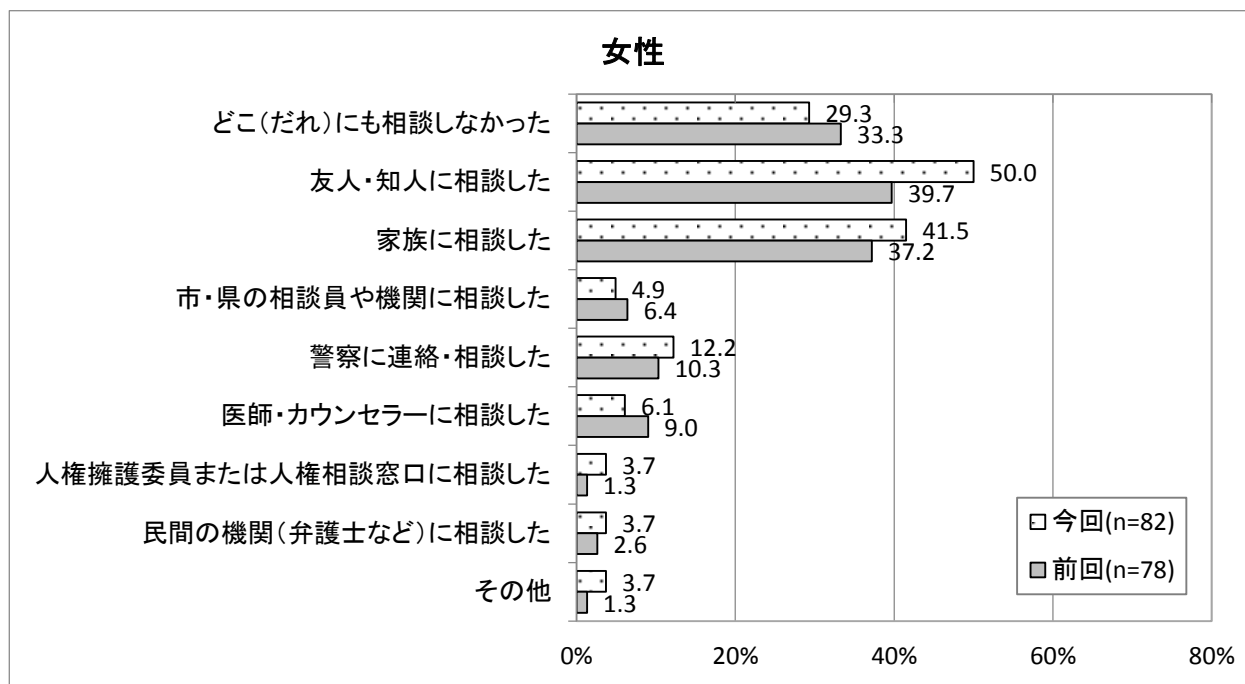
前回調査と比較すると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が低くなっており、「どこ（だれ）かに相談した」割合が高くなっています。



【参考：香川県調査】



性別にみると、女性より男性の方が「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、女性は「友人・知人に相談した」が10ポイント以上高くなっています。男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が約19ポイント高くなっていますが、「警察に連絡・相談した」や前回調査で該当者がいなかった「医師・カウンセラーに相談した」、「民間の機関（弁護士など）に相談した」の割合が高くなっています。



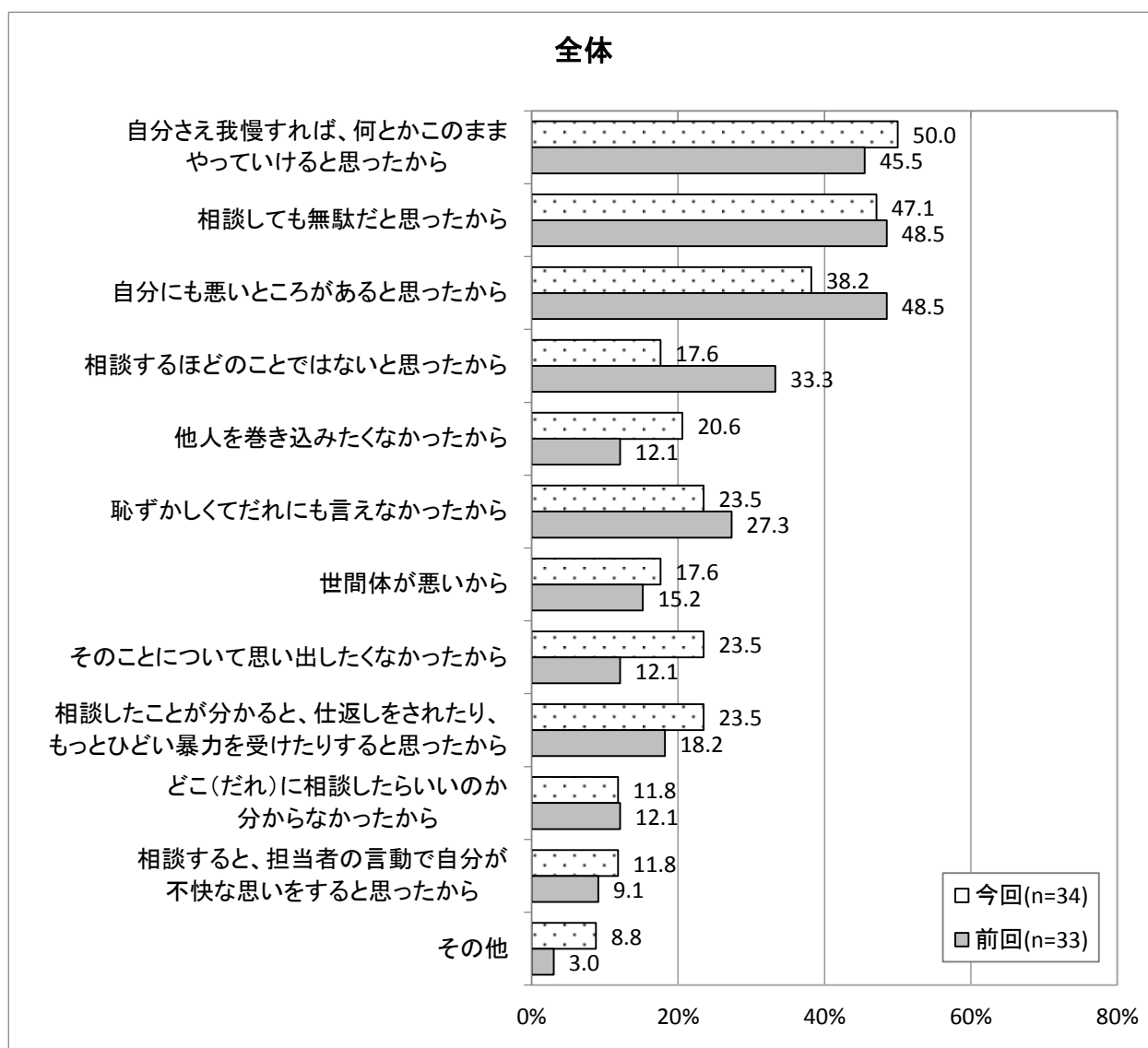
問 18. ≪問 17 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます≫

→そのほかの方は問 19 へ

相談しなかったのはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

DVを受けたことがある方のうち、DVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしなかった理由をみると、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」50.0%が最も割合が高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」47.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」38.2%の順となっています。「その他」としては、「自立のため経済力を保つことを優先した」、「離婚すれば終わると思った」、「男の場合は相手にさせない」といった回答がありました。

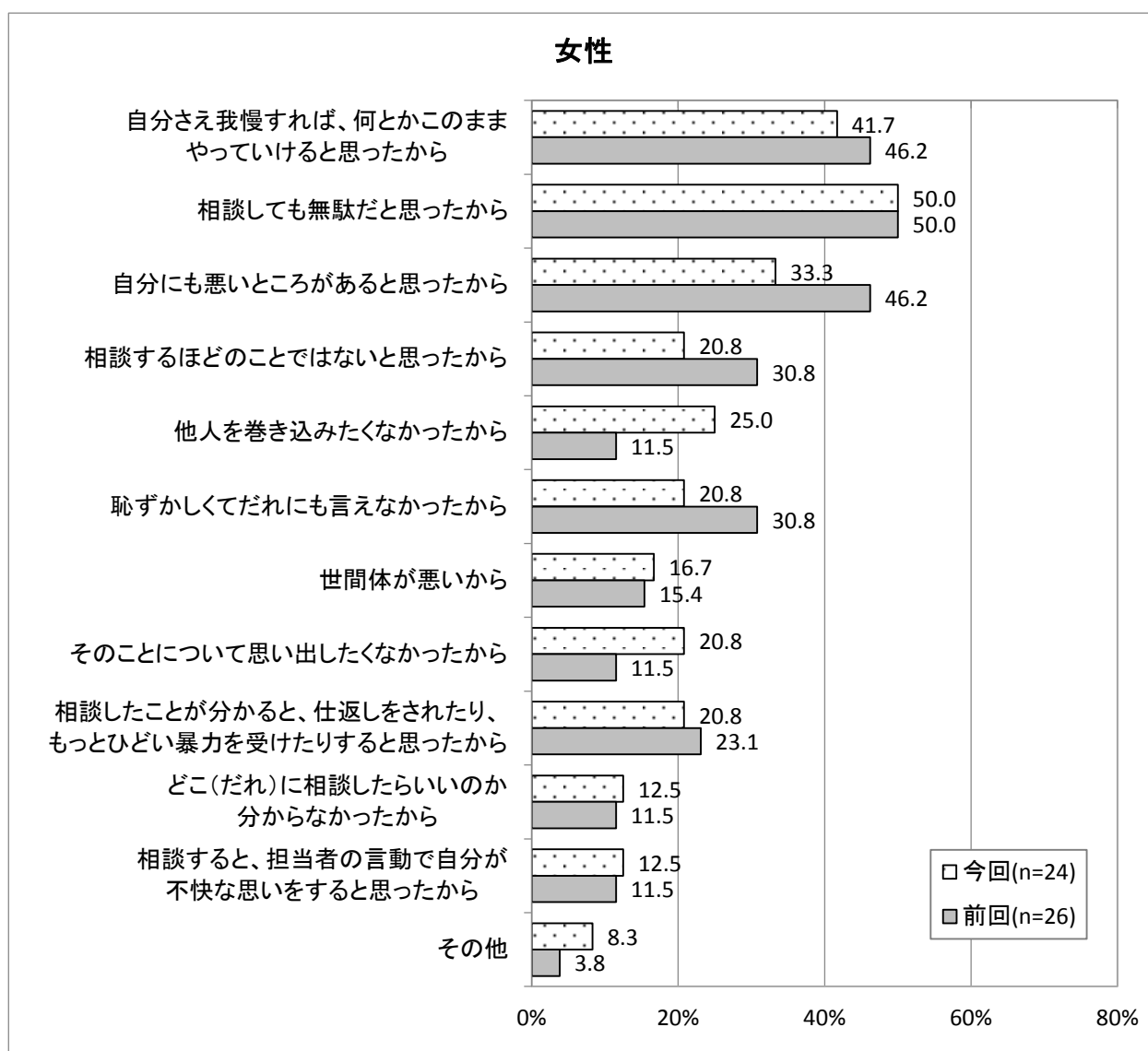
前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合は約10ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合は約16ポイント低くなっており、「他人を巻き込みたくなかったから」の割合は約9ポイント、「そのことについて思い出したくなかったから」の割合は約11ポイント高くなっています。



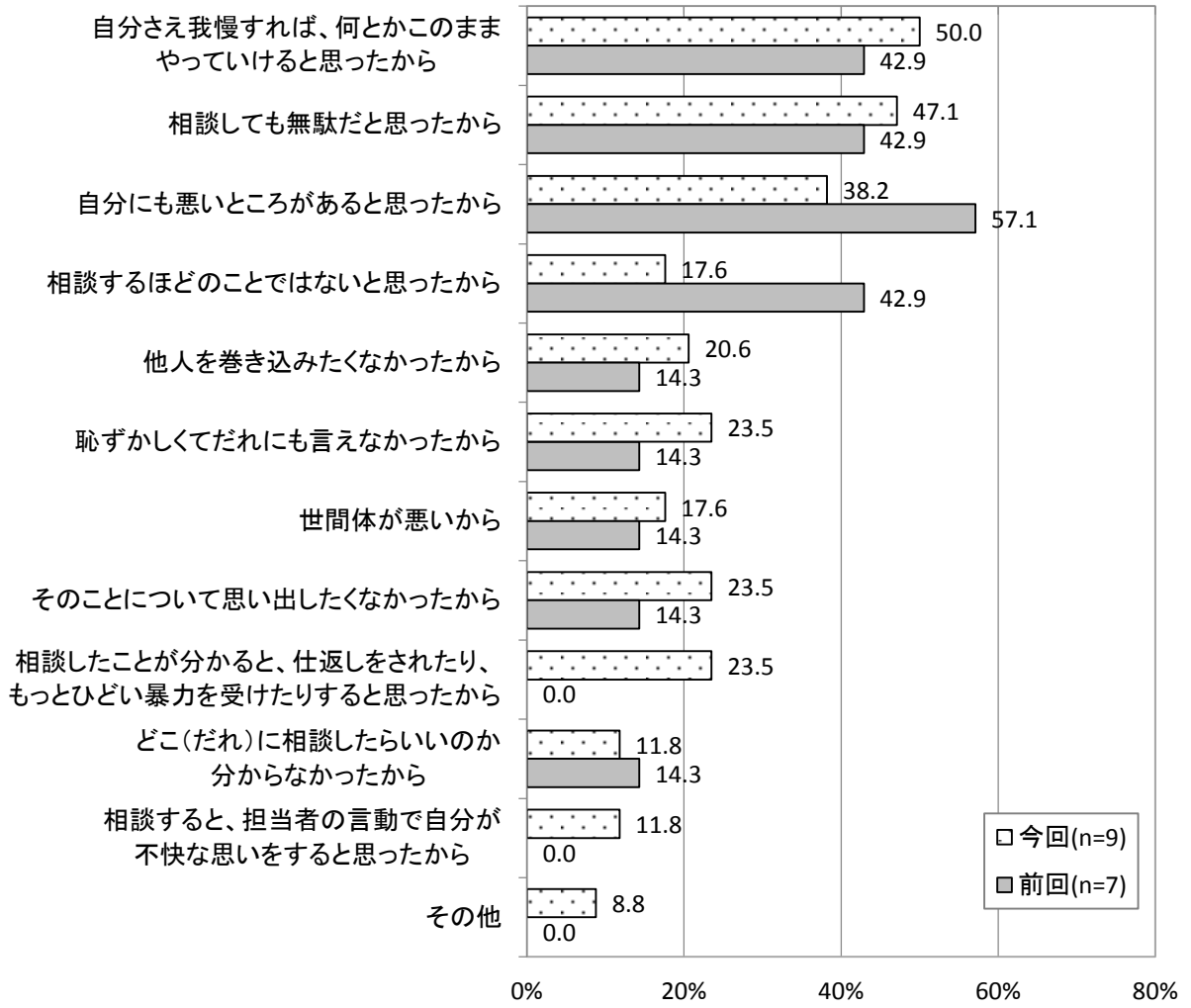
性別にみると、女性より男性の方が「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」、
「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性は「他人を巻き込みたくなかったから」の割合が約 14 ポイント、「そのこ
とについて思い出したくなかったから」の割合が約 9 ポイント高くなっています。

男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が約 19 ポイント、「相談するほどのことでは
ないと思ったから」の割合が約 25 ポイント低くなっています。また、「相談すると、担当者の言動で自分
が不快な思いをすと思ったから」の割合が約 12 ポイント、「相談したことが分ると、仕返しをされたり、
もっとひどい暴力を受けたりすと思ったから」が約 24 ポイント高くなっています。



男性

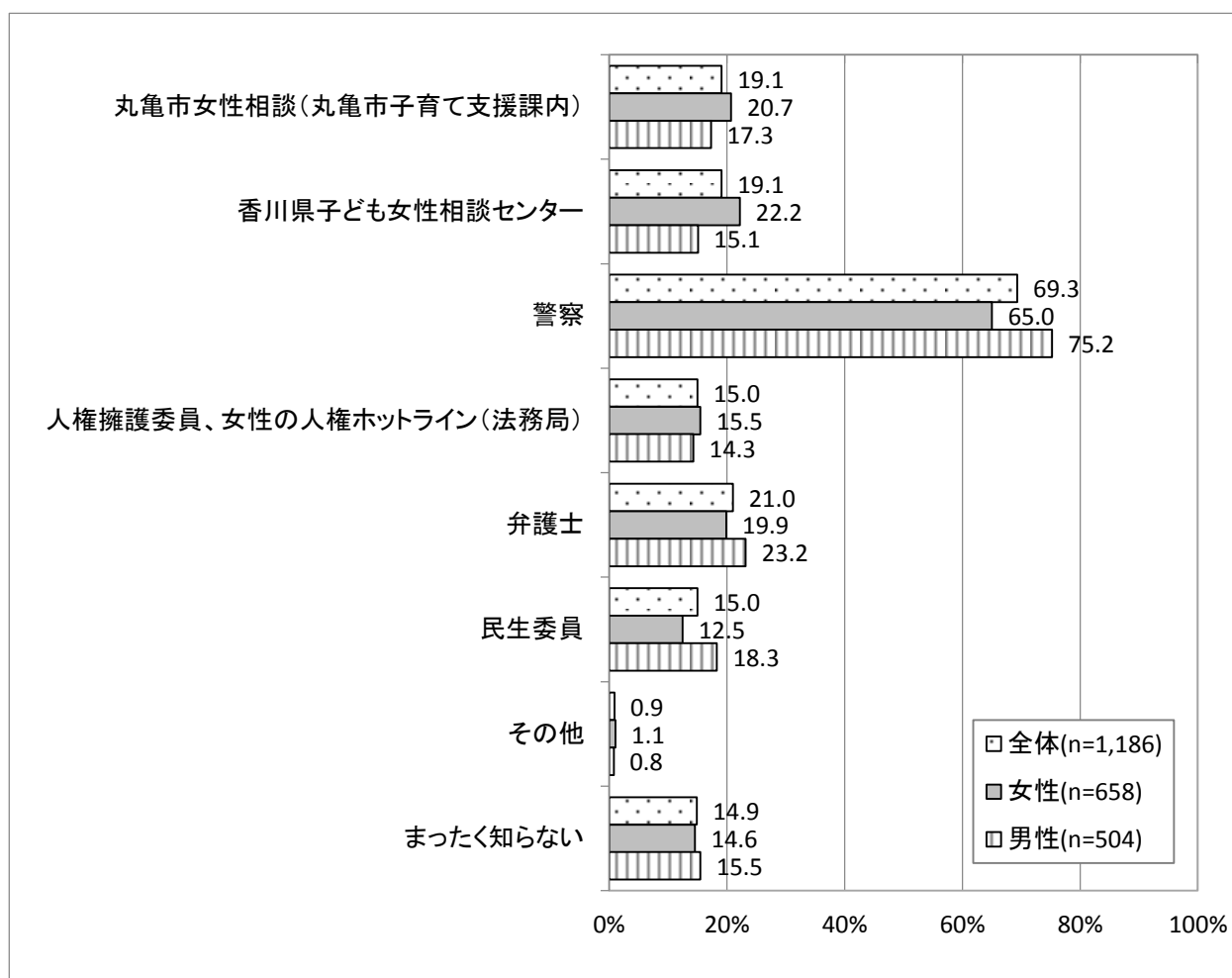


問 19. ≪全員にうかがいます≫

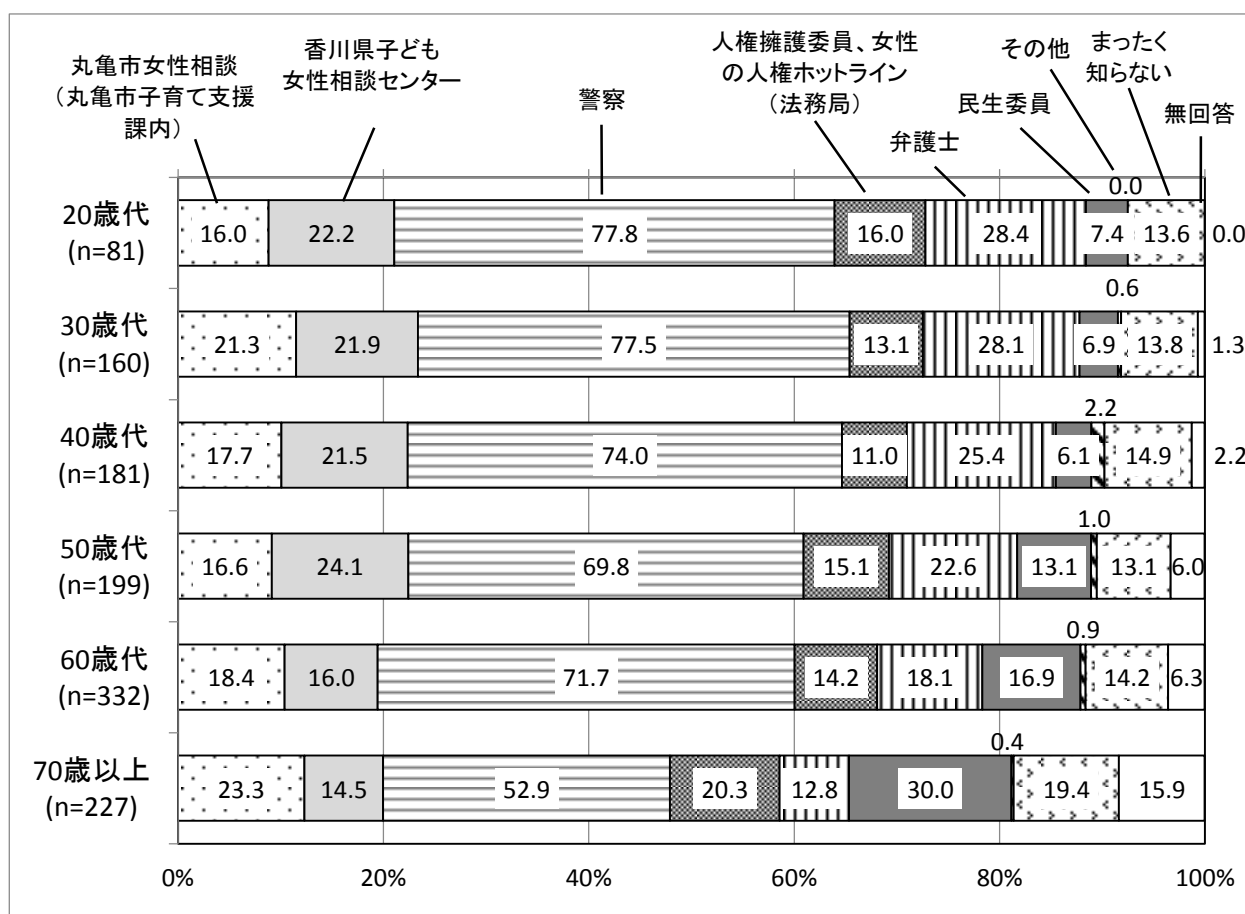
ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、あなたが知っているものを教えてください。(〇はあてはまるものすべて)

DVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものをみると、「警察」69.3%が最も割合が高く、次いで「弁護士」21.0%、「丸亀市女性相談(丸亀市子育て支援課内)」、「香川県子ども女性相談センター」19.1%の順となっています。「その他」としては、「相談しても何もしてくれない」、「相談機関があることは知っているが、名前は知らなかった」などの回答がありました。

性別にみると、「丸亀市女性相談(丸亀市子育て支援課内)」、「香川県子ども女性相談センター」は男性より女性、「警察」、「弁護士」、「民生委員」は女性より男性の割合が高くなっています。



年齢別にみると、他の年齢に比べて70歳以上では「民生委員」の割合が高くなっています。



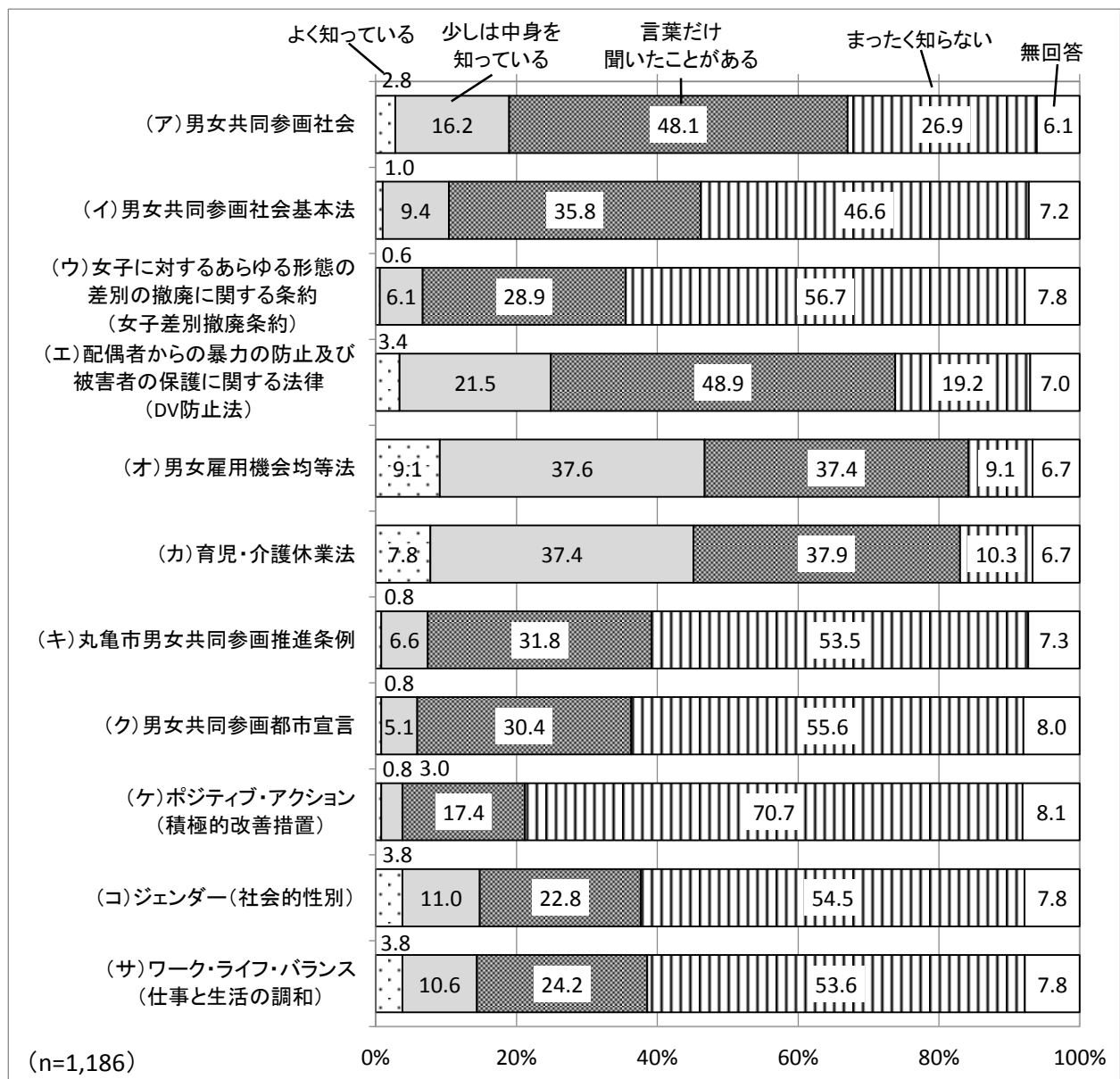
6 男女共同参画社会づくりについて

問 20. あなたは男女共同参画に関する(ア)から(サ)までの項目についてどの程度知っていますか。
(〇は各項目1つずつ)

【全体】

男女共同参画に関する項目についての認知度についてみると、「よく知っている」、「少しは中身を知っている」では「(オ) 男女雇用機会均等法」が最も割合が高く、次いで「(カ) 育児・介護休業法」、「(エ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)」、「(ア) 男女共同参画社会」の順となっています。

「まったく知らない」では、「(ケ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)」70.7%が最も割合が高く、次いで「(ウ) 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約 (女子差別撤廃条約)」56.7%、「(ク) 男女共同参画都市宣言」55.6%の順となっています。

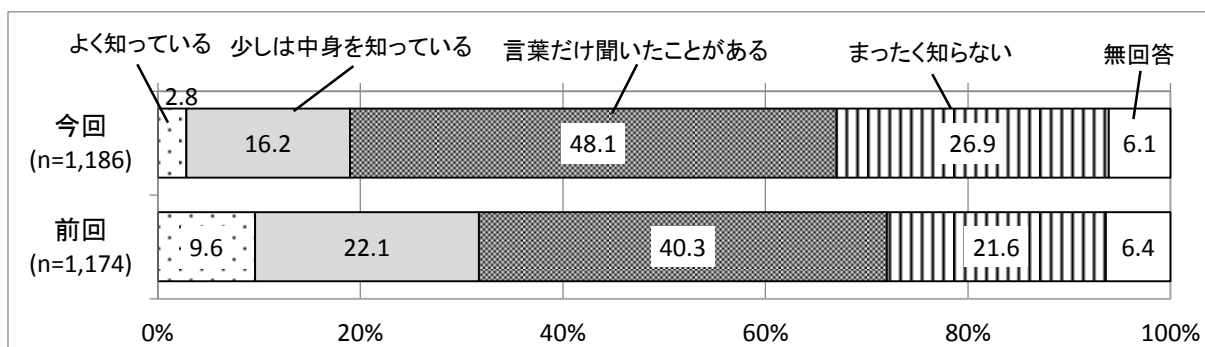
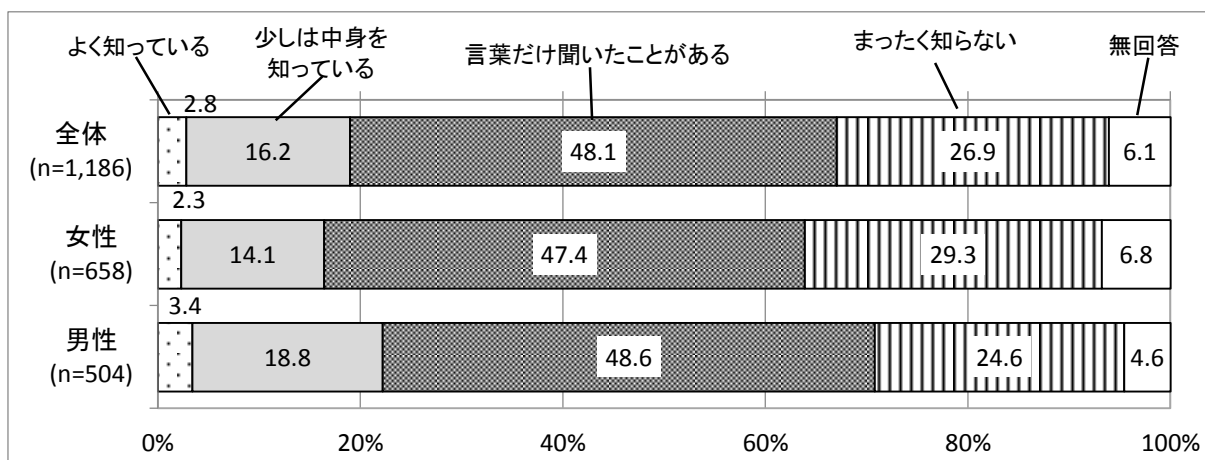


ア 男女共同参画社会

男女共同参画社会の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」48.1%が最も割合が高く、次いで「まったく知らない」26.9%、「少しは中身を知っている」16.2%、「よく知っている」2.8%の順となっています。

性別にみると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」は女性より男性の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」の割合の合計は低くなっており、「言葉だけ聞いたことがある」および「まったく知らない」の割合は高くなっていることから、認知度が低くなっていることがわかります。

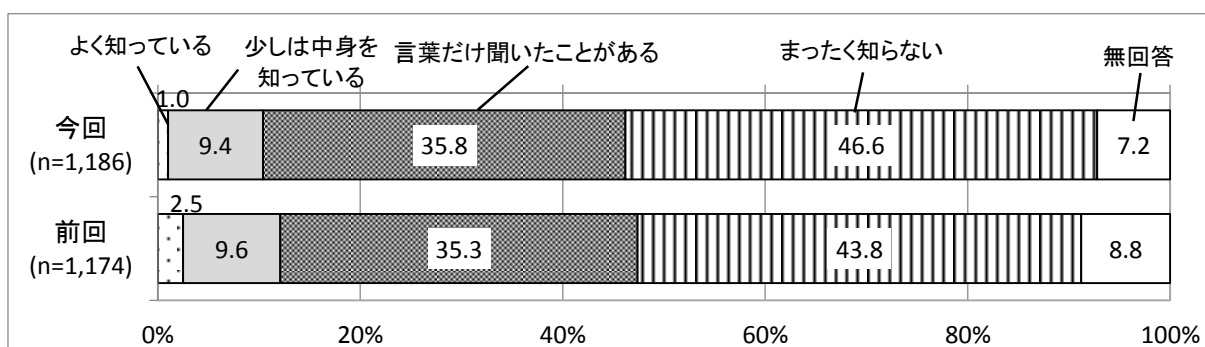
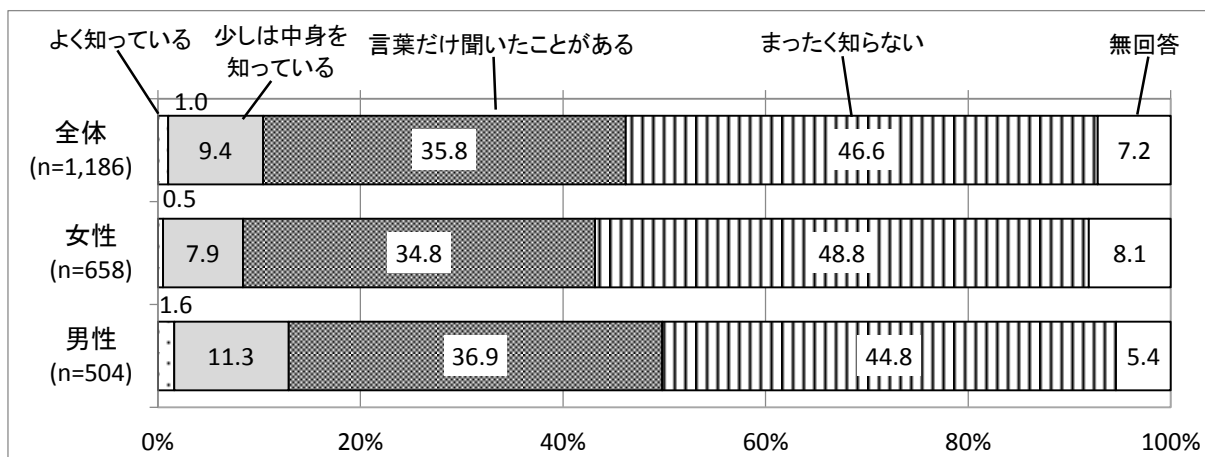


イ 男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会基本法の認知度についてみると、「まったく知らない」46.6%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」35.8%、「少しは中身を知っている」9.4%、「よく知っている」1.0%の順となっています。

性別にみると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」は女性より男性の割合が高くなっています。

前回調査との差はあまり見られませんでした。

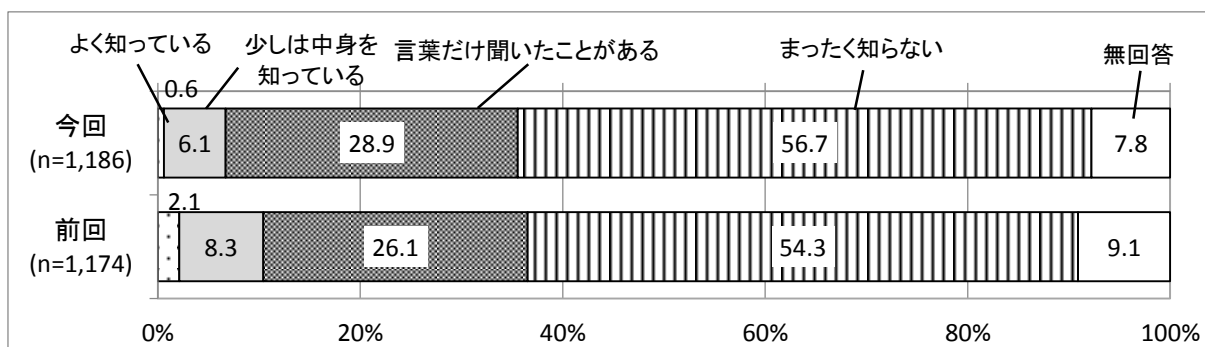
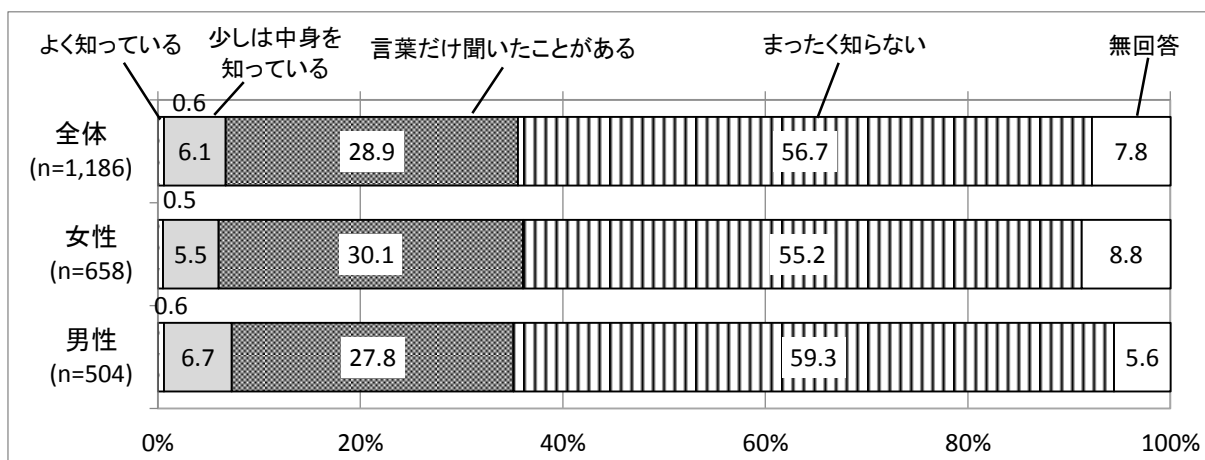


ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)

女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)の認知度についてみると、「まったく知らない」56.7%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」28.9%、「少しは中身を知っている」6.1%、「よく知っている」0.6%の順となっています。

性別による差はあまり見られませんが、「まったく知らない」の割合は女性より男性の方が若干高くなっています。

前回調査と比較すると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」の割合は低くなっており、「言葉だけ聞いたことがある」および「まったく知らない」の割合は高くなっていることから、認知度が低くなっていることがわかります。

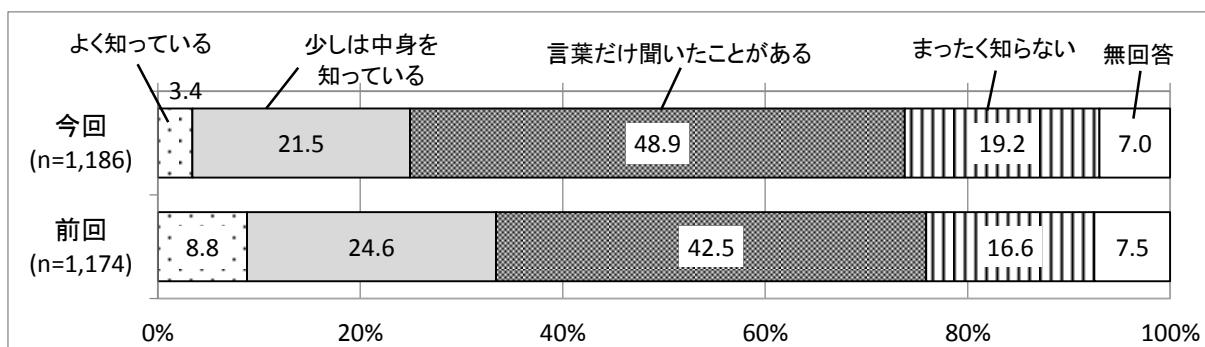
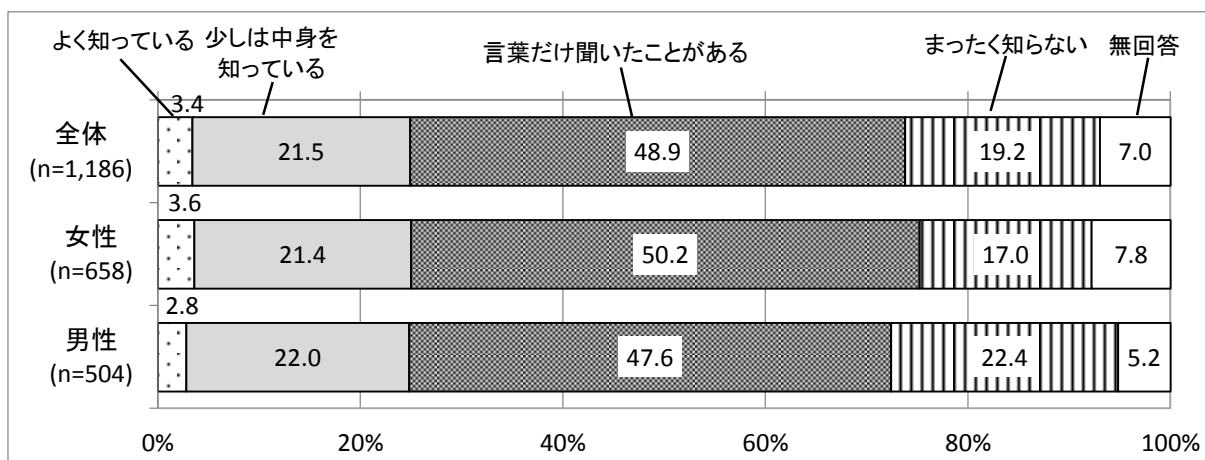


エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」48.9%が最も割合が高く、次いで「少しは中身を知っている」21.5%、「まったく知らない」19.2%、「よく知っている」3.4%の順となっています。

性別による差はあまり見られませんが、「言葉だけ聞いたことがある」は男性より女性、「まったく知らない」は女性より男性の割合が若干高くなっています。

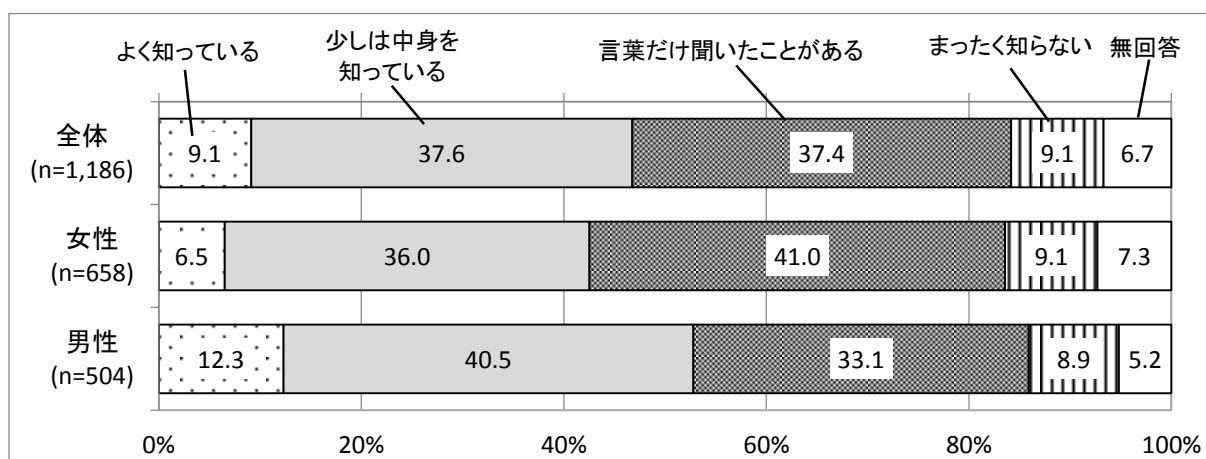
前回調査と比較すると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」の割合は低くなっており、「言葉だけ聞いたことがある」および「まったく知らない」の割合は高くなっていることから、認知度が低くなっていることがわかります。



オ 男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法の認知度についてみると、「少しは中身を知っている」37.6%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」37.4%、「よく知っている」、「まったく知らない」9.1%の順となっています。

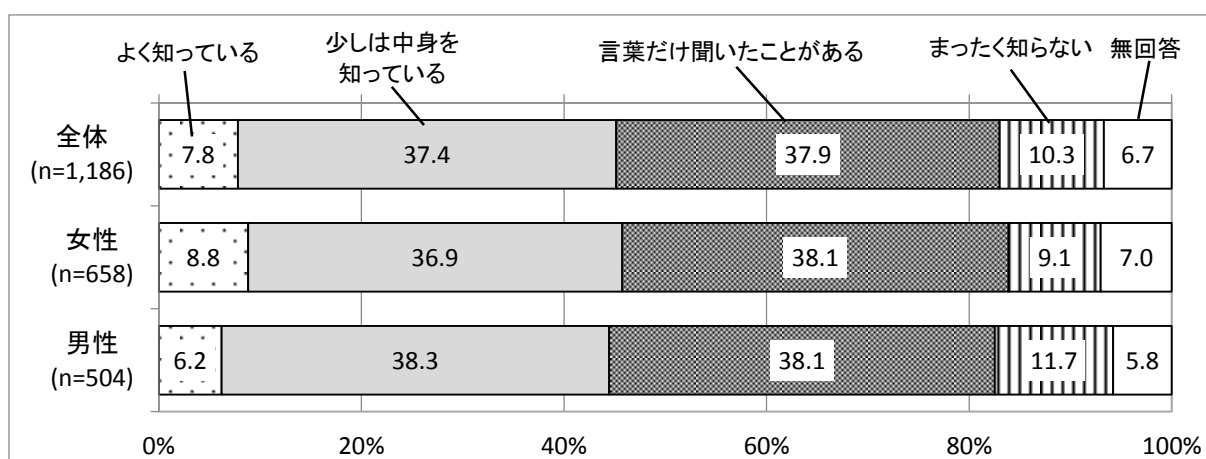
性別にみると、「よく知っている」および「少しは中身を知っている」の割合は女性より男性の方が高くなっています。



カ 育児・介護休業法

育児・介護休業法の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」37.9%が最も割合が高く、次いで「少しは中身を知っている」37.4%、「まったく知らない」10.3%、「よく知っている」7.8%の順となっています。

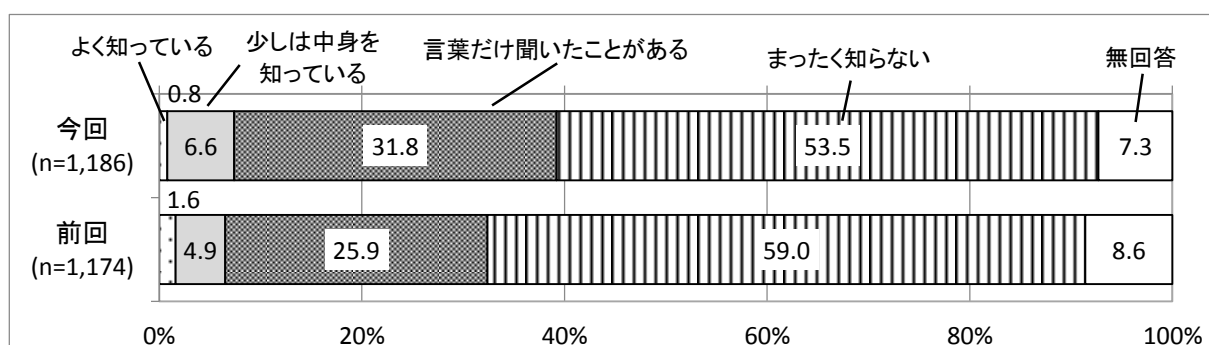
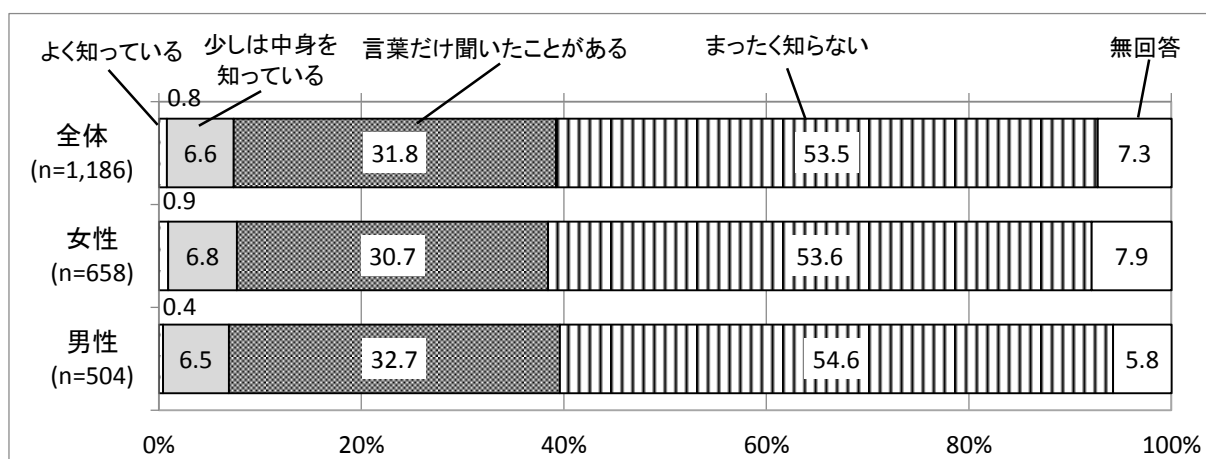
性別にみると、「よく知っている」は男性より女性、「少しは中身を知っている」、「まったく知らない」は女性より男性の方が若干高くなっています。



キ 丸亀市男女共同参画推進条例

丸亀市男女共同参画推進条例の認知度についてみると、「まったく知らない」53.5%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」31.8%、「少しは中身を知っている」6.6%、「よく知っている」0.8%の順となっています。性別による差はあまり見られませんでした。

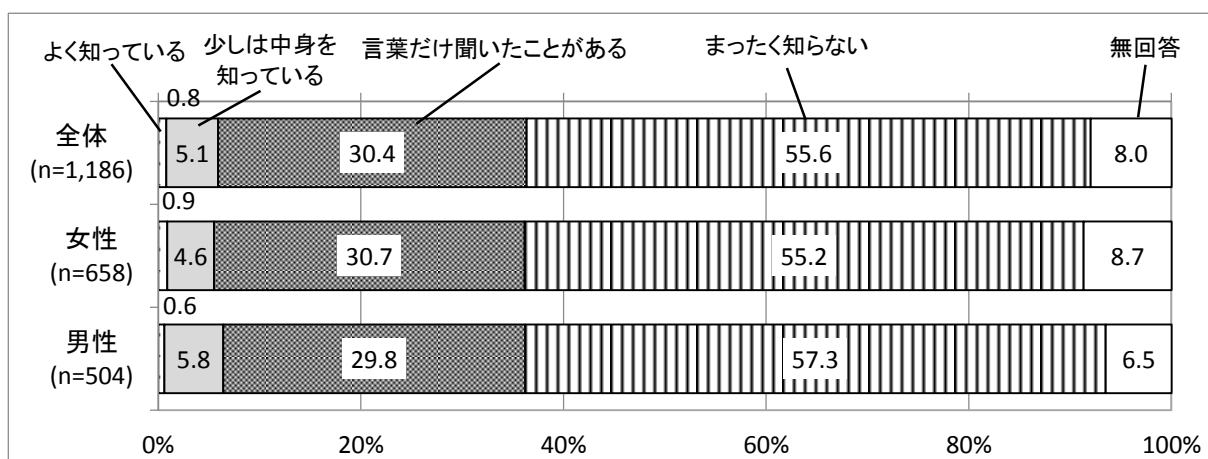
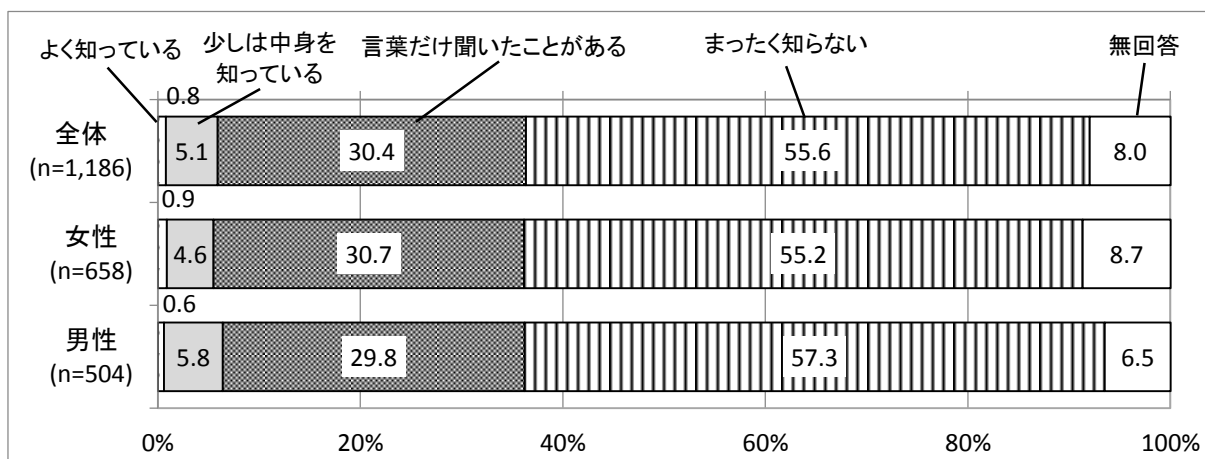
前回調査と比較すると、「まったく知らない」の割合は低くなっており、「言葉だけ聞いたことがある」の割合は高くなっています。



ク 男女共同参画都市宣言

男女共同参画都市宣言の認知度についてみると、「まったく知らない」55.6%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」30.4%、「少しは中身を知っている」5.1%、「よく知っている」0.8%の順となっています。

性別や前回調査による差はあまり見られませんでした。

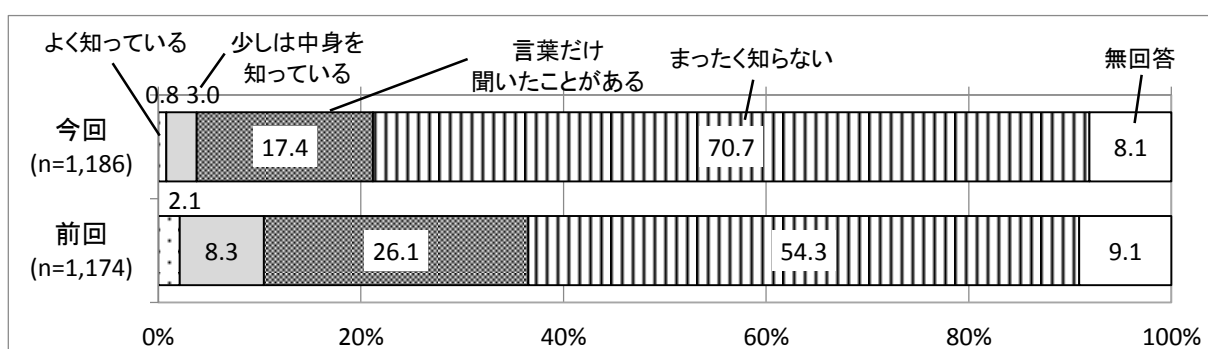
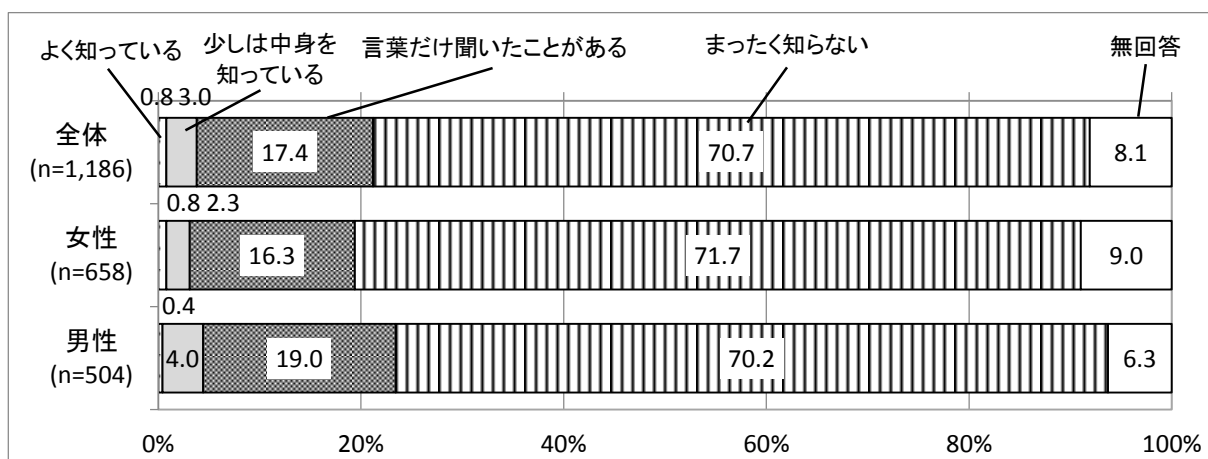


ケ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

ポジティブ・アクション(積極的改善措置)の認知度についてみると、「まったく知らない」70.7%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」17.4%、「少しは中身を知っている」3.0%、「よく知っている」0.8%の順となっています。

性別による差はあまり見られませんが、「少しは中身を知っている」、「言葉だけ聞いたことがある」の割合は女性より男性の方が若干高くなっています。

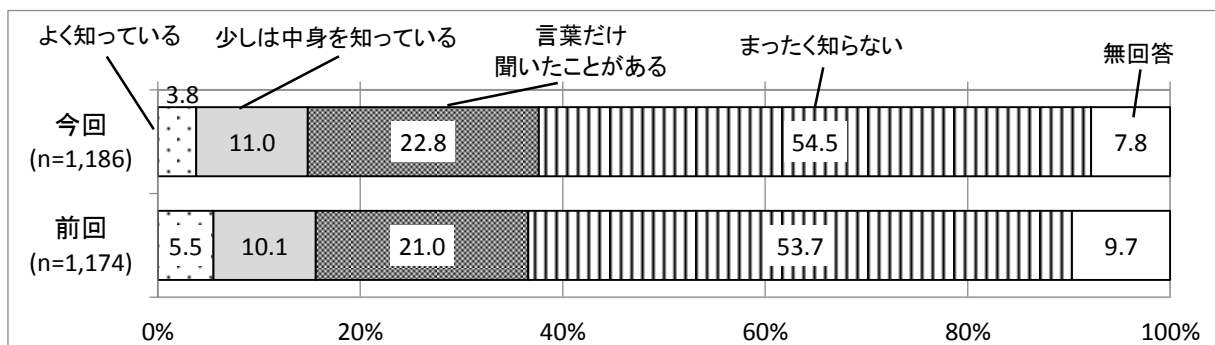
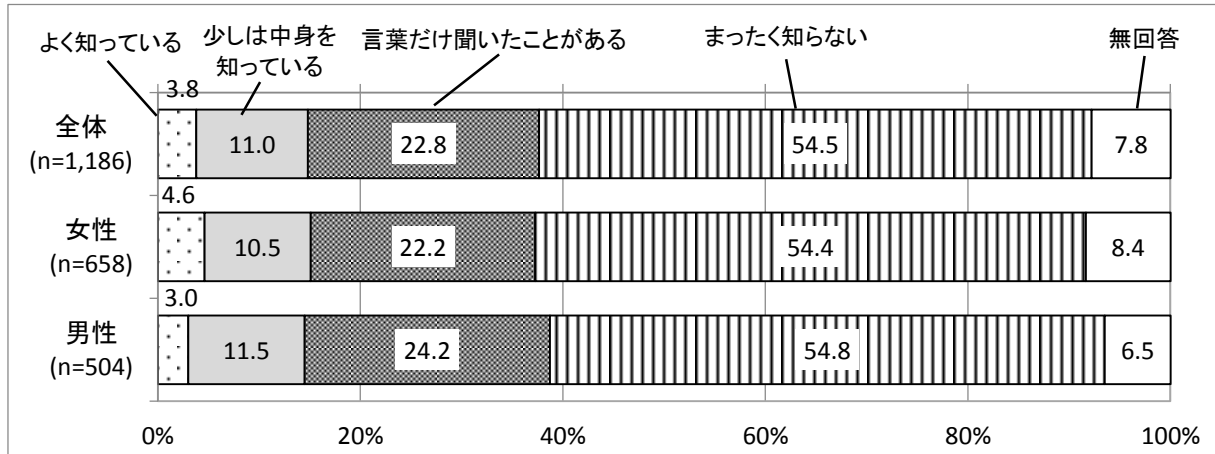
前回調査と比較すると、「まったく知らない」の割合が約16ポイント高くなっています。



コ ジェンダー(社会的性別)

ジェンダー(社会的性別)の認知度についてみると、「まったく知らない」54.5%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」22.8%、「少しは中身を知っている」11.0%、「よく知っている」3.8%の順となっています。

性別や前回調査による差はあまり見られません。

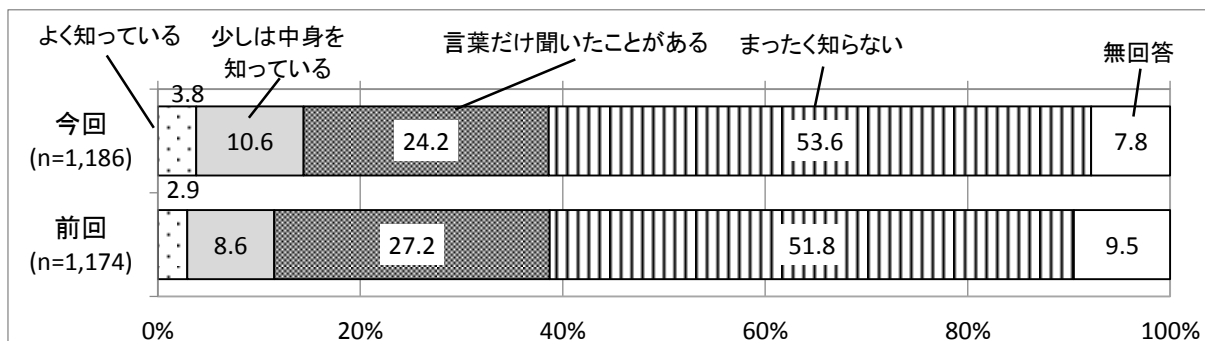
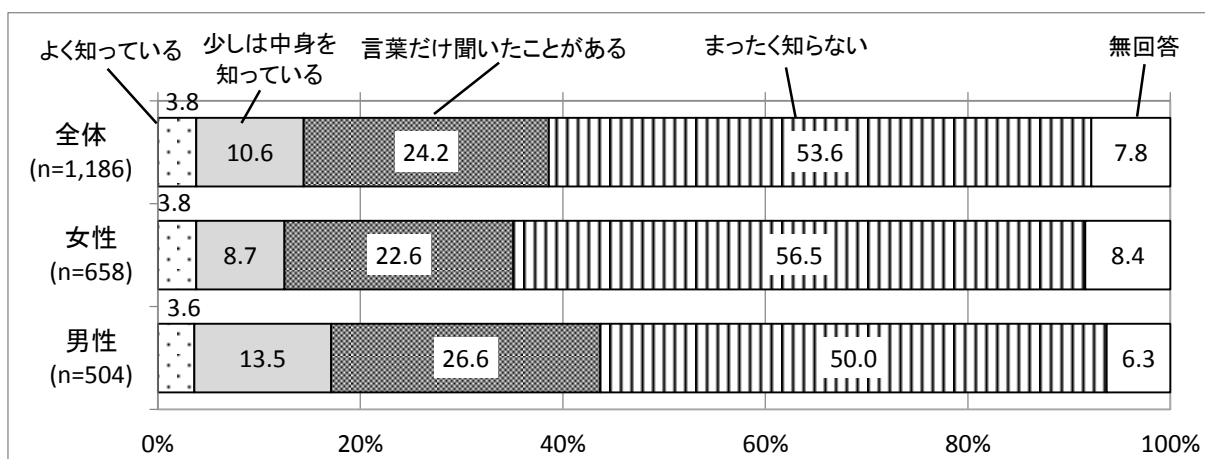


サ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の認知度についてみると、「まったく知らない」53.6%が最も割合が高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」24.2%、「少しは中身を知っている」10.6%、「よく知っている」3.8%の順となっています。

性別にみると、「少しは中身を知っている」、「言葉だけ聞いたことがある」の割合は女性より男性の方が高くなっています。

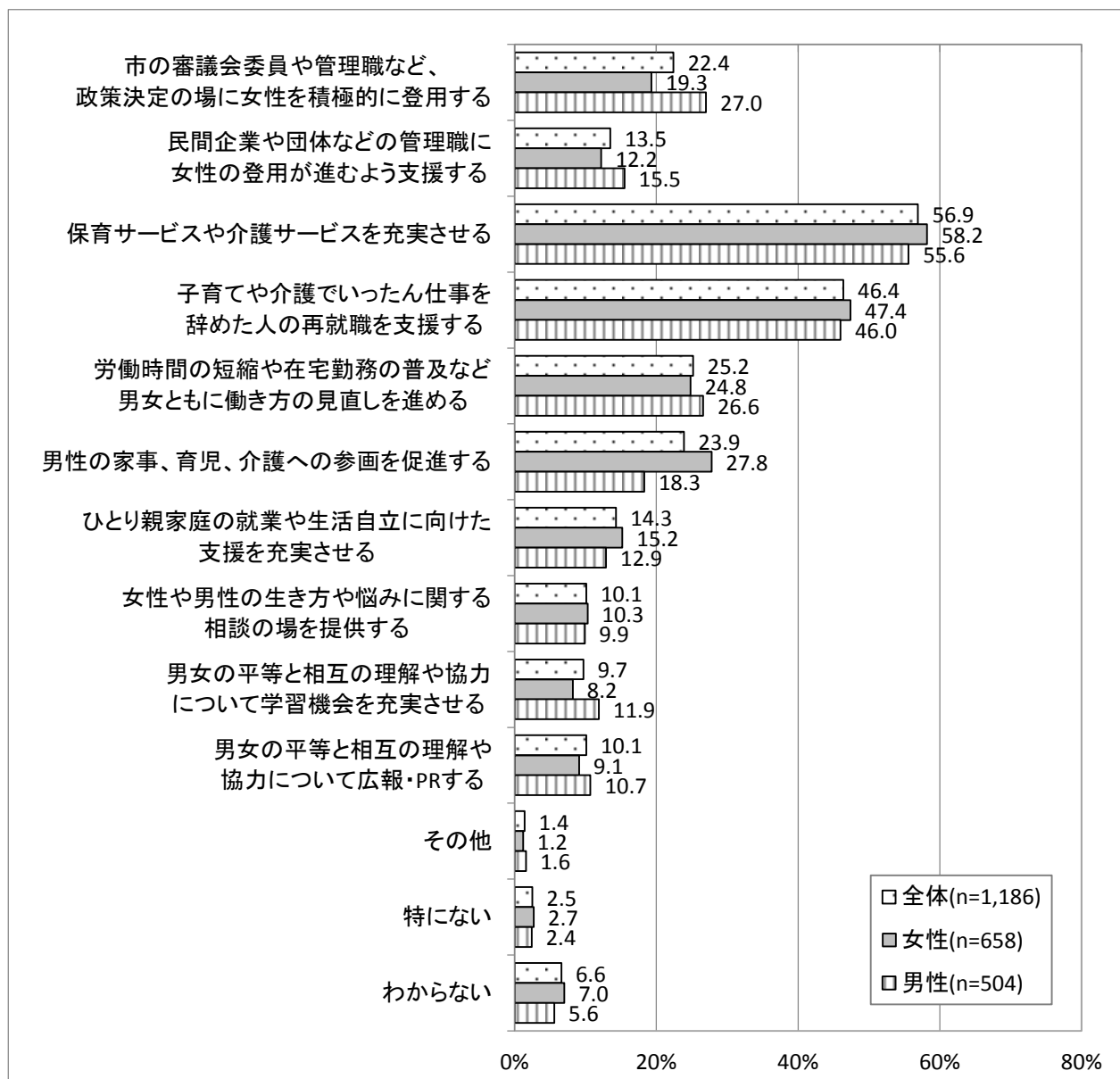
前回調査と比較すると、「よく知っている」、「少しは中身を知っている」の割合が若干高くなっています。



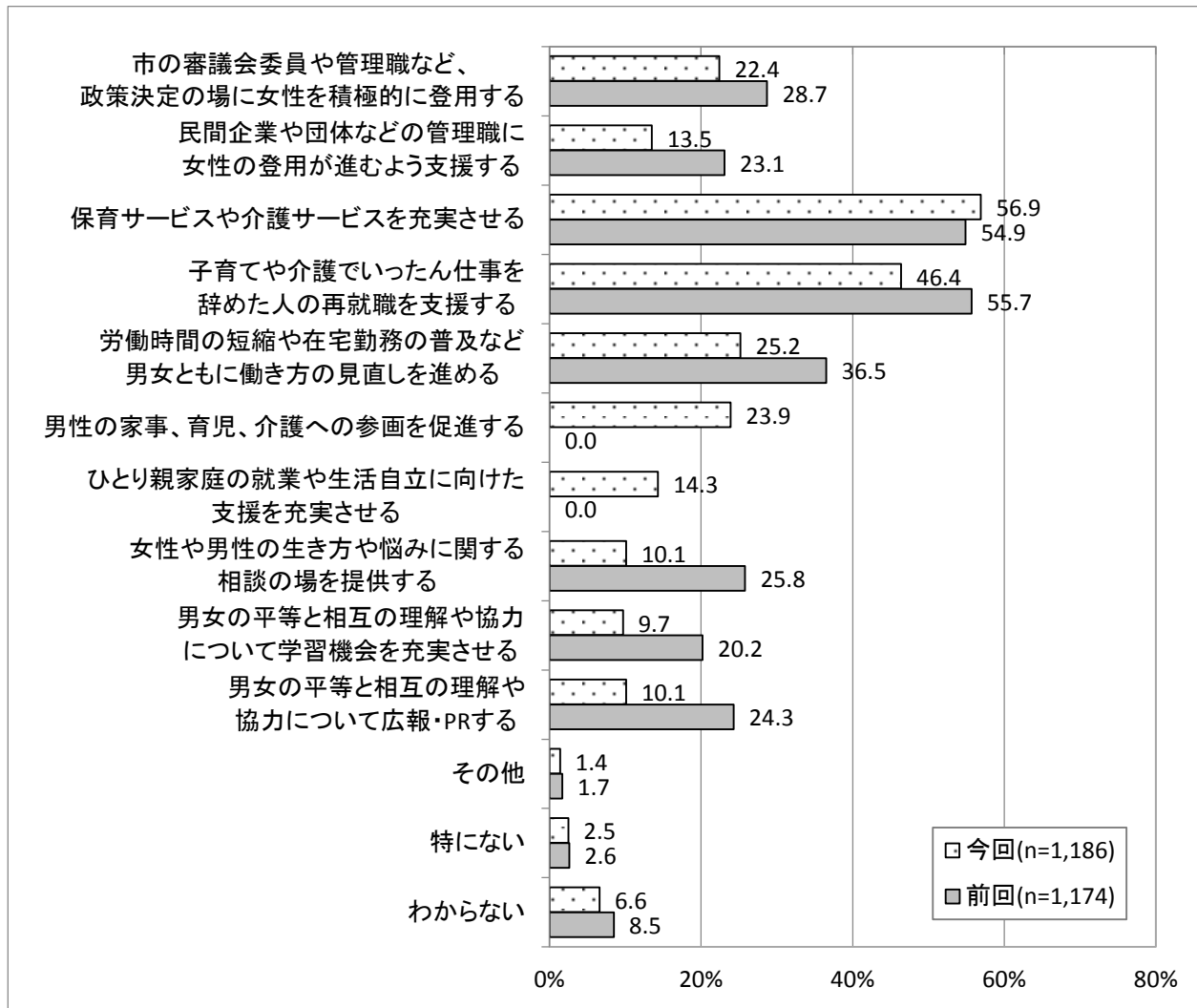
問 21. 男女共同参画社会を実現していくために、今後、丸亀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきことについてみると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」56.9%が最も割合が高く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」46.4%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」25.2%の順となっています。「その他」としては、「男性の育児への参加の取り組みを行う企業への支援、表彰」、「上司に相談出来ない社会の実態を労働基準局は把握して欲しい」、「学校で良い家庭生活を送れる技術や知識を身につけることができるような教育の実施」などの回答がありました。

性別にみると、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は女性より男性の割合が約8%高く、「男性の家事、育児、介護への参画を促進する」は男性より女性の割合が約10%高くなっています。



前回調査と比較すると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」以外はすべて割合が低くなっています。



※前回調査では「男性の家事、育児、介護への参画を促進する」、「ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる」の選択肢はなく、「法律や制度の面で見直しを行う」、「従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する」、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の選択肢がありました。

問 22. 男女共同参画社会づくりについてご意見などがありましたらご記入ください。

(抜粋)

<p>離婚率の低下を目標に掲げる（ひとり親に対する行政支援を見直すなど）。女性が社会進出したからといって、すべての家庭が幸せになるわけではないと思う。（40～44 歳 男性）</p>
<p>本当に生活費が必要な家庭には厚い支援が必要です。身近なところでは、主婦も仕事に出るのがあたりまえという人が多くて、PTA 活動で日中に働ける人がほとんどおらず、特定の人ばかりにしわ寄せが来ているように思います。小学生たちも親の目が届かず、ゲームなどに子守りをさせているように見える子もいます。LINE を心の支えにしてしまう子も多いと思います。仕事も家事も経験してみると、片手間にできるものではありません。今の時点はどういう社会が理想的なのか、私個人としては答えがでていません。（50～54 歳 女性）</p>
<p>母子家庭の制度は甘いです。だから離婚して楽な生活しています。もう少し調べてください。離婚して母子手当を貰って、前の旦那様と暮しています。（60～64 歳 女性）</p>
<p>母子家庭、父子家庭の支援をしたらどうかと思います。一人の所得なのに、残業などして所得が増えると子ども手当が減らされると、知人が嘆いていました。家賃を払ったりすると、生活が大変だそうです。（65～69 歳 女性）</p>
<p>母になる為に、子供の教育とは．．とかいろんな講座はあるが、父になる為、父としてっていう講座はない！母は子を育てるのに必死で勉強したり、悩んだりするけど父はしない。もっと父にも勉強をしてもらいたい。母は産後うつになったりする。っていうのを知ってもら。どれだけ育児は大変かって、資料をつくってほしい。だから、父の家庭への協力が必要ってわかってほしい。市で無理なら職場で講座をひらいてほしい。（30～34 歳 女性）</p>
<p>保育・介護はどうしても女性側への負担が大きくなる。社会が保育サービス、介護サービスを充実させ、負担を少なくする事が大切だと思う。（35～39 歳 女性）</p>
<p>平等と公平は意味が違います。公平は良いと思いますが、平等という言葉には違和感があります。男らしさ、女らしさ、思考回路など多くの点で差があります。差が無くなれば平等（1人対1人）で良いのですが、その差を認めるなら、公平と表現するのが正しいと思います。男女の本来的な役割には違いがあり、その違いをお互いが認め合うことが必要なことだと思います。（60～64 歳 男性）</p>
<p>夫の身勝手に離婚し、母親が1人で子育てしている家庭（又は反対の立場）の母親への仕事支援が充実すれば、一人親家庭の子支援にもなると思います。一人親家庭の母親の身体的、精神的苦労、将来への不安は、想像以上のものです。ぜひ、応援してあげてください。（65～69 歳 女性）</p>
<p>能力があれば、伸ばしていく環境を作るべき。個人主義じゃなく、人の上に立つ教育をすべき。ハラスメントはなくなる事はないだろうが、人間としての知恵、人を慈しむならば、男女どちらでも、いいじゃないかと思います。（70 歳以上 女性）</p>
<p>年齢層により、問題点が異なると思われるので、それぞれの年齢層にあった問題点を抽出し、それぞれの年齢層の代表者で問題解決が出来ればと思う。（70 歳以上 女性）</p>
<p>動物学的には、女性が出産、育児を担当し、男性が就労するのが理想である。子どもには母親と接触している時間が必要である。女性が仕事に頑張りすぎると結婚が遅くなり、高齢出産が増え、健全な子どもの数が少なくなり、将来の日本が心配になってくる。（60～64 歳 男性）</p>

<p>副市長のイクボス宣言が話題になっていますが、役所（行政執行機関）だから、できた…という側面もかなりあると感じています。グローバルレベルの競争による優位の確保が大きな底流を成している現状で、各々の成人男女が置かれている個別多様な状況と、女性に固有の妊娠・出産と乳幼児期の保育への係わりの重要性にも配慮して進めて頂きたいものと愚考します。（70歳以上 男性）</p>
<p>男女平等と言われている現代社会ですが、未だに、昔の古い考え方が根付いており、女性が不利な立場になる事が多いと思います。社会全体で弱い立場にいる人達を助けていかなくてはいけないと思います。（35～39歳 女性）</p>
<p>男女平等という言葉进行全面に出し、数値目標やPR、推進活動などで、平等でなければならない。女性は社会進出しなければならないという意識を、押しつけられている気がします。しっかりすることも社会の役割のひとつ、子育てでしっかり子供とむきあうことも大事。男女平等というよりも、個人それぞれが納得して、充実するような生活をおくれるようになることのほうが、有意義だと思います。私は「男女共同参画」という言葉が好きではありません。（40～44歳 女性）</p>
<p>男女共同参画社会、少子化高齢化問題…、言葉として出てきたり、意識改革、啓発が言われ始めて、かれこれ30年近く。現在30代頃の人には、育児・家事をそつなくこなす男性も増えたのかもしれないが、それより上、または、30、20代と若い世代でも中には、うまくいっていない部分がある。それは、主に男性とその親世代に問題があるからだ。女性は30年前から、男女平等の位置にいるのに、40、50代より上の男性達は旧来の男尊女卑をよしとしている人が多い。また、30、20代の中にも意識改革できていない、教育が行き届いていない母親・父親に育てられ、これまた旧態依然としていて、その考え方の違いがDVをひき起こしていたりするものと考えられる。なかなか解決には遠い道程である。（50～54歳 女性）</p>
<p>男女共同参画については、年齢が高いものほど偏見をもっていると思うので、できるだけ若いうちに企業、職場等の管理職、職員を対象に研修の場を設定、義務づける。また、幼いうちから学校現場で、男女が家庭生活を協力できるような、スキルを身につけさせておくことが必要ではないか。やっていないければ思いは表現できないし、行動にうつせない。（55～59歳 女性）</p>
<p>男女共同参画という言葉が理解しにくい。意味がわからない。（40～44歳 女性）</p>
<p>女性は子どもを産み、育てて行くという、ある意味、ハンデがあります。もちろん男の人でも手伝ってはくれるでしょうが、女性の負担は大きいものです。社会全体がその事にもっと目を向けて見守り、助けるべきと考えます。子育て中の女性に対し、同性の風当りは強いものがあります。男性からの風当りもあります。そういう風が吹かないような、優しい社会にすべきと考えます。その事が、できてから初めて男女共同参画社会作りに着手できるのではないか？（55～59歳 女性）</p>
<p>女性ばかりを意識して、男性が差別されない様に気を付けなければならない。女性の社会参画が進めば、少子化も進むので支援が必要と思う。労働を望まない女性も居ると思うので、無理に参加させるべきではない。男性と女性で差は有るので、それを差別とするのではなく、その差を社会が受け入れる体制を作れないと、男性も女性も無理する様になると思う。（30～34歳 男性）</p>

女性の中でも家庭に専念したい人も多くいると思うが、社会復帰したい人も多くいると思う！その為には、特に民間企業の運営方法もあるが。復帰条件、公的支援を充実しないと、女性議員や女性管理職登用を進めても経費の無駄に過ぎないと思う。国は地方再生と言うが農業だめ、働く所も外国人。パート女性で生活していても将来は無い。他の地域で同じイベント（お祭り騒ぎ）しても一瞬の夢。地についた、丸亀でなくてはだめだ！と言う長い事業を作して下さい。（60～64歳 男性）

女性が社会的に認められるには男性の何十倍もの実力や能力が必要だと思う。女性が社会的に正規の職業を続けていくという事は、家事、育児あるいは結婚をあきらめ仕事に専念する 경우가多く、多分女性の方が家事・育児・介護に対する責任感が強くて、逆に男性が家事・育児・介護を任せられる場合、女性の何十倍もの覚悟なり努力が必要だと思うが夫婦が協力して男女を問わず得意な方がやれば良いと思う。逆に役所の職員や公務員の方の方が生涯仕事を続けているのでなぜ続けられるのかそのコツをお聞きしたい。育った環境や現在の環境（祖父母等の関係）本人の強い意志、家族の協力等々条件が揃っていて、さらに残業のない正社員はあり得ないと思う。私は人間が小さいので仕事も子育ても人任せにできなかった。（50～54歳 女性）

女性が結婚、子育てにおいて、両立でき易いサービスを増やせば子供の数も増えると思う。子育ての忙しい時が一番大変なので、正社員であり続けられる仕事の一時的な軽減が出来れば良いと思う。一度仕事を辞めた女性が再就職しやすい社会や会社の理解が欲しい。仕事か家庭か悩んでいる女性は子供の小さい母親は常に悩んでいるし、バランスをとれずに子供のしわ寄せが行く事も多いと思う。（55～59歳 女性）

女性がひとりで子育てをするにあたり、充実した仕事の提供を望む。高齢化社会の現実を十分に理解し、年齢制限の枠を広げるべき。（50～54歳 女性）

実行力のある支援策を実施して、成功企業や団体を排出する事で、広めていって頂きたい。男女平等の意思があっても、所属する団体・企業の性格や当人の世代背景により、平等のイメージが異なるなど、的が一致しづらいと感じてしまう。（35～39歳 女性）

時代の流れで、男女平等にはなってきたのでは・・・。友達の会話の中でも亭主関白よりカカア天下が目立つようになりニュースでもDVは女性にも増えてきていると思う。明治、大正よりも男女協同時代になってきていると思います。（60～64歳 女性）

私の働く職場、職種（医療機関、看護師）では、育休、育休復帰後の時短勤務など、大変優遇されていると感じる。私自身は、15年以上前に出産をし、育児休暇を取得せずに職場復帰したが、現状をみると、大変有効にそれらを活用し、重要な役割からはずれて、業務軽減とされていることを当然とし、その負担が、周囲にかかっているような違和感を持つことはあります。散々恩恵を受けた後、本格的に復帰となった場合、やめてしまうというケースもあると思う。働きたい、キャリアアップしたいという意欲より、賢く収入を得たいということのみ。女性は育児に専念できる環境作り、つまりは、世の男性にもっとしっかりしてほしい。

（40～44歳 女性）

私の職場では育児休業や短縮時間勤務制度などがあり出産した人はほとんどの方が利用しています。そういう人のマナーが悪いので今後はこの制度がなくなるのではと心配しています。また私のように子育てしながら通常勤務してきたものにとっては、そもそも子育ては家庭内で協力し合うもので会社や社会がするものではないとまで感じています。権利ばかり主張しては制度が続きません。どちらかという制度を利用せずがんばっている人にも目を向けるべき！！（45～49歳 女性）

<p>市の職員や議員だけでなく、幅広い年齢層、性別、職業層から、積極的に意見を述べる機会を作り、また広報紙などで、実際にこんな事をしている。ぜひ参加したいと思うような広報をする事が必要。また、それ以前に、丸亀市が魅力的で住みやすい。特に、これからの未来を担う子ども達にずっと丸亀で住みたいと思うような環境整備が必要。そのために、駅前や商店街の再開発が急務（駅前の保育設備もない）。また、公共の交通整備をぜひ進めて下さい。ex 高松 etc は、Iruca を使用すれば、毎回 10 円引きや高齢者は半分（半額）など、マイカーをもたなくても、大変充実しています。（20～24 歳 女性）</p>
<p>子どもの時の親のしつけ方にも問題があると思う。男の子だからとか女の子だからとか、男女平等は大人になって急に正すものではないと思う。私が仕事をしていた何十年前は結婚したら退職させられくやしい思いました。現在は少しずつでも良い方向に向いていると思う。（65～69 歳 女性）</p>
<p>子どもたちが親の愛情をたっぷり受けて、成長できるようにするために、母親だけが育児をするのではなく、父親も育児の時間をとれるような働き方ができるように、社会が変わっていくべきだと思います。同時に子供が小さいうちは、育児休暇を、男性も女性も交互に取り、また元の職場に復職できるような会社が増えていくことを希望します。また日本は、まだまだ男性中心、男性優位の社会なので、人々の意識において男女が本当に平等になるべきだと考えが変わっていくように社会に、働きかけをしていってほしいと思います。男女共同参画社会づくりが、言葉だけで実のないものとはならないで、実際に進歩して行ってほしい、男女の差別のない社会にしてほしいと思います。（45～49 歳 女性）</p>
<p>子どもが少ないからと言って、子供の手当てをあげるのはやめた方がいい。そのお金で、旅行に行ったり、服を買ったり、外食したりして、その上、中学まで病院代もいらぬなんて、信じられない。車を買った人もたくさんいます。ないお金と言ってためて車を買う人はたくさんいます。中途半端な今 45～55 才の人が 1 番損をしています。子育ての時は、何もかもまともにお金いったし、年金の年になると年金少ないし、ほんとにどうにかしてほしいです。仕事をしなくなって、税金とか病院代とか保険代がいるのに。（50～54 歳 女性）</p>
<p>子育てに対しては男性も積極的に参加してほしいと思う。男性、女性の視野から充実した納得できる制度を作してほしい。（45～49 歳 女性）</p>
<p>子育てと家事の両立ができるように、保育所、デイサービス、ケアなどに力を入れてほしい（長時間の保育など、保育士などの増加、保育士の時間勤務を増やさないなど）。（65～69 歳 女性）</p>
<p>在宅で空き時間に仕事ができる（お小遣い程度で可）制度があれば、有難い。子どもが寝ている時などに、PC で入力系の仕事があればと思います。（25～29 歳 男性）</p>
<p>今後は女性も働かなければならない時代になっているので働きやすい環境、子どもの預かり、賃金など無理なく利用しやすい施設を隅々にも行き渡るよう、市民全体に伝えてほしい！男だから、女だからという考え方を年配の方にも、考え直せる場を持ってもらえたらと思います。（55～59 歳 女性）</p>
<p>高齢出産などで近々、子育て中に親の介護といったケースが出てきそう。その時、経済的・体力的に不安が少なくなるような社会になると、有難いです。（40～44 歳 女性）</p>
<p>行政と企業が一体となり現代に合う考え方をもち、そこから地域にフィードバックして行ってほしいです。（45～49 歳 男性）</p>
<p>行きすぎた面もある。例大阪環状線・地下鉄の終日女性専用車の運行。男性、女性と意識しすぎた。肩ひじはらず仲良くしたらいい。市の組織に男女共同参画室の存在が問題だ。仕事の内容が分からない。（70 歳以上 男性）</p>

<p>個人の意志を尊重した平等であってほしい。家の事情で、社会進出と同時に雇用側の立場であった為、保障の仕組は雇用側には、常にやさしくない。不満をうちあげたい場所も機会もない。こんな家族の女性への配慮も含めた参画を願いたい。自分がこらえるのは、なんとかなるが妻にはかわいそうな思いをさせていることも多々あると思う。(60～64歳 男性)</p>
<p>現在の職場は、体力的、精神的、時間的にも男性目線で決まってきた業務内容だと思う。が、同じ仕事量をこなす女性は多く存在する。主婦として、母親として色々ある上で、ある意味男性より厳しい条件下のもとで。未端の私たちが感じているのだから、今後益々、女性が活躍、中心となり認めてもらえると思う。(45～49歳 男性)</p>
<p>現在、妊娠中に退職し、復職を考えているが、年配の人(特に女性から)の、子どもが小さいうちは母は家において、とか言う声が多くて嫌になる。時代が違うので、父親の給料だけで生活できないし、昔より男性も昇給などが少ないのにどうかと思うことがある。同じ性別でも世代間のズレがあり、そこを理解しないことには、本当の男女平等にならないと思う。(30～34歳 女性)</p>
<p>現在、女性管理職の登用が全国的に少ないようですが、男性管理職並みの実力、能力や職性を有している場合は、積極的に登用するべきだと思います。但し、男女平等、雇用均等が社会問題化しているのを受けて、単に女性管理職をふやしたらいいというものではないと思います(愚見)。(70歳以上 男性)</p>
<p>形だけの平等では意味がなく、男性と女性の違いに配慮したものにする必要がある。(45～49歳 男性)</p>
<p>共同参画という言葉は堅すぎる。もう少し親しみやすい言葉はありませんか。男女は役割分担しながら、義務と責任を果たす必要があると思います。市は国の説明書より、もっと誰にでもわかりやすい広報を望みます。(65～69歳 男性)</p>
<p>共働きをしないと生活できない家庭もあると思うので、保育サービスの充実、職場での理解と協力がもっと必要である。男女共同参画社会について、知らない事が多いのもっとPRをして、より身近に感じるようにさせる必要がある。(25～29歳 女性)</p>
<p>希望する保育所へ入所しやすくしてほしい。幼稚園への送り迎えは頼めても、頻繁にある行事までは頼めないで、幼稚園へ入れる歳でも入園を悩んでいます。(30～34歳 女性)</p>
<p>基本的に男と女は全く違う人間であるので全く平等にしようとする力を入れすぎるべきでないと思う。男性らしさ、女性らしさをもっと活かす社会作りが重要だと思う。男性と女性を同じようにしようとして却って男らしさ、女らしさを崩している危険な部分が男女共同参画社会活動にあると思う。もっと男女をわけて互いが幸福になれる社会を冷静に考えるべきではないだろうか?(50～54歳 男性)</p>
<p>基本的なルール作り、考え方の基本など、今の社会の荒れている所を目標でも作って一步一步、行うべきだと思います。世代間での講習会などの充実から始めるべきだと思います。(70歳以上 男性)</p>
<p>丸亀市のほとんどの会社が、労働時間が長い。土曜出勤、平日は残業の毎日であり、家事、介護をする時間がない。その現実を把握せず、行政はすぐに「サービス」を拡充させようとするが、恩恵を受けるのは「ひまな人」だけであり、我々はそのために税金が上がり、増々働くこととなる。まずは労働時間の問題を解決するための方法を考えるべき。(40～44歳 男性)</p>

丸亀市として、男女参画社会づくりに力を入れる必要はないと思います。男と女では、それぞれの役割があるのですから、男女ともに必ずしも平等にする必要性はないと考えています。私の会社では、力のいる仕事や、汚れる仕事をする職場には男性しかいません。また、有機溶剤を扱うような危険な職場にも女性は配置していません。このような所に女性を配置できますか？汚くて危険で、キツイ所で男性は働いていて、家に帰っても女性のように、家事をしている男性もいます。何もかもが男女平等というのは、おかしい風潮だなと思っています。(30～34歳 男性)

各々が職場や家庭で理想とする生き方をするにはあまりにもたくさん問題が絡み合い、男女共同参画への道はまだまだ遠いように思います。企業では女性の活用、男性の育休取得等の推進が叫ばれていますが、人々の意識は旧態然としていますし中小企業では育休・介護休暇を取得させる余裕などないのが実情のような気がします。保育所を増やすことについても、子どもにとっては何が一番心地よいのか置き去りにされている気がします。未来に対し不安ばかりが浮かびますが10年前20年前に比べ社会が変わってきているのも事実です。遅々とした歩みでも子供達のより良い未来のために男女共同参画の活動が地域に根付いて行く事を願います。(55～59歳 女性)

「男が」とか「女が」とかではなく家族や社会で相手を大切な人、必要な人、困っている人を助ける気持ち、そういうやさしさや心を育てる何かあればと思います。相手の立場や気持ちを考えない、自己主義の人が多いように思えます。(55～59歳 女性)

会社は、考えているふりだけで積極的どころか、改善などするつもりも全くないと思える。また、女性自身が腰かけ、楽に楽しく仕事をしたいという風に見える。そして、女性の管理者は、男性の外見は立派な者でさえ、中身はどうにもならない石頭で、どうにもならない者が多い。良い管理者は、ほとんど途中で何らかの事柄で挫折しているように見える。どうにもならないような事ばかり書いたが、私の見ている社会が悪い所ばかりなのかもしれない。良い方向に進むことを望みます。※経営者・管理者は、だいたい部下・従業員の仕事の内容、人間関係に無関心である為、現場の意見や気持ちは全く汲まないと、仕事を通して諦めに似た感じを持っています。残念ですが、良い上司というのは、なかなかいないものです。(50～54歳 男性)

DVについてはそれをする人の大半が、自分も親から何かしらの被害を受けた人だと思います。大人になってから子供の時のうっぶんは、周りの配偶者に向けられることとなりますので、子供のうちに成長の妨げになるような生活を送らさぬように注意することが重要だと私は考えています。女の人も仕事を持ち共働きする時代です。子育てとの両立はとても大変でそのうえ教育するのは難しい事でしょうが、ひとり親の家庭よりも夫婦で子育てしている家庭の方が、問題を抱えていることもあると思います。ひとり親への支援は充実してきていると感じています。私自身その恩恵を受け、仕事も続けられています。老若男女問わず色々な人が相談できる機関や機会を設けて少子化の今、世間の役に立ちたいと思うような心を持った子供を育てていくのが大事だと考えます。(社会づくりとはかけ離れた内容ですが、よろしく願います)。(40～44歳 女性)

イクボス宣言されて、様々な活動をされておりますが、民間でそのような取り組みを行うのは難しいと思います。現実的な事業から取り組まれた方が、よいのではないのでしょうか。働く女性が子どもを安心して低価格（無料でも）で預かってもらえるような社会作りに向けての企画をされてはいかがでしょうか。一部の企業や人しか対象にならない政策をPRされても腹が立つだけです。将来的に民間でもイクボス宣言が浸透するようになる社会になるのが理想的ですが、本当に市民の立場に立った政策を考えて頂けると幸いです。

(20～24 歳 女性)

DVといえば、男性から女性へのイメージが強いが、近年は、女性から男性へのDVや、モラルハラスメントが増加している。現在において女性の相談機関は存在するが男性が相談できる機関が少ないように感じています。また、男性単身で子育てしている世帯も増えつつあると思うので、サポート機関などを、伴わせて整備してもらえればと考えます。(40～44 歳 男性)

きっと昔よりは女性も働きやすい社会になっていると思いますが、やはり、出産等どうしても働けない状況がでてきます。そこで女性が復帰しやすい、社会を作ろうとして下さっているのはありがたいです。会社によって待遇がまちまちだと思いますが、社会に基準のようなものがあれば、会社も動いてくれそうです。女性の社会進出によって、婚期が遅れたり、子どもの数の減少につながるかもしれませんが、女性の仕事がしやすい社会づくりで、そこも変わっていくだろうと思います。よろしくお願いします。(30～34 歳 女性)